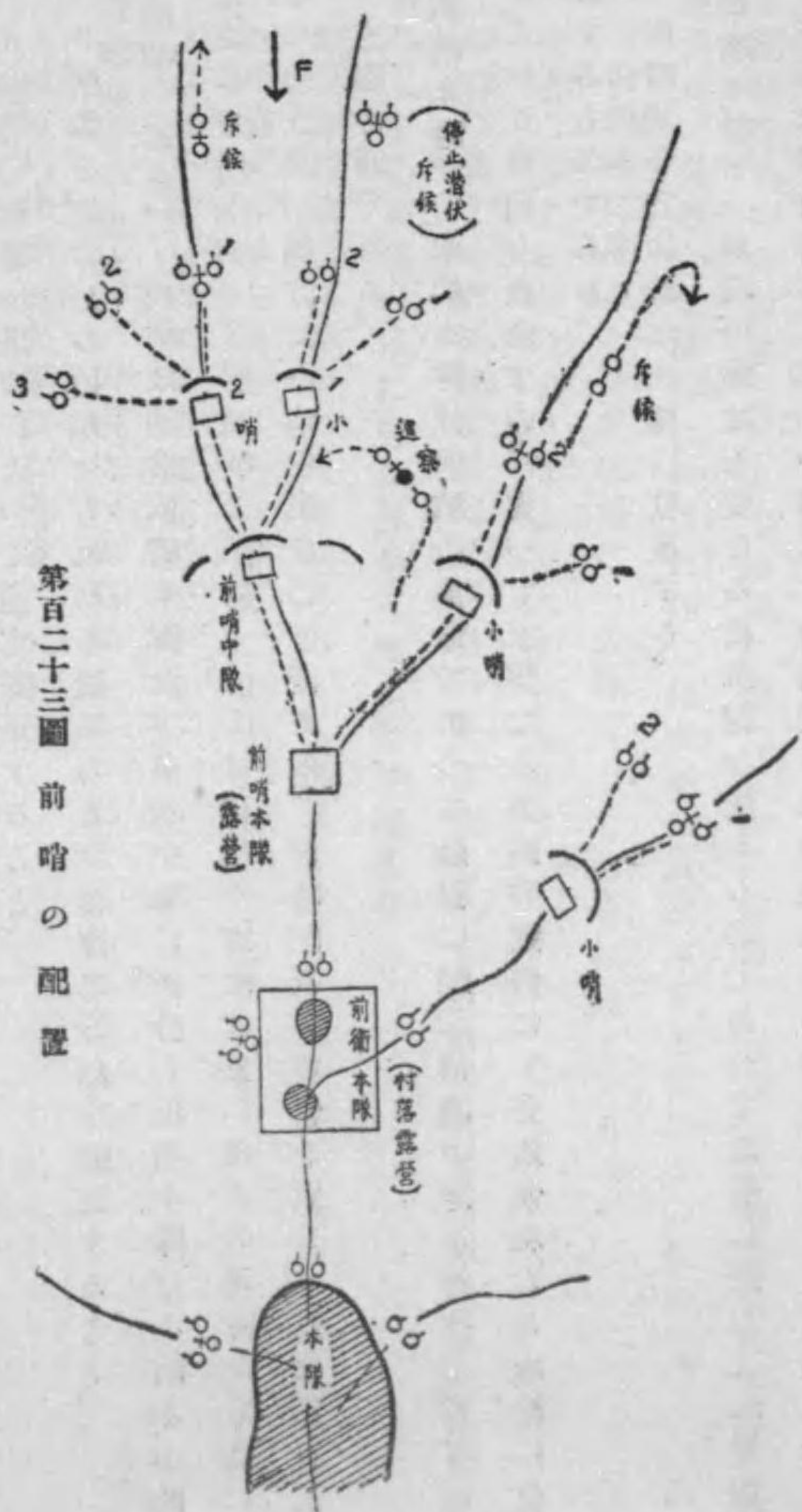


小
哨

前哨中隊は小哨を出すの外時々斥候巡察を派遣して警戒し、又直接警戒のため對空監視哨及び銃前哨を配置する。

【小哨】 小哨は歩哨の支援及び後據となり前方(或は側方)要點に位置し警戒のため歩哨を出すの外絶えず搜索を行ひ、敵襲に方つては前哨中隊(或は小哨を出した



第二百二十三圖 前哨の配置

步
哨

斥候巡察

る部隊)をして戦備を整ふるの時間を得しむるものである。小哨は重要な度に從ひ將校又は下士を長とし一小隊以下の兵力を用ひる。時としてこれに機關銃歩兵砲を附けらるゝことがある。

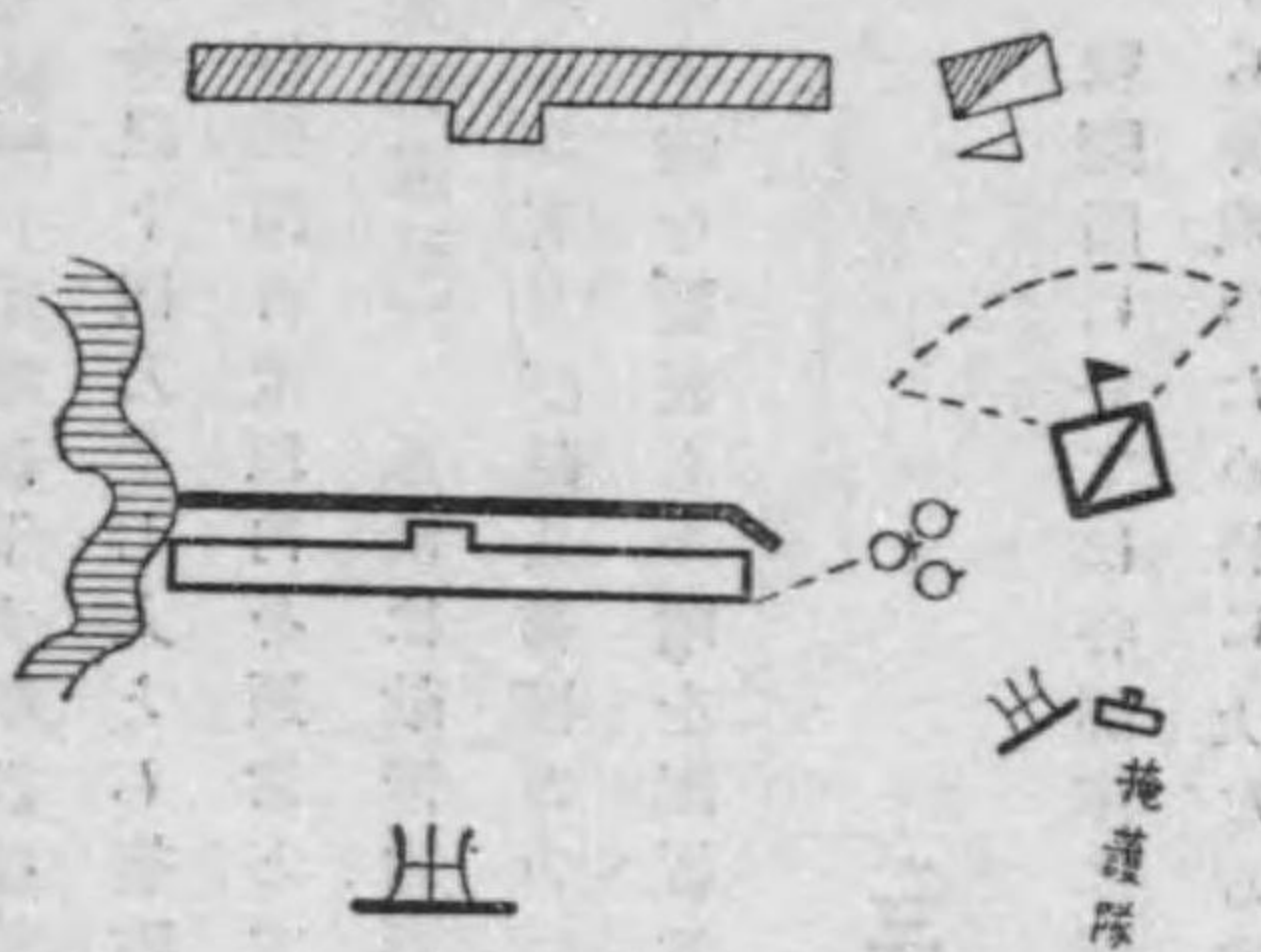
【歩哨】 歩哨は下士哨及び複哨に別ち、最前線の監視線を成すものである。下士哨は長以下四乃至七人とし、複哨は二乃至四人を立哨せしめる。複哨の位置は小哨を距る約四百米以内を通常とする。

【斥候巡察】 斥候は敵情地形を搜索するために派遣せられ、又は要點の監視、敵の搜索の妨害及び敵兵捕獲等のため使用せられる。巡察は歩哨線内を巡視し、各哨所及び歩哨を監視し、歩哨を配置せざる土地を搜索し、隣接哨所との連絡に任ずる。

(三) 戰鬪間の警戒

戰鬪間に於ては各部隊は戰鬪の姿勢若しくは戰鬪に便なる態勢に在るのであるから、警戒のため特に大なる處置を要しないが、豫期せざる側面又は背面より不意の敵の攻撃を受くるときは危険であるから特に注意せねばならぬ。これがためには全般の戰鬪配備を決定する際豫めこの危険を除去する如く部署するか、或は特にこれに對して對策を確立せねばならぬ。

騎兵は通常軍の側方に在つて搜索を兼ね警戒を行ふものである。
歩兵部隊は危険なる側方及び後方に對し斥候を派遣して近距離の搜索を行ひ又
要點に歩哨又は斥候を配置する。(第百二十四圖參照)

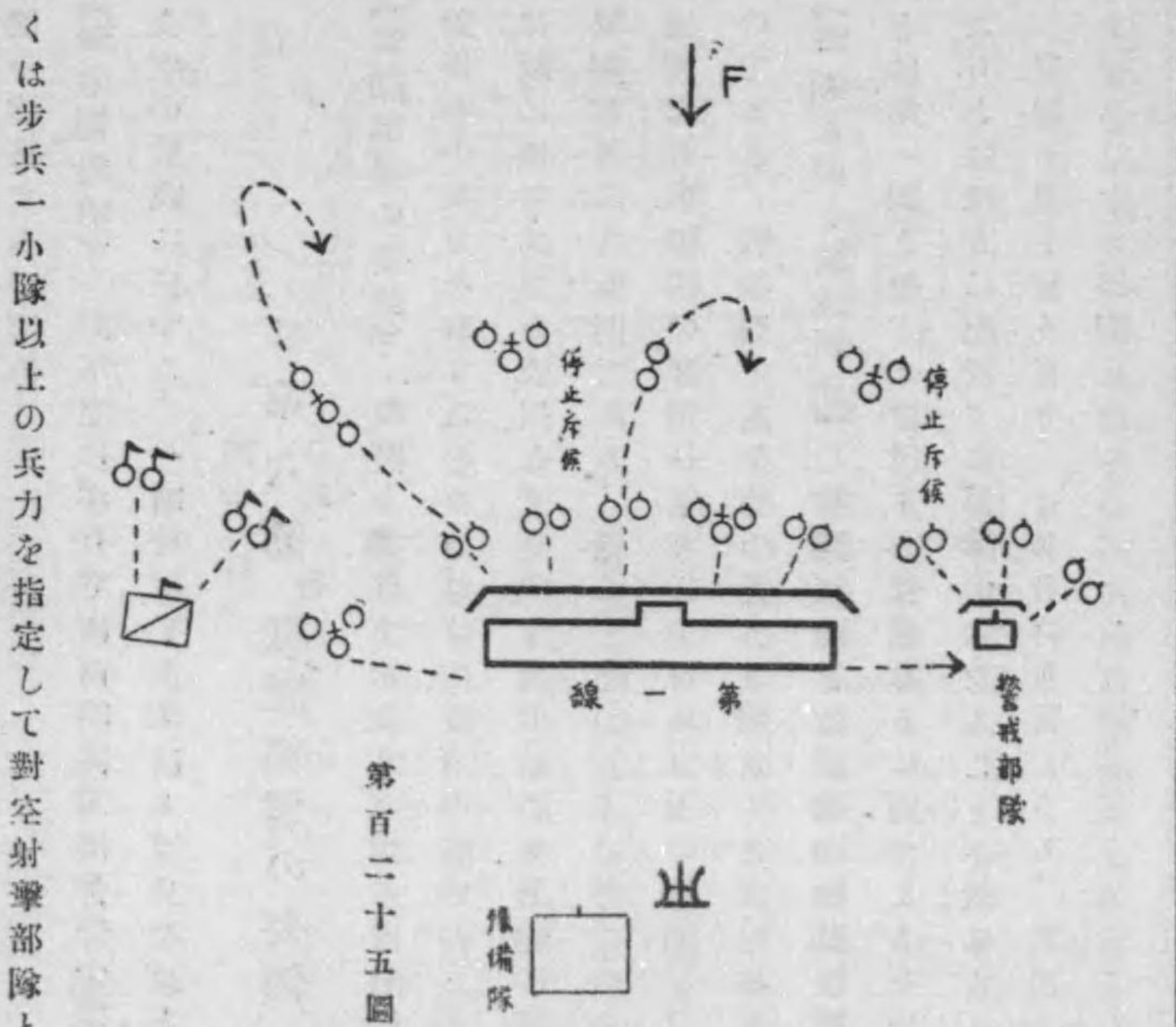


圖四

司令部砲兵航空隊等は自衛のため若干の火器
を有するけれども、その兵力は微弱であるから地
形又は情況これを要すれば歩兵或は騎兵より成
る掩護隊を附ける。尤もこれ等は戰團一般の配
置により自然に掩護せらるゝものであるから掩
護隊を附けるは特別の場合である。

軍隊戰團のため展開するも未だ戰團實行に入
らずして日没となり、或は戰團夜に入りたるため
中止せられたるときは、全隊戰團配置の儘夜を徹
し、各部隊は歩哨斥候を派遣して直接警戒に任ず
るの外、最前線に在るものは現在地に防禦陣地を構築し、至嚴なる前哨の要領に準じ
自ら警戒するものである。又時として特に一部隊を側方に出して警戒せしむること
がある。(第百二十五圖)

對空射擊部隊



第百二十五圖

(四) 上空に對する警戒

上空に對しては高級
指揮官は飛行隊(戰團
隊)及び高射砲隊等を
以て防禦に任せしむる
ものであるが、各部隊も
亦自ら所要の處置をな
すものである。

【對空射擊部隊】 行軍
及び戰團間は概ね歩兵
の大隊毎に、駐軍間は前
哨區又は舍營(露營)區
毎に機關銃一中隊若し
しくは歩兵一小隊以上の兵力を指定して對空射擊部隊とし低空を飛行する敵の飛行

對空監視哨

機を撃墜するのである。
【對空監視哨】 駐軍間に在りては前哨區又は舍營(露營)區毎に對空監視哨を設け上空の監視に任ずる。一哨所は下士又は上等兵を長とする五乃至八名より成る。

第六節 戰闘部署の要領

戰闘部署の要訣

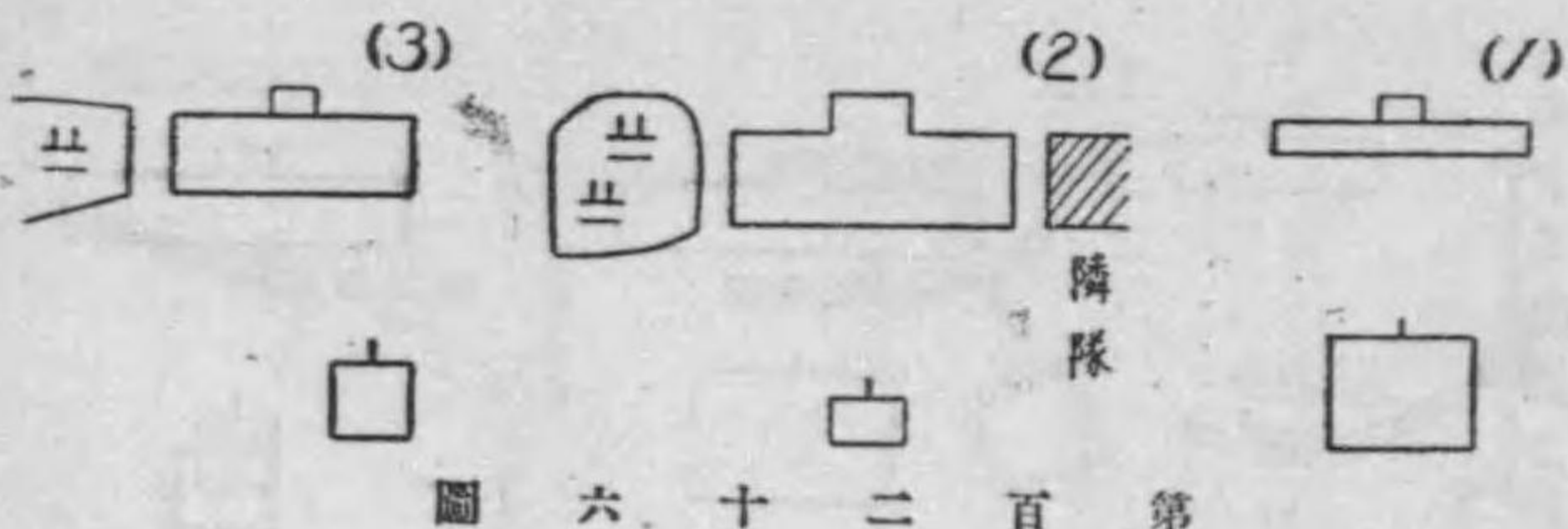
【戰闘部署の要訣】 戰闘を實行するに方り到る處敵に優る兵力を用ふることは絶對優勢の兵力を有するときでなければ不可能である。故に我が欲する方面に於ては敵に優る兵力を使用してその方面の戰勝を全般に波及する如く指導することが戰闘部署の大原則である。従つて他の方面は勢ひ最少限の兵力を用ひ、その部署は適切なる戰闘法の應用によりて主なる方面の戰闘を容易に導く如く行動すべきものである。戰場到る處平等の兵力を配當するは用兵上の大禁物である。

戰闘正面と縦長區分

【戰闘正面と縦長區分】 戰闘正面とは部隊の戰闘を擔任する正面をいひ、縦長區分とは第一線と後方に位置する豫備隊とに別つことをいふものであつて、縦長區分大なりとは後方に配置する部隊の大なることを意味する。

戰闘正面と縦長區分とは相對的關係がある。戰闘正面を大にすれば勢ひ縦長區分は小となり、戰闘正面を小にすれば縦長區分は大となるものである。例へば同一

面積の矩形に於て横を長くすれば縦が短くなり、横を短くすれば縦が長くなると同一である。



第一百二十六圖

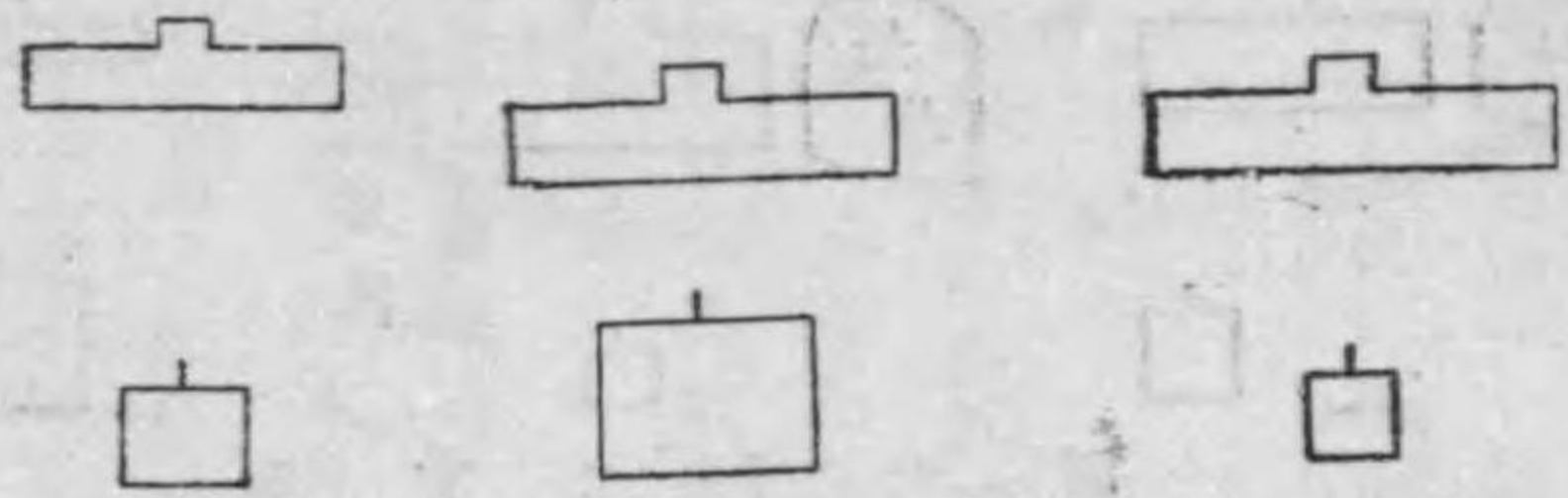
指揮官は戰闘に方り、軍隊を第一線と豫備隊とに別ち戰闘正面縦長區分を定めねばならぬ。之が爲には任務地形、兵力、敵情、側方委託の關係並に明暗の度等を考慮するの必要がある。以下これが決定に關し二三の例を擧げて説明しよう。

(一) 獨立して戰闘するとき(第一百二十六圖)

イ、(兩翼を委託せざるとき) この場合は最初第一線の兵力を少くする。これは不時の事變に備へ、且つ戰闘間正面を強大ならしむるためである。(第一百二十六圖の一)

ロ、兩翼を委託するとき この場合は側方に危険がないから第一線に多くの兵力を用ひることが出来る。(第一百二十六圖の二)

ハ、一翼を委託するとき この場合は一翼に危険がないから比較的多くの兵力を第一線に用ひることが出来る。(第一百二十六圖の三)



圖七十二百第

圖八十二百第

圖九十二百第

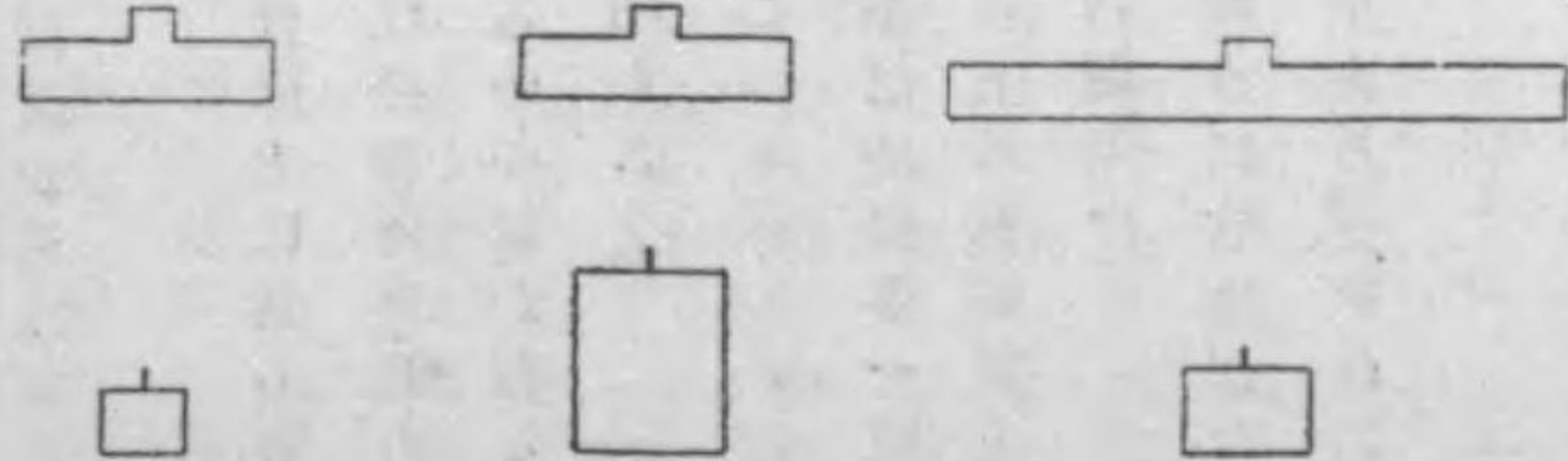
(二) 敵情明瞭なるとき 戦況の變化少きを於て第一線に多くの兵力を用ひることが出来る。(第百二十七圖)

(三) 敵情不明のとき。(第百二十八圖) (二)の場合と反す。

(四) 防禦のとき。(第百三十圖) この場合は地形の利によりて火器の效力を發揚し敵火の效力を減殺し得るため攻撃(第百二十九圖)に比し正面を大にすることが出来る。

(五) 戦闘決戦的にて迅速に終了する見込のとき。(第百三十二圖) この場合は戦闘經過が迅速であるから最初より多くの兵力を第一線に用ひ一舉に勝敗を決する。

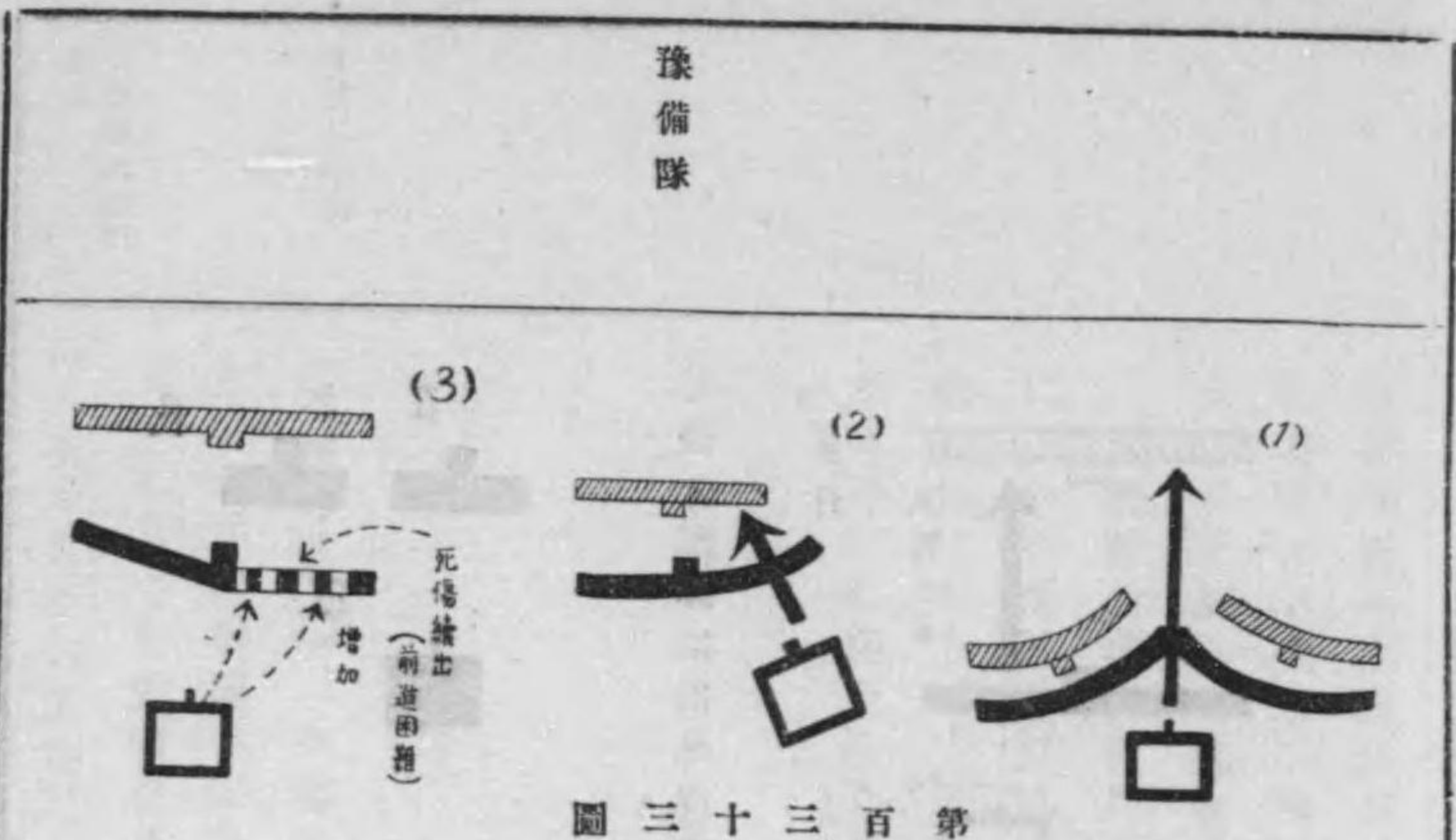
(六) 戦闘持久的なる時。(第百三十一圖)(五)の場合に反す。



圖十三百第

圖一十三百第

圖二十三百第



圖三十三百第

豫備隊

持久的防禦に於ては第一線の各部隊は通常兵力に比して廣き正面に展開するものである。

夜間濃霧又は陰蔽せる地形に於ては一舉に勝敗が決せらるゝから第一線の兵力を強大にすべきである。

以上の外軍隊の部署に於て所要に充たざる兵力を逐次に使用することは用兵上の大なる過失である。これ絶えず劣勢なる兵力を以て優勢なる敵と戦ひ軍隊の志氣を挫折し遂には各個に撃破せらるゝに至るからである。

【豫備隊】 豫備隊の目的は概ね次の通である。

- 一、戦果の擴張 第一線部隊の得たる効果を更に擴大するために用ふ。(第百三十三圖の一)
 - 二、所望の地點に決戦を求む。(第百三十三圖の二)
 - 三、必要なる地點に援助を與へ戦線の前進を促し又は動搖を妨ぐ。(第百三十三圖の三)
- 以上何れの場合を問はず爲し得る限り自主的に使用すべきものであつて損害の特に大なる戦線に注入するは燒

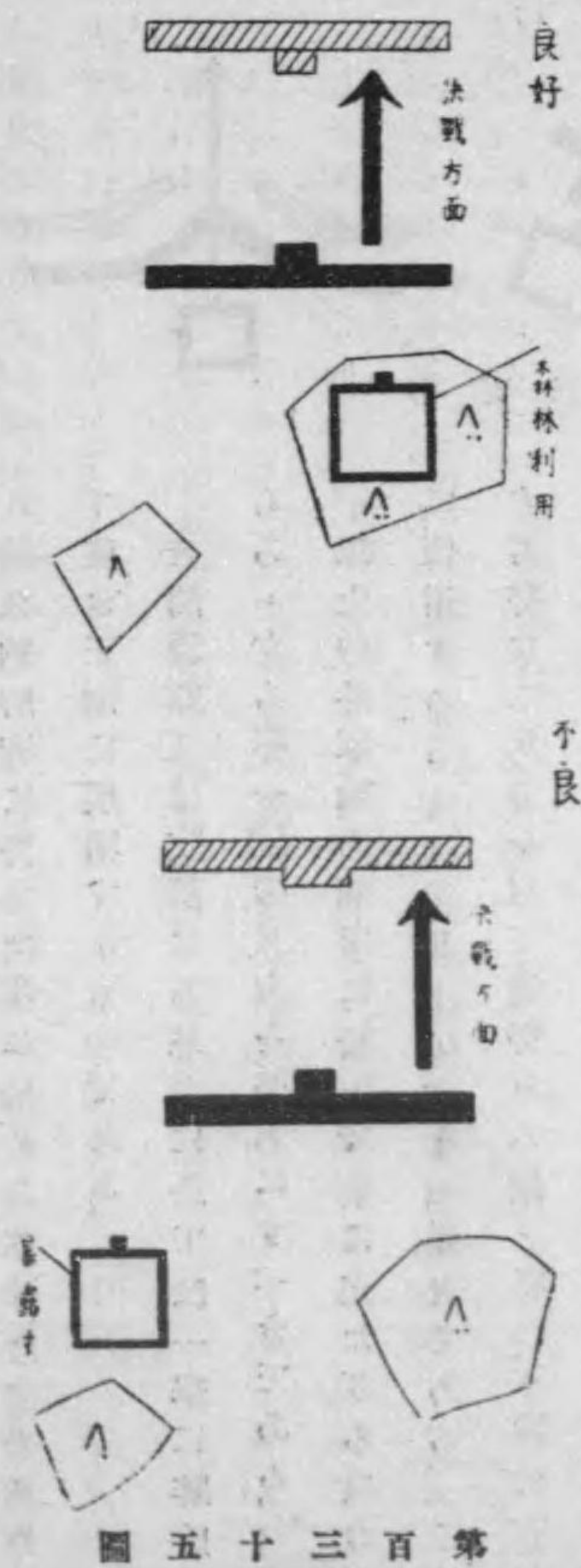


第三百四十四圖

石に水の譬の如く多くは無効に陥るものである。寧ろ他の方面に使用して戦局の發展を企圖するに如くはない。

豫備隊は成るべく建制部隊を以てこれに充

て混合部隊は出來得る限りこれを避くるが適當である。混合部隊であれば豫備隊



第三百五十五圖

の運用が不便であつてその力は弱いからである。例へば三箇中隊を豫備隊とするに當りては、第三大隊を以てこれに充てる如くし、各大隊より一中隊を抜きてこれに充つるが如きは適當でない。(第三百三十四圖)

豫備隊の位置は用途によりて異なるものであるが、多くの場合決戦を豫期する方面にこれを配置し、特に遮蔽に注意し、移動する際にも敵眼及び敵火に暴露せざるやう勉めねばならぬ。(第三百三十五圖) 而して豫備隊長は常に上級指揮官と連絡し、これが使用の時機を誤らざるやう注意する必要がある。

第七節 運動戰

(一) 攻撃

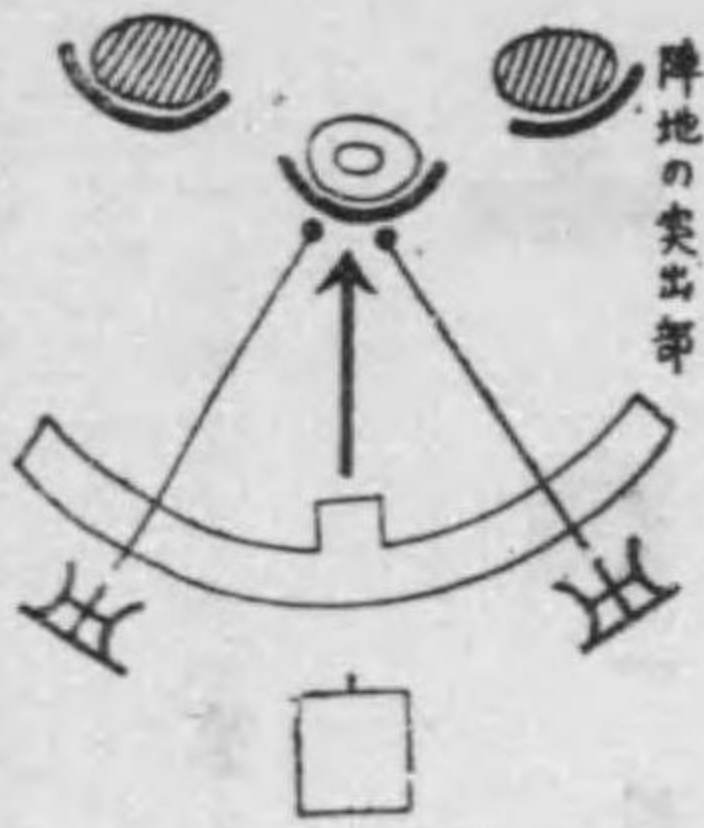
イ. 一般要領

攻撃の要訣
主攻撃正面の選定

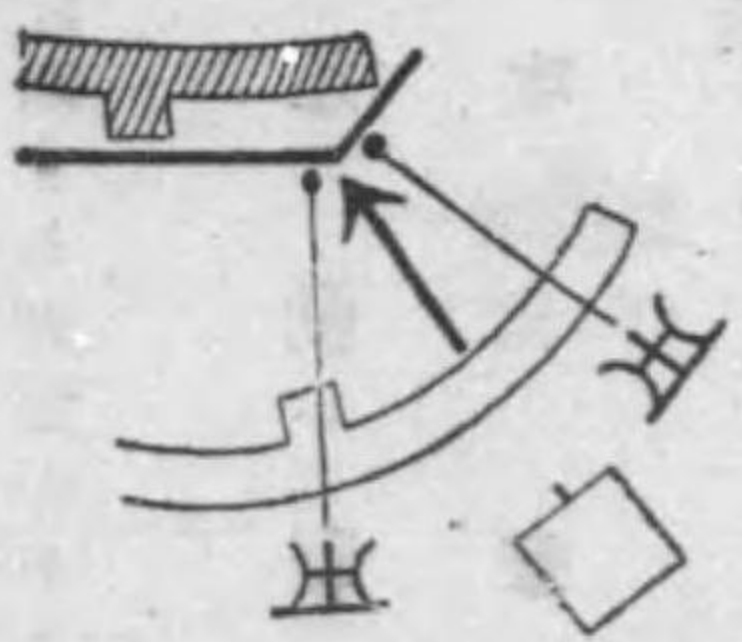
【攻撃の要訣】 攻撃の要訣は剛健なる意志を以て専心敵に勇進するに在る。剛健なる意志は戦勝の要訣であることは既に述べた所である。又攻撃は敵の意表に出づるに従つてその成果は益々大なるものである。

【主攻撃正面の選定】 敵を攻撃するに方り到る處平等の力を以てしては勝てるも

でない。必ず或る必要なる地點に向つて攻撃の重點を用ひ、他方面は微少の兵力にて満足する如く部署すべきである。この攻撃の重點を用ふる方面を主攻正面と稱へる。而してこれが選定の適否は攻撃の成果に大なる影響があるから、狀況特に

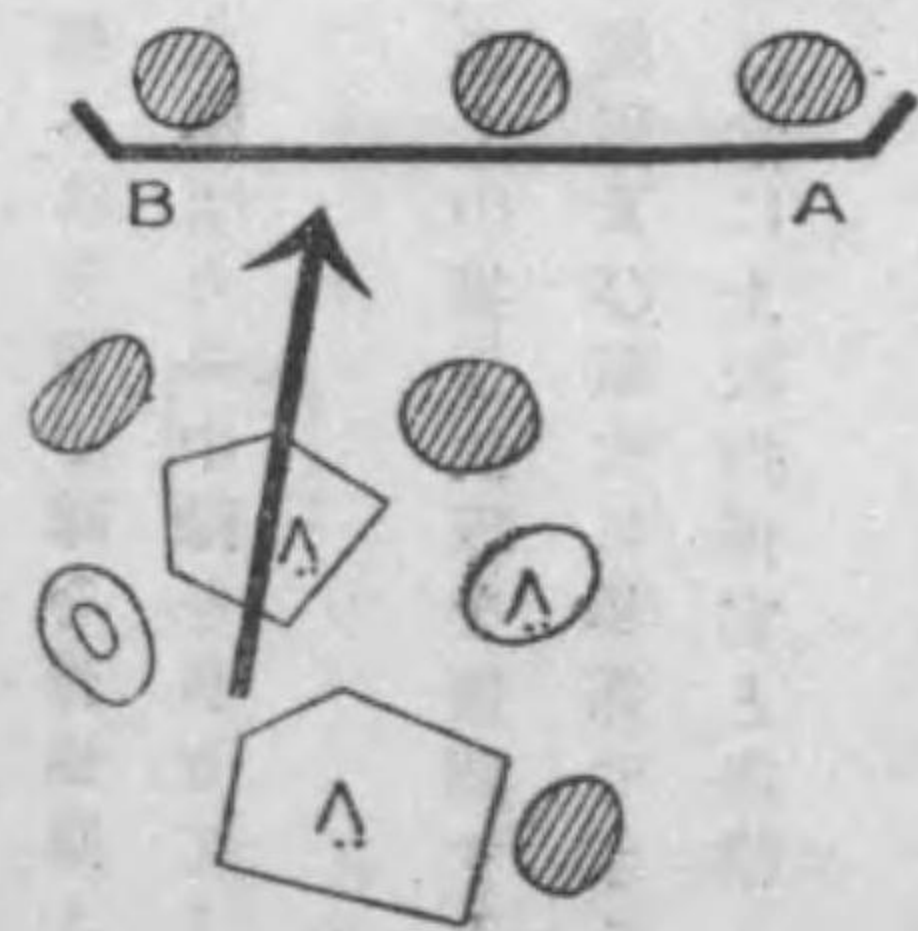


圖六十三百第



地形を判断し敵の弱點若しくは敵の最も苦痛とする方面に選ぶべきである。その例を圖を以て示さう。
(一) 敵の弱點。
イ、攻者敵に優るの兵力若

しくは火力を有利に使用し敵を壓倒し得る地點。即ち陣地の突出部又はその翼はこの要件に合する。(第百三十六圖)
ロ、敵眼敵火に遮蔽して接近の出来る地點即ち第百三十七圖に於てA方面よりはB方面が地形の關係上敵に接近するに容易であるからB方



圖七十三百第

イ、攻者敵に優るの兵力若

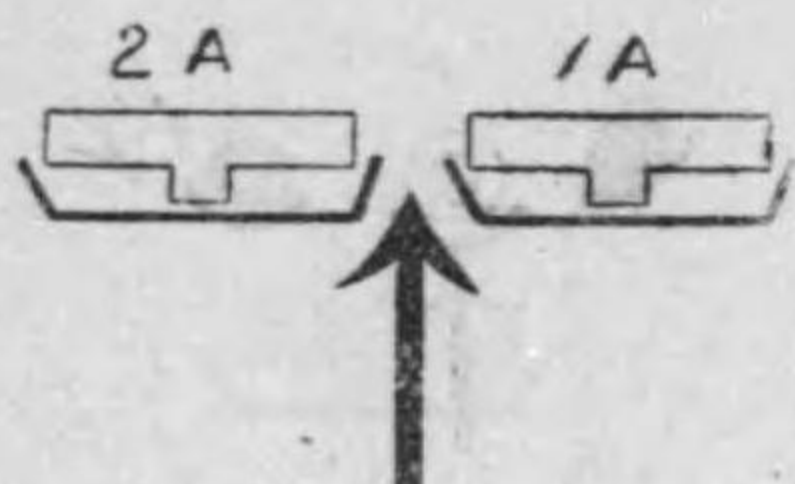


圖八十三百第

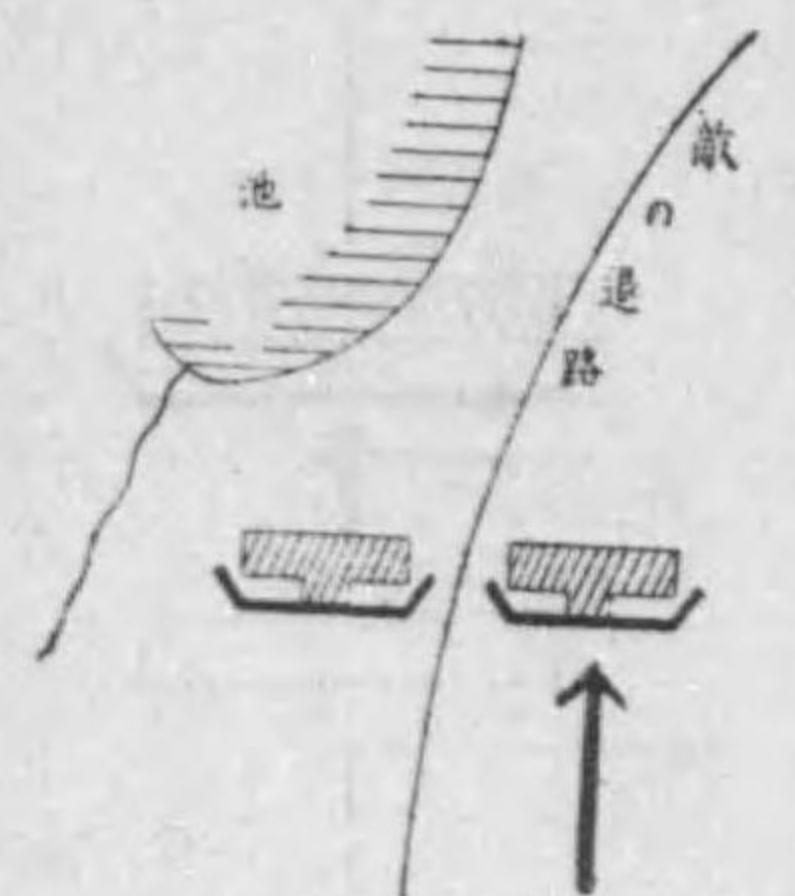


圖九十三百第

る。第百四十圖は守備部隊の接合點を以て主攻正面としたものである。これ守備部隊の接合點は往々守備薄弱となり易いからである。その他敵の歩砲兵の協同困難なる地區も弱點であつて主攻正面とするに適する。
(二) 敵の最も苦痛とする方面。
イ、敵の退路に迫り得る方面。(第百四十一圖参照)

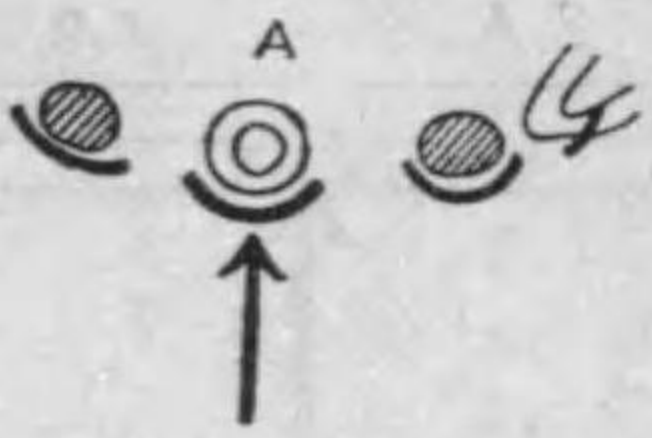


圖十四百第

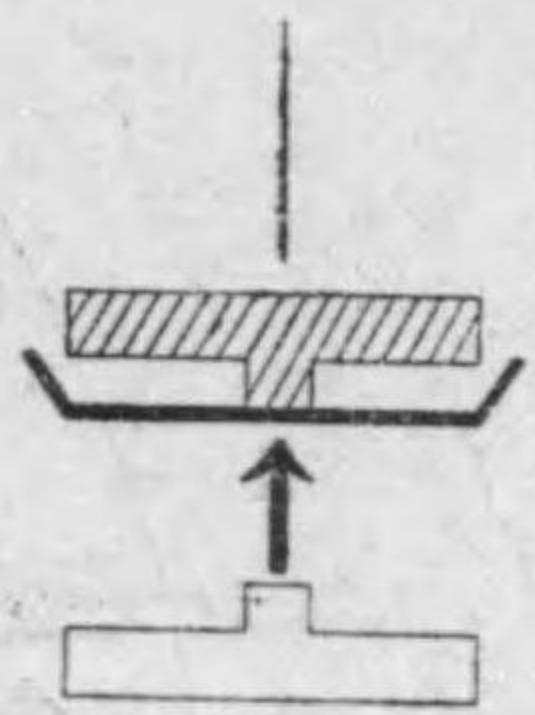


圖一十四百第

ロ、敵陣地上の要點
第百四十二圖に於てはA高地は敵のため最も重要な地點である。之を占領す



圖二十四百第



圖三十四百第
擊攻面正

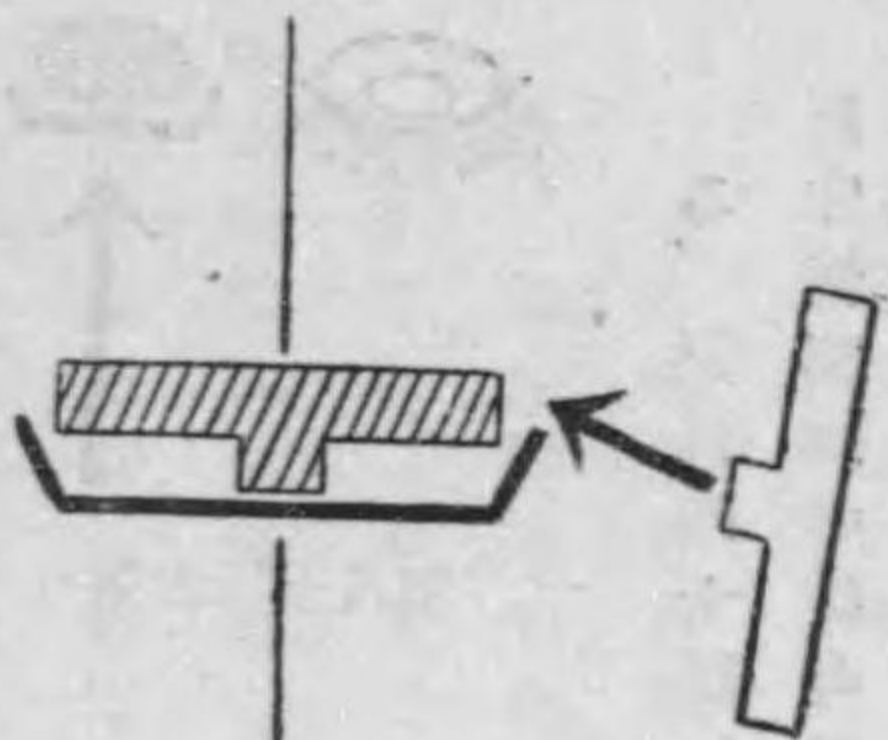


圖四十四百第
破突中央

其の要領

れば敵陣地は全く兩斷することが出來主攻撃正面とするに適する。但し斯の如き地點は敵の抵抗も大であるから我が損害の多いことを豫期せねばならぬ。

【攻撃の方式とその要領】 攻撃には各種の方式がある。以下圖を以て之を説明しよう。



圖五十四百第
擊攻面側

(一) 正面攻撃。(第百四十三圖)

正面攻撃とは敵の正面に向ふ攻撃であつて我が展開は容易であり且つ後方連絡線は安全である。併しながら敵の正面に向ふものであるから損害は大きくたとひ成功するとも敵をその後方連絡線方向に壓迫するに過ぎず従つて

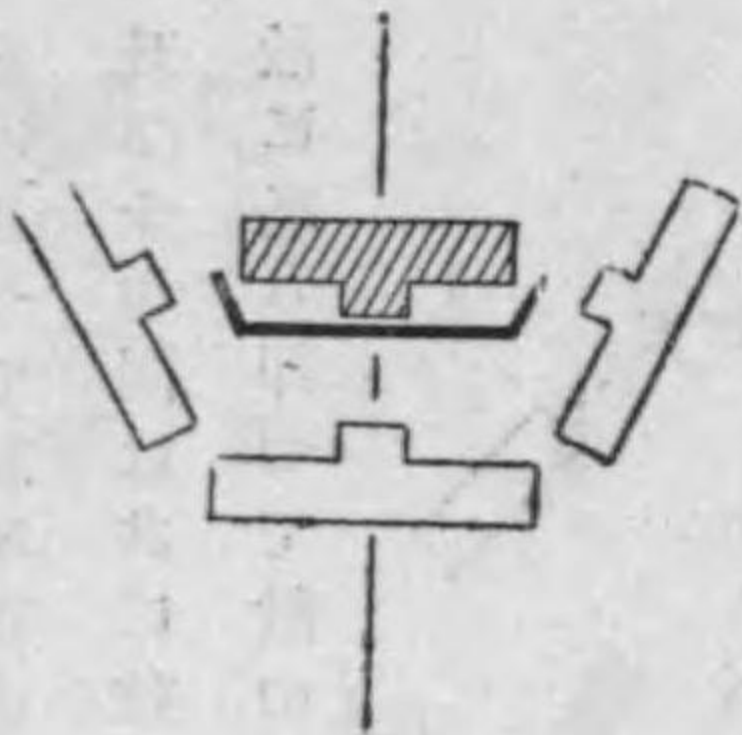
効果は尠い。故に特に十分な歩砲兵の協同動作と、適當に戰闘正面及び縦長區分とを決定して正面の威力を大にし敵線を突破せねばならぬのである。突破の一例は第百四十四圖の通である。

(二) 側面攻撃。(第百四十五圖)

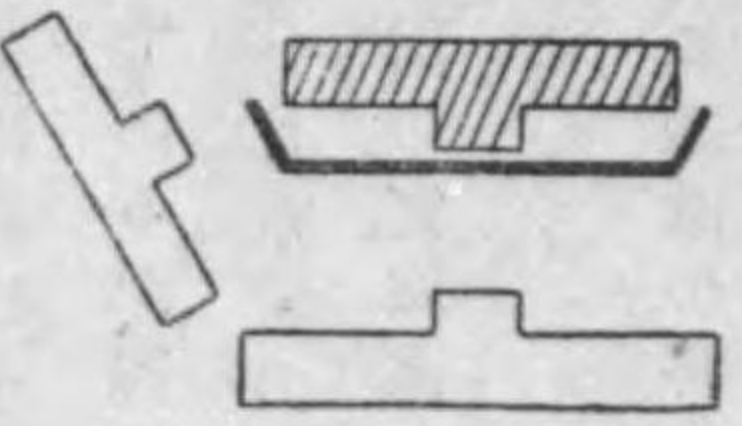
側面攻撃は敵の薄弱部たる側面に向ふ攻撃であるから、たとひ劣勢なる兵力を以てするも奏功容易である。併しながら純然たる側面攻撃は敵の不意に乗じなければ實行は困難である。

(三) 包圍。

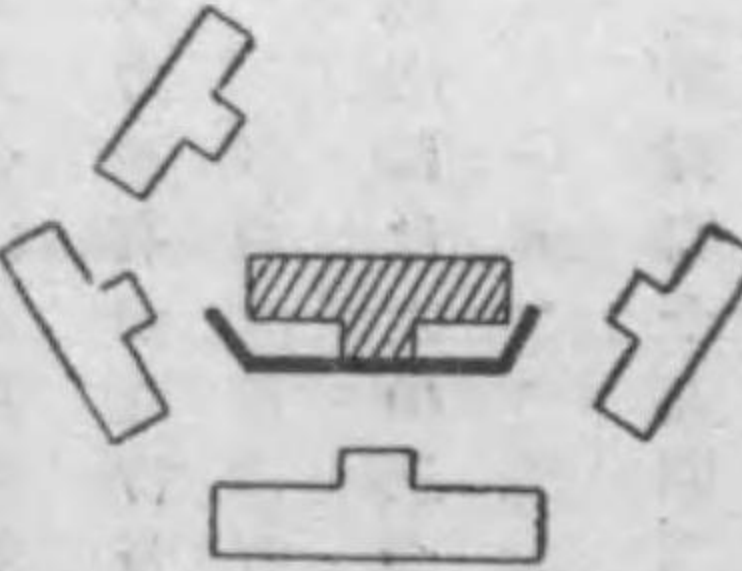
包圍とは敵の正面と側面とを併せ攻撃する方法であつて最も良好なる攻撃の方式である。包圍に於ては側面に用ひる兵力が大であると、且つ果敢なる正面の攻



圖六十四百第
圍包翼兩



圖七十四百第
圍包翼一



圖八十四百第
圍包全

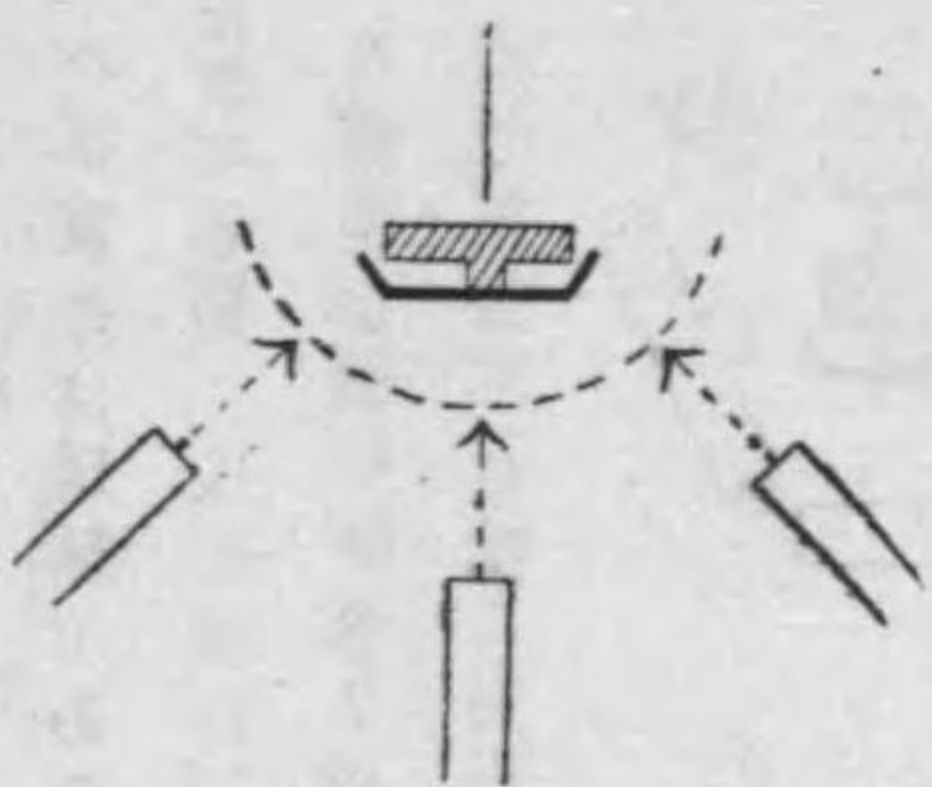
撃によつて敵を正面に拘束するに従ひその効果が益々大きい。而して兩翼包圍及び全包圍は共に效果更に大であるが特に優勢なる兵力を有せなければ兵力分散に陥り却つて敵のため突破せらるゝの危険がある。

包圍の實施法 包圍の實施法には左の三つの種類がある。

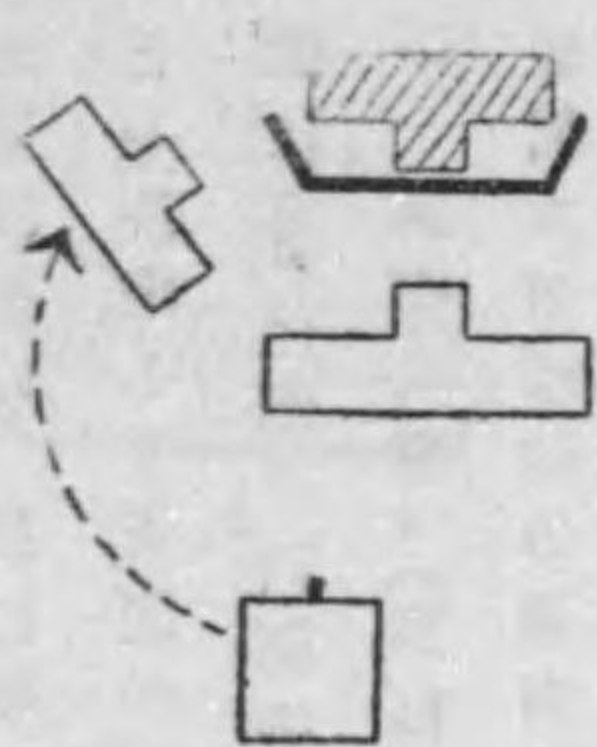
- イ、縱隊の併進による法。(第四百十九圖) 各縱隊が求心的に前進して自然に敵を包圍するのである。
- ロ、後方部隊の加入による法。(第四百五十圖) 豫備隊等が後方から進出して包圍するのである。

以上の二法は共に展開前に豫め準備せねばならぬ。

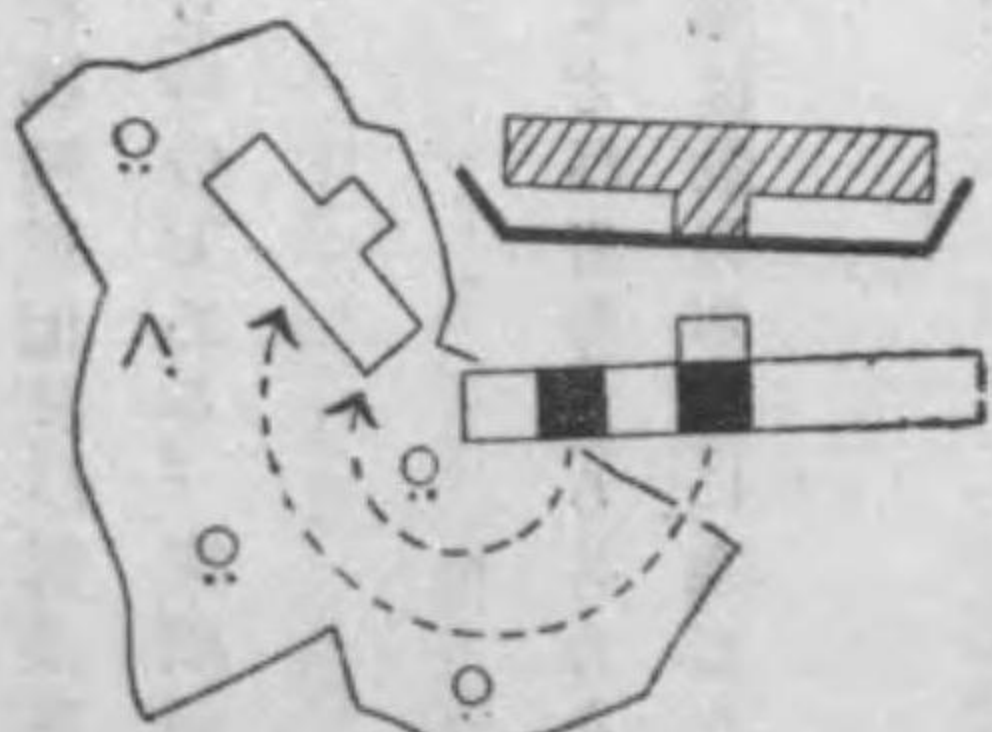
ハ、既に展開せる部隊の移動による法。(第五百十一圖) この方法は夜間又は地形特に有利なる場合に



圖九十四百第

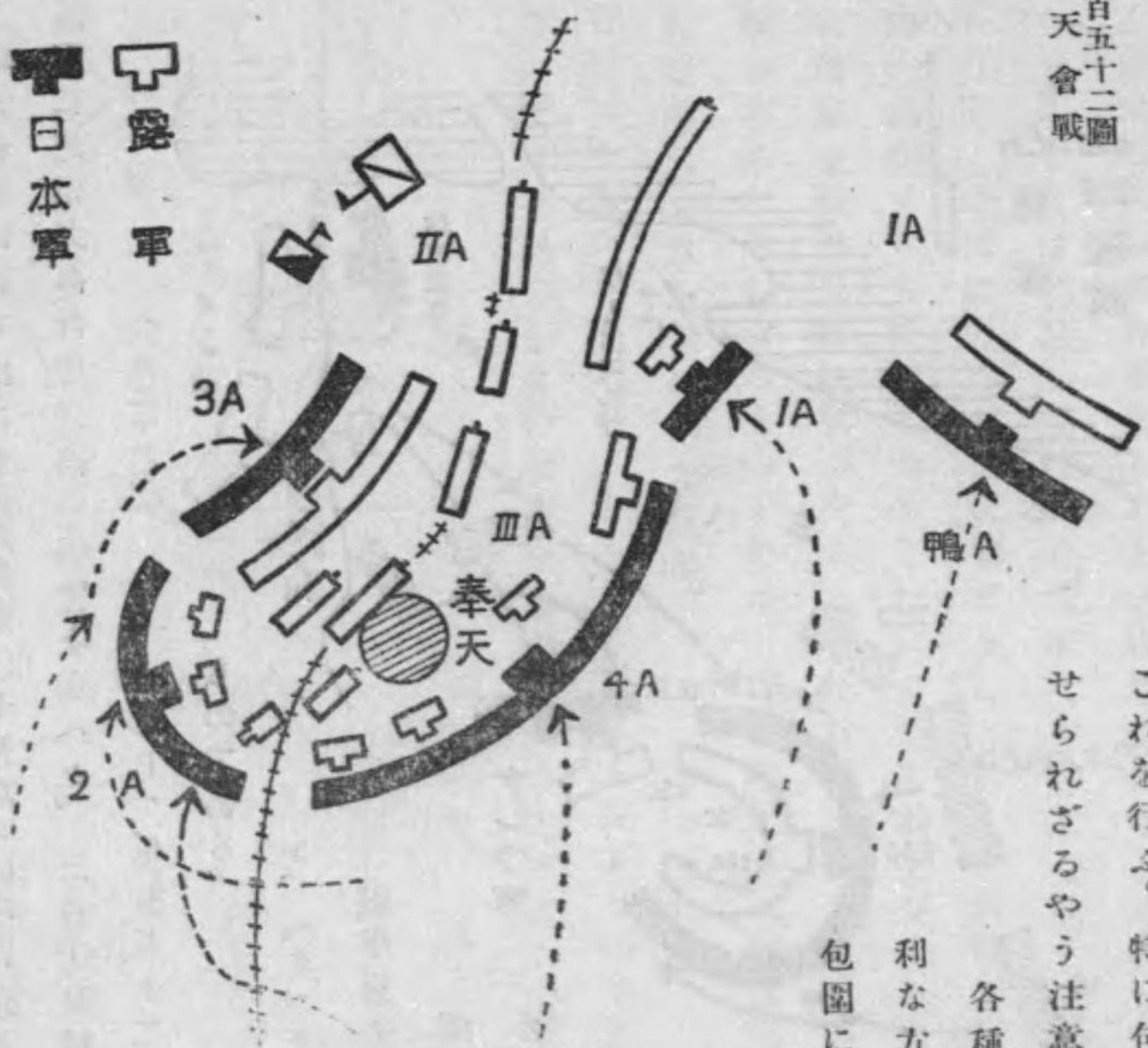


圖十五百第



圖一十五百第

第五百十二圖
奉天會戰

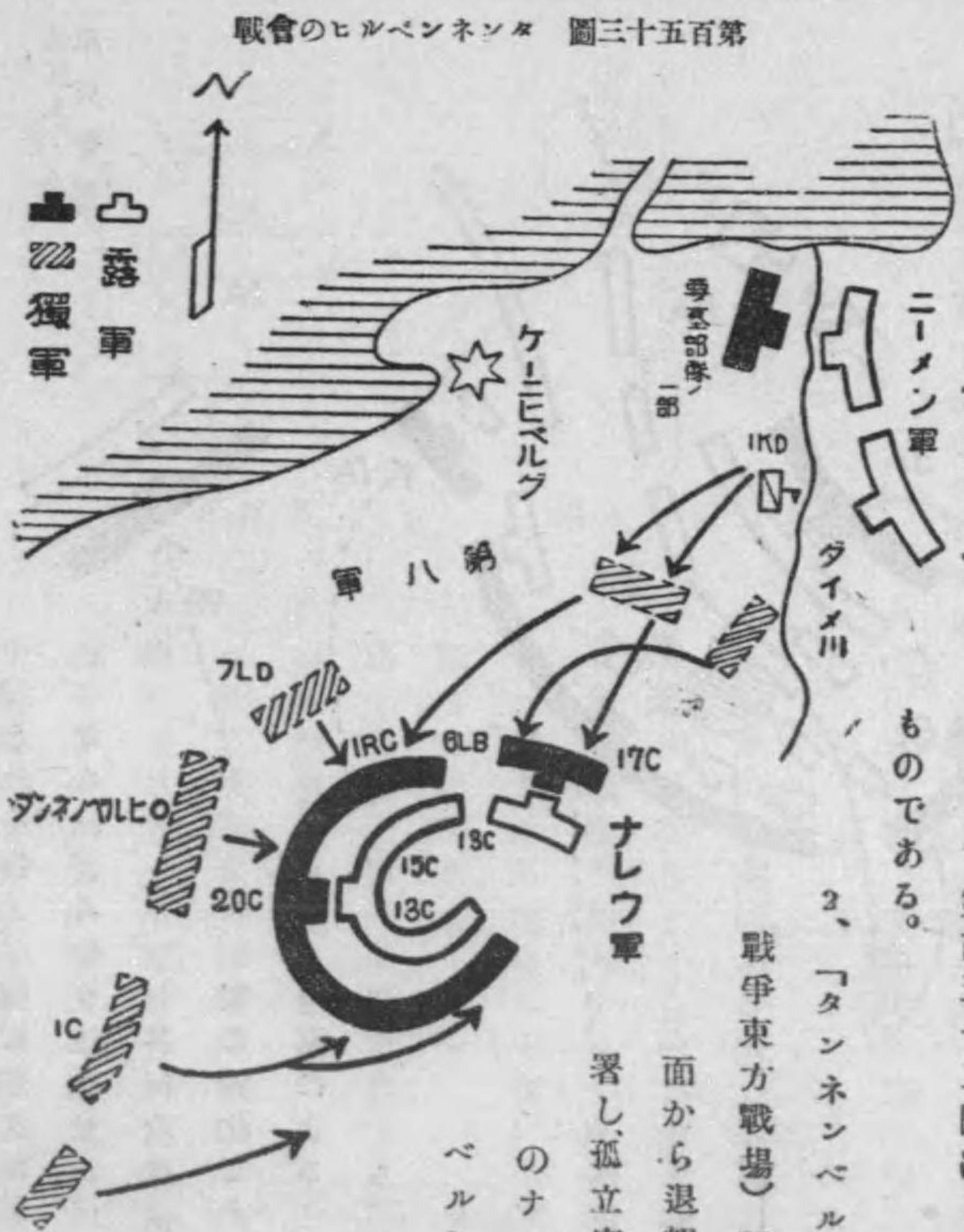


これを行ふ。特に包圍部隊の抽出を敵に發見せられざるやう注意せねば危険である。

各種攻撃法の内包圍は最も有利な方法であるから攻撃は常に包圍によることを勉むべきである。

日露戦争に於ては我が軍は常に包圍に依り露軍を撃退してゐる。又歐洲戦争に於ても包圍に依つて大なる効果を收めた例に乏しくない。今兩戦争間に於ける最著名なる包圍の例を示して参考とする。
1、奉天會戰(日露戦争)

争) 奉天會戰に於ては日本軍(兵力二十五萬)は巧に露軍(兵力三十二萬)を包圍して露軍に死傷九萬、俘虜二萬の損害を與へた。三月十日は本會戰中最も我に有利なりし日で、第百五十二圖はこの日の戰況を示すものである。



2、「タンネンベルグ」の會戰(歐洲戰爭東方戰場) 獨軍はグイメ河方面から退却中巧に兵力を部署し、孤立突進しつゝある露軍のナレフ川をタンネンベルグ附近に於て包圍しこれを殲滅した。上圖は一九一四年八月二十九日の戰況である。

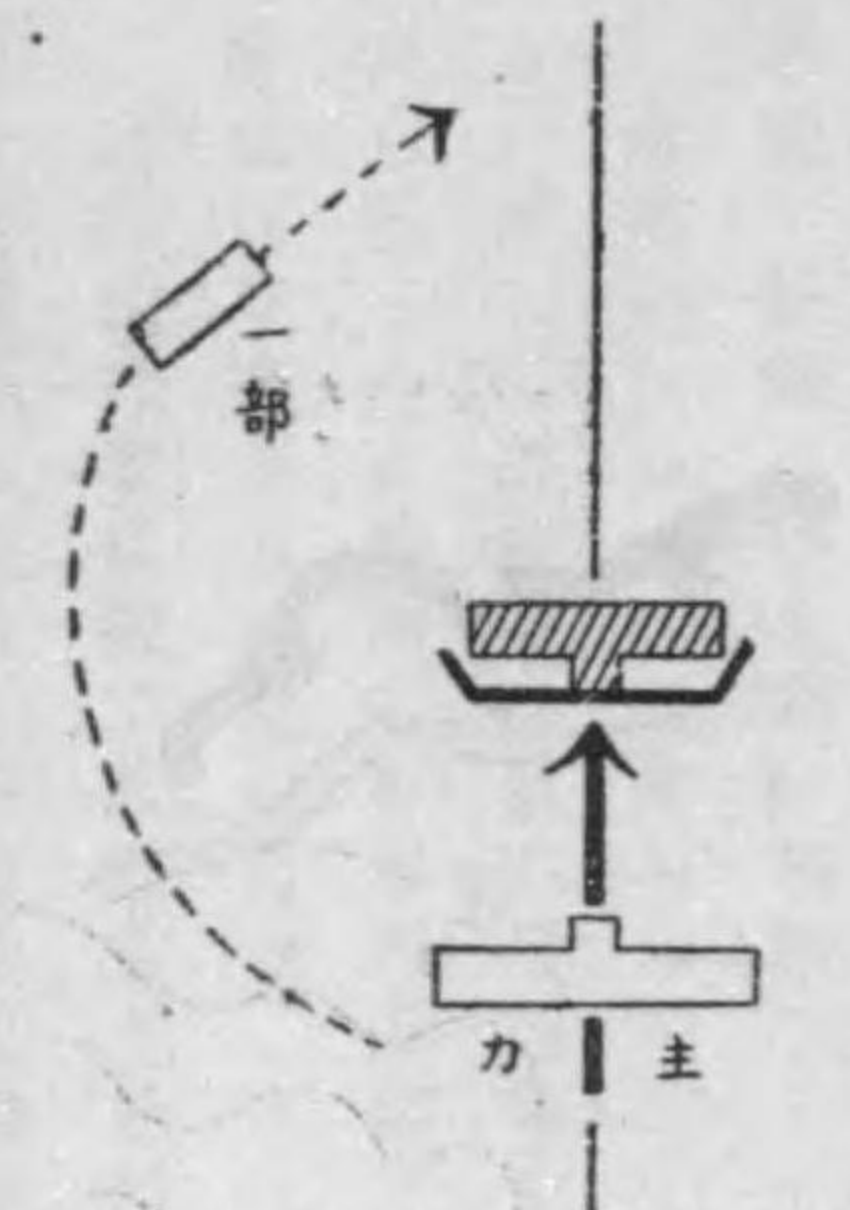
この戰闘に於

戰會のヒルペンネンタ 圖三十五百第

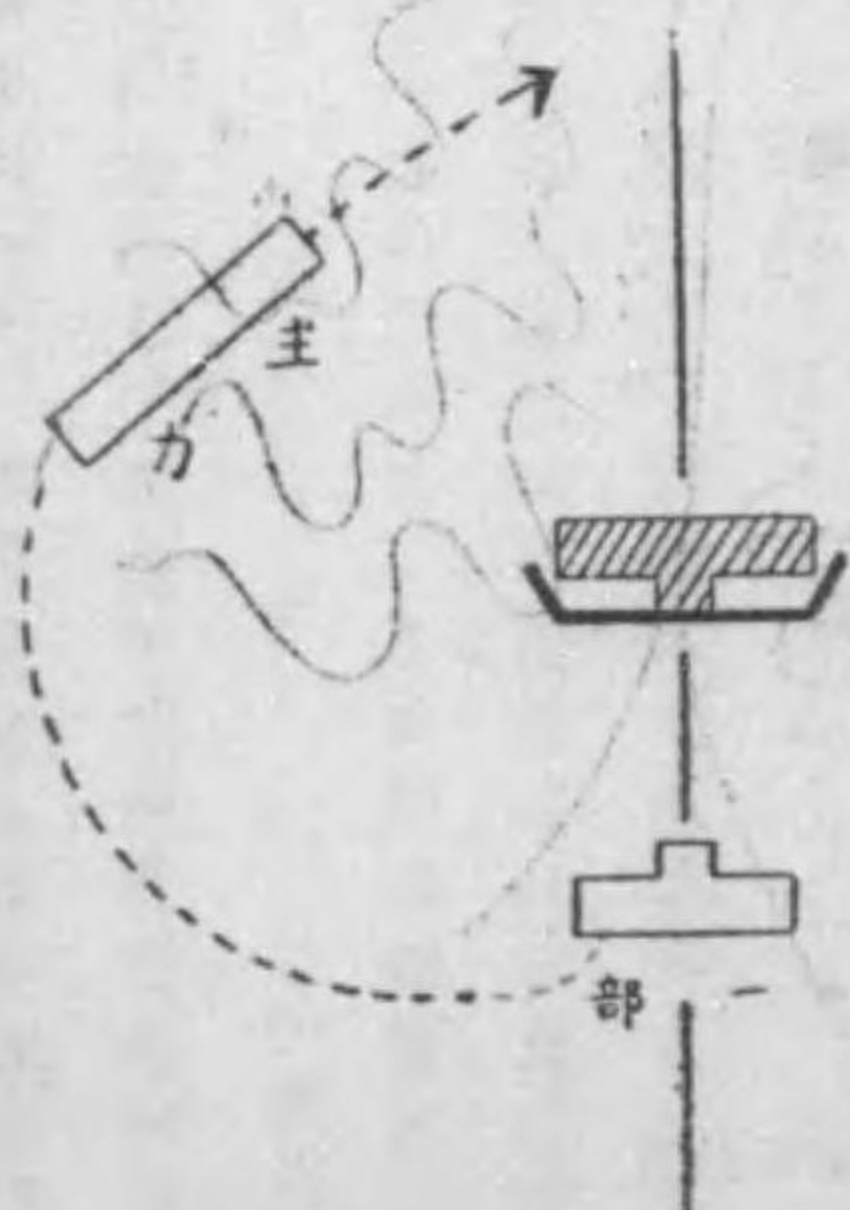
ける彼我の兵力は五軍團であるが、露軍は死傷十二萬五千を出し、他の大部は捕虜となり軍司令官は自刃して敗戦の責を負ふに至つた。

(四) 迂回 迂回は直接敵を攻撃することなく、その背後に迫り後方連絡線を脅威する如く動作するものであつて、これによつて敵をしてその陣地を捨て、我の欲する所に戰闘を行ひ、又は決戦を交ふるの止むなきに至らしめ、或はこれによつて主力の攻撃を容易ならしむるものである。併しながら迂回は兵力分離に陥るの虞があるから實施に注意をせねばならぬ。

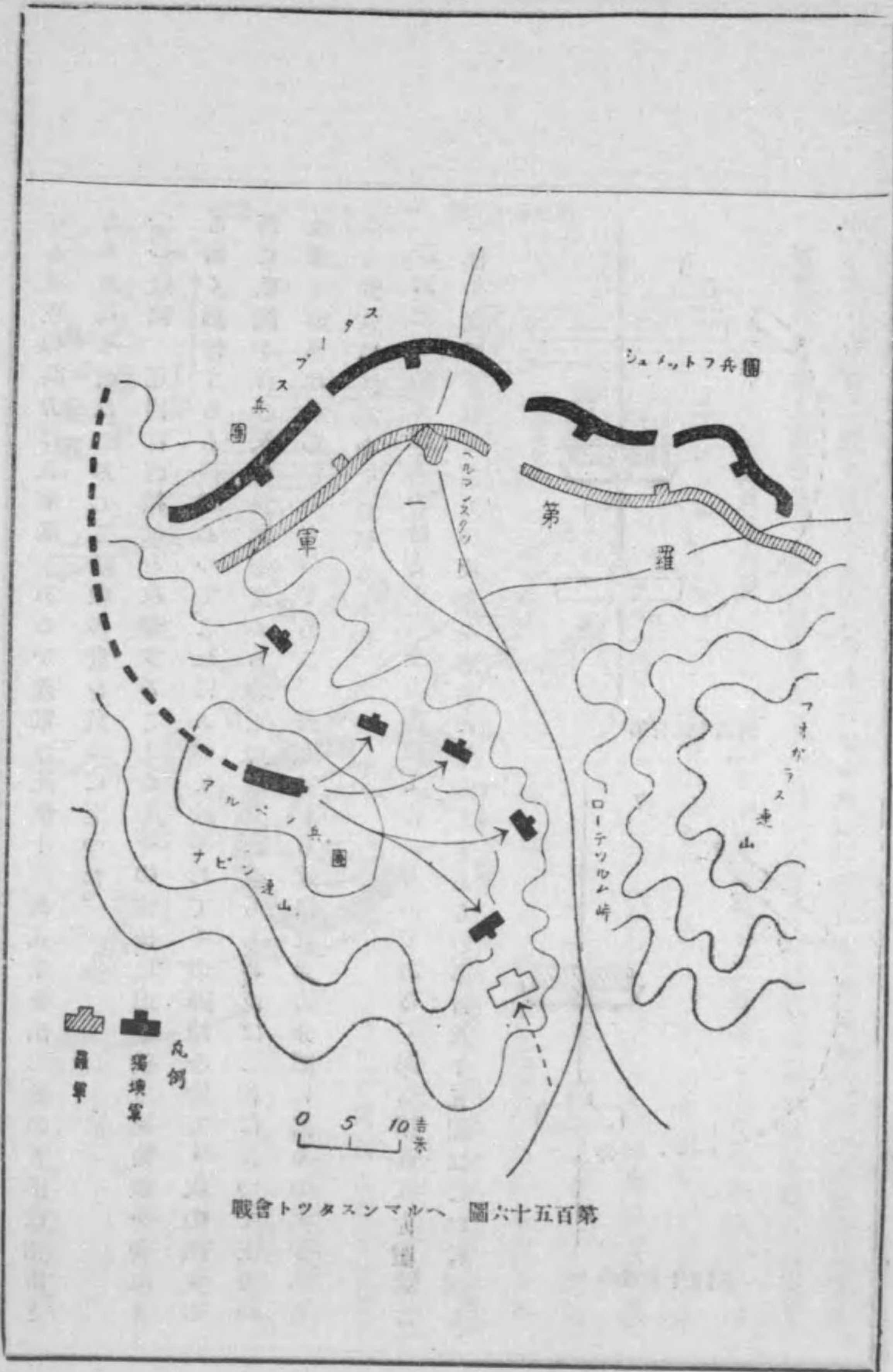
迂回は一部又は主力時として全力を以て行ふものである。即ち第百五十四圖は一部の迂回を以て主力の攻撃を容易にせんとするもの、第百五十五圖はこれに反し



圖四十五百第



圖五十五百第



戰會トツタスマルヘ 圖六十五百第

主力を以て迂回せしむるものである。主力の迂回に於ては残されたる一部は地形有利にして敵が攻撃し來るもこれを拒止し得るに十分でなければ危険である。

参考のため歐洲戰爭に於ける獨軍の迂回の一例を示さう。

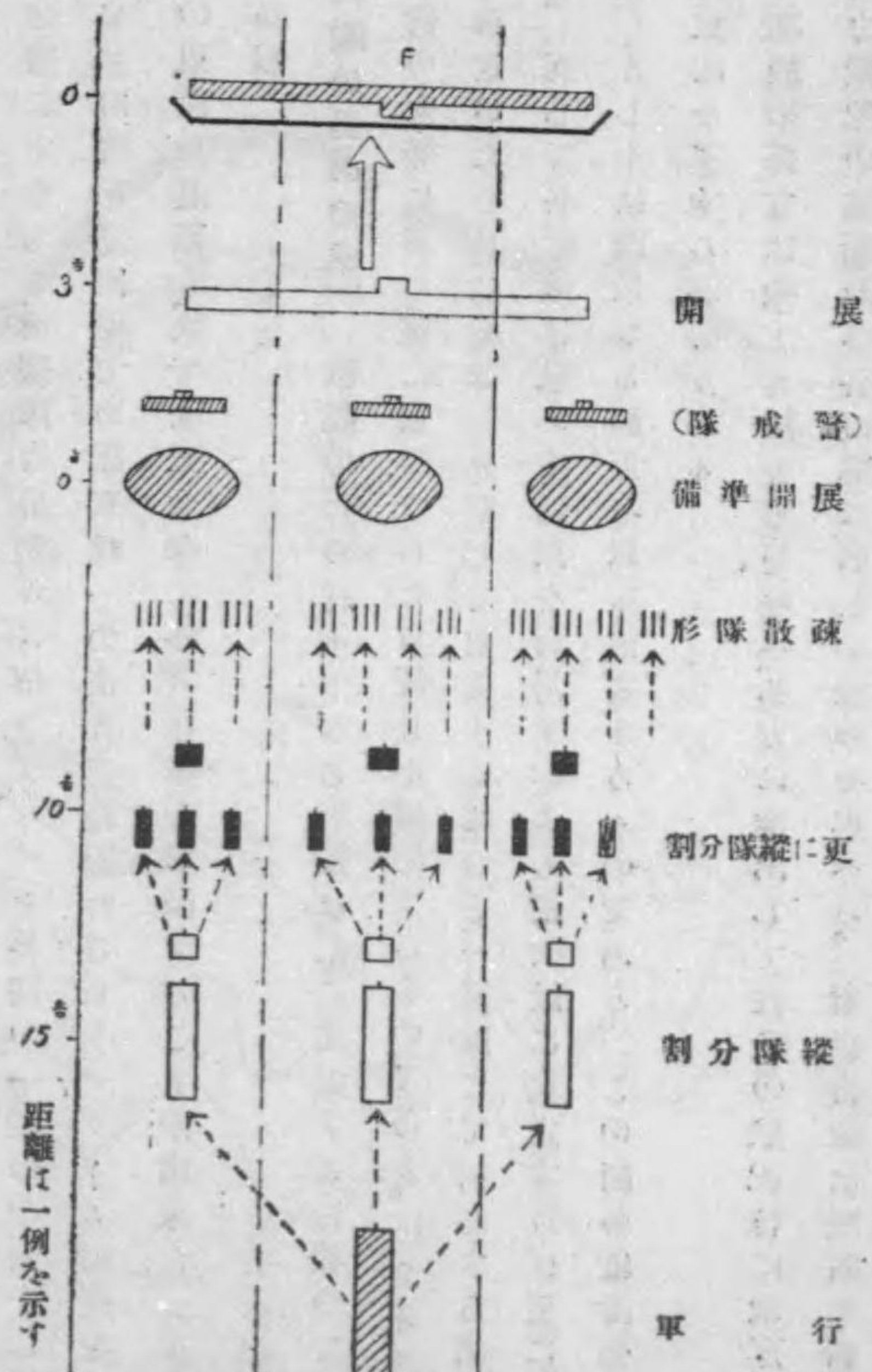
一九一六年獨逸軍はヘルマンスタット附近に於て羅軍の三師團の攻撃に對し専ら防勢に立ちしも、増援隊を得たるに依りアルベン兵團の一縱隊を密かに魏峨たるナビン山背を迂回せしめ羅軍唯一の後方連絡線たるローテツルム山徑を占領してその退路を遮斷し、次で全軍攻撃に移り羅軍を殲滅することが出來た。(第五百十六圖参照)

戰闘の爲の前進

【戰闘の爲の前進】 戰闘のため行軍中なる軍隊は、敵に接近するに従つて適時戰闘準備の態勢に移り速に展開するため縱長を短縮するものである。

前進のためには縱隊を分割して前進する場合と、一縱隊にて前進する場合とがある。而して各縱隊は勉めて道路を利用すべきも、漸次敵に接近すれば更に縱隊を分割し、若しくは疎散なる隊形を以て前進するものである。この間各縱隊毎に所要の警戒法を講ずる必要がある。

高級指揮官は砲工兵隊長等を随へ、前方に進出して彼我の狀況特に地形を観察し、主力縱隊の前衛及び各縱隊に動作の憑據を與へる。爾後諸隊は展開準備の位置に



圖七十五百第 逆前の爲の闘戦

就くか否かは主として敵情に依りて定まる。
 前衛等の警戒部隊は上級指揮官の指示(時として獨斷)により所要の處置を爲し偵察を行ひ上級指揮官の決心及び處置を爲すに必要な資料と時間とを與へ同時に我が軍の行動及び企圖を敵に對して掩蔽するのである。(第百五十七圖參照)

狀況に依つては夜間を利用して前進することがある。殊に陣地を占領し且つ優勢なる航空機及び砲兵を有する敵に對して然りである。この場合には一部隊を晝間豫め前方に進め所要の地點を占領して主力の行動を掩護せしむることがある。

□、防禦陣地を占領せる敵に對する攻撃

(A) 攻撃準備

【要旨】 防禦陣地を占領せる敵に對しては攻者は通常敵情及び地形を綿密に偵察し、攻撃の時期方向及び方法を選ぶの時間の餘裕を有するものである。従つて先づ軍隊は展開準備に就き綿密なる計畫を定めて攻撃を行ふのである。

【偵察】 攻撃計畫策定のためには偵察は攻略を企圖する敵陣地の全縱深に亘り許す限り細密に行はねばならぬ。無暴なる攻撃は失敗に陥るものである。確實なる敵情を知るために前衛等は敵の前進部隊或は警戒部隊等を驅逐する必要がある。併しながら敵若し有力なれば前衛のみで攻撃することなく、高級指揮官の統一したる部署によりこれを攻略せねば危険である。

敵情により攻撃の手段を用ふる要領は搜索の部に於て述べた通である。
 【展開準備】 展開準備の位置は我が軍の企圖敵情地形に稽へ左の件を顧慮して定

要旨
 偵察
 展開準備

むるものである。

- 1. 攻撃準備の容易なること。
 - 2. 爾後に於ける動作の自由を確保すること。(過度に接近してはならぬ。)
 - 3. 敵砲火の損害を減少し地上及び上空の敵に遮蔽すること。
- 軍隊を展開準備位置に就かしむるには高級指揮官は各縦隊にその主力の占むべき地区を示し搜索及び警戒に關し指示を與ふる。時としては各縦隊の警戒部隊の行動を統一する。

各隊は敵の視察を避け且つ敵砲火特に瓦斯彈並に敵飛行機の襲撃に依る損害の減少を顧慮する必要がある。これがため地形を利用して成るべく集結し、要すれば部隊を分置し止むを得ざれば疎散なる配置を取ることがある。

【攻撃計畫】 搜索の結果に基きて高級指揮官は攻撃計畫を立案し戰鬪經過に應ずる軍隊の部署を定め、特に歩砲兵の協同動作を綿密に規定せねばならぬ。

敵の警戒陣地の攻略に引續き一舉にその主陣地帯を攻撃するを適當とするも、時として先づ警戒陣地を攻略し、更に搜索を行つて後主陣地帯を攻撃する事がある。

【攻撃命令及展開】 攻撃計畫確定せば高級指揮官はこれに基きて攻撃命令を下し軍隊を展開位置に就かしむるのである。攻撃命令には概ね次の如き事項を示す。

攻撃命令及び展開

攻撃計畫

展開位置の選定

砲兵陣地及配置

展開實施の要領

1. 第一線たるべき歩兵の展開區域、攻撃目標及び戰鬪地域。攻撃目標は通常敵の第一線及び爾後攻撃して到達すべき線を示す。

2. 砲兵には戰鬪初期の任務戰鬪經過に伴ふ火力運用の準備陣地と爲すべき概略の區域使用彈藥の概數等。

【展開位置の選定】 展開位置は次の諸件を顧慮して決定する。

- 1. 成るべく有效なる敵火の損害を被らざること。
- 2. 勉めて敵に接近すること。

【砲兵陣地及び配置】 砲兵陣地は左の要旨に従つて選定する。

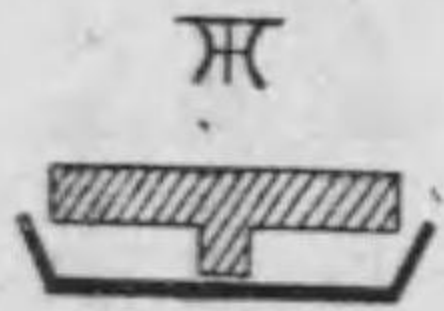
1. 狀況の許す限り敵に近く配置すること。(これにより敵陣地の全縱深に亘り連續的に砲火の威力を發揚が出来るのと戰鬪間陣地變換を要しない利がある。)

2. 最初の配置は火砲の特性に應じ與へられたる戰鬪任務彈藥補充の難易等に依り定むるも、運動性小なるものは勉めて前方に配置するを要す。

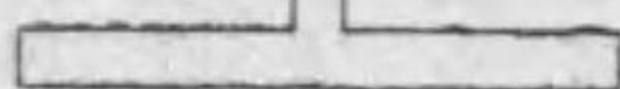
【展開實施の要領】 高級指揮官展開命令を下せば諸隊は次の要領で展開する。

- 1. 各部隊は秩序と連繫とを保ち、成るべく敵眼に遮蔽してこれを行ふ。
- 2. 各部隊は所要の警戒を爲す。
- 3. 時として敵に離隔して展開を行ひ所要の準備を整へたる後これを推進して展開

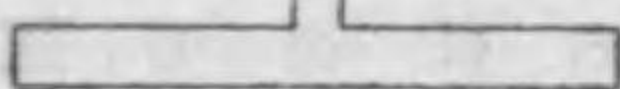
位置に就かしむることがある。即ち敵は長大なる射程の砲兵を有する等の關係上展開準備位置から一舉に展開位置に前進するのは危険であるから、先づ第一次の線にて展開し準備を整へ、次で第二次の展開位置に就くが如きこれである。(第百五十八圖)



位置展開第二次



位置展開第一次



圖八十五第

展開實施後の動作

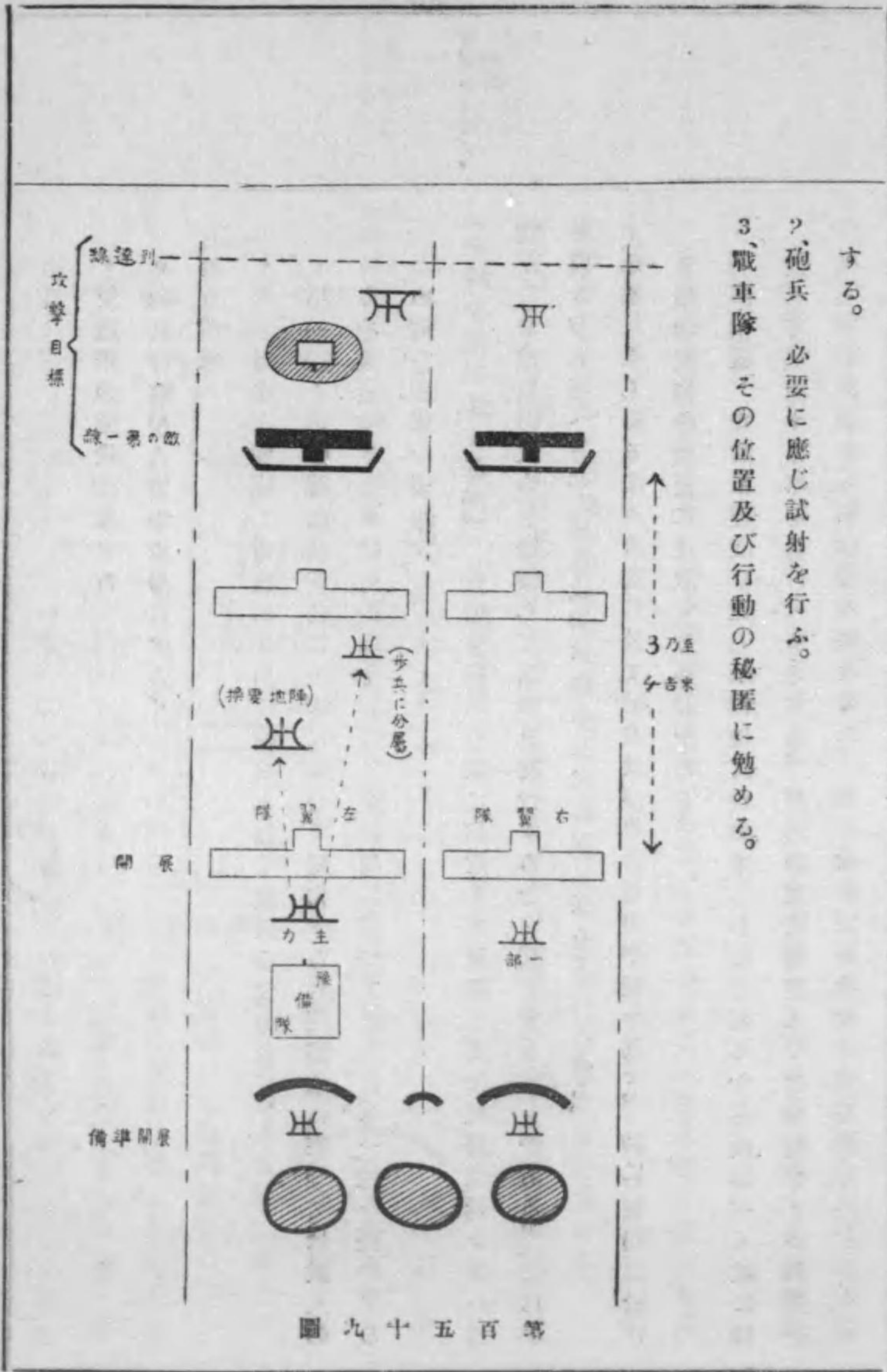
【展開實施後の動作】 展開したる各部隊は攻撃實行のため次の如き諸準備を爲さねばならぬ。

1. 第一線歩兵部隊
- イ、情況に適する態勢を以て敵情地形を偵察する。
- ロ、直接協同すべき砲兵と必要なる協定を爲す。
- ハ、全般の展開進捗するまで成るべく過早の戦闘を避ける。併しながら展開位置に在りて觀測及び爾後の攻撃進捗のため必要なる地點は一部を以てこれを占領

する。

2. 砲兵 必要に應じ試射を行ふ。

3. 戦車隊 その位置及び行動の秘匿に勉める。



圖九十五第

夜暗を利用する展開

4、工兵

イ、交通路の開設に任ずる。

ロ、砲兵の陣地占領を容易にする。

5、後方部隊

イ、その用途を顧慮し、爾後の使用に便なる如く位置を定める。

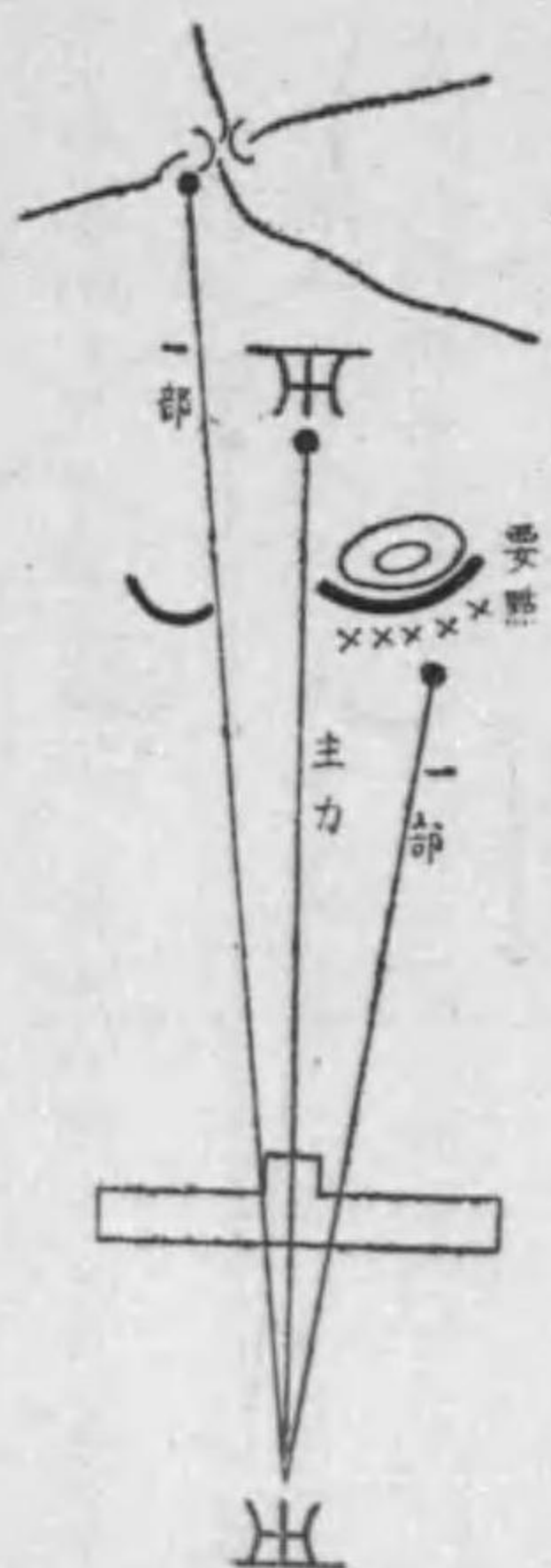
ロ、第一線との距離は状況特に地形に依つて變化するも、開豁地に在つては敵火の效力を減殺するため縦長距離を大にし、蔭蔽地に在つては速に第一線を援助するため縦長距離を短縮する。

【夜暗を利用する展開】 夜暗を利用し敵に接近して展開し、或は展開位置を進め、拂曉から歩砲兵の火力を發揚して攻撃を實行するを有利とすることがある。(これを拂曉攻撃と稱へる。) 拂曉攻撃は概ね左の要領に據るものである。

イ、準備 爲し得る限り晝間に於て偵察及びその他の準備を爲す。特に夜間に於ける敵の配備の變更に注意する必要がある。

ロ、展開位置 夜間は晝間に比し敵に接近が出来るわけであるから、成るべく敵に接近して展開する事を勉むべきである。然し過度に接近しては豫期せざる戦闘を起す事があるから注意せねばならぬ。先づ敵を去る千米位が普通であらう。

攻撃開始より突撃準備まで



第一百十六圖

【攻撃開始より突撃準備まで】 諸隊の展開完了すれば高級指揮官は歩兵の攻撃前進及び砲兵の射撃開始を命じ、爾後は各兵種特に歩砲兵の密接なる協同動作により敵陣を奪取するのである。その動作の概要を各期に分ちて説明する。

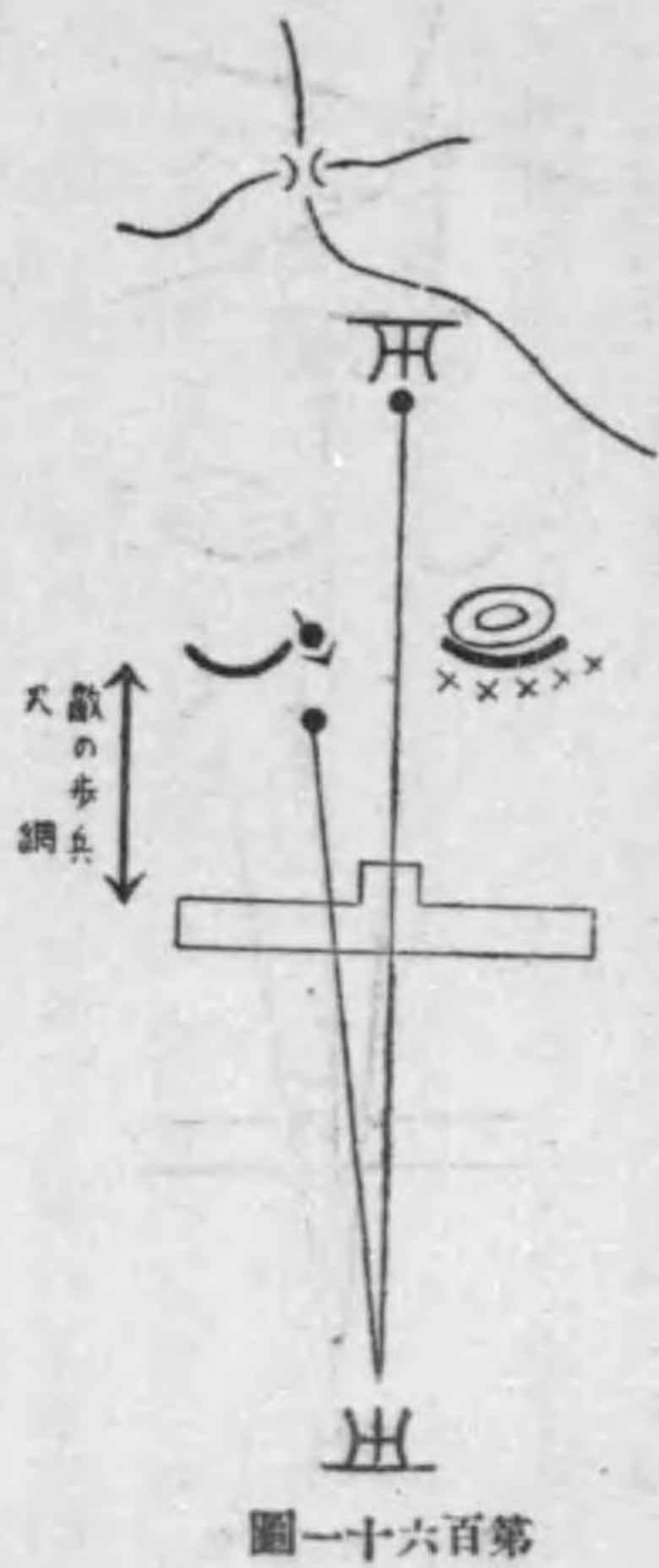
ハ、展開位置に就く時期 薄暮を利用するか又は夜暗に依るものであるが、各部隊をして拂曉までに連絡を保ち所要の工事を爲し、攻撃準備を完了する如くその時期を選定せねばならぬ。

ニ、前進地區の要點占領 前進地區の要點は晝間に於て豫めこれを占領し置くを適當とする。

(B) 攻撃實行

ホ、砲兵 要すれば陣地を變換して拂曉時の歩砲兵の協同に遺漏なきを勉める。

ヘ、その他 工兵は地形を偵察し進路を開き或はこれを標示する。戦車は音響の許す限り第一線に進くその位置を進める。



圖一十六百第

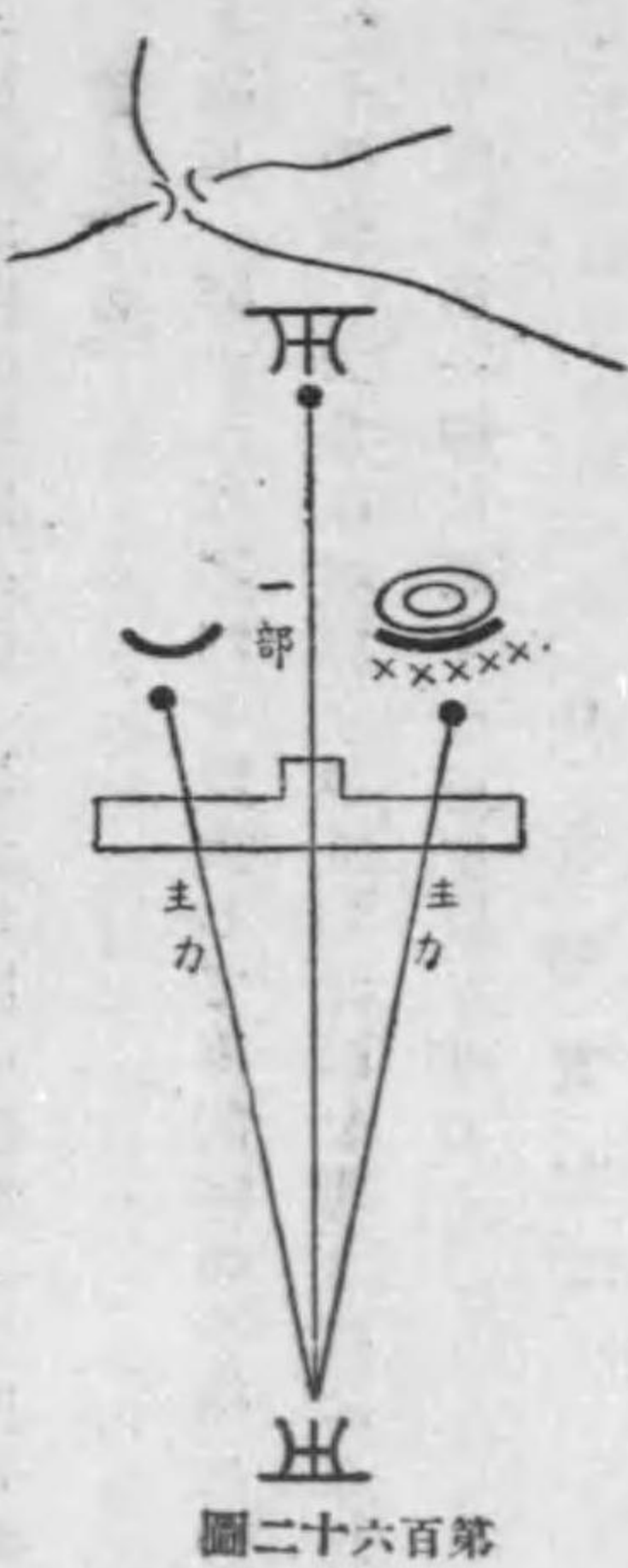
(一) 攻撃初期 (第百六十圖 参照)

砲兵火力指向の要領は圖の如し。
歩兵その他の兵種は隊形及び地形を利用して前進する。

(二) 敵の歩兵火網に進入前

(第百六十一圖参照)

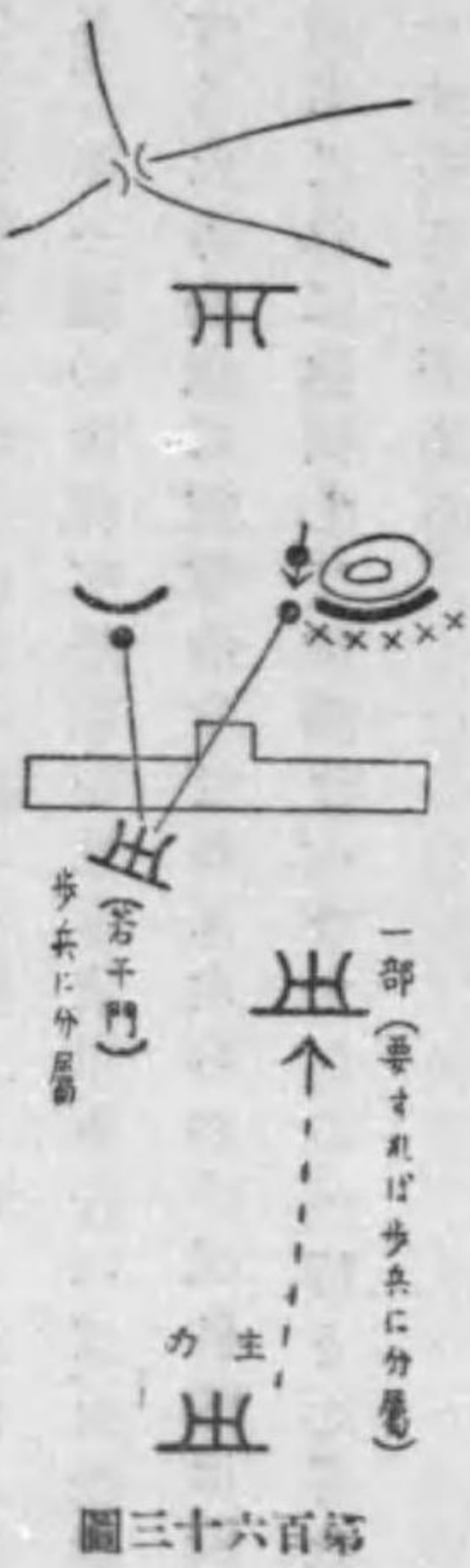
砲兵火力指向の要領は圖の如し。
歩兵その他の兵種の動作は前に同じ。



圖二十六百第

(三) 敵の歩兵火網に進入の後 (第百六十二圖参照)

砲兵火力指向の要領は圖の如し。
歩兵は射撃を開始しつゝ前進す。



圖三十六百第

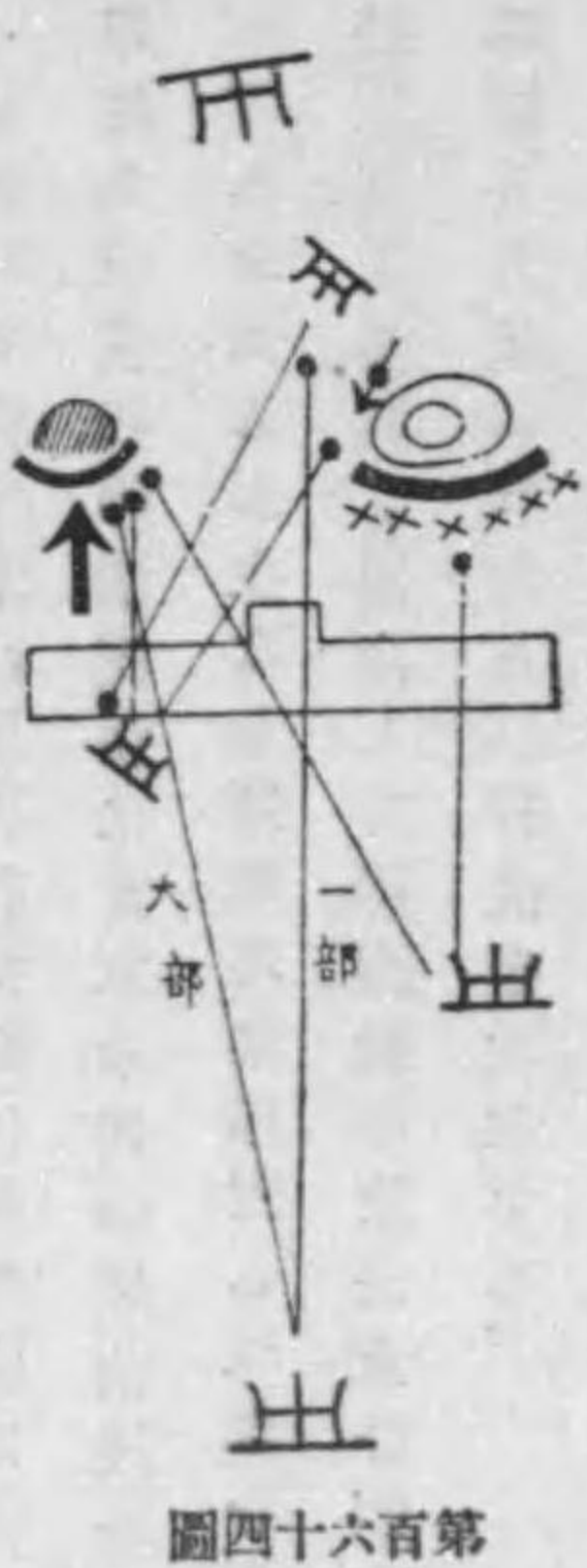
(四) 砲兵を歩兵に配属 (第百六十三圖参照)

歩兵に分属せられたる砲兵の若干門は敵の要部を側射し、又はその側防砲機

關銃若しくは戦車を射撃する。

歩兵隊長は砲兵を分属せられしときは、砲兵に目的を示し又は射撃目標を示して動作せしめる。

工兵はこれ等砲兵の進路と陣地を設備する。



圖四十六百第

(五) 戦闘酣なるとき (第百六十四圖参照)

歩兵は一意前進し一旦占有せる土地は尺寸たりともこれを敵手に委せざること

に努む。
砲兵はたとひ敵砲兵から損害を蒙るも意とせず、主攻撃正面の敵の歩兵を射撃し、一部は我が歩兵に危害を與ふる敵の砲兵を射撃する。

突撃準備

【突撃準備】 敵は單に射撃の效果によつてこれを驅逐し得るものでない。故に攻者は最後の勝利を得るために常に突撃を敢行せねばならぬ。即ち歩兵が愈々敵に接近するに至れば、各兵種は次の如く突撃準備を行ひ、歩兵の突撃を容易ならしむる必要がある。蓋し準備なき無暴の突撃は概ね不成功に陥り易いものであるからである。

イ、歩兵 火力を最高度に發揚し、後方部隊は機を失せず第一線に近く位置する。

ロ、砲兵 彼我の情況特に友軍歩兵の最前線を確めこれに協力し、その敵陣地に突入する直前まで主なる突撃地區に對し猛火を集中する。

ハ、工兵 歩兵と協力して障礙物の除去及び側防機關の破壊制壓に任ずる。

ニ、騎兵 敵の側面及び背後を攻撃する。

ホ、飛行機 爲し得れば地上戦闘に参加する。

【突撃實施】 突撃は第一線の部隊より起り、或は上級指揮官の命令に依るものである。第一線の指揮官好機を見て突撃を行へば、上級指揮官は直ちにその成果を利用するため全線に突撃を命ぜねばならぬ。又各隊は隣接部隊突撃に移りたるときは、自らこれに協同して突撃すべきである。時としては上級指揮官は突撃の實施を統一することがある。

突撃實施

突撃直前の歩砲兵の協同は最も大切である。歩兵は信號その他に依つて突撃開始及び爾後に於ける最前線の位置及び敵情を砲兵に通報する。砲兵は歩兵突撃に移ればその砲火を移動し我が歩兵の行動に合致せしめ、我が歩兵に危害を與ふる敵を猛射し或は敵の増援を遮斷する。時として煙幕射撃を行ひ、敵の觀測指揮射撃等を困難ならしむることがある。

戦車は歩兵突撃開始の時期に於て歩兵と緊密なる連繫の下に戦闘に加入するを通常とする。

【敵陣地内部の攻略】 突撃に依つて敵陣地の第一線を奪取すれば、次で敵陣地を掃蕩するため陣地内部の戦闘が惹起するに至るものであつて、この戦闘は極めて紛糾状態に陥るのが通常である。(これを紛戦と稱へる。)

歩兵は死力を盡して奮闘を續け隣接部隊と協力して猛烈に所命の目標に突進せねばならぬ。若し敵陣地の一部が特に頑強に抵抗するときはその附近の部隊はこれが攻略に努め、その他の部隊はこれに牽制せらるゝことなく、續いてその前面の敵を驅逐して前進するものである。

指揮官は適時後方部隊を前線に使用して敵の逆襲を撃退し、或は突撃の成功したる方面に進めて戦果を擴張し、又は突撃部隊の側面を掩護し戦闘の成果を完うせね

敵陣地内部の
攻略

ばならぬ。

砲兵は逐次敵陣地の要部を猛射し、一部を以て敵砲兵を制壓し、且つ常に敵の逆襲に對する準備を整へ、要すればその陣地を前方に變換する。

工兵は敵陣地内に於ける歩兵の前進を援助し、或は砲兵の迅速なる進出を容易ならしめ、又要すれば奪取せる地區を強固にするため工事を行ふ。

航空隊は彼我の状況を明かにし、特に敵の後方部隊の景況を偵察する。又飛行機は地上戦闘に参加することを勉める。

戦車は友軍歩兵に最も危害を與ふる敵の抵抗就中機關銃の撲滅及び障碍物の排除に勉める。

攻撃功を奏したる場合

【攻撃功を奏したる場合】 高級指揮官は軍隊が所定の攻撃目標の後端に到達が出来るかと判断すれば、追撃を準備し次で追撃の部署を取るのである。此の際歩兵は獨斷追撃に移り、戦車はその進路を開拓することを勉め、砲兵は敵の退却を阻止する如く射撃を行ひ、就中長射程砲は遠く敵後方の交通を遮断する。而して飛行機は射撃又は爆撃を以て敵の退却を潰亂に陥らしめねばならぬ。

突撃頓挫せる場合

【突撃頓挫せる場合】 突撃中途にて頓挫したる場合に於ても、第一線部隊は既に占有せる地點を確保し猛烈なる射撃を行ひ氣勢を恢復して更に攻撃を反覆すべく、砲

兵は此の際猛烈なる射撃を行ひて敵の守兵を壓倒し、或は逆襲し來る敵を阻止し、我が歩兵に突撃再興の動機を與へねばならぬ。

ハ、堅固なる防禦陣地を占領せる敵に對する攻撃

堅固なる陣地の攻撃に方つては、障碍物及び側防機能等を破壊する等特別の顧慮を要するのである。故にこの場合に於ては特にその攻撃の計畫及び實施をして益々組織的ならしめねばならぬ。而して敵陣地愈々堅固となるに従ひ漸次後に於て述べる陣地戦の要領に近き攻撃を行ふのである。

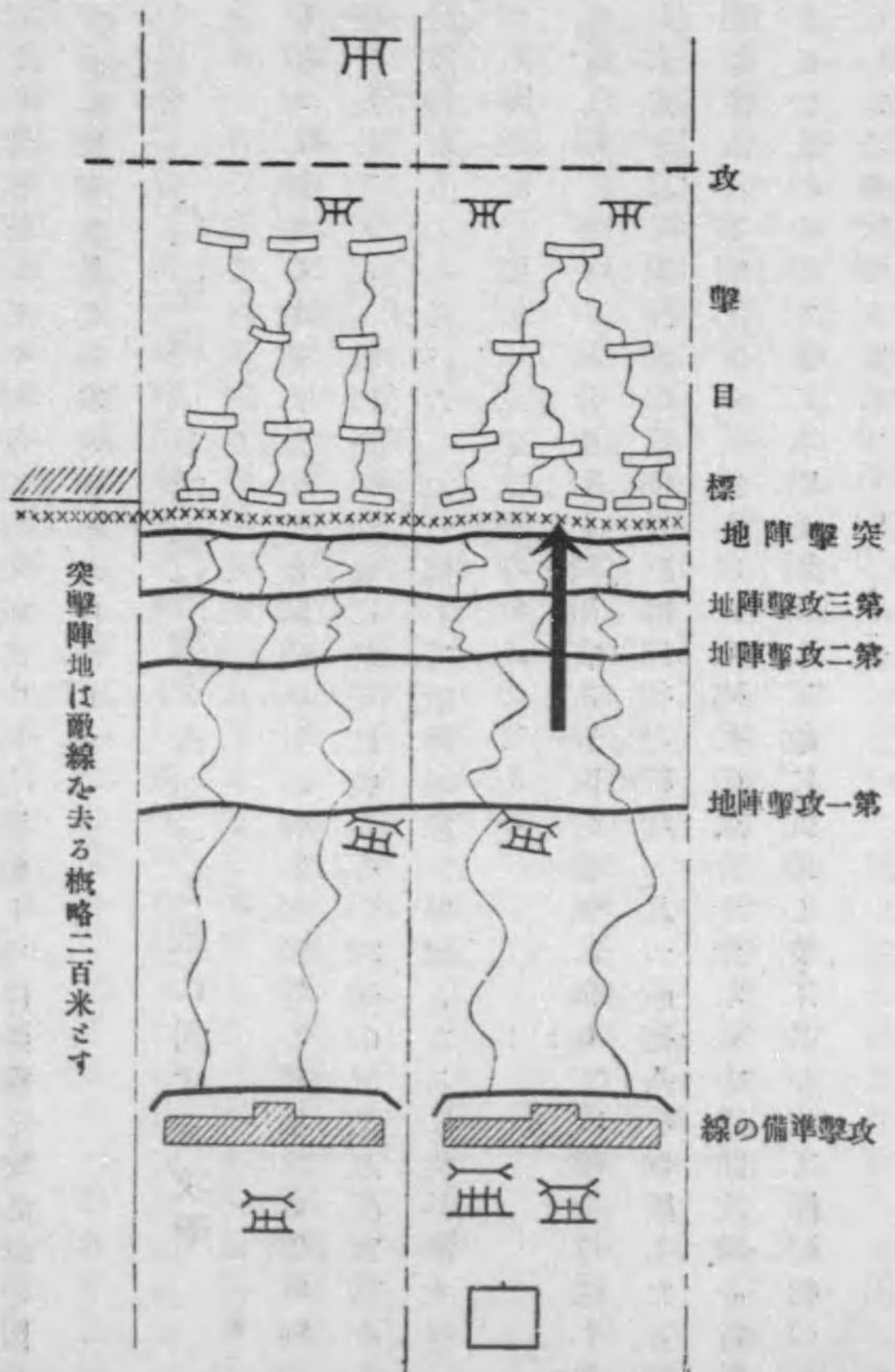
攻撃方法

【攻撃方法】 多くの場合夜暗を利用する展開の要領に依りて攻撃を準備し、先づ砲兵の火力を以て敵陣地の要部及び障碍物を破壊し、且つ敵砲兵を制壓したる後攻撃を開始するを有利とする。併しながら砲兵の火力十分ならず晝間攻撃を行ひ難き場合には、止むを得ず更に夜暗を利用して敵に近迫し、歩工兵を以て障碍物の破壊を補足したる後突撃を實行するのである。

又状況に依つては止むを得ず漸次攻撃陣地を構成して敵に近迫し、突撃を遂行するを要することがあるが、この方法は時日を徒費するの不利があるから成るべくこれを避くるのがよい。

夜暗を利用して敵に近迫する場合に於ける戰闘法

【夜暗を利用して敵に近迫する場合に於ける戰闘法】 夜暗を利用して敵に近迫する場合に於ては、各部隊は晝間より敵情地形の偵察を爲し、連絡設備の補修交通の整理工事に関する準備等爾後の攻撃のため諸準備を整へるのである。而して夜間軍



第百六十五圖

部署の特異の點

隊は豫定の位置に達すれば速に陣地を構成し、砲兵は火力準備を周到にし、要すれば夜暗を利用して適宜砲兵陣地を進めねばならぬ。

【部署の特異の點】 普通の陣地攻撃に比し歩兵は最初から特に縦長區分を大にする必要がある。これ戰闘能力の過早に減衰することを防ぐためである。

逐次攻撃陣地を構成しつゝ、近迫する攻撃要領の一例は第百六十五圖の通である。攻撃陣地は一夜毎に一陣地を進めるのである。

二、遭遇戰

遭遇戰とは行軍中にある彼我の軍隊が衝突して起る戰闘である。

遭遇戰の要訣

【遭遇戰の要訣】 遭遇戰に於ては特に先制を占むることが戰勝の要訣である。即ち敵に先ちて有利の状態に展開し戰闘の初期より戰勢を支配することが肝要である。而して一般に攻撃は包圍に依るを有利とするものであるから遭遇戰に於ても敵を包圍することを勉めねばならぬ。

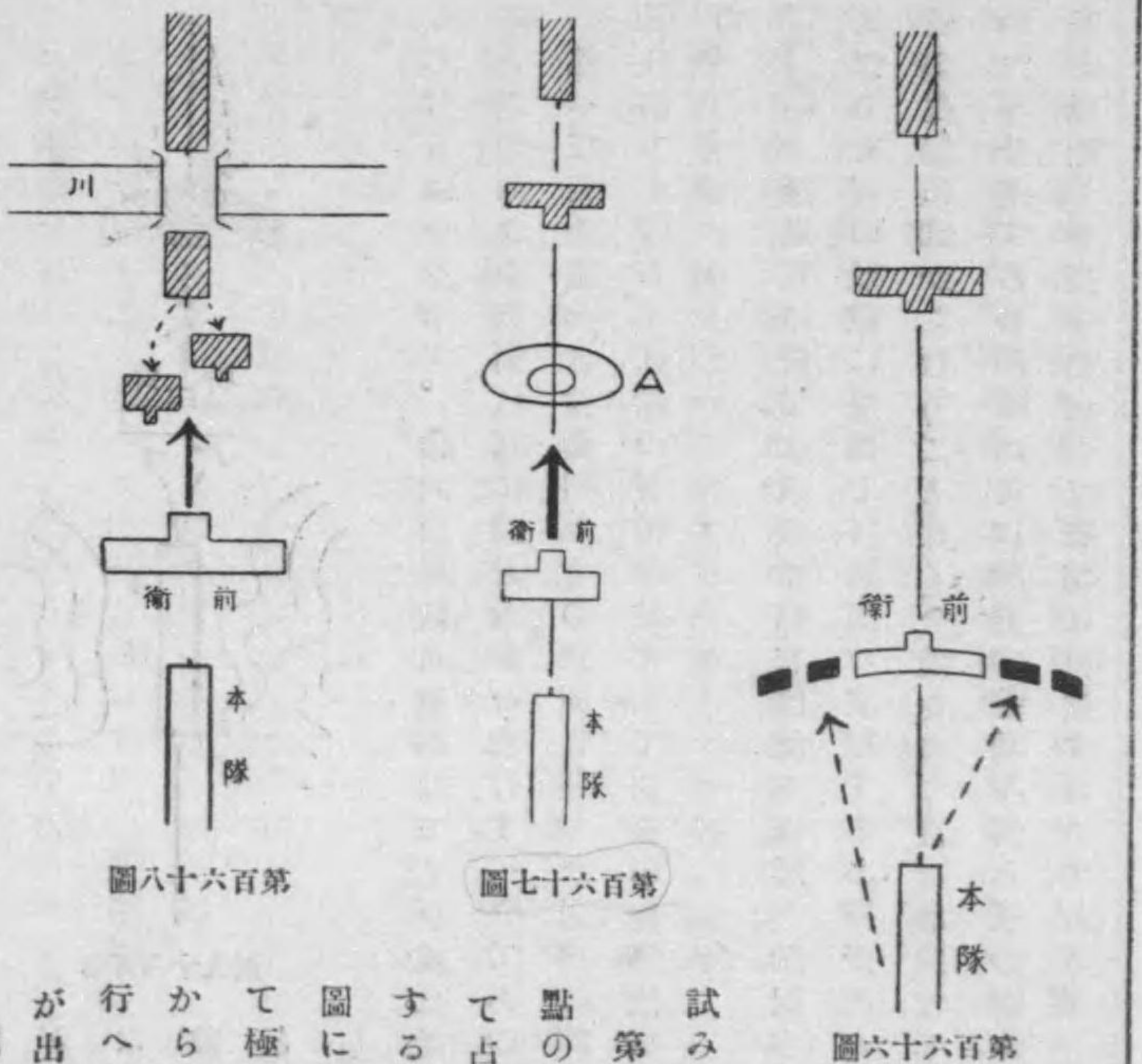
總べて遭遇戰に於ては狀況明確ならざるを通常とし、特に空中偵察を缺ぐ場合に於ては敵に接觸して始めて情況を知り得るに過ぎざることがあるから、地形を綿密に偵察し或は刻々變化する敵情に関する多くの報告を集め、始めて處置せんとする

が如きは概ね失敗に陥るものである。
 高級指揮官は速に戰鬪に關する決心を定めるため、勉めて前方に位置する。而して自己の觀察と既に得たる諸報告とに基き、一般の状況を判斷し斷乎たる決心を以て速に決戦を求めんとする方面を決定し、その企圖を部下隊長特に先づ前衛司令官に指示して動作の憑據を與へ、且つ本隊の各部をして成るべく速に戰場に到着する如く處置するを必要とする。

遭遇戰に於ては各級指揮官の獨斷專行を要する場合が殊に多い。故に各級指揮官は百方手段を盡して上級指揮官の意圖を満足する如く動作せねばならぬ。

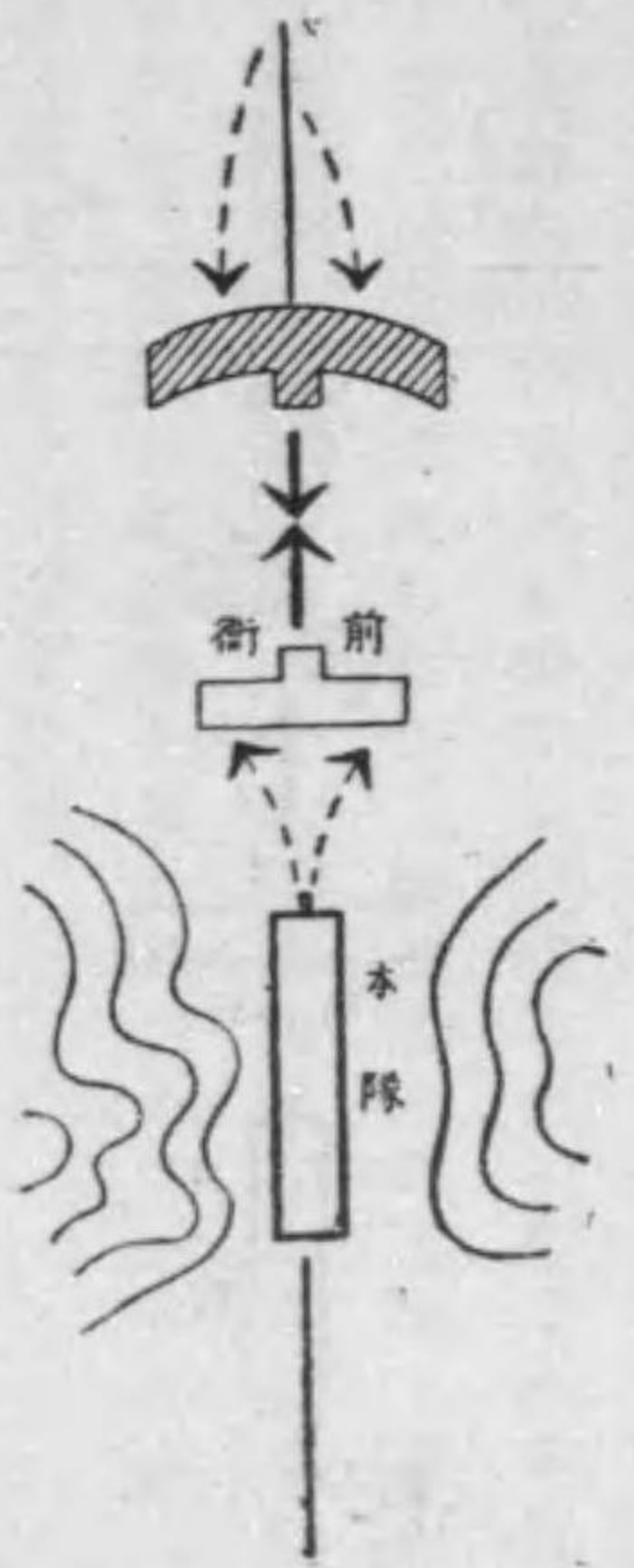
【前衛の動作】 遭遇戰に於ては前衛の動作の適否は爾後の戰鬪に重大なる關係を有するものである。前衛司令官は縱隊指揮官の指示に従ひ、又要すれば獨斷を以て前衛を部署し敵情を搜索し本隊の展開を掩護し、且敵の展開を妨害せねばならぬ。而して戰鬪の支撐たる要地はたとひ戰鬪を惹起し又正面過廣となるもこれを占領することに躊躇してはならぬ。この點が特に陣地攻撃の場合とその趣を異にする。その他砲兵のため情報を蒐集し、且つ特に觀測に有利なる地點を占領する必要がある。第六十六圖は前衛が陣地を占領して本隊の展開を掩護する普通の場合作を示し、第六十七圖乃至第六十九圖は前衛が戰鬪を惹起し、本隊は逐次前衛の

前衛の動作



戰鬪に加入することを示すものである。(これを前衛の獨力攻撃と稱へる) 尙前衛の獨力攻撃に關し若干の解説を試みよう。

第六十七圖は彼我の遭遇點の要點A高地を敵に先んじて占領する爲前衛が獨力攻撃する場合を示す。第六十八圖に於ては敵が渡河中であつて極めて不利なる状態にあるから前衛が獨力を以て攻撃を行へば敵を各個に撃破する事が出来るのである。次に第六十九圖に於ては



圖九十六百第

隘路前又は隘路中に於て敵と遭遇するに方り我が不利なる態勢にあるから、この際前衛が隘路前に停止することなく獨力を以て敵を攻撃し、本隊の隘路進出を容易ならしむる場合を示す。尙此の外敵兵微弱なるとき或は敵兵退却の状況を確認したるときのみ前衛は速に獨力攻撃を敢行すべきである。

總べて前衛砲兵は前衛司令官の意圖に基づき迅速に陣地を占領し、前衛の要地占領に協力し若しくは敵の展開を妨害して前衛の任務達成を容易ならしめねばならぬ。

【展開】 遭遇戦に於ては高級指揮官は能く地形と状況とに應じ各部隊をして敵に先だち有利の状態に展開して戦局を支配する必要がある。故に軍隊をして展開準備の位置に就かしむることなく、分進を命じ直に展開せしむるを通常とする。展開のため分進する各部隊は各自所要の警戒を爲し、且つ漸次展開に便なる如くその縦長を短縮し歩度を伸ばして戦場に前進するのである。

展開

本隊の展開は全隊を統一して戦闘に參與せしむる場合(これを統一戦闘加入と稱へる。)と前衛が戦闘中なるとき本隊は逐次その戦闘に加入する場合(これを逐次戦闘加入と稱へる。)との二種がある。例を擧げて述べよう。

(一) 統一戦闘加入。

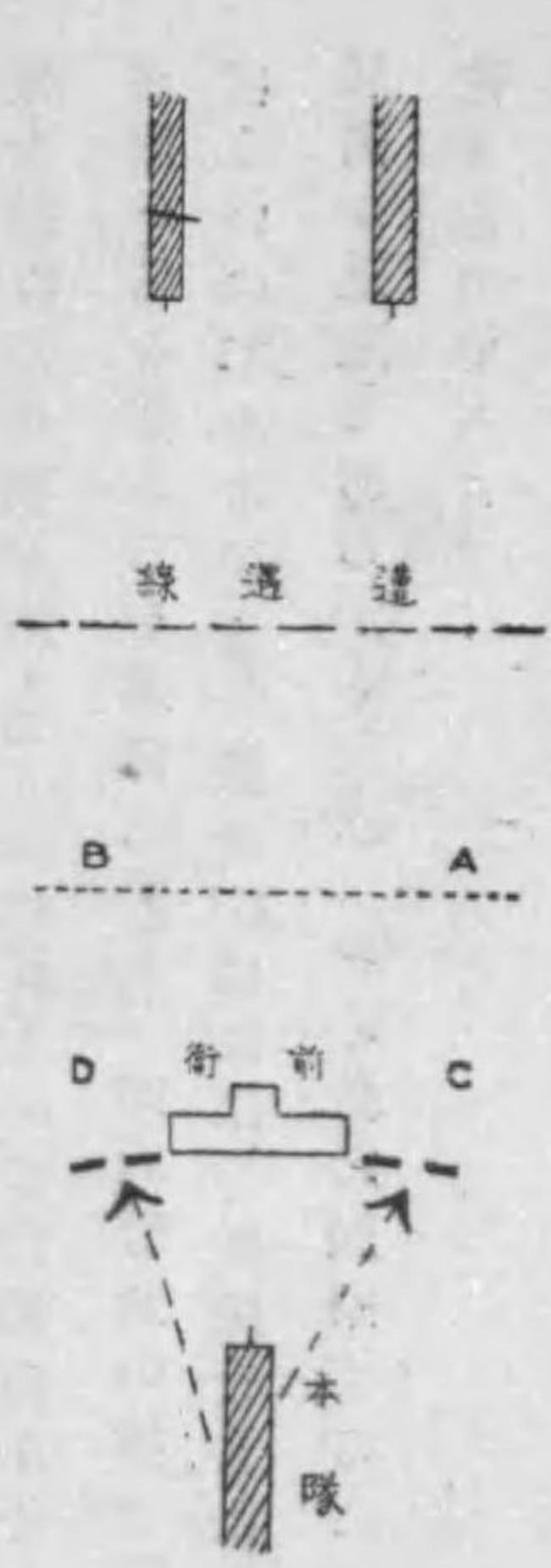
1. 普通の場合 遭遇線の後方にて前衛を停止せしめて本隊の展開を掩護せしめ、本隊は前衛の線又はその附近に展開して一齊に前進に移る方法であつて、普通の場合に多く用ひられる。

(第七十圖)



圖七十百第

敵兵若し我に先だちて戦闘準備を完了する虞ある場合 この場合には敵の包圍を豫防し且つ終始優勢なる敵と對戦する不利を免れんがため十分なる兵力を展開する迄眞面目の戦

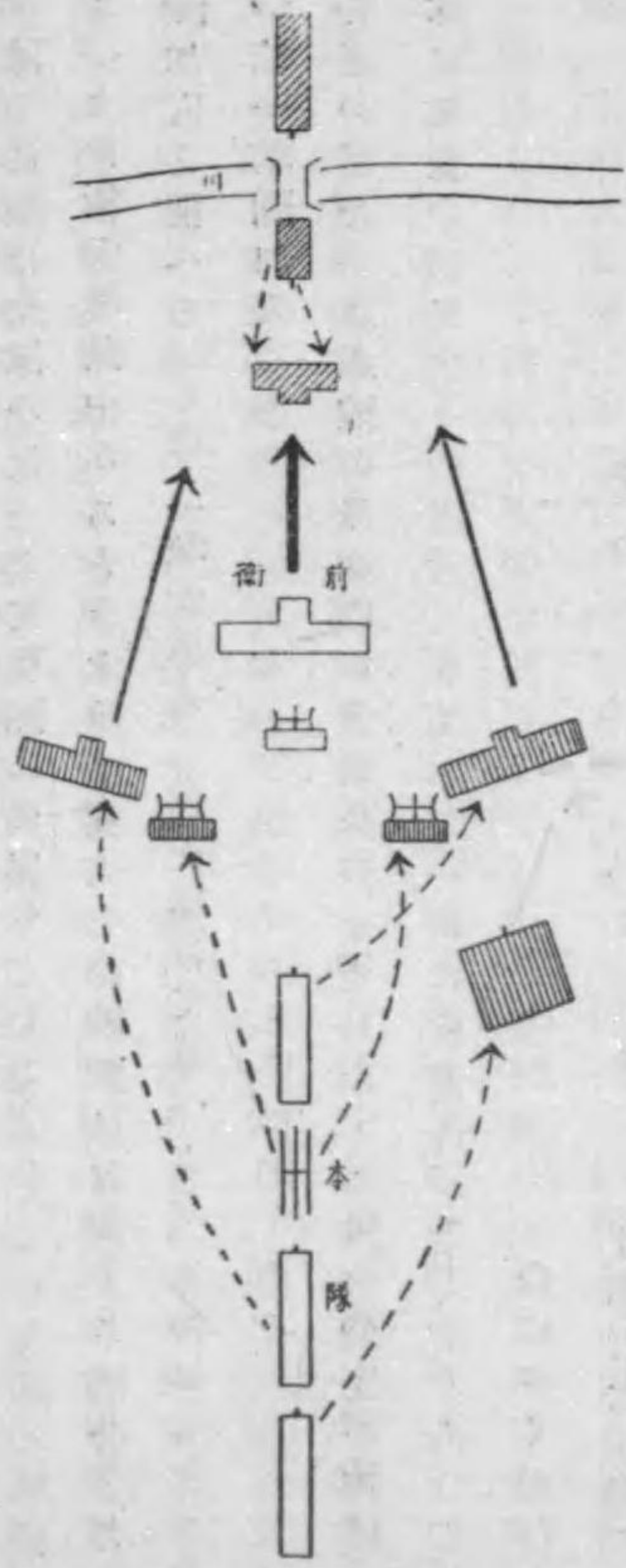


圖七十一百第

闘を避ける必要がある。これがためには第七十一圖の如く適宜敵と離隔して展開準備を整ふるを適當とする。即ち普通の場合に於てはA Bの線に展開すれば良いのであるが、この場合には我は一縦隊なるに反し、敵は二縦隊にて我よりも展開が迅速であるから我は Bの線に展開することなく、後退してC Dの線に展開するのである。

(二) 逐次戦闘加入

「前衛の動作」の部に於て述べたるが如く、前衛が獨力戦闘を惹起したる場合には本隊は前衛の獲得したる利益を増大するか、或はこれを確保するため逐次戦闘に

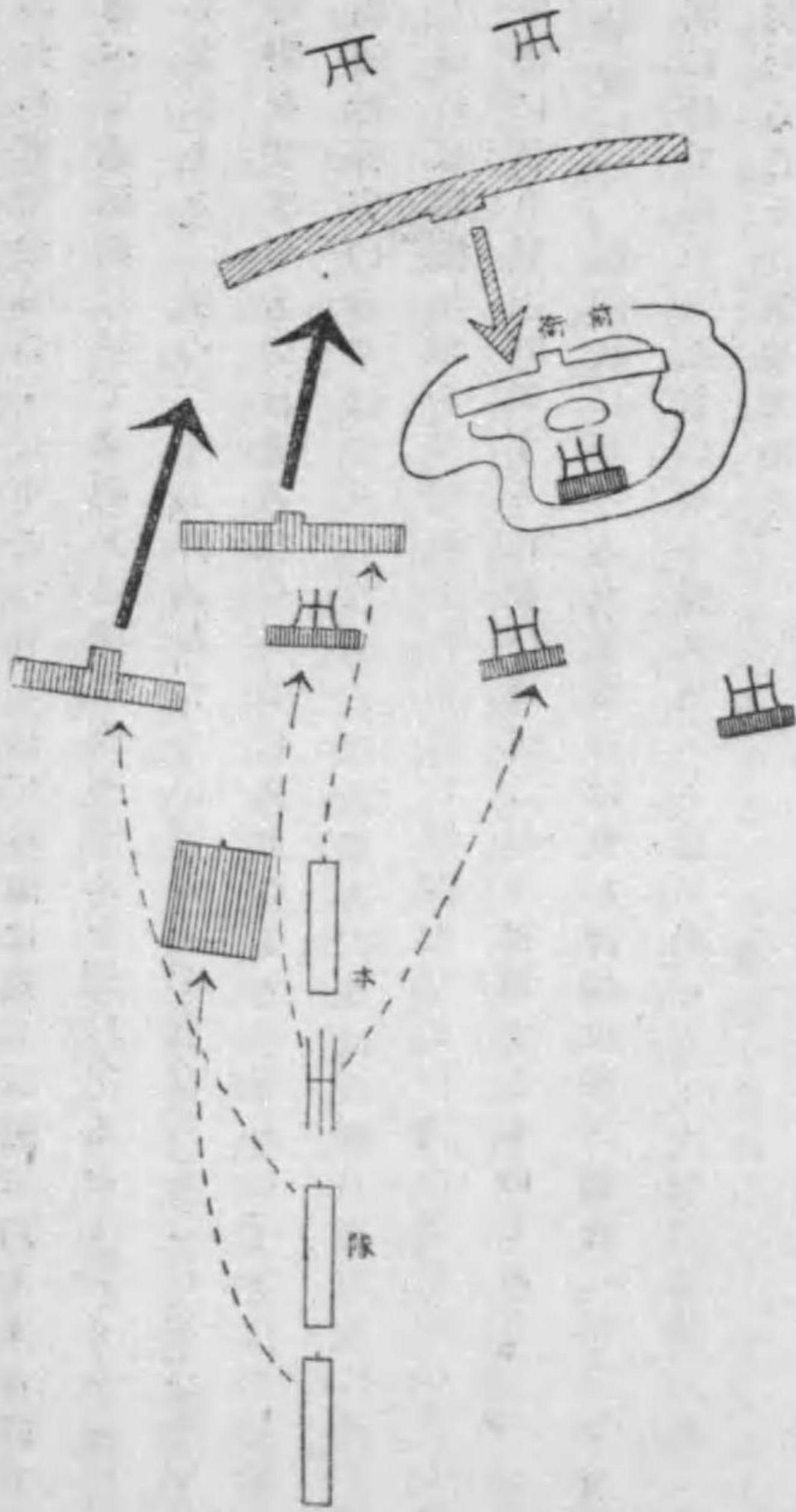


圖二十七百第

加入する必要がある。

イ、前衛の獲得したる利益を増大する場合 第七十二圖に於て前衛は敵の不利なる態勢に乗するため、獨力を以て攻撃を實施中である。本隊はこの利益を増大すべく到着する部隊毎に逐次前衛の戦闘に加入するのである。

ロ、前衛の獲得したる利益を確保する場合 第七十三圖に於て前衛は要點を占領してゐる。本隊が躊躇すれば前衛は孤立に陥り、且つ折角占領したる要點を敵



圖三十七百第

のため奪取せらるゝに至るべきを以て本隊は逐次戦闘に加入するのである。總べて遭遇戦に於ては砲兵は速に友軍歩兵を援助するを主眼として行動を律する必要がある。従つてその陣地はたとひ地形上有利なるも、これが占領のため多くの時間を要するものは遭遇戦の特質に適せざるものである。

高級指揮官の命令は歩兵のためには攻撃方向或は攻撃目標状況に應じ展開區域爲し得れば戦闘地域を、又砲兵のためには戦闘初期の任務を概括的に示し、爾後戦況の推移に依り、状況判明するに従ひ逐次これを補綴するものである。

【攻撃實行】 展開後に於ける攻撃實行は概ね陣地攻撃の場合に準ずるも、特に戦闘初期に於て得たる先制の利を確保増大し、常に敵をして受動の姿勢に陥らしむる如く努むることが緊要である。

ホ、夜間攻撃

【要旨】 夜間は兵力行動及び企圖を秘し、又損害を避けて敵に接近し得べき利がある。併しながら通視が困難であり運動も不便であるから、軍隊の協同動作及び指揮の統一が困難でやゝもすれば錯誤を生じ易きを以て兵力を分散することを避けねばならぬ。夜間に於て勝敗の決を與ふるものは兵數や兵器でなく、専ら軍隊の精練

攻撃實行

要旨

なることである。故に夜戦に熟練することは極めて大切である。

大部隊に在つては夜暗を利用して敵に接近し或は晝間に於て得たる成果を完全ならしむるため夜間攻撃を續行し、或は翌日の攻撃を容易ならしむるため夜間一部を以て敵の要點を攻撃せしむることがある。又時として大部隊を以て攻撃を行ふこともある。

小部隊に在つては右の外屢々夜暗に乗じて敵を急襲することがある。尙時として敵を欺騙し、或は我が行動等を秘匿するため攻撃を實行することがある。

夜間の攻撃は主として歩兵の任ずる所であるが、状況に依り砲兵をしてこれに協力せしむることがある。

【攻撃部署】 夜間は巧妙複雑なる部署を避けねばならぬ。これはやゝもすれば錯誤を生じ失敗を招くの因を爲す虞があるからである。又軍隊は晝間に於て地形に通曉し夜間の運動に錯誤を生ぜざるやう勉めねばならぬ。

【攻撃目標】 夜間の攻撃目標は主として状況特に敵陣地の状態並に攻撃の目的に應じ選定すべきものであるが、縦深ある敵陣地を攻撃する場合に於ては通常晝間に比し限定せらるゝものである。又運動容易なる地區をも選定することが必要である。大部隊の攻撃に於ては各部隊に對し特に明瞭に各個の攻撃目標を指定せねば

攻撃部署

攻撃目標

攻撃計畫及攻撃命令

ならぬ。

【攻撃計畫及び攻撃命令】 指揮官は精細なる計畫を定め、成るべく晝間に於て命令を下し、各隊に準備を爲さしめる。その命令には次の事項を示すものである。

1. 第一線各部隊の攻撃目標。
2. 前進地域。
3. 相互の連絡及び識別法。
4. 攻撃成功後又は萬一失敗せる場合の處置。
5. 遠距離又は運動困難なる地形を行動する場合に在つては部隊の行動を規正するため中間到着地點及び時刻を示す。
6. 砲兵をして攻撃に協力せしむる場合には砲兵に任務を示す。

攻撃實行

【攻撃實行】 歩兵は準備を周到にし不意に敵に肉薄し白兵を揮ひ一舉に決戦を求むるもので、夜間は射撃を行はざるを本則とする。これ夜間の射撃は效果少く却つて我が企圖を暴露し行進を遲滞し突撃の氣勢を殺ぐに至るからである。

歩兵は敵に接近すれば決戦に必要な兵力を第一線に備へ、各隊は勉めて集團し豫備隊は成るべく第一線に接近して前進する。

夜間の突撃は至近の距離からこれを始め、各級指揮官は爲し得る限り部下を掌握

し猛烈に目標とする敵陣地に突入するのである。突撃功を奏せば敵陣地附近に於て迅速に秩序を恢復し警備を嚴にし、要すれば作業を爲して敵の恢復攻撃に備へ、且つ敵との接觸を確保し、爾後の行動を準備せねばならぬ。

時としては夜間火器の威力を利用して攻撃を強行する場合がある。この場合には砲兵は通常攻略せんとする敵陣地の守兵の制壓並に交通遮断を行ひ、要すれば敵砲兵の制壓に任じ、又は敵の逆襲を阻止すべき要點に對し適時射撃を集中すべきものである。

夜間砲兵の射撃は我が企圖を暴露し、且つや、もすれば錯誤を生じ友軍に危害を與ふる虞あれば、晝間より十分準備を整へ、且つ歩砲兵の協調を綿密周到に行はねばならぬ。

(二) 防禦

防禦とは地形を利用して火力を發揚し敵に損害を與ふる戦法であつて、理論としては最も良好の様であるが、や、もすれば受動に陥り我が動作の自由を失ふに至り遂には撃退せらるゝ、悲運に陥るを以て兵力極めて微弱なるときの如き眞に止むを得ざる場合の外これを採用すべきものでない。併しながら諸種の狀況上防禦を行

防禦の種類

ふときは能く地形を利用し、工事の施設諸準備の整頓等物質的利益に依り兵力の劣勢を補ひ、且つ火力及び逆襲を併用して敵の攻撃威力を破摧せねばならぬ。

【防禦の種類】

イ、決戦防禦 地形を利用して敵に損害を與へ、我と兵力の均衡を得たる後攻撃を敢行する戦闘法である。その攻勢移轉は豫めこれを計畫して實施すべきであるが、苟くも時機を得たならば、各兵種の適切なる協同に依つてこれを行ひ敵を殲滅するものである。この戦法は理論としては有利なる戦法であるが、實際に於ては攻勢の時機の看破が困難であつて失敗に陥り易い。

ロ、單に一地を固守する防禦 任務上單に一地を固守する場合に取るべき防禦であつて、成るべく敵の攻撃を阻害する地形・地物を利用して障碍を設け四方に對し堅固に陣地を施しこれを死守するものであるが、苟くも好機あれば斷然逆襲を行つて敵を殲滅するの有利なるは當然である。

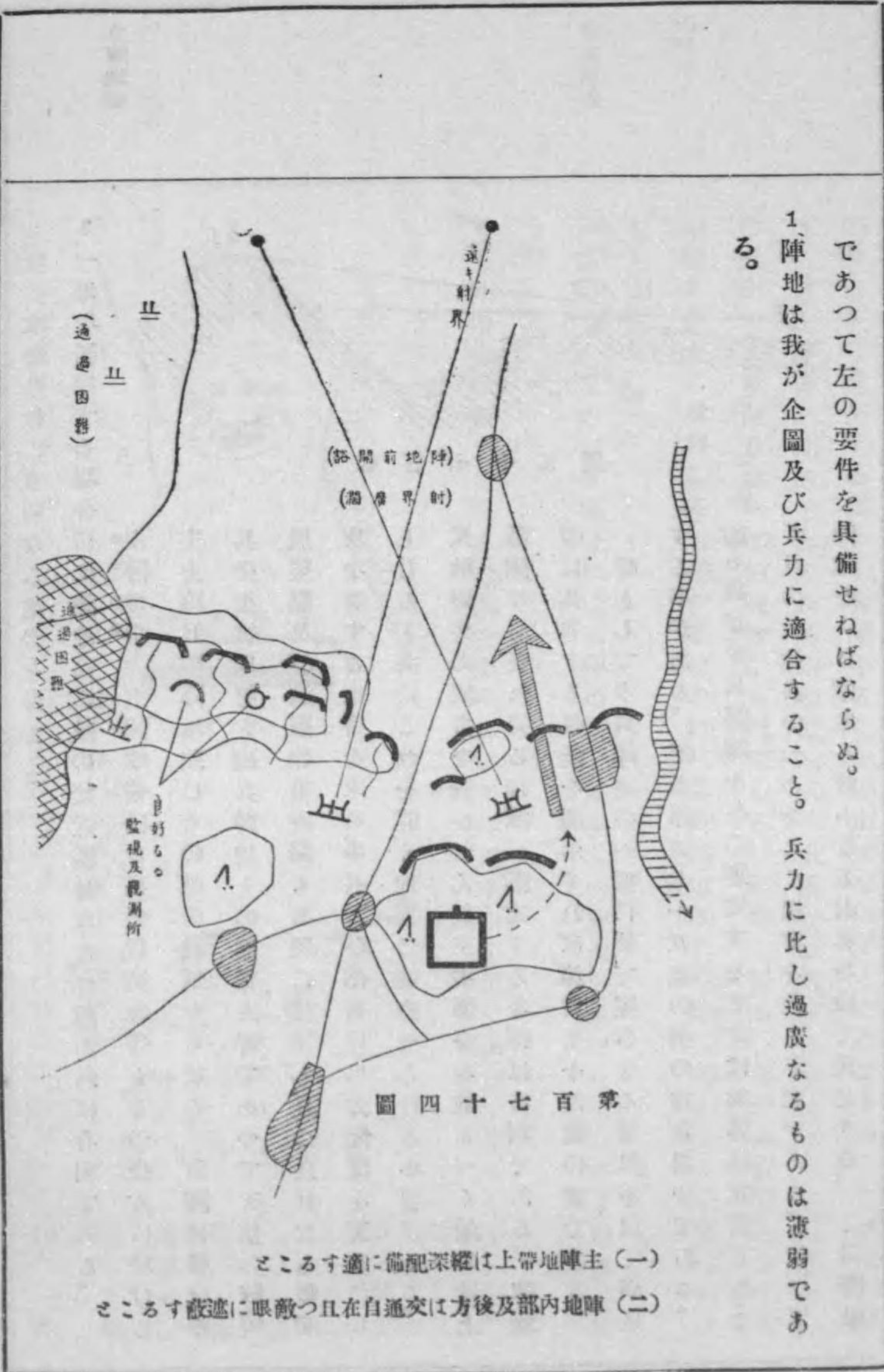
【防禦陣地】 陣地は前後に重疊して數線に設けることがあつても、その内主陣地帯を定めこれを最も堅固にし、該地帯の前方に於て敵の攻撃を破摧するを本旨とせねばならぬ。

陣地概略の位置は任務地形及び敵情等により最高級指揮官これを選定するもの

防禦陣地

であつて左の要件を具備せねばならぬ。

1. 陣地は我が企圖及び兵力に適合すること。兵力に比し過廣なるものは薄弱である。



主陣地上は縱深に備え適る所

(一) 主陣地上は縱深に備え適る所
(二) 陣地内及び後方には自通交し且敵に遮る所

装ひ敵をして本陣地と誤認せしめる必要がある。即ち第七十七圖に於てC及びAの前方は通過困難である。而してACが本陣地でABは前進陣地であるが恰も主陣地の如くに設備する。若し敵にしてABを主陣地と信じ其の弱點であるB方向に主攻撃を行へば地形上不利なる方面に展開するに至るのである。

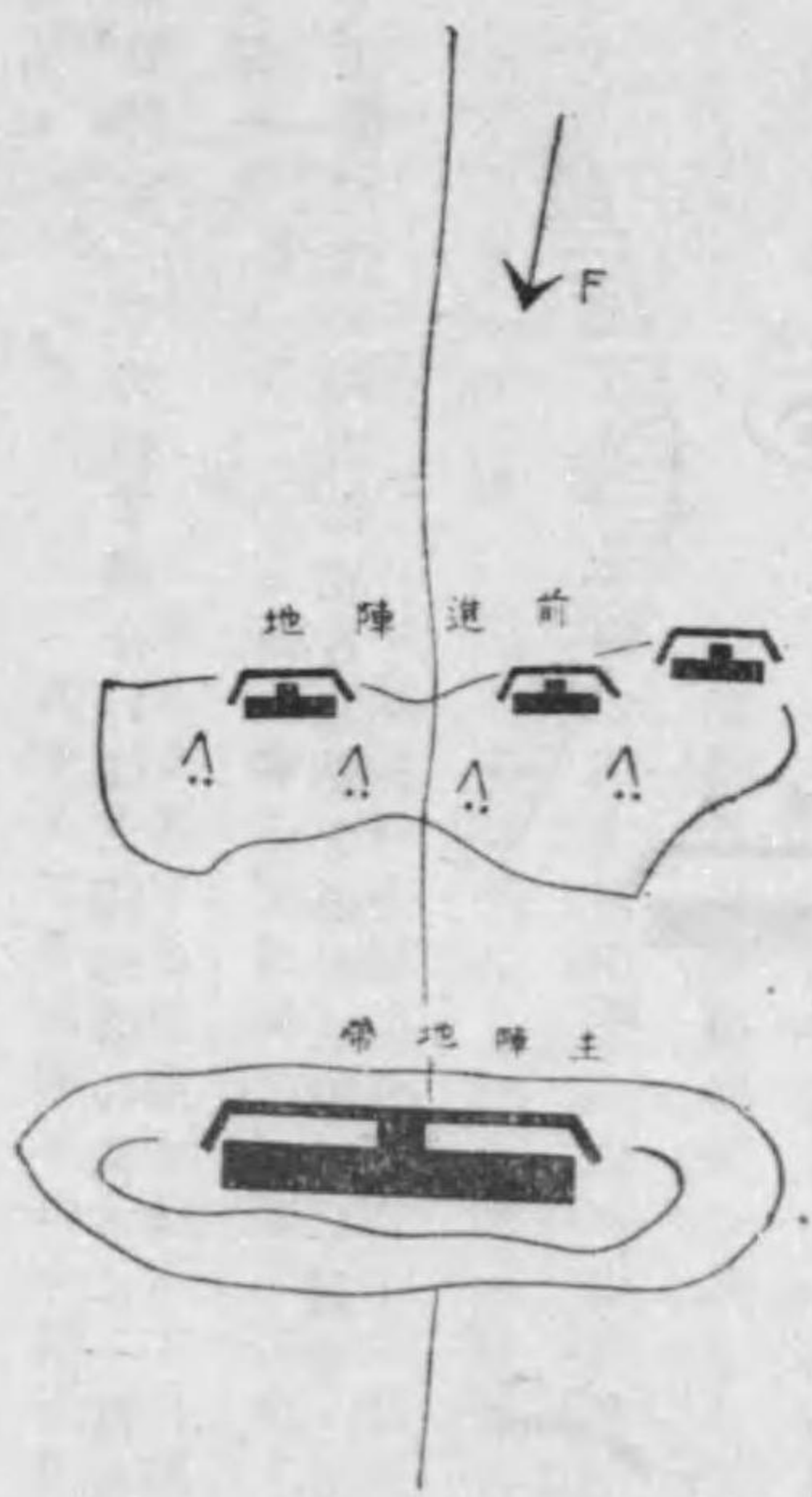


圖 八 十 七 百 第



圖 九 十 七 百 第

3. 敵が我が陣地に接近する動作を困難ならしむる場合。(第七十八圖)
 4. 我が陣地占領を掩護する場合。(第七十九圖) 敵は近く現出する虞あり、主陣地占領部隊は陣地占領中である。その動作を掩護し、且つ敵の偵察を妨害するため前

進陣地を占領する。

前進陣地に用ふる兵力は目的及び地形等により差異あるも、必要の最少限とし、その戦闘指揮は極めて困難であるから、編組の決定及び指揮官の選定には慎重なる考慮を必要とする。前進陣地と主陣地との距離は状況に依つて定まるものであるが過度に遠ければ敵の包圍攻撃を受け各個に撃破せらるゝ虞がある。之に反し過度に近ければやゝもすれば敏活なる敵は我に尾して主陣地に進入する不利がある。

前進陣地占領部隊の陣地撤退時機を適切ならしむることは最も困難である。過早に退却すればその目的を達せず、又十分に目的を達せんとせば時機を失して全滅に陥るの虞がある。

側面陣地

側面陣地 敵の前進路に平行或は斜行してその側方に位置する陣地を特に側面陣地と稱へる。側面陣地に具備すべき性能は次の通である。

1. 敵の行進方向に對する陣地の側面は跋渉の出来ない障碍物を以て庇護せらるゝ、か若しくは堅固なる支撐點を有し決してこの側面から敵の攻撃を受け、又は脅威せられないこと。
2. 敵の前進路は成るべく我が砲兵の有効射距離内に在ること。
3. 攻勢移轉の容易なること。

4. 我が退路の安全なること。
以上の諸點を稽へ側面陣地の一例を圖示すれば左の通である。

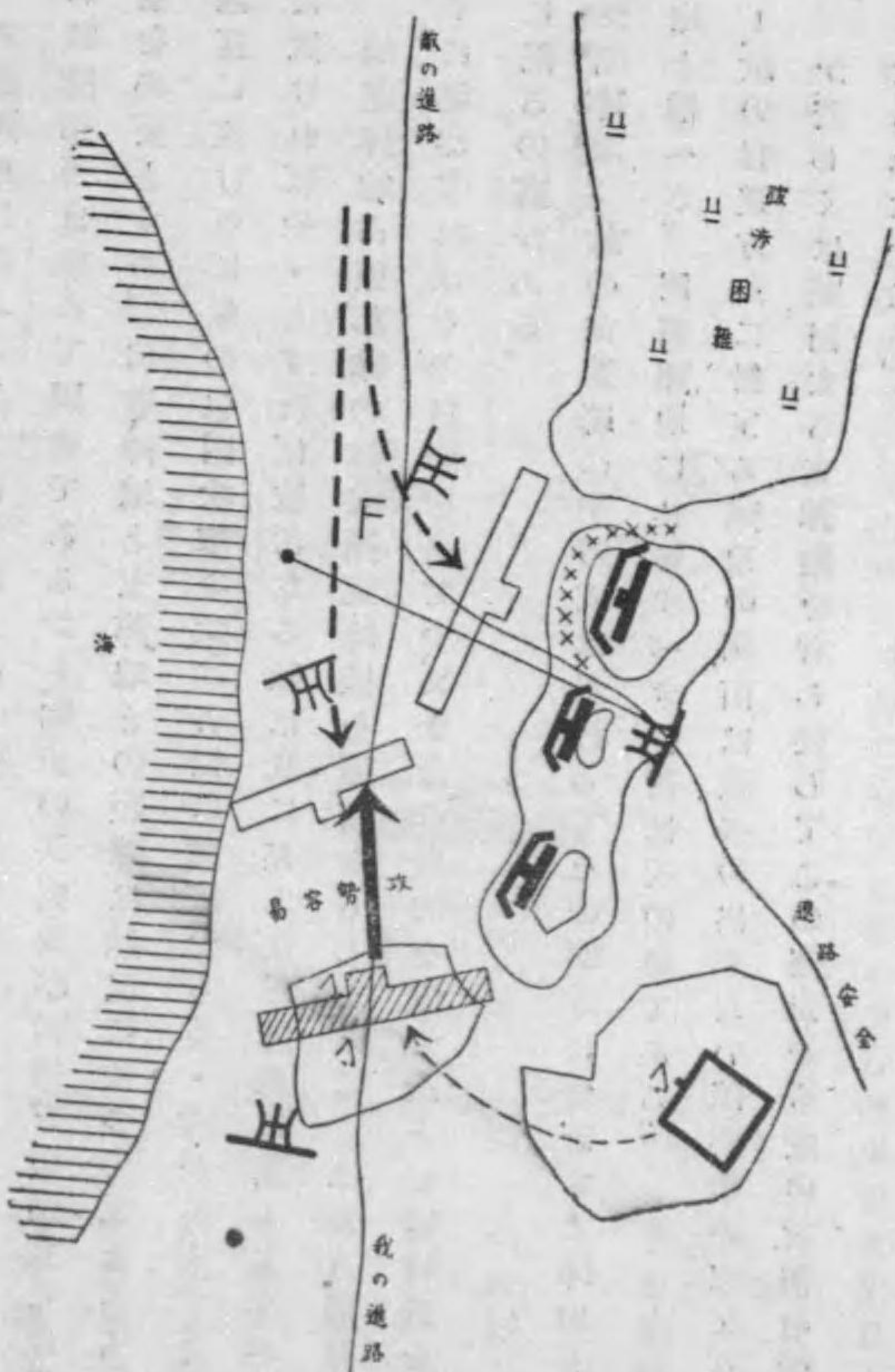
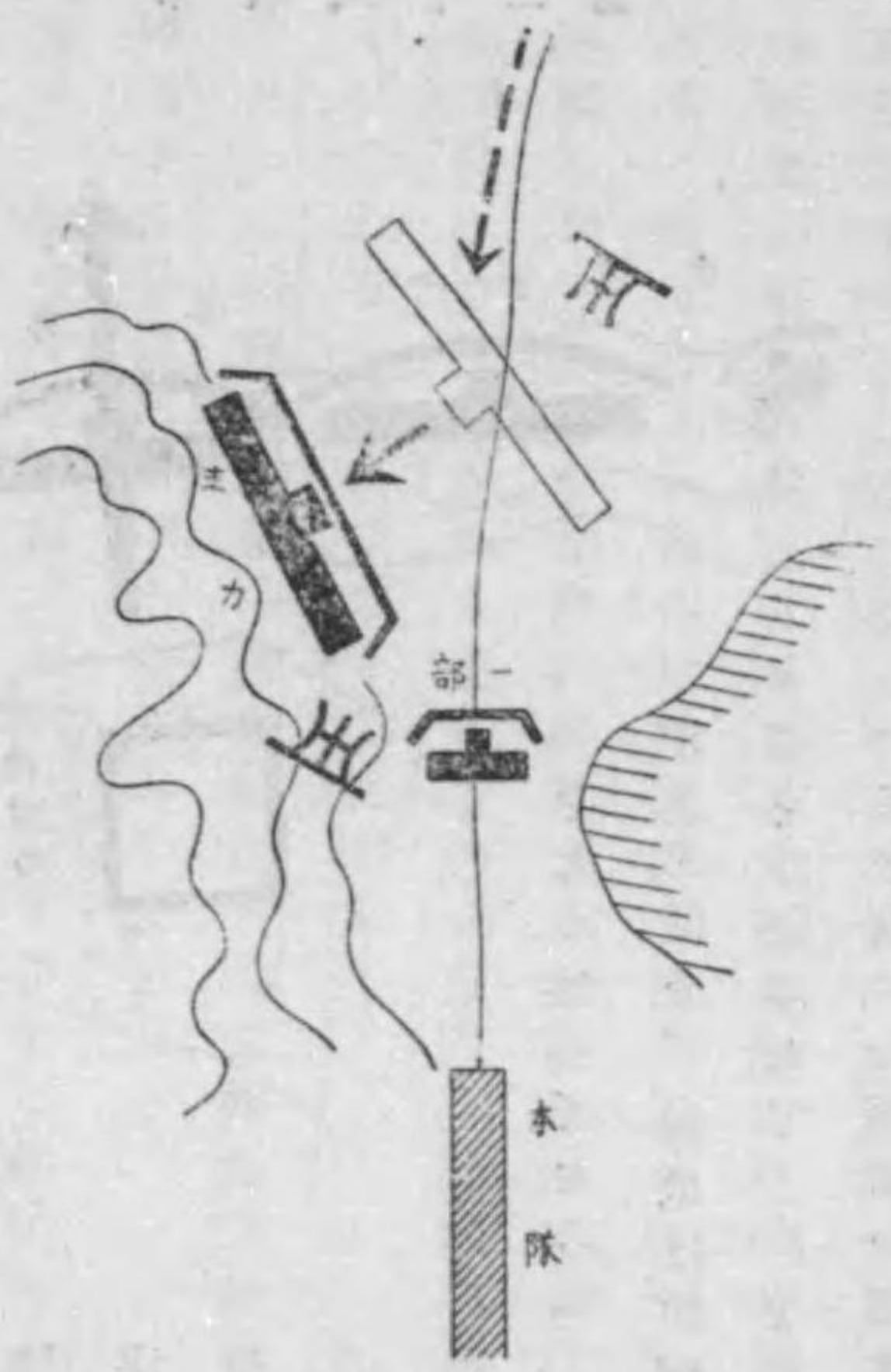


圖 十 八 百 第

側面陣地は決戰の目的を有する防禦に用ふるばかりでなく、地形有利なれば第百



八十一圖の如く本隊の
隘路進出を掩護する等
時間の餘裕を得んとす
る防禦のため利用せら
ることがある。
側面陣地の利害
1. 攻者若し防者を顧み
ずその陣地前を通過
することは危険であ
るから、勢ひ本來の意思に反するも防者を攻撃せねばならぬ。
2. 攻者は退路を變換して防者の側面に向はねばならぬ。これ防者の側面は跋渉不
可能であるからである。
3. 攻者は不便なる側面展開を爲さねばならぬ。時としては防者の有効射撃下にて
展開することゝなる。攻者その危険を慮り慎重に行動し準備を行ふときは自ら
時日を徒費するに至る。
4. 防者も通常その後方連絡線の變換を必要とし、一旦敗るゝときは甚だ危険である。

陣地占領

【陣地占領】

(一)陣地偵察及び防禦計畫

高級指揮官は軍隊を爾後の陣地占領に便なる如く集結し（敵の空中偵察に注意す。）自ら陣地の偵察を爲して防禦の方針等を立案するの外砲工兵指揮官その他の機關をして偵察を行はしめ、且つ築城材料の準備を爲すものである。

防禦計畫の要素は次に述べる事項中情況に最も適合せるものを包含すべきものである。

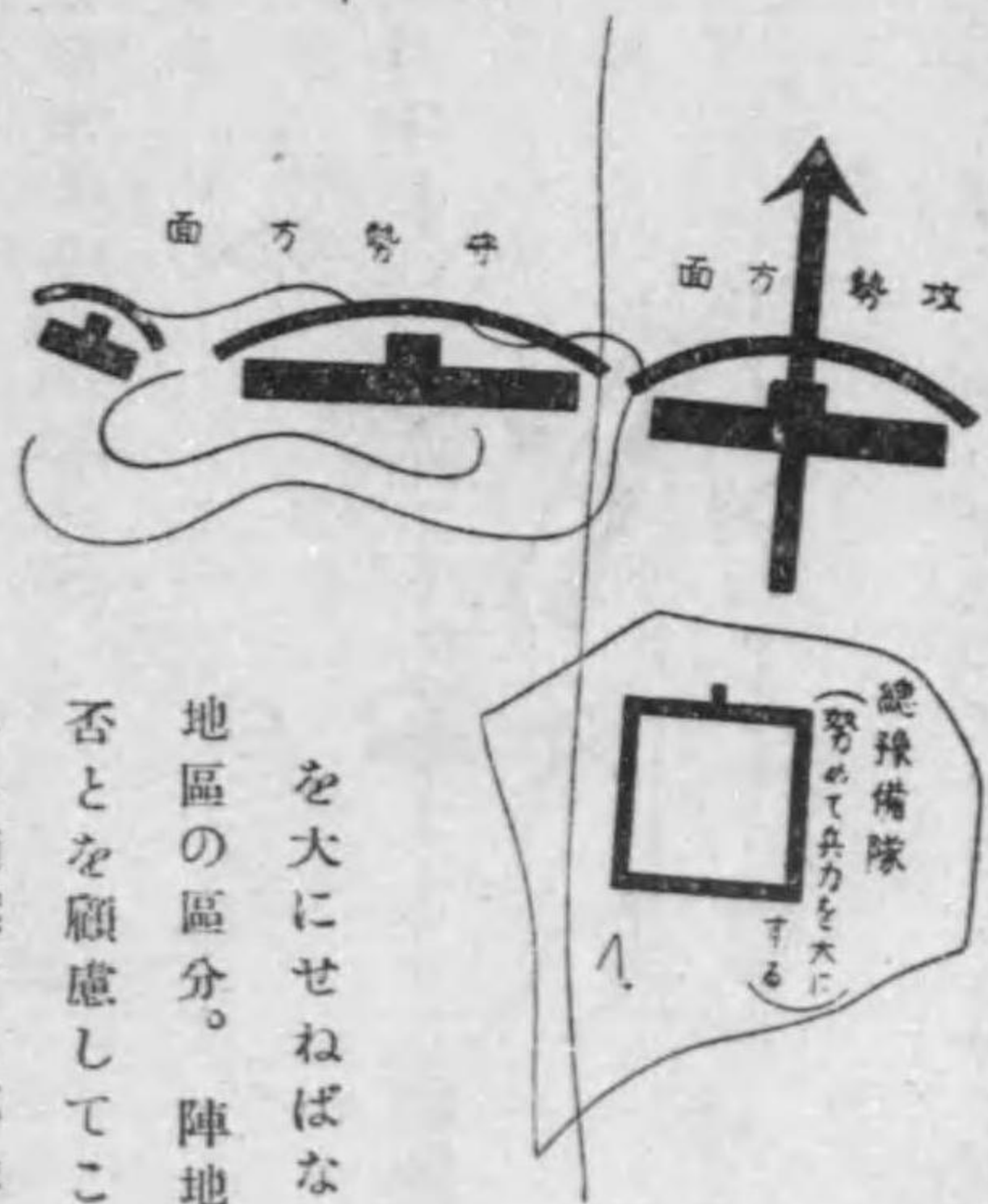
陣地占領の爲の兵力の部署。

決戦防禦に於ては攻勢方面と守勢方面とに分ち、陣地の選定工事の築設等により努めて守勢方面の兵力を節約し、攻勢方面の兵力

を大にせねばならぬ。（第百八十二圖）

地區の區分。陣地は防禦の方針に基き地形と指揮の便否とを顧慮してこれを若干の地區に分ち、各地區にはこれに適應する部隊を配置する。

第百八十二圖



火力配置の要領

地區の數及びこれに備ふべき兵力は狀況によりて同じくない。例へば攻勢方面又は射界不良なる地區は兵力を大にし、陣地内の交通困難なるときは地區の數を増加する。時として一部の砲兵及び所要の工兵を地區に配屬することがある。

防禦に於て火力を如何に準備するかは極めて大切なことである。而して陣地には間隙なき火網を作り更にその前方及び陣地内部にも射撃し得る設備が必要である。これを歩砲兵に分ちて説明する。

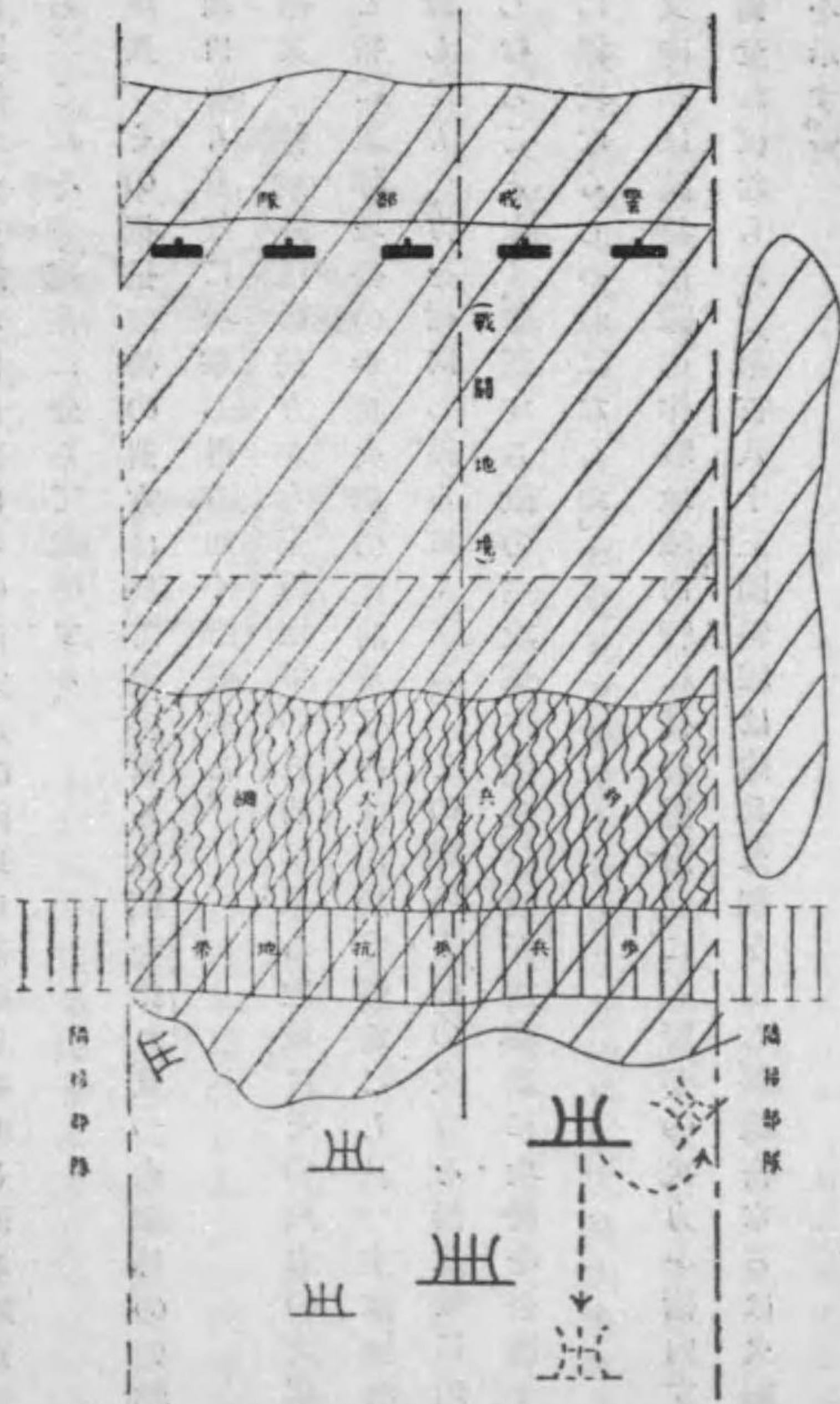
1. 歩兵 その抵抗地帯の前方に於て濃密なる火網を作り、且つ火網外の要點及び陣地内をも有効に射撃し得る如く準備する。

2. 砲兵 警戒陣地の前方から主陣地帯の直前に亘る地域にその火力の大部を指向し、特に主陣地帯の歩兵火網の直前及び内部に於て濃密にし、且つ主陣地帯内部に對しても火力を指向し得る如くする。この際各方面の火力を無意味に均一ならしむることなく、豫想する敵の主攻撃方面及び我が逆襲並に攻勢を企圖する方面に濃密ならしめねばならぬ。

又砲兵は隣接部隊の作戰地域内特に接合點附近にも所要の火力を指向する如く準備せねばならぬ。（第百八十三圖斜線は砲兵火網を示し、斜線密なるは火網の密なるを示す。）

砲兵の配置

砲兵は火力配置に適應する如く陣地を定むべきものである。一の陣地にて遠距離を射撃し同時に亦主陣地帯の直前までを射撃することは困難である。故に砲兵は適宜縦深に配置し、要すればその位置を移動する設備を必要とする。又時として主陣地帯の前方に一部の砲兵を配置し、敵の接近及び攻撃準備を妨害することがあ



第百八十三圖

總豫備隊の位置

防禦命令

る。(第百八十三圖参照)

總豫備隊の位置は我が企圖及びその兵力戦況並に地形を顧慮して定めるものであるが、攻勢を企圖するときは陣地の翼側に置くのが適當である。これ攻勢に方り敵を包圍するに便であるからである。

高級指揮官は防禦計畫を策定すれば防禦に關する命令を下し、各部隊をして主陣地を占領せしむるのである。防禦命令には概ね次の事項を示す。

- イ、主陣地の前線
- ロ、戦闘地境
- ハ、陣地の境界
- ニ、前地の區分
- ホ、搜索及び警戒の擔任
- ヘ、側防の關係

この際各地區毎に出すべき警戒部隊概略の位置要すればその兵力を示し、所要に應じこれが動作を統一する。砲兵には戦闘經過に伴ふ火力運用の準備(主要なる各時期に於ける所望の方面若しくは地點に配置すべき火力及びその目的要すればこれが實行のため歩兵との連繫に關する事項)を示し、その他陣地、使用彈藥等を命

地區占領部隊
の陣地占領

令する。

(二) 地區占領部隊の陣地占領。

イ、地區指揮官はその部隊を部署して陣地の編成を完備し且つ擔任地域の搜索及び警戒の處置を講ずる。

ロ、地區占領部隊は通常第百八十四圖の如く區分する。

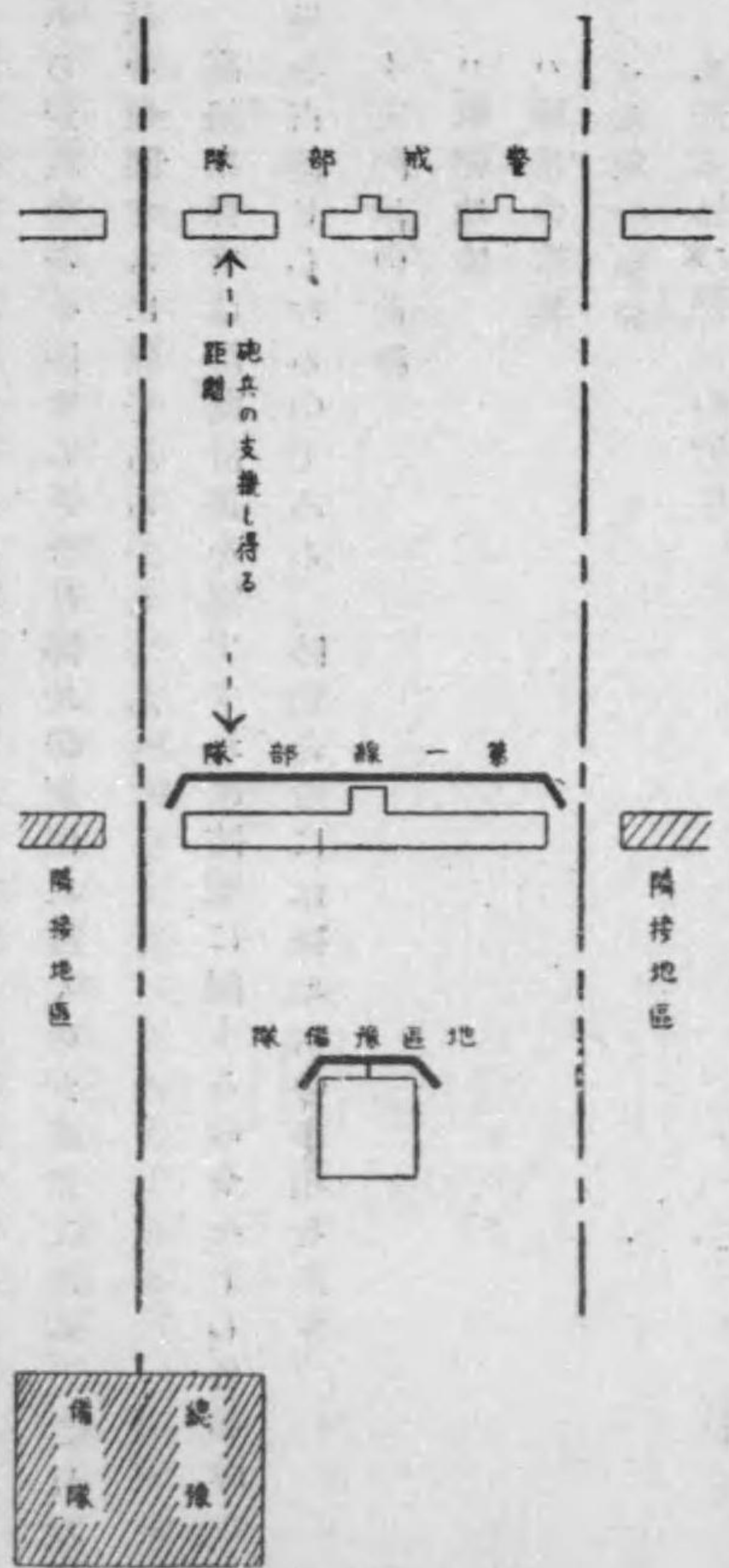


圖 四 十 八 百 第

第一線部隊は歩兵の抵抗地帯に於ける防禦の主體となる。地區豫備隊は主とし

て逆襲に依りその地區の防禦を完からしむるものである。これがため最も有利に逆襲し得る如くその位置を定め、且つ所要の工事を施すのである。

ハ、歩兵の抵抗地帯は通常第一線歩兵大隊の陣地を連接せるものである。即ち大隊はその前方に濃密なる歩兵火網を編成し隣接大隊の間隔及びその前地は互に有効に側防する如く設備するものであるが、時としてその間隔に一部隊を配置することがある。而して大隊は獨立してその陣地を支持し得る如く設備すべきは歩兵大隊の部に於て述べた通である。

ニ、警戒部隊の任務は通常敵情を搜索し、且つ主陣地帯を掩護するに在るが、時としては敵の攻撃を遲滞せしむる等特別の任務を課することがある。

警戒部隊の位置は我が砲兵の支援し得る距離に在つて良好に遮蔽せられ敵の偵察を妨害し我が搜索の據點たるに適せねばならぬ。その配備は通常要點を占領して所要の工事を施すものである。

(三) 防禦陣地の編成及び設備

防禦陣地の編成は常に狀況特に地形に適應せしめねばならぬ。たとひ時間の少き場合に在りても、最も迅速に火網編成を完全ならしむる必要がある。

陣地は時間及び材料の許す限り十分なる工事を施すべきである。而して先づ陣

地の要點を堅固ならしむることが必要であつて、射撃展望及び觀測並に連絡の設備を第一とし、次に障礙物、交通掩護等の設備を行ひ、爾後時間を得るに従つて逐次その設備を縦深に及ぼし堅固の度を増すべきである。

歩兵の抵抗地帯の設備は射撃並に逆襲に便なる如く工事を施し、攻勢を企圖するときは出撃準備を行ふ必要がある。何れの場合を問はず我が配置を敵に秘することは防禦に於て特に大切である。これがためには地上及び上空の敵に對し偽裝陣地を物體にて掩ひて所在を不明にすることゝを施し、時として偽工事を設けて敵を欺くを有利とする。

防禦戰闘

初期に於ける戰闘法

【防禦戰闘】 防禦戰闘の経過は主として攻者の動作に従つて發展するものであるから、防者は常に各種の手段を盡して敵情を明ならしむる必要がある。先づ敵の接近時に於ては砲兵就中長射程砲は交通路上の要點に對し適時射撃を行ひ、その他の砲兵も通常その戰闘區域内に於ける敵の行動を妨害するため射撃を行ふものである。この際過早にその位置を敵に發見せられざるため、一部の砲兵を以て適宜陣地を遊動的に變換して射撃せしむるを適當とする。次で敵の攻撃準備に方りては適時射撃を行ひその攻撃準備を妨害する。

敵砲兵著しく優勢なるときは好機に乗ずる外勉めて砲兵の使用を制限し、決勝の

時機に於て一舉に使用するを有利とすることがある。敵兵我が接近すれば警戒部隊は敵の偵察を妨害し極力敵情を搜索し、その攻撃に關する企圖を偵知せねばならぬ。この際砲兵は必要に應じ警戒部隊の戰闘を支援するものである。

警戒部隊その目的を達すれば主陣地帯に退却するのであるが、この際主陣地帯の我が部隊よりする射撃を妨害せざることが肝要である。

守兵を陣地に配置する時機

防禦戰闘の進捗に伴ふ諸兵の戰闘法

守兵は敵兵未だ遠きときは適宜集結し敵に遮蔽しあるも敵兵愈々接近すれば陣地に就くのである。この陣地に就く時期早きに過ぐれば敵情により配備を變更すること困難となり、遂に工事のために配備を左右せらるゝ虞があり、更に敵に對して陣地を暴露し、且つ無益の損害を被る不利がある。之に反し機に遅るゝ時は敵をして損害なく我に近づかしむるの不利がある。その適當なる時機は陣地の各部により異なるものであるから好機に於て守兵を配置するは各地區指揮官の任である。敵歩兵攻撃前進に移れば砲兵は射撃を行ひその前進を阻止する。この間一部の砲兵は敵の砲兵を射撃し、或はその後方の交通遮斷を行ふ。敵歩兵我が歩兵火網に入れば各種の火器は各々その特性を發揮して敵を壓倒し砲兵は主力を以てこれに猛火を集中し、我が陣地前に於て敵を殲滅することを勉め

攻撃移轉

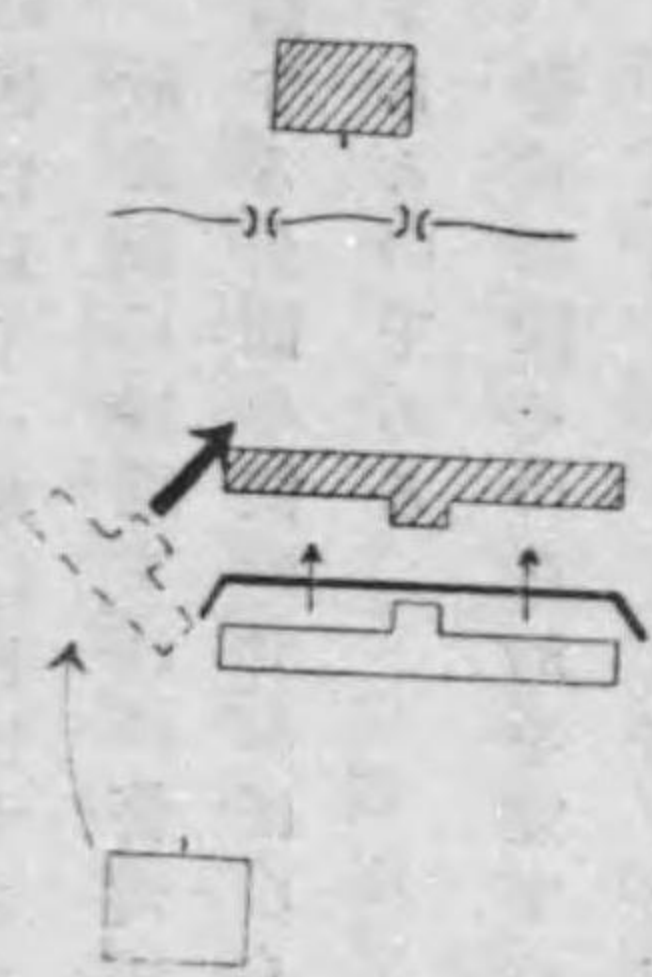
ねばならぬ。

この間航空隊は絶えず彼我一般の状況を観測し高級指揮官の戦闘指導を容易ならしむると共に敵の後方部隊の状況特に新に現出する敵の砲兵機關銃を偵知して歩兵及び砲兵に通報し要すれば地上戦闘に参加するのである。

既に述べたるが如く歩砲兵はその火力を最高度に發揚すれば歩兵は適當の時期に於て陣地を棄て、攻撃に轉すべきである。これを攻撃移轉と稱へる。

攻撃移轉の時機は困難であつて戦史に見るに防禦が概ね失敗に陥つてゐるのはこの時機が不適當であるか或は攻勢の氣勢を失つてゐるに原因してゐる。

攻撃移轉の時機は通常豫め計畫すべきものであるが、戦闘經過中敵の攻撃頓挫したるとき或は敵の過失を發見したる時に巧にこれに乗ることが緊要である。敵の過失を發見し攻勢を行ふときの一例を示さう。



圖五十八百第

第八十五圖の如く敵の第一線と豫備隊とが過度に分離したる場合、第八十六圖の如く敵が分離したる場合、第八十七圖の如く敵が歩砲兵の協同不適當なる場合、即ち敵の砲兵は森林のため射撃し得ずその歩兵は無暴に林端に進出し

敵兵我が陣地に突入した場

夜間防禦

孤立の状態に在るときの如き場合である。

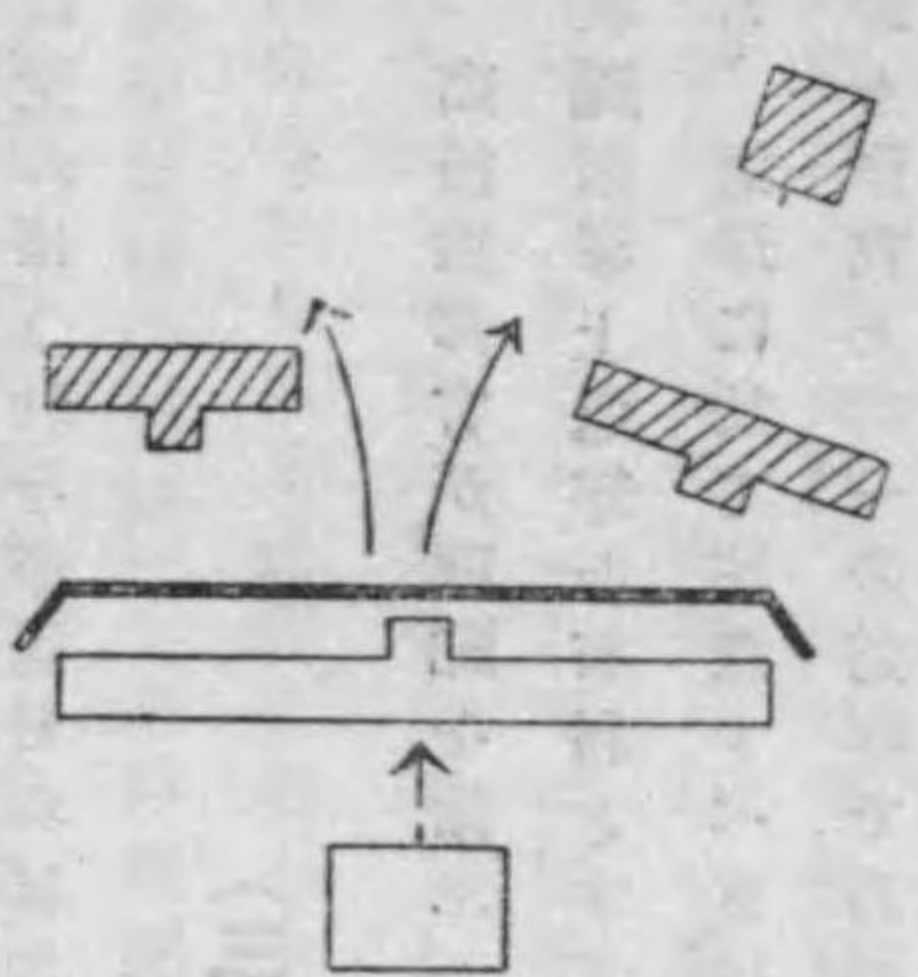
攻撃移轉に際しては砲兵は我が攻勢方面に於ける敵を猛射し要すればその一部を以て我が攻撃歩兵に危害を與ふる他の敵を射撃する。

攻撃移轉は通常豫備隊を攻勢地區方面に使用し、攻勢地區の部隊と共に前進に移るのであるが、時として守勢地區の部隊も同時に攻撃前進に移ることがある。

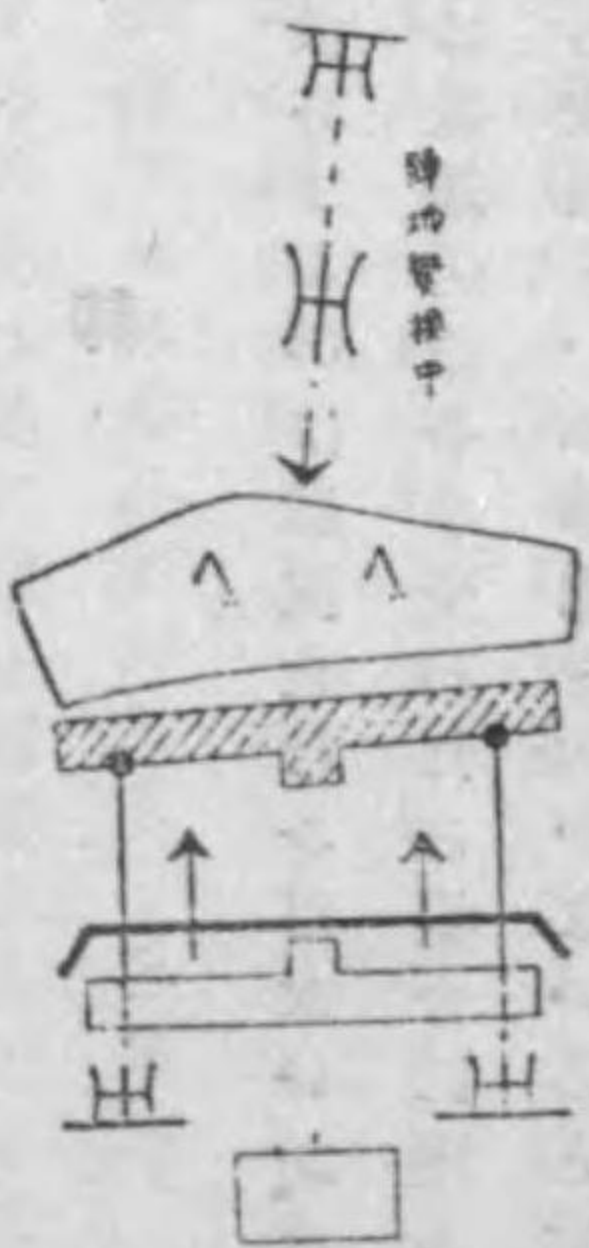
守兵は最後まで奮闘し、砲兵は敵の第一線と後方部隊とを遮断し、この間地區占領部隊はその豫備隊を使用し果敢なる逆襲を行ひ、一局部に於ける不利なる状況を他の方面に波及せしめざることが肝要である。

【夜間防禦】

夜間防禦に於ては敵の企圖は不明であつて防禦の頼みとする火力の



圖六十八百第



圖七十八百第

發揚も亦困難である。従つて警戒を嚴にし搜索を周到にし、且つ前方を照明する等諸種の手段を盡して敵の接近を戒める必要がある。

夜間は不意に敵の來襲を受け易いものであるから、敵の攻撃を受くるに際し新に軍隊を部署するは失敗に陥り易い。故に豫め第一線の兵力を増大し、縦長を短縮し、所要に應じ豫備隊を分置し、速に前線を増援し得る處置を施し、砲兵及び守兵は夜間射撃の準備を行ふことが必要である。而して敵兵接近し來ればこれに猛烈なる射撃を加へ、或は手榴彈を投じその隊伍の動搖する瞬間に於て銃剣を揮ひこれを殲滅すべきである。敵兵我が陣地に接近して工事を爲すか、又はその準備のため行動するに至れば小部隊の出撃若しくは射撃に依りこれを妨害し、我が障礙物を破壊するに至ればこれを撃退せねばならぬ。

(三) 退 却

高級指揮官が戦闘を斷念し退却に決心するのは状況止むを得ないか、或は全局の戦闘指導上退却を有利とするとき、又は退却の命令を受けたる場合に限るものである。退却に於て注意すべきは、退却即ち敗戦といふ感想を抱かないことである。退却も作戰上の一の道程であるから一糸亂れず整然として實行すべきものであつて

敗戦なる考を持つては軍隊は支離滅裂に陥らざるを得ない。由來日本人は進むことを知つて退くを知らない國民性を有するから、攻撃は勇敢であるが、退却は極めて不得手である。これでは作戰上の必要から退却を行ふときにも恰も敗退の如き景況を呈し、軍隊は集收すること困難に陥る場合が少くあるまい。宜しく軍隊は攻撃に勇敢なる如く、退却に對しても相當訓練せられる必要があらうと思ふ。

退却指揮の要訣

【退却指揮の要訣】 退却戦闘を指揮するの要は速に敵と離隔することに在る。故に退却中の軍隊が時々停止して敵と戦闘するが如きはこの原則に悖るものであつて、結局は退却困難に陥ることを肝銘せねばならぬ。又その企圖を敵に察知せられざることが大切である。

退却目標

【退却目標】 退却すべき目標は任務その他諸般の情況に依つて決定せらるゝものであるが、戰場から適宜離脱したる地點に選定する必要がある。これ過度に戰場に近く選定するときは退却の墮著のため第二の企圖を行ふに困難であるからである。但し時として一舉に退却目標に退却することなく、中間の目標に退却し、一時軍隊の整理をなし、次で退却目標に退却することがある。

指揮官の退却部署

【指揮官の退却部署】 指揮官は退却に決すれば速に後方に在る大行李輜重等を後退せしめて退路を開放し、各部隊をして數縱隊にて退却する如く部署を定め、各縱隊

退却時機

の行進目標退却地域又は道路退却時機退却順序收容部隊及び收容陣地等を示し、自らは軍隊の退却を確めたる後適當の地に先行し退却し來る軍隊を待ちて更に爾後の處置を爲すのである。

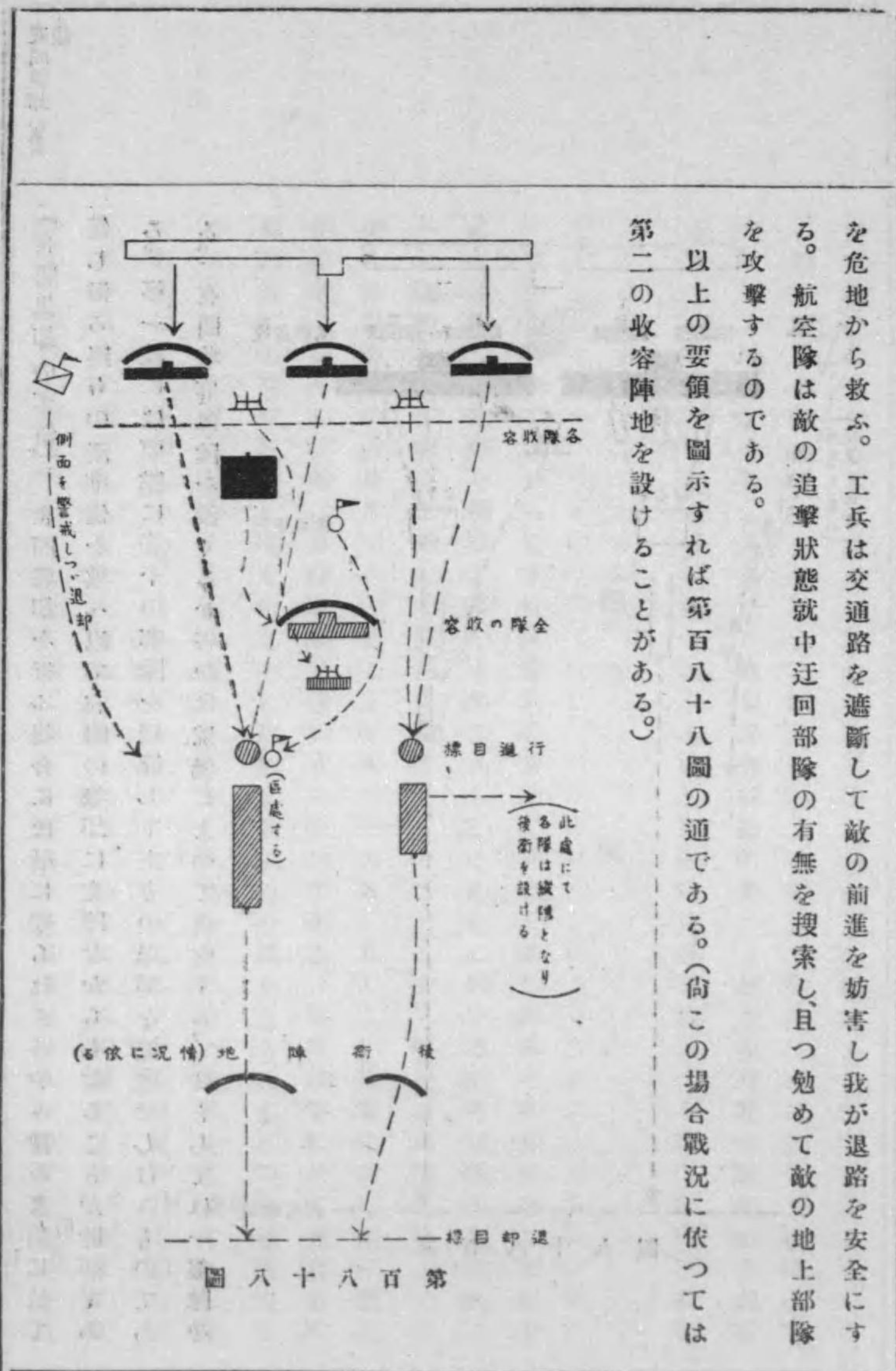
戰場離脱法

【退却時機】 情況の許す限り夜暗を利用するを良しとする。これ退却の企圖を秘匿し損害を減ずることが出来るからである。
【戰場離脱法】 成るべく全線同時に退却するのが適當であるが、交戦の狀況地形等に依り某部隊をして比較的永く敵を抗拒せしむることがある。又敵の追撃が急なるとき或は敵が輕舉暴進するときは反撃を加ふるを適當とすることがある。

晝間退却の要領

【晝間退却の要領】 高級指揮官は退却する軍隊をしてその掩護下に秩序を整頓し且つ出發し得るため、成るべく新銳の兵力特に多くの砲兵を附して收容隊に任じ、陣地を占領せしめて本隊の退却を收容せしむるものである。各部隊も亦要すれば自己の兵力を以て前線を收容せねばならぬ。

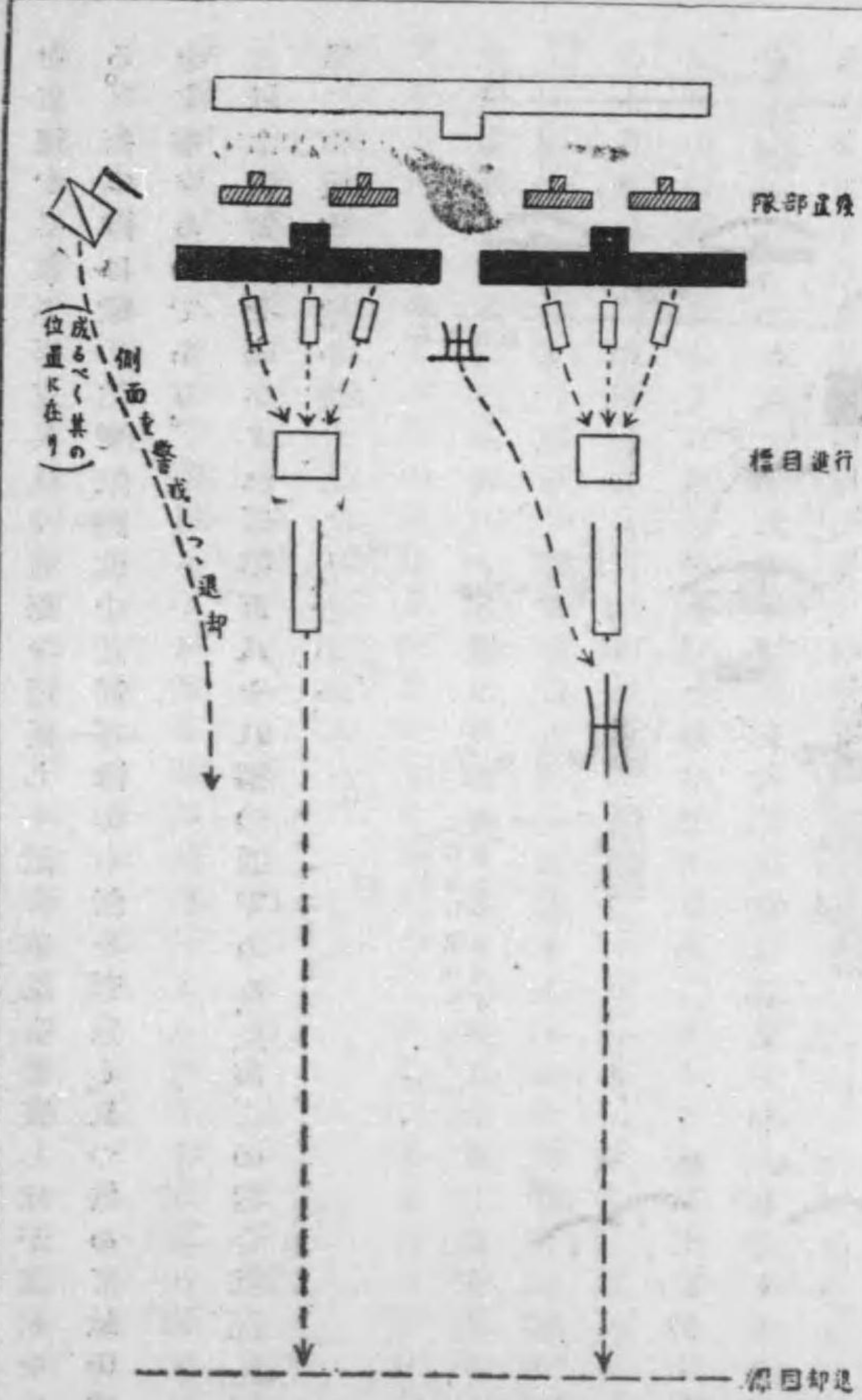
第一線の歩兵は現在の隊形を以て正面と直角の方向に退却し、全隊の收容部隊の掩護の下に逐次兵力を集結して所命の線に退却する。砲兵は損害を顧みることなく我が歩兵に危害を與ふる敵を射撃し歩兵をして敵と離脱せしむることに努力する。騎兵は側方及び背後の警戒に任じ、戰況に依つては果敢なる動作を爲して友軍



を危地から救ふ。工兵は交通路を遮断して敵の前進を妨害し我が退路を安全にする。航空隊は敵の追撃狀態就中迂回部隊の有無を搜索し、且つ勉めて敵の地上部隊を攻撃するのである。
以上の要領を圖示すれば第百八十八圖の通である。(尙この場合戰況に依つては第二の收容陣地を設けることがある。)

夜間退却の要領

【夜間退却の要領】 夜間退却を行ふ場合には敵に覺られざるやう豫め晝間に於て爲し得る限りの諸準備を整へ、以て夜間の退却に支障なからしむることが肝要である。第一線には要點に若干の部隊を残置して主力の退却を掩護せしむるものである。夜間收容部隊を設くるか否かは状況によつて決定する。時としては一部隊を



圖九十八百第

以て猛烈なる逆襲を行ひ敵を欺瞞し且つその追撃を頓挫せしむることがある。第一線の部隊は晝間に比し近く陣地の後方に集結して多くの道路を利用して後退するを普通とする。(第百八十九圖参照、同圖に於て大行李輻軍衛生機關は日没直後から直ちに、次で砲兵第一線歩兵の順序に退却せしめる。)

(四) 追撃

戦勝後に於てはやゝもすれば眼前の成功に満足し、且つ部隊の疲労損害に眩惑せられ果敢なる追撃を躊躇し易いものであるが、この時に於ける敗者は體力氣力共に一層困憊し、その疲労は殆んど極度に達するものであるから、勝者は萬難を排して追撃を行ひ、戦勝の効果を完うすることが大切である。若しこの機会に於て敵に徹底的打撃を與へねば敵は再び戦勢を挽回するものである。日露戦争に於て遼陽會戦に敗れたる露軍は遠く奉天の北方に退却する決心を探りしも、日本軍の追撃緩慢なるを見て奉天附近に停止し、更に日本軍に對し攻勢を行ひ、沙河會戦を惹起するに至つたのはその一例である。これに反しナポレオンがイエナ會戦後僅々二十四日間に八百吉米を追撃して普の全軍を瓦解したるが如きは我等の模範とすべきものである。又歐洲戦争の第一會戦に於て佛軍を破りたる獨軍は、マルヌ河畔に至るまで

大軍を以て猛烈に追撃を行ひたるが如きは全く推賞に値するものである。今試みにその際の行動を記して獨軍が如何に機動力に富めるかを窺ふとしよう。

軍	行動距離	行動日數(戰鬪日數を含む)	一日平均行程
第一軍	四二〇吉米	二三日	一八吉米
第二軍	三八〇	二五	一五
第三軍	二八〇	一九	一五
第四軍	二二〇	一九	一二
第五軍	一六〇	一九	八

追撃の主とする所は諸方面から敵を包圍し、又はこれをその退路外に壓迫し、或はその欲せざる地點に於てこれを捉へて敵を殲滅するか、若しくは少くもその企圖を挫折せしむるに在る。

敵兵退却を行はんとするに方つては故らに一部隊を以て我に向ひ逆襲し、その機に乗じて戰場の離脱を圖ることがある。夜間又は濃霧の際に於て特に然り。かくの如き場合にその逆襲に牽制せられて追撃の好機を逸してはならぬ。又敵は煙幕を利用し、或は毒液を撒布し、毒瓦斯を滞留せしめて退却することがあるから注意せねばならぬ。

砲兵退却の虞ある場合の動作

敵を撃退したる場合

【敵兵退却の虞ある場合の動作】 敵の退却を豫知するときには諸種の手段を盡して敵情を搜索し、以て敵を逸せざることが肝要である。これがためには航空隊は敵線内部の状況を搜索し、前線の各部隊は益々敵と接觸を密にし、これを捕捉するの用意が大切である。この際高級指揮官は速に追撃を準備し、要すれば全般の状況を洞察して直に追撃を執行せねばならぬ。

【敵を撃退したる場合各部隊の動作】 歩兵は一部を以て追撃射撃を行ひ、他部は直に追撃前進に移り飽くまで敵に肉薄し、その主力をして脱逸せしめざることが必要である。これがため徒らに敵の一部の抵抗に抑留せらるゝことなく、我が部隊の主力は速にその側方又は間隙に突進するを要する。騎兵はその特性を利用して敵の側翼又は間隙から行動して敵の退路を遮斷することを勉める。

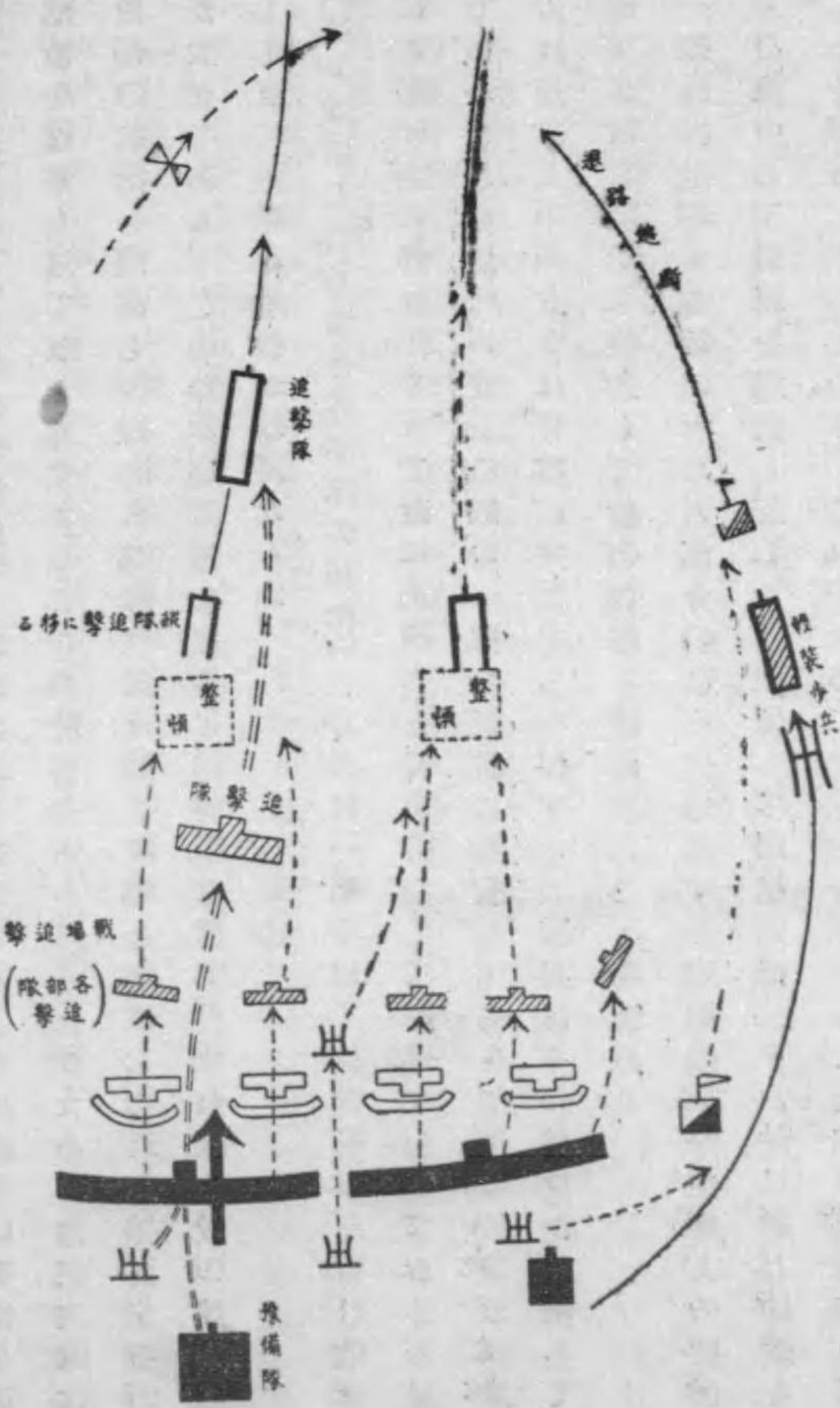
砲兵は退却する敵の主なる部分特にその通過する隘路、橋梁等退路上の要點に火力を集中して退路を遮斷し、若しくは殘留して頑強に抵抗する敵に對し猛射を浴せ、これを潰亂に陥らしめる。これがためには危険を顧みることなく逐次前方に進出する必要がある。

工兵は速に進路上の障礙を排除して各部隊の前進を容易にする。

航空隊は敵の企圖及び行動特に退却の状態並に停止地點の搜索に任じ、或は退却

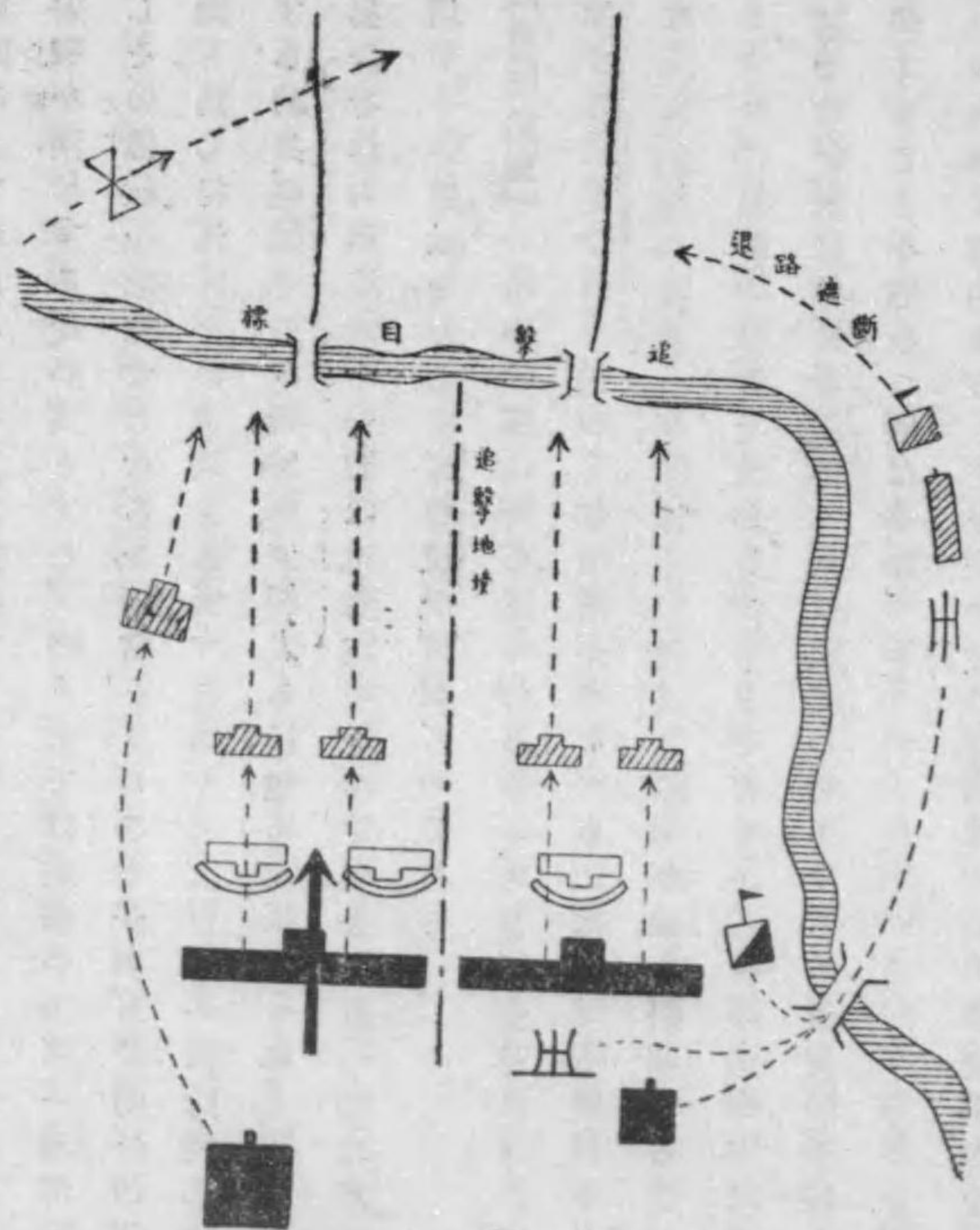
高級指揮官の部署

路上の要點に對する爆撃を行ひてその退却を妨害し、且つ追撃中の我が縦隊間の連絡の保持に勉める。
【高級指揮官の部署】 敵兵退却を行へば高級指揮官は何れの線まで追撃すべきや、



圖十九百第

即ち追撃目標を定めねばならぬ。これは敵軍退却の動機状態我が補給能力その他諸般の條件を基礎として定めるのであるが勉めて遠き地點に選定するが良い。



圖一十九百第

敵兵退却と同時に前線に在る各部隊は前に述べたる如く追撃に移るのであるが高級指揮官は比較的集結し且進出に便なる部隊を以て速に追撃隊を編成して追撃に任せしめ既に追撃中の各

部隊をして秩序を整へ更に前進するの準備を爲さしめ機を失せず縦隊を区分して追撃を執行するを必要とする。時としては追撃中の第一線部隊に追撃地域を指定しその儘敵を急追せしむるを適當とすることがある。何れの場合に於ても敵を包圍し爲し得ればその退路を遮斷する如く有力なる一部隊特に砲兵と機關銃とを有する騎兵、輕裝せる歩兵等を使用するに勉めねばならぬ。(第百九十圖は普通の追撃場合を示し第百九十一圖は追撃地境を示す場合であつて地形等の關係上第一線を以てその儘敵を急追せば殲滅が出来るのである。)

夜間追撃

【夜間追撃】 退却の部に於て述べたる如く、火器の發達に伴ひ夜間退却の機會を増加するに至つた。従つて敵を捕捉するためには夜間と雖猛烈なる追撃を行はねばならぬ。併しながら夜間はその特性上敵の企圖を察知すること困難であつてや、もすれば追撃の機會を失し易きものであるから、各級指揮官は或は一部隊を以て夜襲を行ひ、或は俘虜を獲得し、又は間諜を利用する等諸種の手段を講じ、敵の企圖を偵知することを勉めねばならぬ。

敵兵夜間退却することを察知せば各部隊は敵の殘置部隊を撃破して獨斷追撃に移り、高級指揮官は機を失せず各道路を利用して追撃隊を派遣し、敵を急追する如く部署せねばならぬ。

持久戦の一般要領

(五) 持久戦

【持久戦の一般要領】 持久戦とは決戦即ち勝利を得んとする戦闘以外の戦闘を總稱するものである。即ち敵を欺騙するため行ふもの、或は敵を抑留するため行ふもの、又は時間の餘裕を得んとするために行ふもの、如きであつて、支隊が一地を占領して本隊の來著を待つが如き、後衛が陣地を占領して本隊の退却を安全にするが如き(共に時間の餘裕を得んとするもの)、或は敵を攻撃するに方り主力が迂回する場合敵の正面に對して殘されたる一部は主力の迂回を容易にするため敵を抑留するが如き、或は攻撃に依つて敵情を搜索する部隊が恰も我が主力の攻撃の如くに裝ふが如き(敵を欺騙するもの)その一例である。

持久戦は多くの場合守勢に依つて目的を達すべきであるが積極的行動に出づるにあらざればその目的を達し難きときは攻勢を取ることがある。側衛又は後衛が攻撃して本隊の行動を容易にする如きはその例である。(警戒の部参照)

持久戦に於ける軍隊の部署及び戦闘の指導は目的、地形、敵の行動等に依つて差異あるも、通常縦長區分を大にして強大なる豫備隊を有し、成るべく決戦を避くべきである。持久戦に於ては我が兵力企圖等を敵に察知せられざること又はこれを誤認

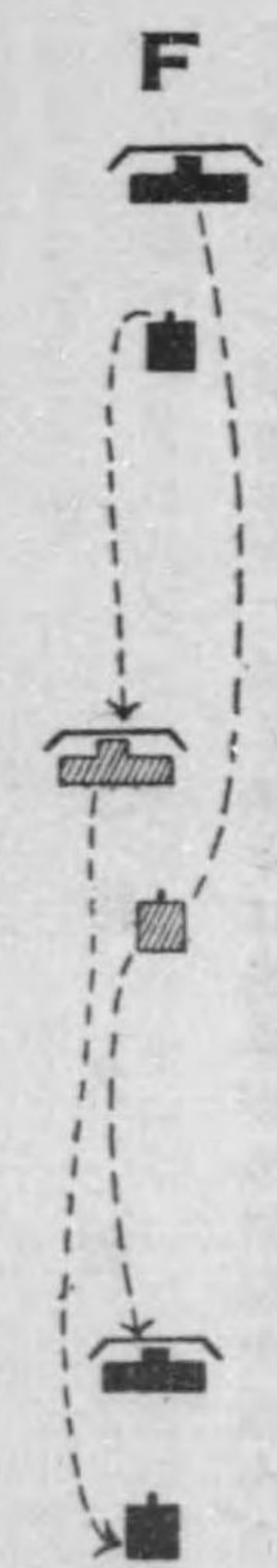
攻撃

せしむることが大切である。これが爲各種の偽陣地、偽工事を設け、或は軍隊の陽動を行ひ、或は蔭蔽地の兵力を節約して開豁地に於てこれを大にして敵を欺き、或は砲兵を分散し、或は猛烈なる積極的行動を爲す等敵に判断の憑據を得ざらしめ、且つ謠言を流布し、或は宣傳を應用する等の著意が緊要であらう。

防禦

【攻撃】 持久戦の攻撃は一般攻撃の要領に準ずべきも、適宜軍隊を控制し決戦に陥らざることが大切である。この場合には第一線各部隊は通常兵力に比し廣き正面に展開せしむるものである。

【防禦】 持久戦の防禦は一地に於て防禦する場合と、歩々後退して防禦する場合との二種がある。
イ、一地に於て防禦する場合 短時間の防禦のときは成るべく砲兵、機關銃等を使用し歩兵の大部をして戦闘に参加せしめざるを適當とするも、防禦時間長きときには歩兵の大部又は全部を使用せねばならぬ。(前衛、後衛、收容陣地等)
ロ、歩々後退して防禦する場合 この場合には成るべく大なる豫備隊を以て爾後の



第百二十九圖 企圖に應ずるを適當とする。(第百九十二圖)

第八節 陣地戰

陣地戰の意義

【陣地戰の意義】 既に作戰經過の概要の部に於て述べたやうに、戦争は成るべく早く片付くことに努力すべきであるが、若し戦闘の勝敗容易に決せざるときは、互に堅固なる陣地を構成し對陣状態の己むなきに至る。この際更に決戦を惹起せんとせば、茲に陣地戰が生ずるのである。又陣地戰は始めより十分なる準備と多くの時日を以て堅固に編成せられ、しかも全く迂回若しくは包圍を許さざる數帯陣地の攻防の場合に於ても惹起するものである。

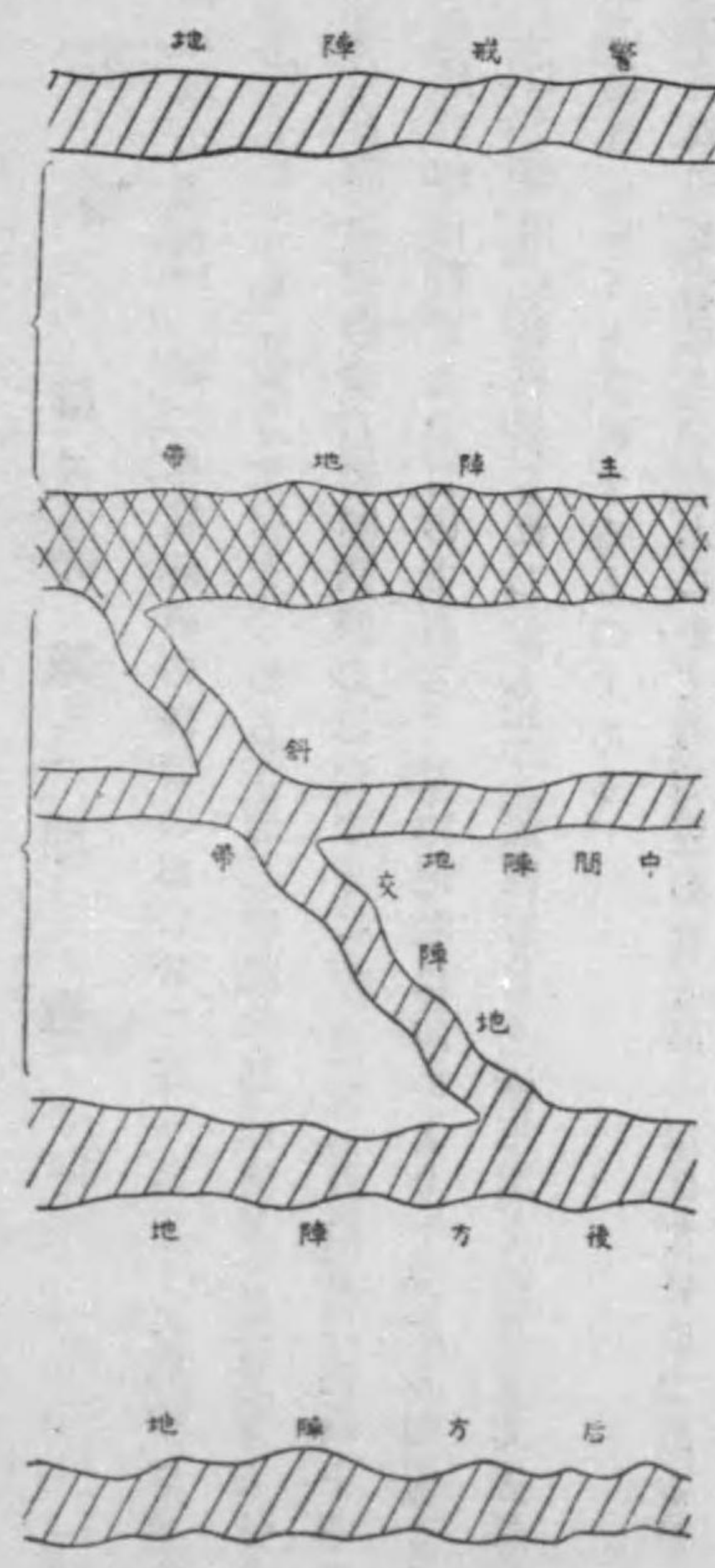
陣地戰の要領はその根本に於て何等運動戰と異なる處はないのであるが、使用するべき戦闘資材が特に多種多量である關係上、戦闘も稍複雑なる状態を呈するものである。従つて戦闘の計畫及び實施は一層組織的でなければならぬ事になる。陣地戰は戦闘交綏状態に陥つた歐洲戦争の產物と見て差支あるまい。

(一) 防禦

【要旨】 防禦陣地は通常數帯に設備し、之を主陣地帯と後方陣地帯とに區分する。而して主陣地帯掩護のため警戒陣地を設け、又狀況に依り斜交陣地を設けることが

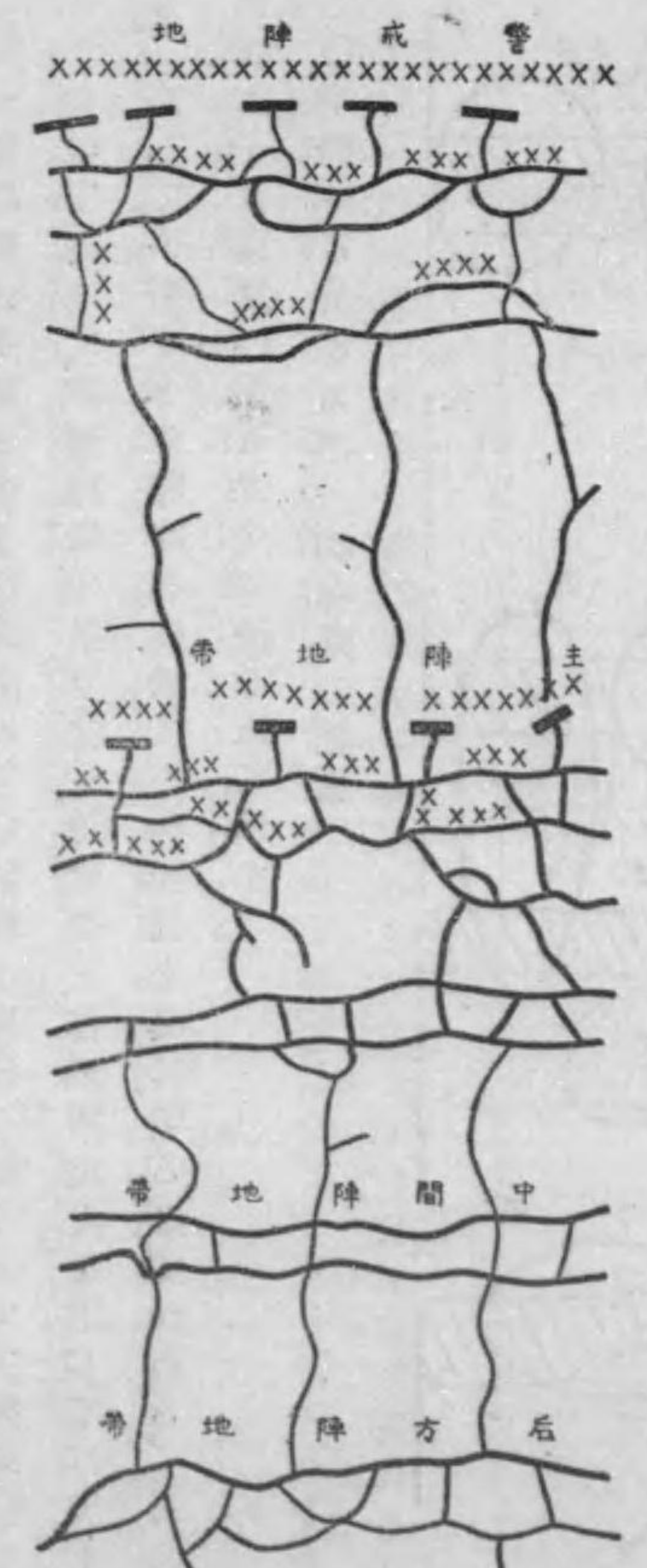
要旨

ある。(第百九十三圖)
 主陣地帯は全陣地の骨幹であるから全力を傾注して防禦すべきものである。
 後方陣地帯は主陣地帯が突破せられたるとき敵を阻止すべき豫備陣地である。
 斜交陣地は主陣地帯正面の危険の顧慮多き部分に對する如く設け敵の突破を局限するものである。
 警戒陣地は敵の偵察を妨害し敵情を搜索し主陣地帯に於ける戦闘準備を完備するの餘裕を與ふるものである。



第百九十三圖

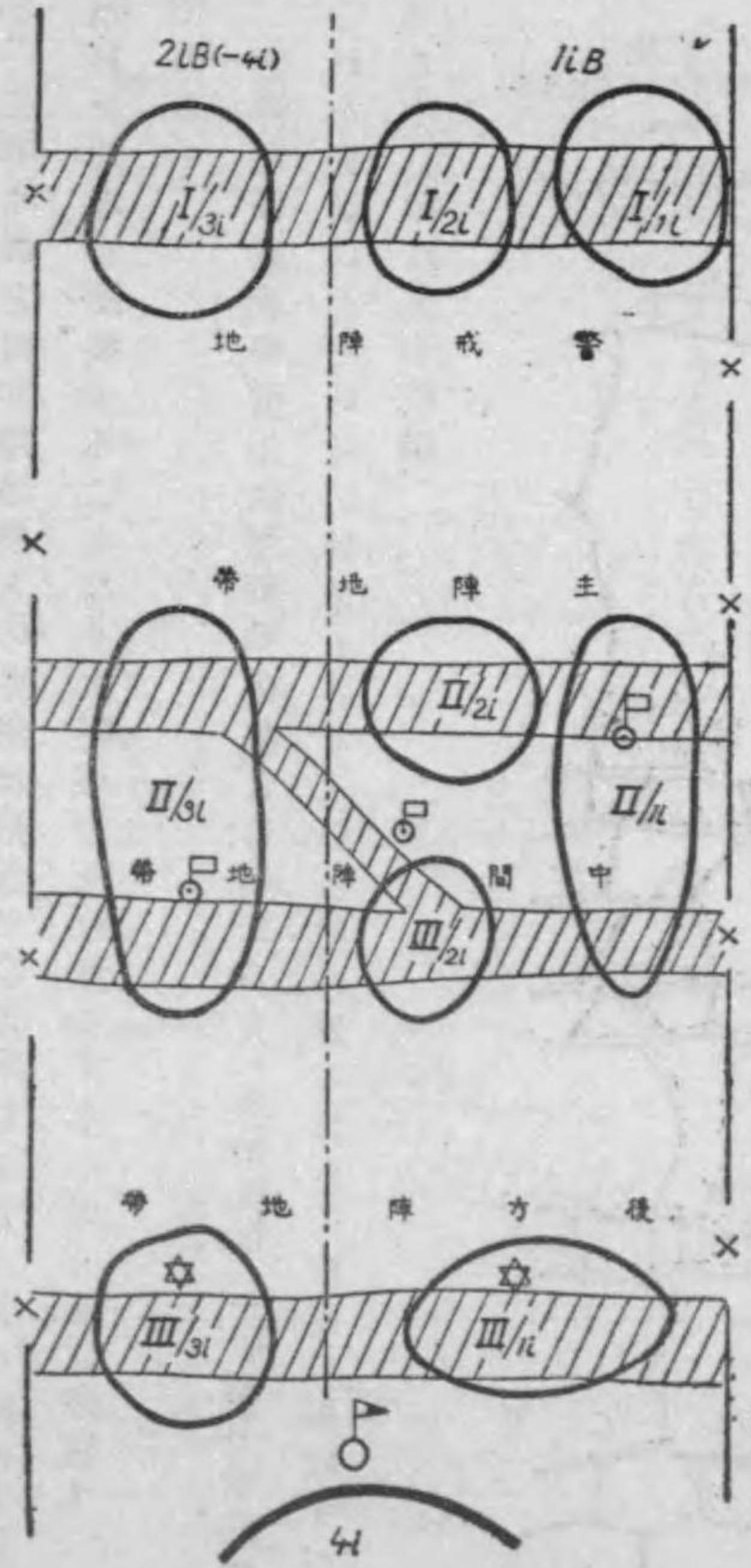
警戒陣地は主陣地帯に在る砲兵の支援を受け得るを度とし成るべく前方に設ける。主陣地帯と後方陣地帯との距離は状況特に地形によるも警戒陣地を攻撃せし砲兵が陣地を變換することなく主陣地帯を攻撃し得ざる如く適宜離隔すべきものである。
 主陣地帯編成の要領は運動戦の場合に準ずるも(運動戦第二防禦の章参照)一層これを堅固にしその他の陣地も各々その目的に應じ努めて堅固に編成すべきものである。(第百九十四圖)



第百九十四圖

第一線師團は主陣地帯と警戒陣地との防禦を擔任し、飽くまで主陣地帯を固守すべきものであつて防禦地區の區分は主陣地帯と警戒陣地とを通じて行ふものである。而して平靜時と會戰時とに於てその配備を異にする必要がある。その一例を第百九十五圖及び第百九十六圖を以て示す。

○平靜時に於ける第一線師團の配備



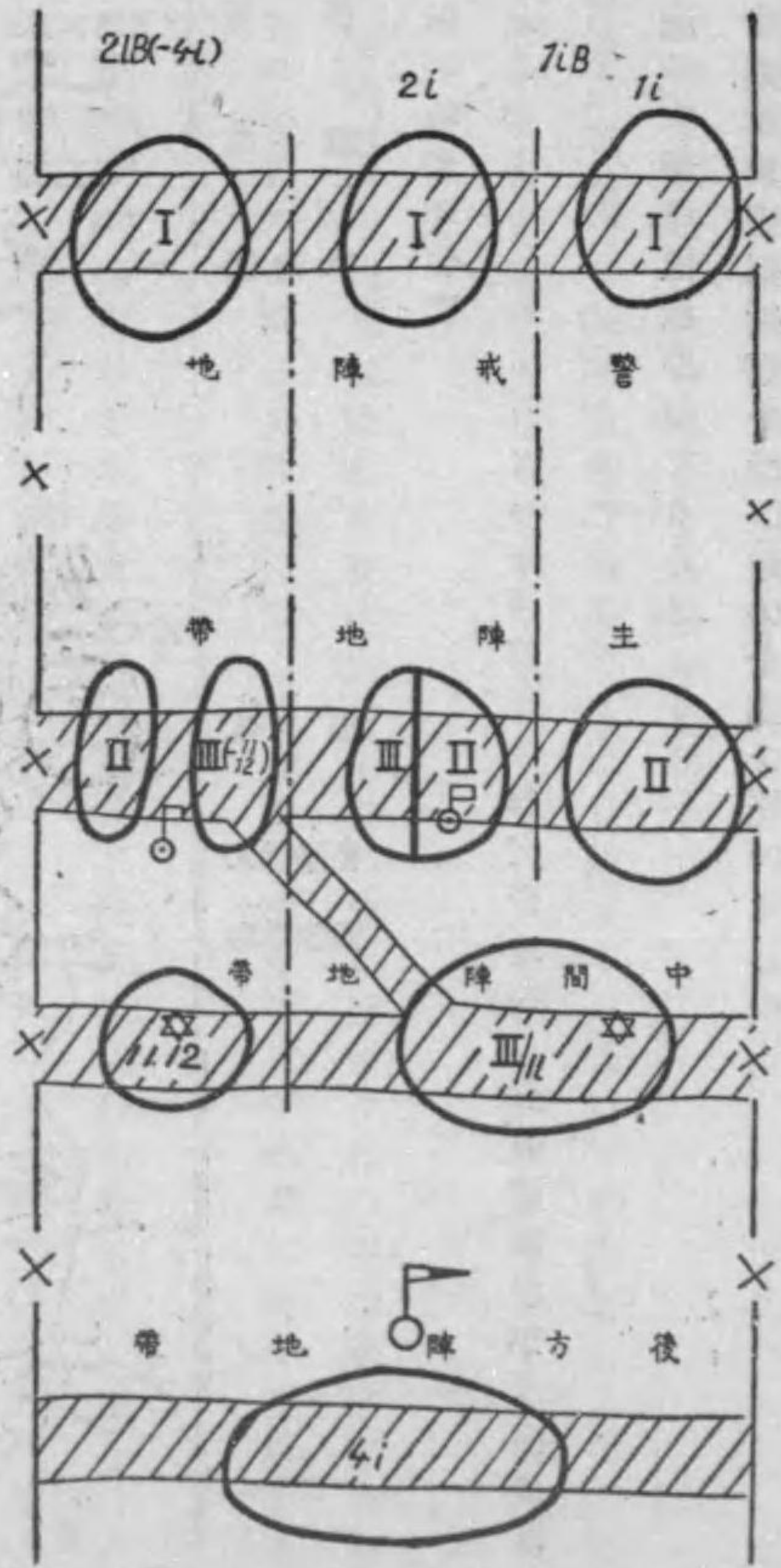
圖五十九百第

○會戰時に於ける第一線師團の配備

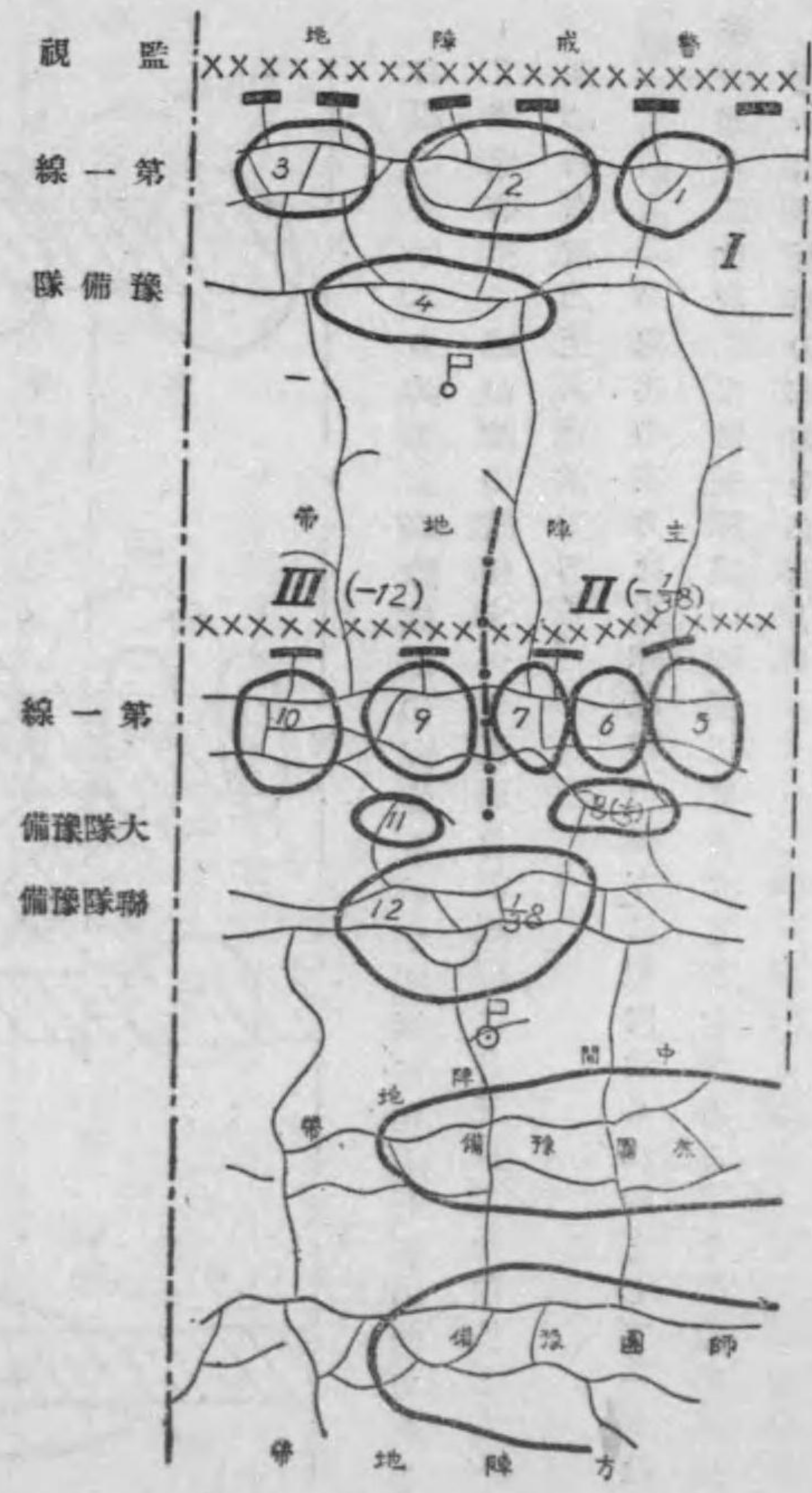
砲兵の配備

右圖に於ける歩兵第二聯隊細部の配備を示せば第百九十七圖の通である。主陣地帯第一線中隊の擔任すべき正面及び縦深は各三百米を限度とし大隊の縦深は約六百乃至八百米である。

【砲兵の配備】 砲兵の主力は主陣地帯の後方に配置せられ、時として一部は主陣地帯の前方に位置して警戒陣地の戦闘に協力することがある。その砲兵は左の目的に適ふ如く所要の準備を必要とする。



圖六十九百第



イ、敵の攻撃準備間
 敵の準備を妨害するため交通路司令部宿營地等に交通遮断射撃及び擾亂射撃を行ふ。
 ロ、敵の攻撃準備進捗したるとき
 攻撃準備破推射撃を行ひ敵の企圖を挫折せしめる。

防禦戰圖

ハ、敵歩兵攻撃前進開始後
 主力を以てこれを阻止する射撃を行ふ。
 【情報の蒐集】 敵の急襲を豫防しこれに應ずるは極めて肝要なことである。これがためには各種の手段を盡して敵情その他の情況を偵知することに勉めねばならぬ。
 【防禦戰圖】 砲兵は時に交通遮断射撃及び擾亂射撃を行ひ、飛行隊は晝夜を問はず砲兵の射程外に於ける要點に對し爆撃を行ひ、敵の攻撃準備に對する妨害を爲す必要がある。
 敵の攻撃準備進捗し、攻撃實施の機迫れば、砲兵は攻撃準備破推射撃を行ふ。この射撃は不意に開始し、且つ猛烈なるに従つてその効果益々大なるものである。
 警戒部隊は豫め受ける命令又は臨時の指示に従ひ、その目的に副ふ如く行動し警戒部隊に協力すべき砲兵は射撃を開始する。
 敵若し警戒陣地の攻略後更に主陣地帯に對し攻撃を準備する場合に在りては、防者はその攻撃準備を妨害する。これがため夜間に於ては屢々小部隊を以て出撃を行ふことがある。
 敵兵我が主陣地帯に接近すれば、歩兵及び砲兵は極力これを陣地前に於て殲滅す

ることを勉めねばならぬ。

敵兵我が主陣地帯の一部に突入せば守兵はその陣地を死守し、豫め設備しある陣地内部の火網特に連繫ある各支撃點の射撃と協力して敵の攻撃進捗を局限し、砲兵は侵入せる敵に猛火を集中し、且つ突入部隊に續行する敵の後方部隊の前進を遮断し該地區を守備する。指揮官は直に逆襲を決行し、喪失せる陣地の恢復に勉めねばならぬ。

豫備隊は主として逆襲に使用するものであるが、狀況に依つては現に占領せる陣地に於て敵の侵入を阻止し、後方部隊逆襲の支撃とならねばならぬ。

若し攻者大なる損害を受けその攻撃頓挫せる場合、或は豫め準備したる攻勢移轉決行の機を看破せば、師團長は軍司令官の企圖に基き全力を擧げて攻勢に轉すべきである。

(二) 攻 撃

要 旨

【要旨】 陣地戦に於ける正面攻撃(多くの場合正面攻撃が起るものである)に於ては一舉に敵線の大部若しくは全部を突破すべきや、或は逐次に之を攻略すべきや、主として我が兵力就中砲兵その他の戰闘資材の整否並に敵情特にその陣地の状態

に依るものであるが、爲し得る限り全陣地を一舉に突破するを以て有利とする。

急襲は攻撃奏功の要件である。これがためには企圖を絶対に秘匿し不意に猛烈迅速なる攻撃を行ふを必要とする。(戰闘の概念戰闘方式の部参照) 但し時として堅固なる陣地の攻撃に於て述べたるが如く逐次攻撃陣地を構成しつゝ、敵に近迫することがある。

主攻撃正面は戰略上の考慮の外尙攻撃準備の容易なる方面攻撃資材の十分なる活用特に攻撃の各期に亘り歩砲兵の協同容易なる方面及び迅速に敵陣地を突破し得る薄弱部に向ふことに著意する必要がある。

第一線兵團に配當せらるゝ戰闘正面は比較的狭小である。而して第一線兵團は通常敵の全陣地の突破を終始し、突破後は第二線兵團を第一線に出す如く指導すべきものである。

攻撃準備

【攻撃準備】 攻撃計畫は運動戦に於ける陣地攻撃の要領に依るべきも、上級指揮官は勿論各隊指揮官も綿密詳細に、しかも組織的に計畫を立案せねばならぬ。特に攻撃準備間その企圖を秘匿することに就ては萬幅の注意を拂はねばならぬ。

師團長は最初より一舉に突破せんとする敵陣地帯の後端に攻撃目標を選定すべきものである。但し突破間歩砲兵の協同を容易ならしむるため中間目標を定むる

必要がある。

一舉に敵陣地の大部又は全部を突破せんとする場合に於ては師團長は特に縦長區分を強大にし最後まで十分なる戦闘能力を保持し得る如くせねばならぬ。

砲兵は攻撃準備要すれば我が準備行動を妨害する敵を射撃してこれが掩護に任ずる。而して友軍歩兵攻撃開始前に於ては攻撃準備砲撃を實施し、その攻撃開始後に於てはその主力を以て歩兵の遭遇する逐次の抵抗を打破してその進路を開きその他は依然その戦闘區域内に於ける敵砲兵の制壓及び指揮組織の崩壊等に任ずる。

攻撃準備砲撃とは主として敵砲兵の制壓障碍物並その他の妨害設備の破壊指揮組織の崩壊及び後方諸機關に對する射撃等に依り防者の戦闘能力を滅殺して攻撃實施の端緒を開くに在る。

砲兵陣地は一舉に突破せんとする敵陣地帯に對し成るべく同一陣地より射撃を繼續し得る如く選定すべきである。併しながら全砲兵のため斯の如き陣地を選定し得ることは困難であるから、勢ひ陣地變換を行はねばならぬ。この陣地變換の時機は最も危険なれば計畫的に實施すべきである。

通常歩兵の攻撃開始の前夜に於て攻撃に任ずる第一線部隊は攻撃發起の位置に

就くものである。この位置は成るべく敵に接近するを有利とする。

逐次攻撃陣地を構成して敵に接近する場合に於ては、前の要領に準じ歩兵は突撃陣地に就くものである。この位置は平坦地に在りては少くも敵線より二百米を離隔せしむることが必要である。

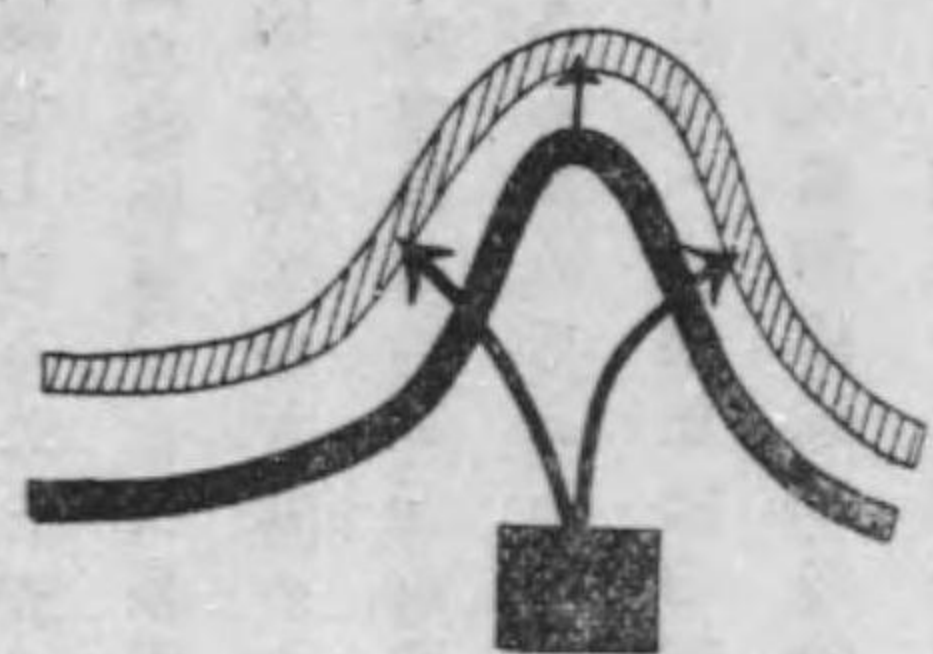
攻撃實施

【攻撃實施】 攻撃實施に伴ふ砲撃は爲し得る限り不意且つ猛烈に開始し、急襲の目的を達せんがため、その時間は極めて短縮する必要がある。この射撃を長時間行ふときは敵に我が攻撃の企圖を察知せられ、敵をして防戦の準備を爲さしむる不利があるからである。而してこの間我が歩兵は工事及び地形を利用してその損害を避けつゝ、攻撃前進の時機を待つのである。

攻撃準備砲撃の終局に連續して歩兵は全線同時に攻撃を開始するのを通常とする。砲兵の大部は逐次我が歩兵の直前の敵及びその他歩兵の前進を妨害する敵を制壓して歩兵のため進路を開かねばならぬ。この際には集中射撃の移動に依るを通常とするも、状況に依りては誘導彈幕射撃の方法に依ることがある。その他の砲兵は依然敵砲兵の制壓、敵の交通特にその第一線の直後に於ける兵力移動の妨害等に任ずる。

第一線歩兵は最後の到達目標に向ひ一意前進を遂行すべきものであるが、敵の支

撐點等堅固なる陣地の要部に遭遇するときは地形を利用しその側方又は背後よりこれを攻略するを有利とすることが多い。この時機に於て直接歩兵に協同する砲兵特に第一線歩兵隊に配屬せられたる砲兵の緊密なる協力は歩兵の戦闘進捗に大なる影響を與ふるものである。

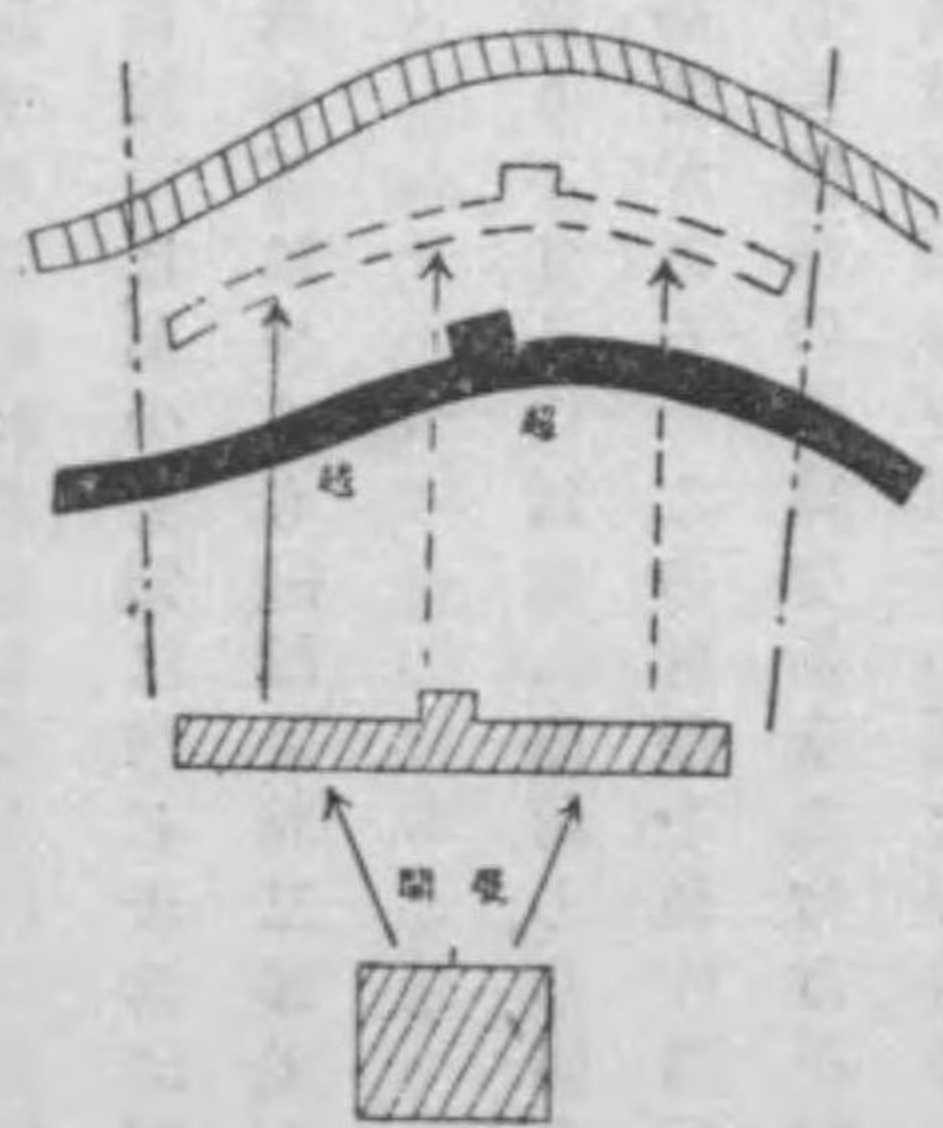


第九十八圖

戦闘間得たる戦果は極力これを擴張する必要がある。戦果は縦深に擴張すると同時にこれを横方向にも擴張するを要するのである。即ち第九十八圖の如く正面の部隊は一意所命の方向に前進して縦深に擴張し、後方部隊は正面攻撃に連繫し敵陣地の一部を包圍して横方向に擴張し、漸次破孔を擴大すべきものである。

第一線部隊の戦闘

力著しく減耗するか、或は新に攻撃方向を變換せんとするときには該部隊の交代を行ふことがある。その交代の要領は第九十九圖の如



第九十九圖

く交代部隊は後方に展開し第一線部隊を超越してこれに代るのである。

敵の主陣地帯を奪取すれば引續き敵を追及し、後方陣地帯に據るを得ざらしめ該陣地帯の突破を容易ならしむるを得ば最も有利であるが主陣地帯奪取後敵は我が歩砲兵の協同十分ならざると部隊の混亂せるとに乗じ大規模の攻撃を行ひ或は更に後方陣地に於て頑強に抵抗を試みる場合が少くない。故に上級指揮官は適時第一線部隊を統制し、これに占領すべき地線を示し速に爾後の攻撃準備を完うせねばならぬ。この間後方部隊砲兵戦車は速に前方に進出して歩兵の行動を容易にすべきものである。

陣地戦初期に於ては騎兵は概して活動の餘地少きも、一度敵を突破するに至れば騎兵はこの破孔より進入して有利に活動し得るものである。

第九節 特種の地形に於ける戦闘

(一) 山地の戦闘

山地は一般に展開區域狭く、交通不便、運動困難であるから大部隊の指揮は容易でないが、兵力及び運動を敵に秘し寡を以て能く衆を拒止することが出来る。この特

防禦の要領

性に鑑み山地に於ては攻防共に敵を瞰制すべき位置を占むること、交通設備を爲すこと、谷斜面道路等射撃不可能の地域を少くする如く巧に地形を利用し且つ通信機關の完備、飛行機の利用に依つて各隊の連繫を周密にする必要がある。

【防禦の要領】 山地の防禦に於ては敵方に通ずる諸道路を堅固に守備するを必要とする。而してその配備は交通の難易及び攻勢企圖の有無に依つて異なるものであるがその要領は次の通である。

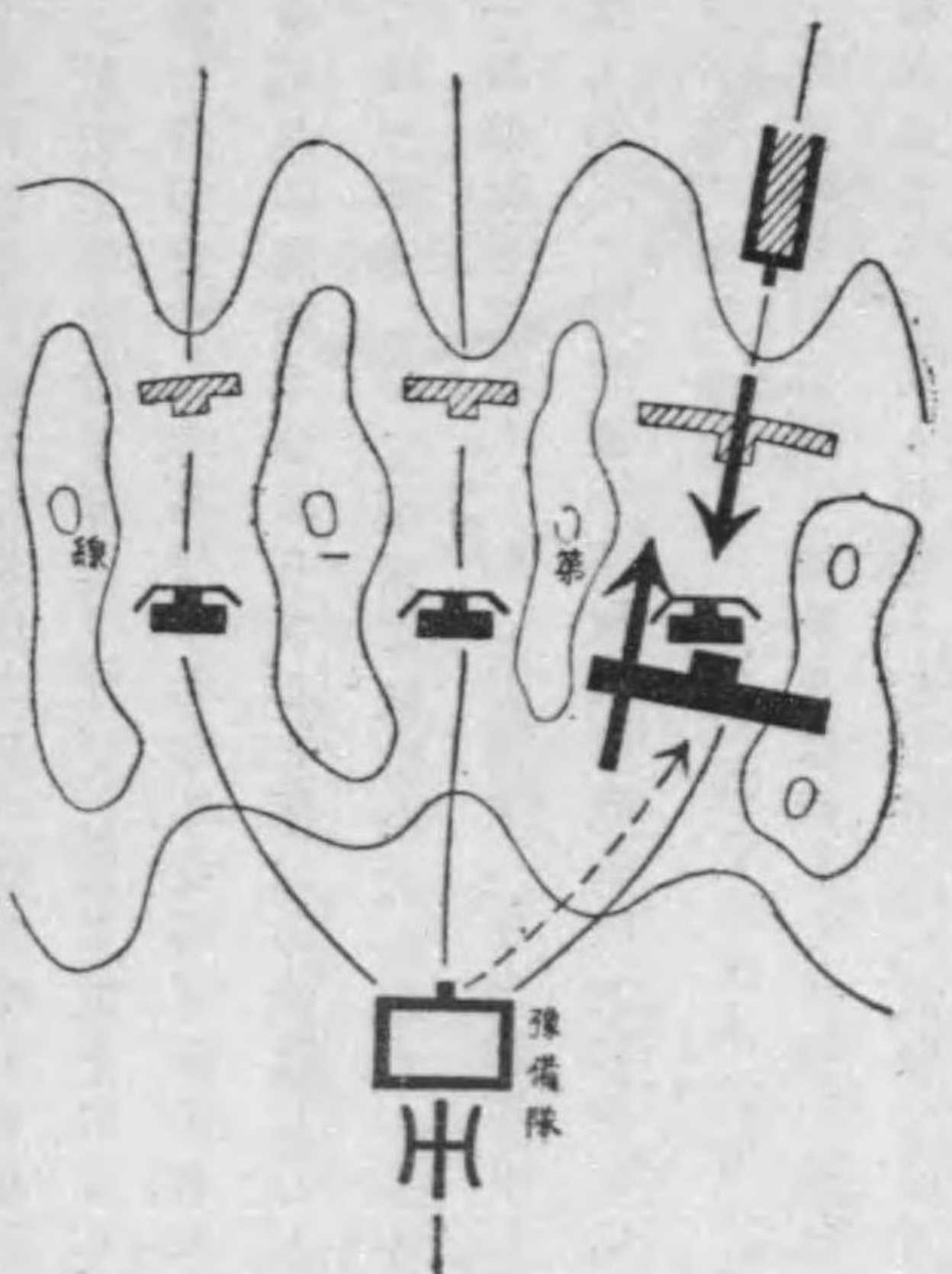


圖 百 二 第

- (一) 決戦を企圖する場合
- 1. 交通便利なるとき。(第二百圖) この場合は各地區に備ふる兵力を節約し、強大なる豫備隊を以て自己の欲する方面に攻勢に轉すべきである。
- 2. 交通稍不便なる時。(第二百一圖) 此場合は總豫備隊を分置して防禦する。

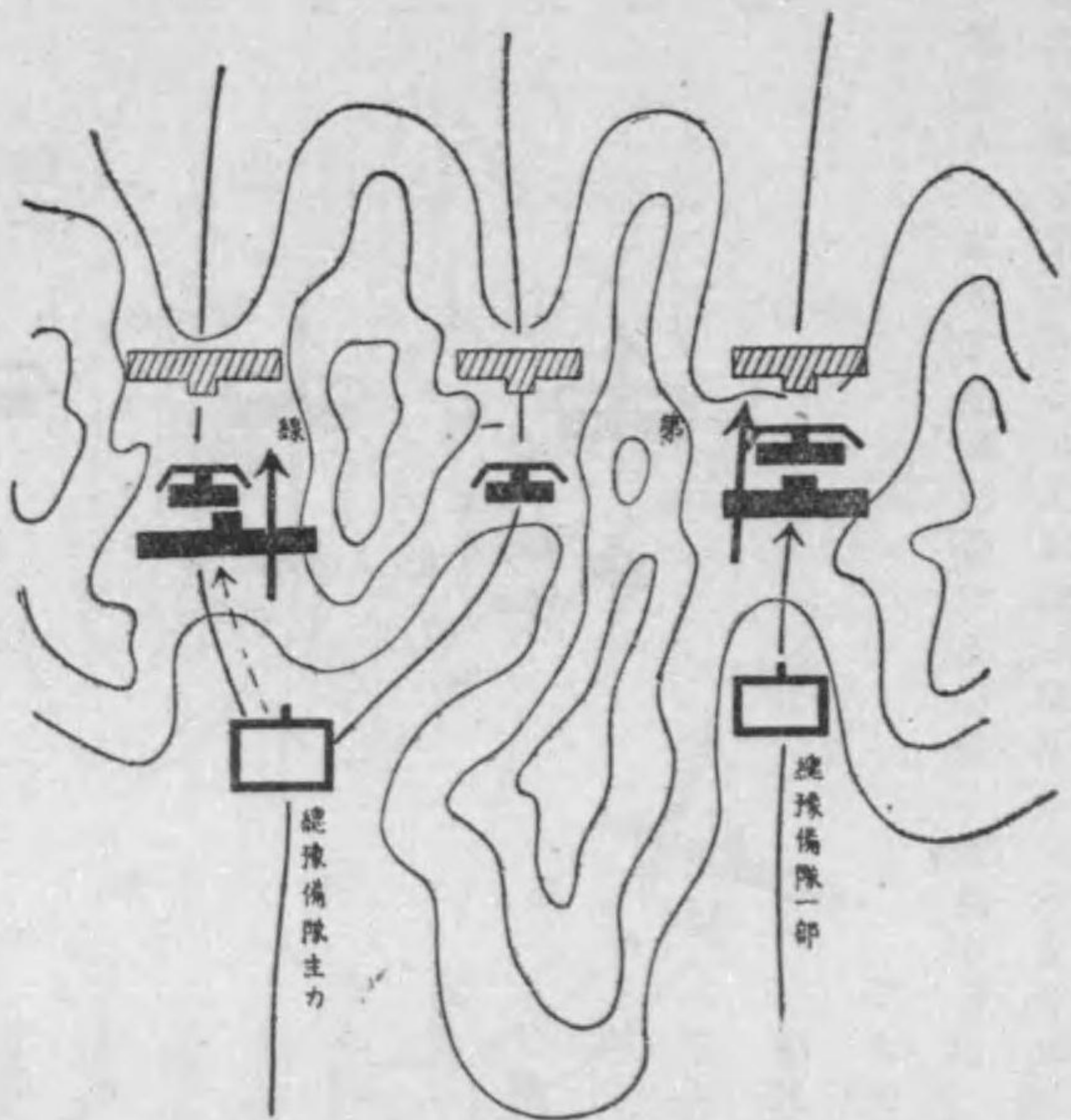


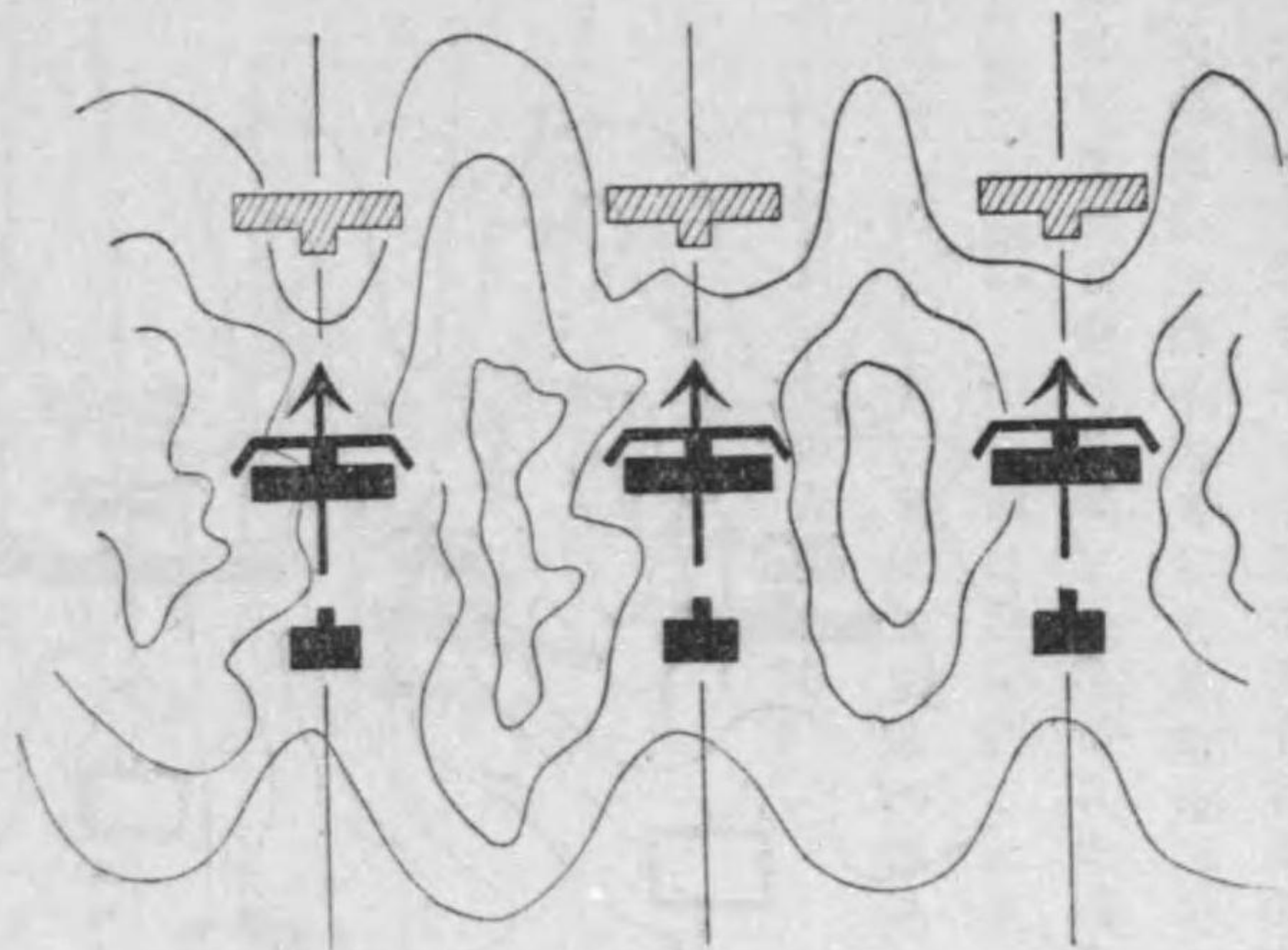
圖 一 百 二 第

- 3. 交通不便なるとき。(第二二二圖) この場合には最初から各地區の兵力を強大にし、總豫備隊を設けず各地區毎に戦闘を開始する。
- 4. 山地を捨て、後退配備。(第二二三圖) 山地内に於ては防者の各部隊の抵抗と運動の困難なるにより、攻者が平地に進出する。

るは不齊一となり易い。この時こそ防者として攻撃に出づる好機である。

(二) 時間の餘裕を得んとする場合。

1. 交通便利のとき。(第二四四圖) この場合には決戦の場合に比し總豫備隊の兵力



圖二百二第

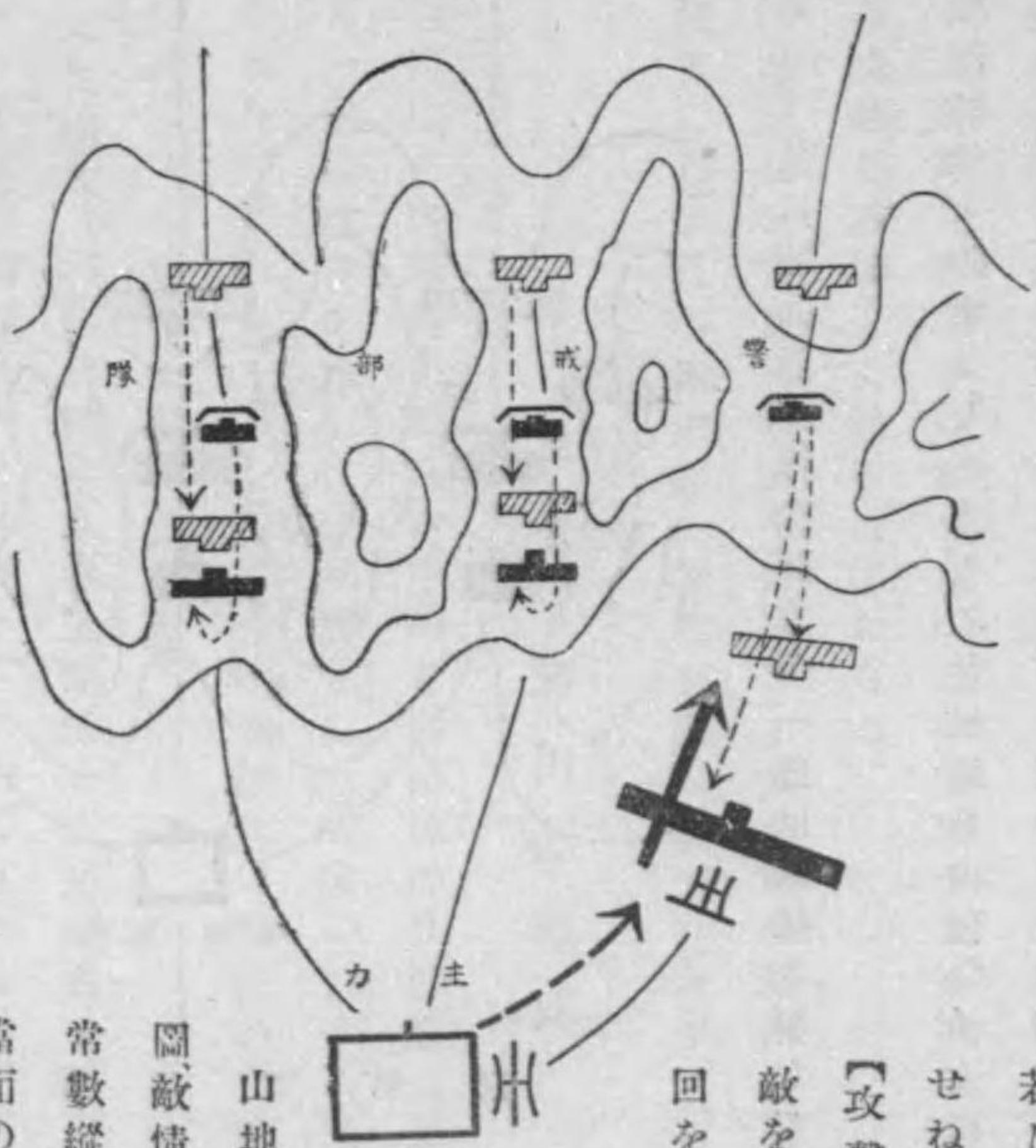
の攀登とに依りて混亂疲勞せるに乘じ逆襲を行ひこれを殲滅するのである。若し敵の攻撃を受けざるか又は敵を撃退したるときは比隣地區を攻撃中なる敵の側面

を減少し各地區の抵抗力を増大する。
 交通不便のとき 總豫備隊を設けず最初から各地區の兵力を強大にすることは決戦の場合と同一である。
 以上何れの場合を問はず、各級指揮官は敵の包圍特にその迂回に注意し緊要なる鞍部及び山頂を占領して谷及び斜面を瞰射する如く軍隊を配備し、特に死角を側防する如く設備を爲さねばならぬ。

敵兵攻撃し來れば防者は射撃を以て十分これを擾亂し、その損害と斜面

攻撃の要領

圖三百二第



を收むることに勉むべきである。各部隊は敵方に通ずる道路谷及び稜線を利用して隱密に敵に接近し、成るべく死角を利用して一舉に敵陣地の支撐點及び緊要なる鞍部を奪取することを勉めねばならぬ。突撃部隊斜面を攀づる際敵は往々逆襲を

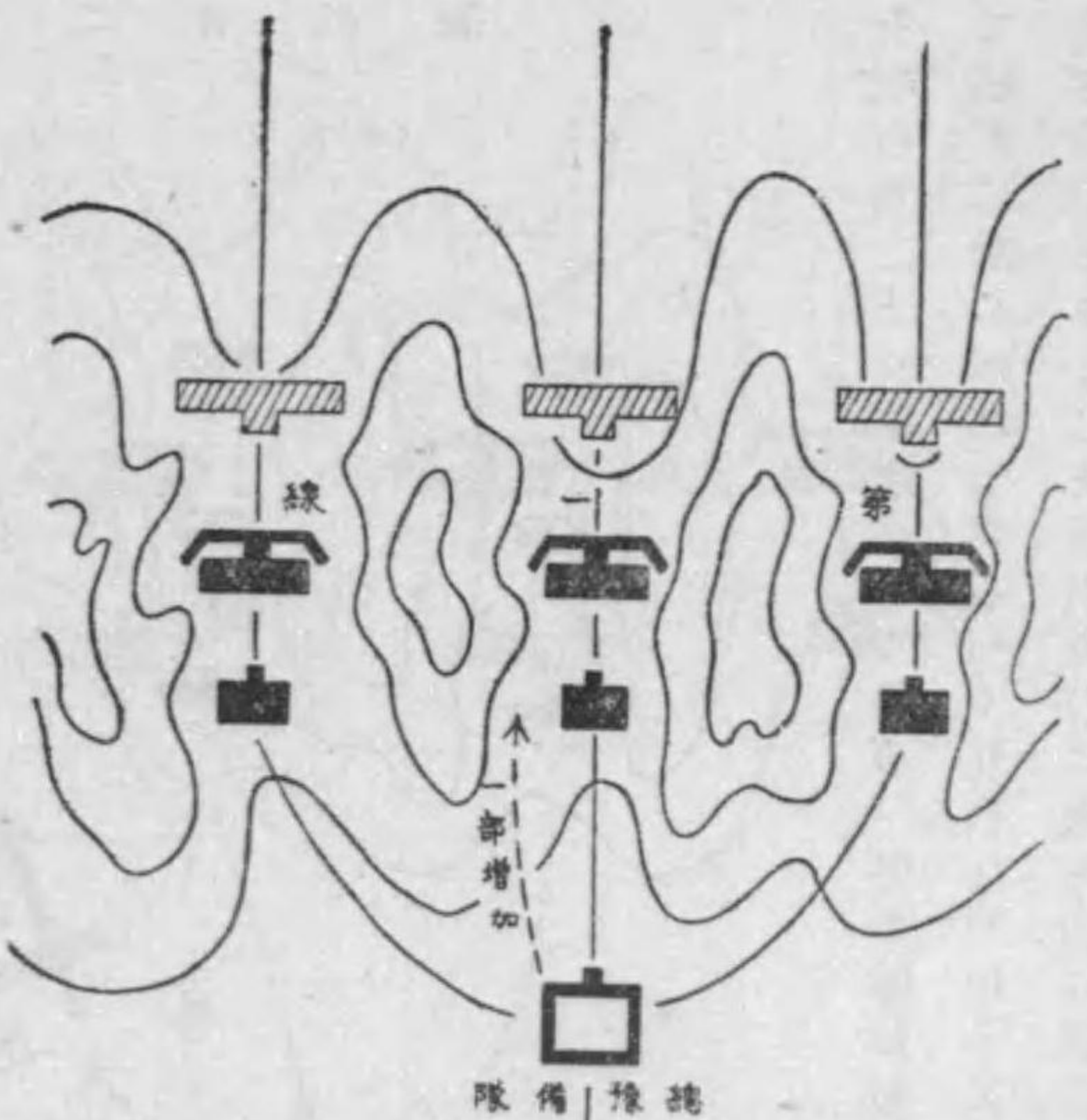
若しくは背後に出でこれを攻撃せねばならぬ。

【攻撃の要領】

攻者は正面から敵を攻撃すると共に包圍又は迂回を行ふを適當とする。殊に一部を以て敵の正面に

充て主力を以て迂回するを適當とすることがある。

山地の攻撃に於ては我が軍の企圖敵情及び道路網の關係に依り通常數縱隊を以て前進し各縱隊毎に當面の敵を攻撃し、以て全局の勝利



第 二 百 四 圖

である。故に砲兵及び機關銃等の一部は萬難を排して射撃に便なる地點に進出するを必要とする。

狀況に依り防者はその主なる抵抗線を山頂の後方に選定し逆襲を企圖することがある。故に攻撃部隊山頂に達すれば歩兵砲機關銃等を速に招致しこれに應ずる

試みることがあるから後方部隊は適宜戦線に接近しあるが肝要である。

一般に山地は通視困難で且つ天候の影響を受くることが多いから奇襲を行ふに容易なる事が多い。敵に大損害を與へ得る時機は通常敵を山頂から驅逐したる時機である。

故にこの際歩砲兵の猛烈なる追撃射撃は特に緊要

なる追撃射撃は特に緊要なる追撃射撃は特に緊要

準備が必要である。

一度陣地を奪取すれば當面の敵を追撃すると共に他方面の敵の側背を求めてこれを攻撃することに勉めねばならぬ。

山地進出の後直に戦闘を豫期する場合には隘路の出口から進出するときは行動を慎重にし敵に各個撃破の機会を與へざる注意が大切である。

(二) 河川の戦闘

河川はその障碍の程度兩岸の地形交通の狀態等によりて戰術上の價值を異にするも、一般に攻者のためには妨害となり、防者のためにはその陣地を自然に強固ならしむるものである。而して河川は攻防共に對岸の搜索困難であるから敵の意表に出づることの出来る特性がある。

河川防禦
合戰防禦の場合

【河川防禦】 河川防禦には後退配備と直接配備との二種がある。而して何れを取るべきかは防禦の目的と地形とによつて定まるのである。

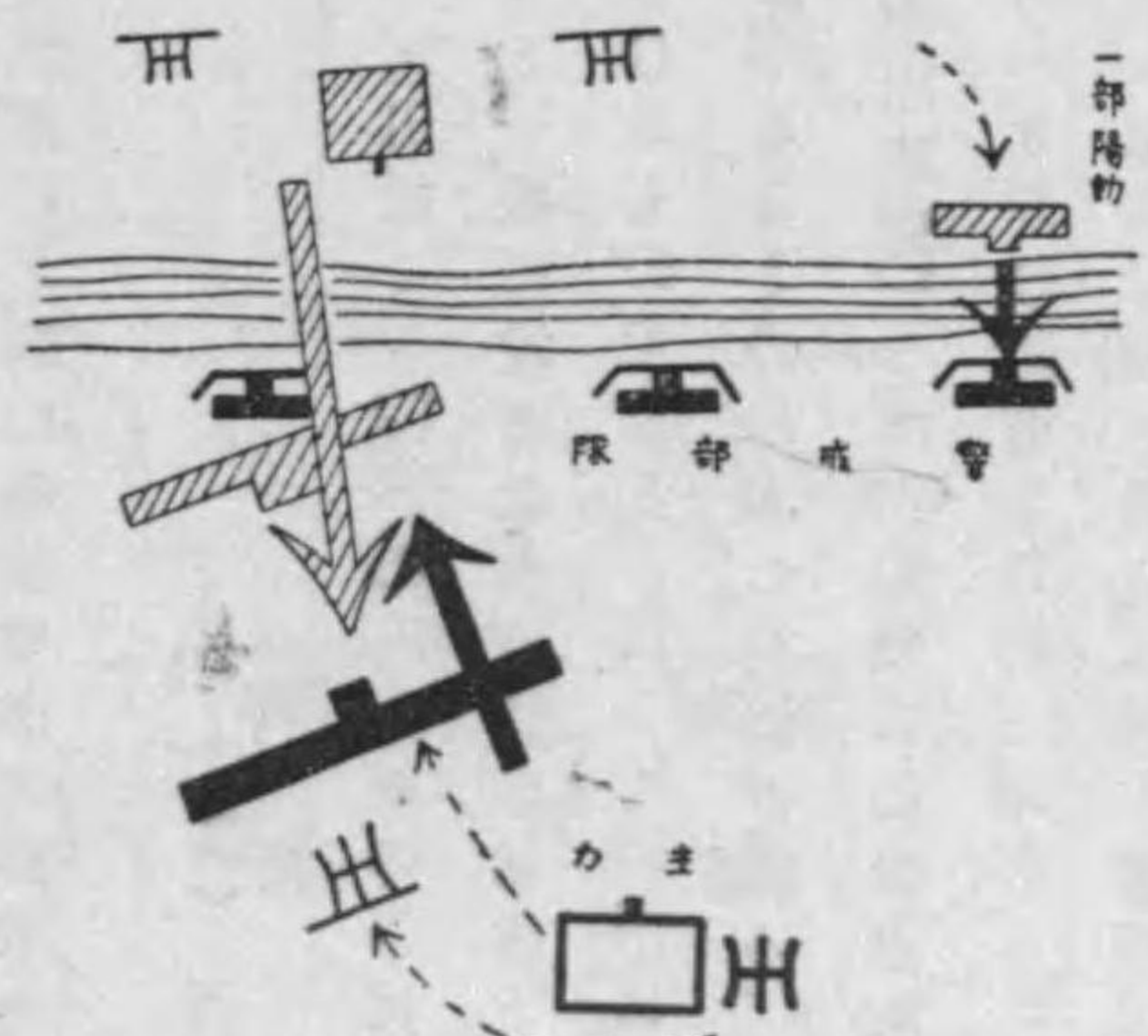
(一) 決戰防禦の場合 河川防禦の要訣は敵の半波に乘じ攻勢に轉するに在る。即ち敵の渡河中に撃滅するを良しとし、止むを得ざるも敵が堅固なる據點を占領せざるに先ち、これを撃破して河川に排擠するを適當とするのである。

配備の要領は次の通である。

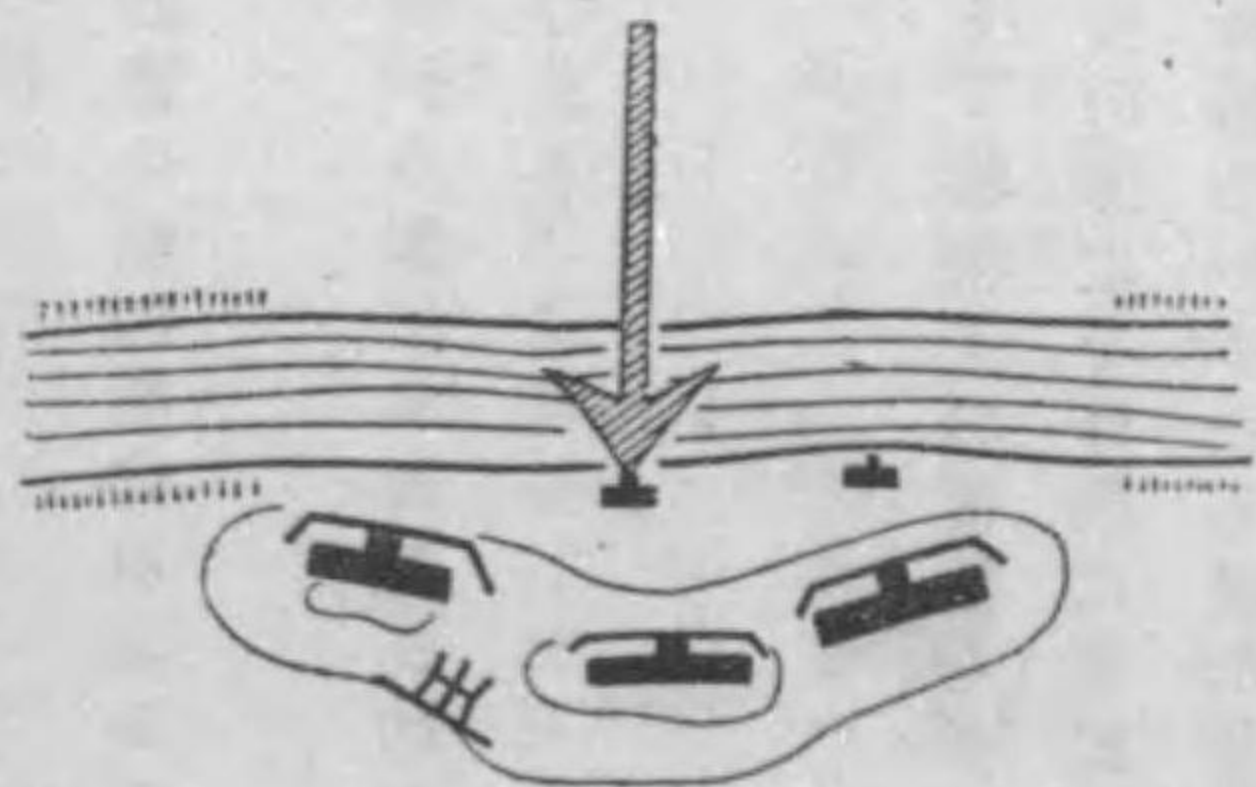
イ、敵が随意に渡河方面を選定し得る場合 この場合には豫想する各渡河點に所要の警戒部隊を配備し、主力はこれを集結して位置し、敵主力の渡河點を判定せばその方面に向つて攻勢に轉するのである。(この場合を後退配備と稱へる。これがため警戒部隊は敵の眞企圖を看破し、且つ我が主力の行動を容易ならしむるため通常眞面目

ロ、敵の渡河方面が地形上限定せられある場合 この場合には主力は最初から直接河川に沿ひて兵力を配置

の抵抗を爲すのである。又敵の陽動に欺かれざる注意が肝要である。(第二百五圖)



第二百五圖



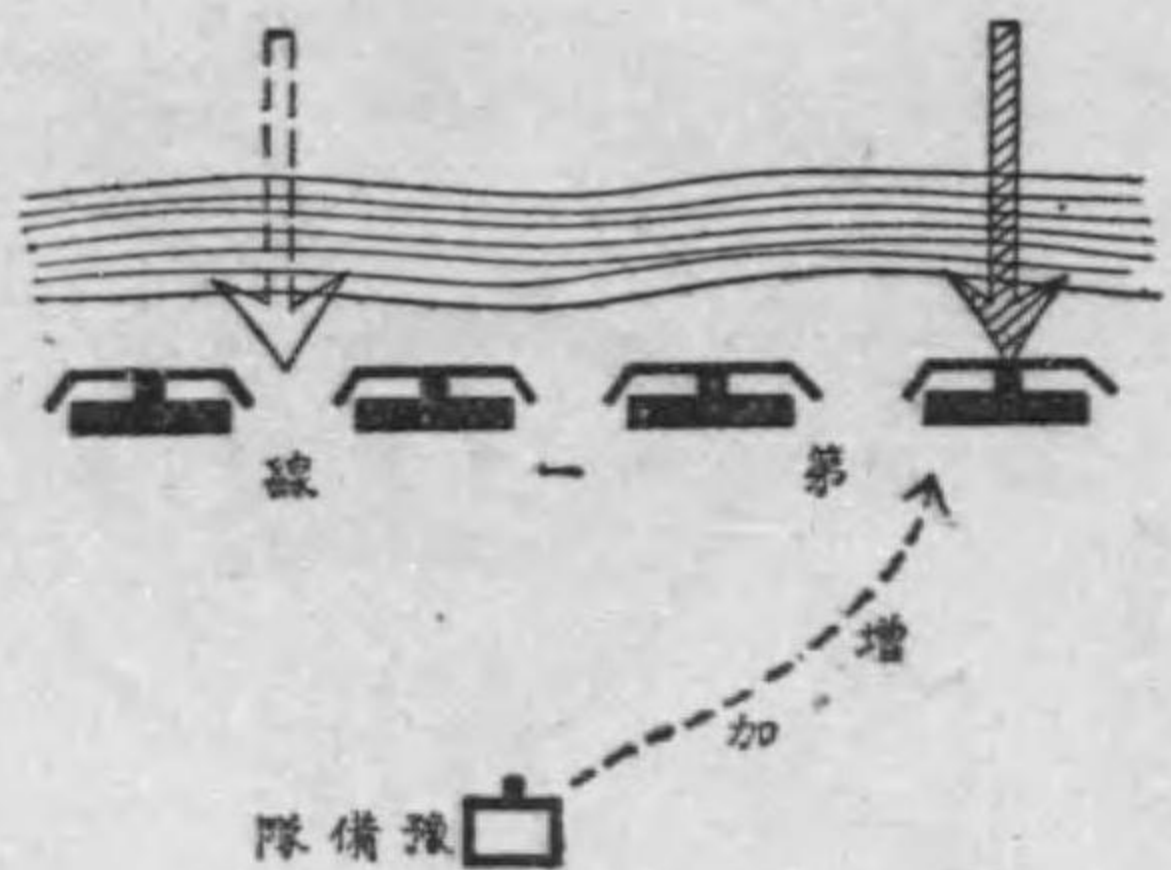
第二百六圖

するのである。これを直接配備といふ。(第二百六圖)

何れの場合を問はず河川防禦に於ては敵の主力の渡河方面を察知することは極めて困難であるから、我が攻勢の時機を失し易いものである。これがためには騎兵・航空機は勿論各種の搜索手段を盡し、又間諜住民等を利用して敵情を搜索することが大切である。

時間の餘裕を得んとする場合

河川攻撃



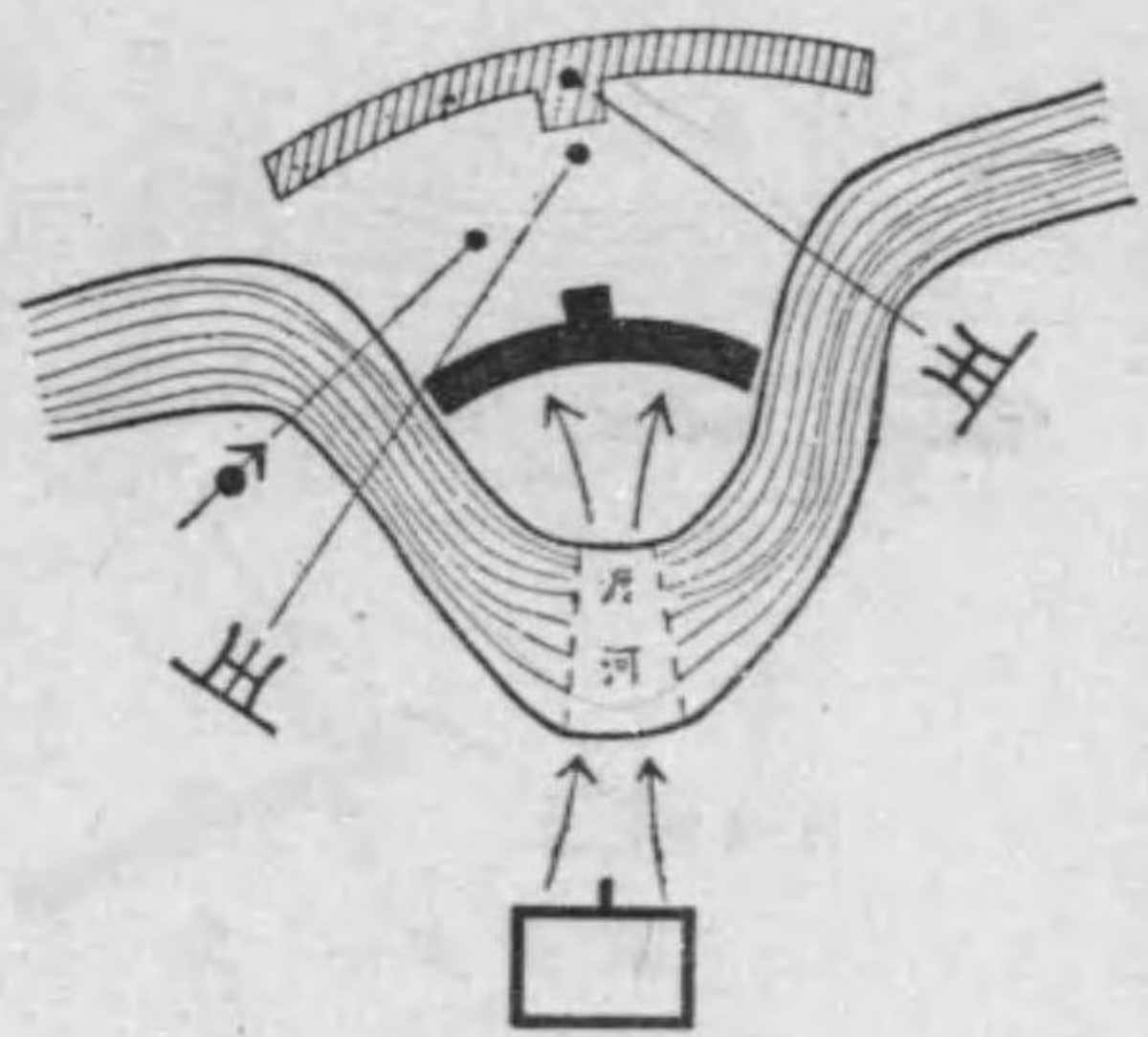
第二百七圖

(一) 時間の餘裕を得んとする場合 この場合には直接河川に沿ひて兵力を配置し河川の障壁を利用して極力敵の渡河を妨害するのである。(第二百七圖)

【河川攻撃】 敵前に於て渡河を行ふには敵の意表に出づることが最も肝要である。これがためには諸種の手段を盡して敵情を明かにすると共に我が企圖を秘匿するに勉めねばならぬ。即ち速に我が岸に在る敵を驅逐し、廣正面に亘り小部隊を以て河岸を占領し敵の搜索を妨害し、且つ軍隊の行動を慎重にする必要がある。

渡河點は適當なる渡河正面を有し、渡河動作及び渡河後の戦闘容易なる地點でな

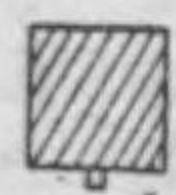
渡河の爲軍隊の部署



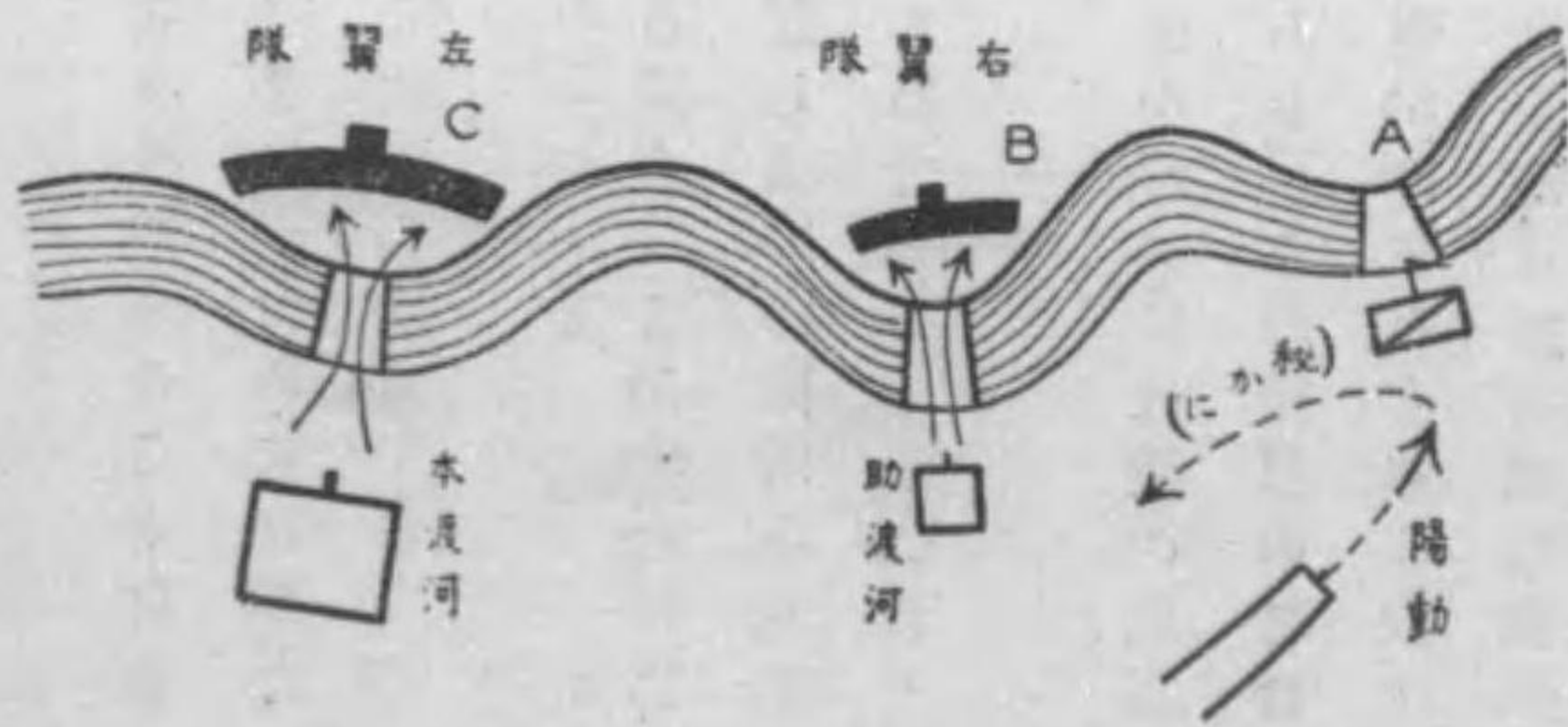
第 二 百 八 十 二 圖

【渡河の爲軍隊の部署】 渡河のためには全隊を以て一點から渡河することなく、通常一部を以て助渡河を行ひ、又要すれば陽動により敵を欺騙するのである。助渡河及び陽動河點は成るべく眞渡河點と誤認せしめ得る地點に選定

ければならぬ。河川の兩岸が斷崖であるとか、又河岸附近に跋涉困難なる水田等があつては適當でない。第二百八圖の如く河川の我が方に彎曲せる地點は我が火力を集中し渡河部隊がその翼を委託するに便利であるから渡河點として適當である。

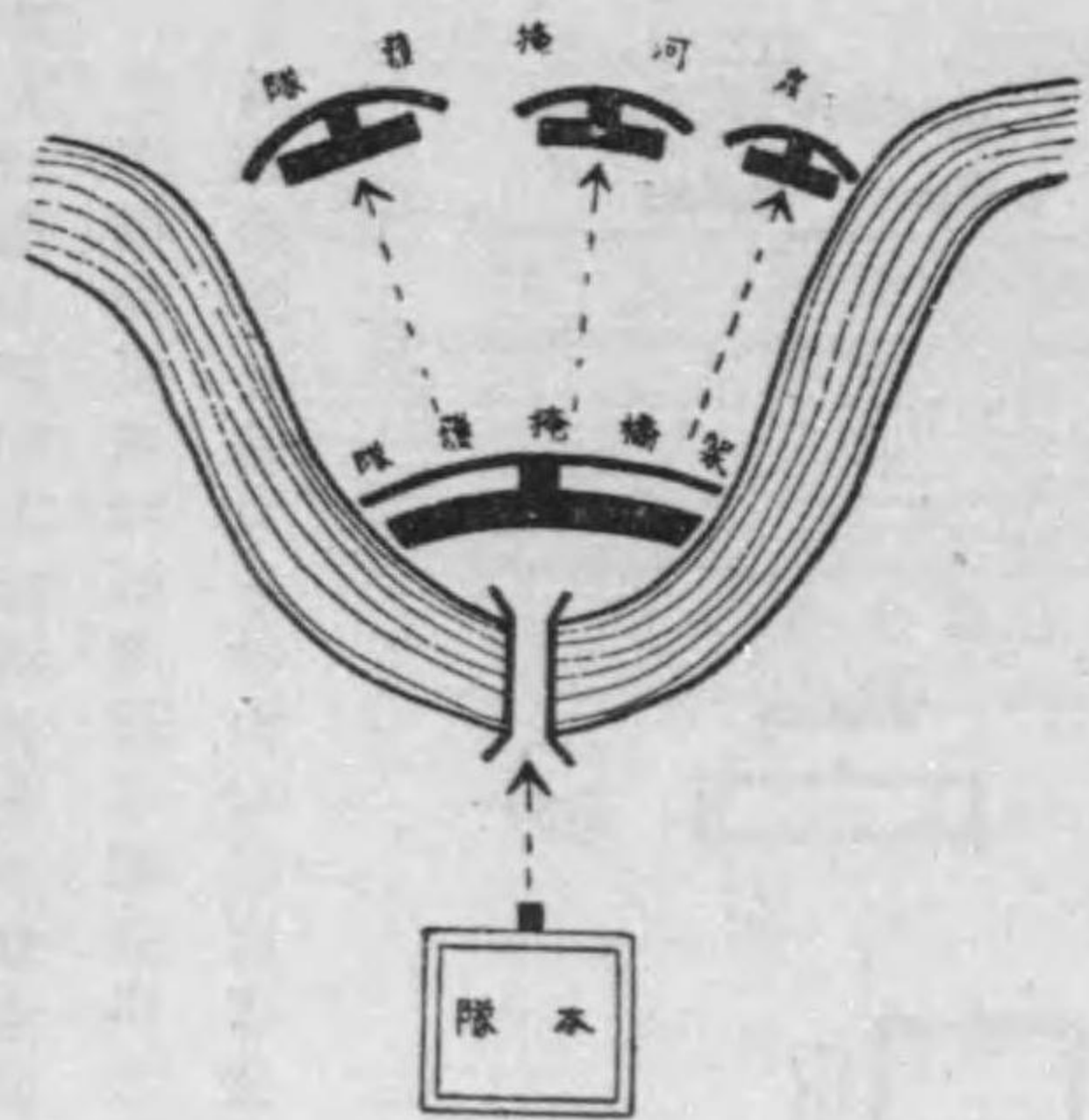


第 二 百 九 十 九 圖



我が方に彎曲せる地點は我が火力を集中し渡河部隊がその翼を委託するに便利であるから渡河點として適當である。

渡河方法の選擇



第 二 百 十 二 圖

し、渡河に關する動作も亦眞渡河點に於けるものと判別すること困難なる如く實施するが良い。即ち陽動及び助渡河は恰もその方面から主力が渡河を行ふかの如くに装ひ、敵をその方面に牽制することが出来れば主力の渡河は極めて容易となるものである。(第二百九圖)

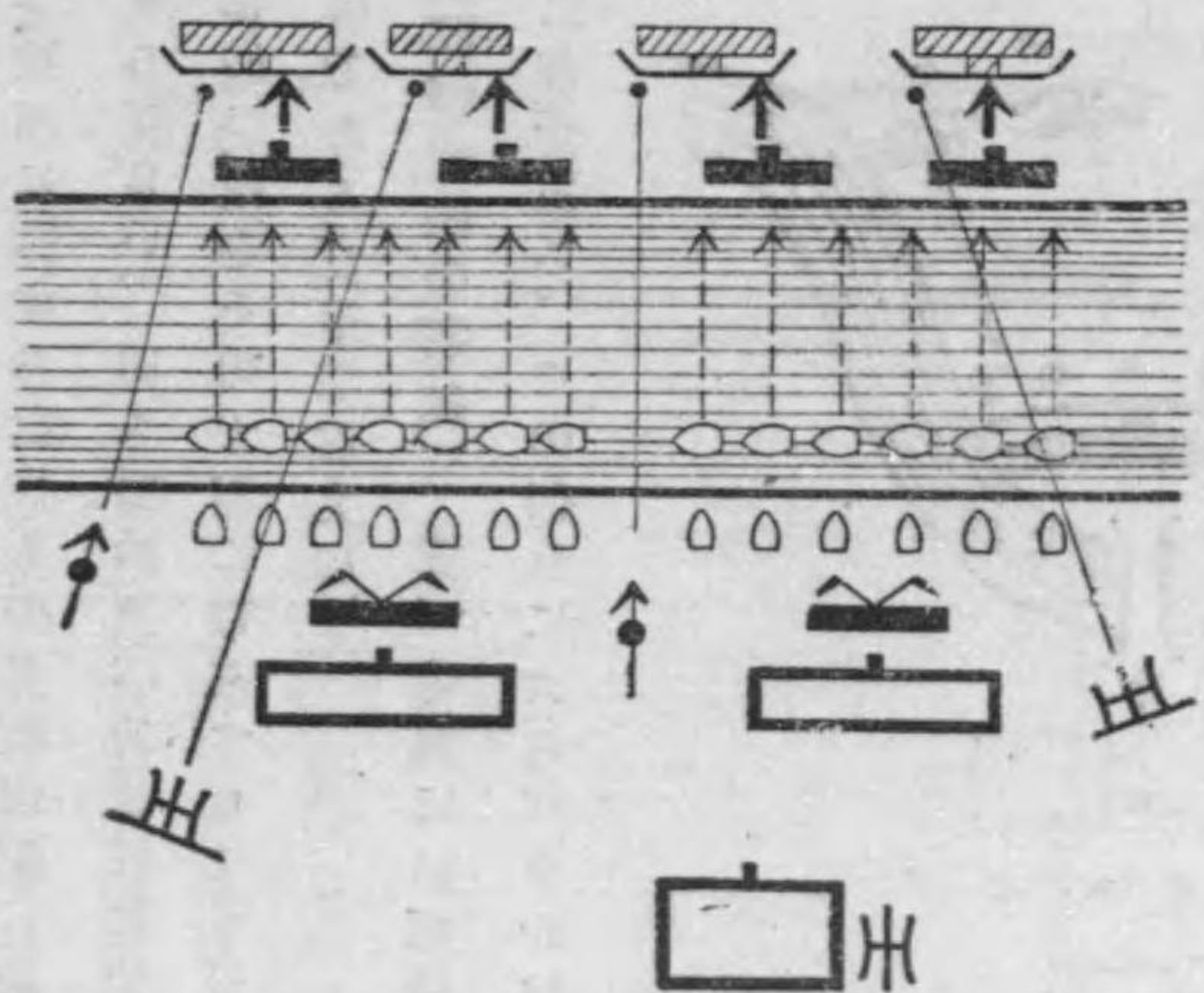
【渡河方法の選擇】 渡河の爲には架橋による場合と漕渡又は渡航による場合との二種がある。その何れによるべきかは主として敵情、渡河兵力、河川の景況並に渡河材料等により之を決するものである。

(イ) 架橋による場合 河幅大ならざる時にて敵情これを許せば架橋によつて渡河するを有利とする。

架橋は通常夜暗を利用して行ひ軍隊は拂曉までに大部の渡河を終らねばならぬ。

架橋に先ち舟筏により架橋掩護隊を渡河せしめ陣地を占領して架橋作業を掩護せしめ、又架橋中と雖も許す限

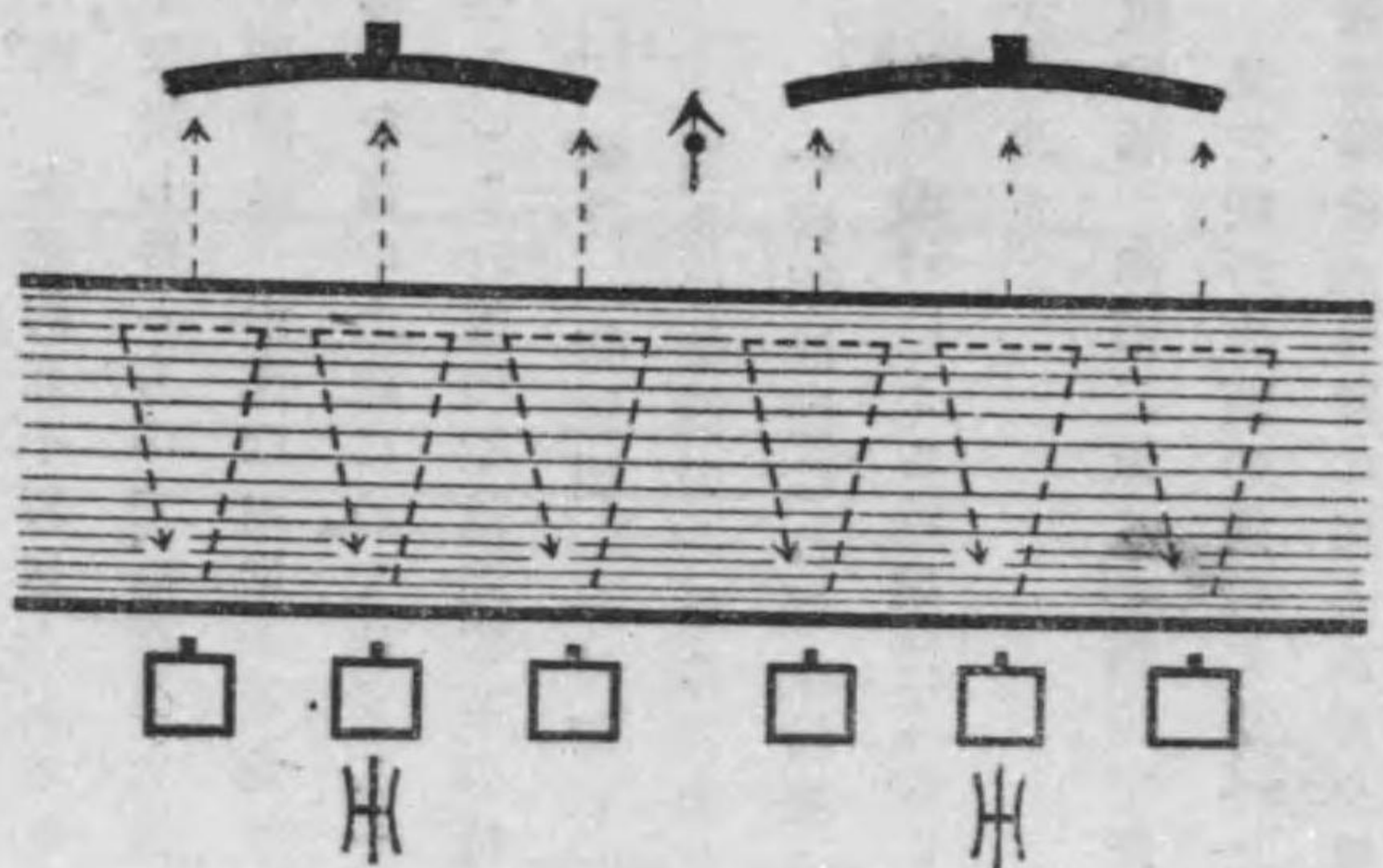
り舟筏を利用して渡河すべきものである。
架橋完了すれば本隊は直ちに渡河を開始するのであるが、本隊の渡河に先ち架橋掩護隊に兵力を増力して渡河掩護隊と爲し、本隊の渡河を掩護せしめるのが良
い。(第二百十圖)



河渡齊一圖一十百二第

(ロ) 漕渡又は渡航による場合 敵の抵抗を排除し渡河を強行する場合には最初架橋によることなく、先づ漕渡又は渡航によつて渡河するを通常とする。而して情況許すに至つたとき架橋を行ふのであるが、大河に在つては大部隊と雖も終始舟筏のみにて渡河を遂行せねばならぬことがある。漕渡は勉めて敵の意表に出づることが大切である。従つて多くは夜暗或は濃霧を利用するのであるが、敵兵堅固に河岸を占領せる場合には優勢な

架橋



河渡環循圖二十百二第

る歩砲兵を我が岸に配置し、適時敵の抵抗を制壓する必要がある。
渡河のためには掩護隊等を設けることなく通常戦闘部署を以て最初は一齊に成るべく多くの兵力を渡河せしめ(一齊渡河)其の後は、逐次舟筏を利用して軍隊を渡河せしめ(循環渡河)前岸に確乎たる地歩を占領し爾後の企圖に應ずるの姿勢に移るのである。
第二百十一圖は一齊渡河を、第二百十二圖は循環渡河の要領を示す。

附 渡河の要領

【架橋】 軍用の目的を以て架設したる橋梁を特に軍橋と稱へる。軍橋架設は主として工兵の任する所である。
軍用の架橋材料は分ちて架橋材料中隊の器材及び應用材料の二種とし敵前に於ては主として正式器材により、狀況切迫せざる時は應用材料によるを本則とする。

架柱橋
舟橋

架橋材料中隊の器材には架柱橋と舟橋とがある。その性能は次の通である。
 架柱橋 流速約一米五十種以上且つ水深二米以下にて河底の平坦堅固なる河川に適し通常河岸に近く使用せらるゝものである。
 舟橋 水深約五十種以上なるときは流速の大小及び河岸の性質如何に關せずこれを使用し得るもので、橋梁の大部は舟橋によりて架設せらるゝを通常とする。
 架橋は一岸又は兩岸から逐次に實施するを本則とするも、時として豫め橋梁の各部分を河の上流に於て組立て一齊に架設する場合がある。(これを一齊架設法と稱へる。)これ等の架設速度及び撤收速度は次の通である。

架設 架柱橋 一時間約三十米。

舟橋 一時間約四十米

撤收は架設の一倍半乃至二倍。

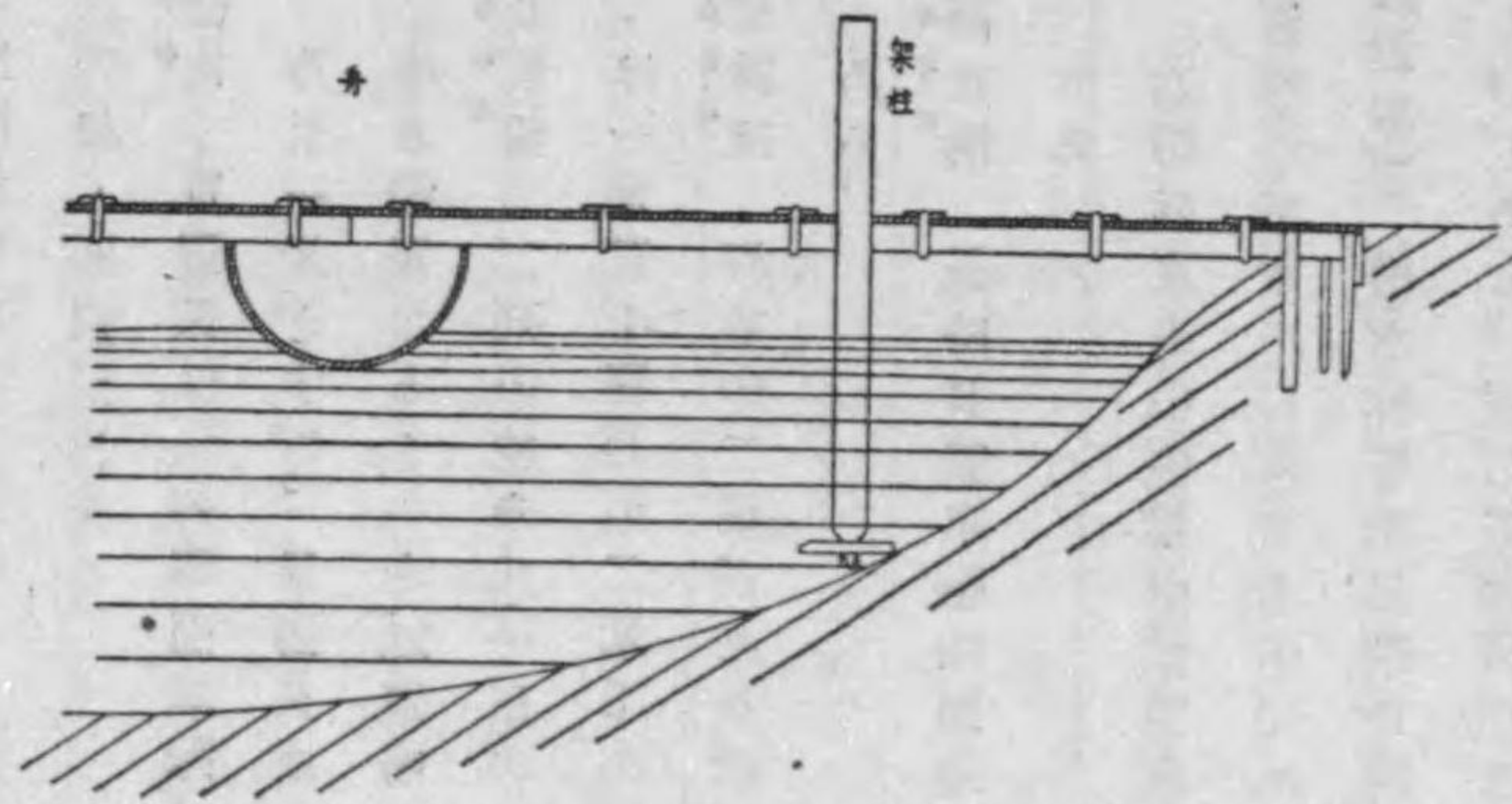
一齊架設法なれば全橋梁を架設約三十分撤收約二十分にて足る。

この器材による橋梁はこれに附與する抗力の程度によつて左の二種に分つことが出来る。

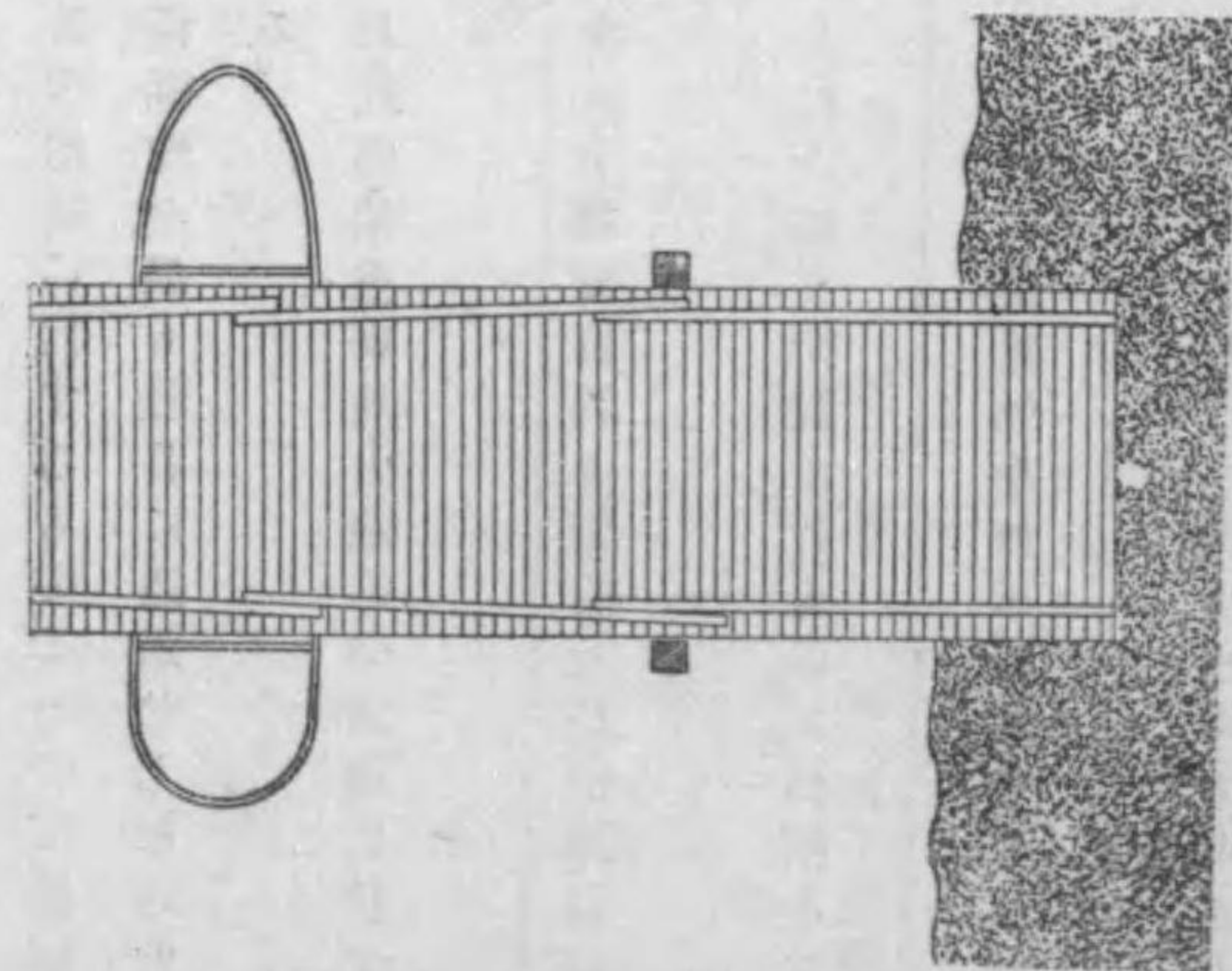
縦隊橋 橋幅二米八十種にて野戦重砲を有する野戦部隊の外一軸壓二噸以下全重量三噸の車輛の通過に堪へる。

強縦隊橋 前者に比し抗力を増大したるものにて概して四噸自動貨車及び之と同

等なる諸車輛の通過に堪へることが出来る。



第二百三十三圖 縱隊橋側面圖



第二百四十四圖 強縱隊橋

漕渡

應用材料による架橋とは舟・木材・樽・鉛・繩・綱等を利用して架設したるものであつて左の如く區別が出来る。

●**徒橋** 單獨又は一列側面縱隊の徒歩兵の通過に供するものであつて、橋幅は五十糎乃至一米とする。單獨又は一列側面縱隊を最も輕易に通過せしむるために架設する簡單なるものを迅速橋と稱へる。

●**小橋** 二列の徒歩兵・一伍の下馬騎兵・駄馬輜重車輛・山砲等の通過に供する。橋幅は一米五十糎乃至二米である。

●**縱隊橋** 輕重の二種があり橋巾は二米八十糎で目的は架橋材料中隊器材と同一である。

●**耐重橋** 長時日重車輛の通過に堪へしむる如く架設するもので橋幅を三米以上とする。

右の外在來の橋梁中強度弱きものはこれに耐重性を加へ破壊せられたるものは修理して軍用に供するのである。

【漕渡】 槽水棹等を用ひ舟筏を漕行するものであつて、補助渡河法中最も簡易なるものである。而して如何なる河川にも適用し、殊に同時に多數の軍隊を渡河せしめることが出来るから敵前の渡河に於て費用せられて居る。

漕渡に要する材料は架橋材料中隊器材又は應用材料による舟或は門橋（舟二艘を並べその上に板を敷けるもの）を利用する。徒歩兵のためには舟或は門橋を、馬及び車輛のためには平扁舟又は門橋を用ひる。門橋は漕行稍困難であるが人馬の乗卸容易なるの利がある。

漕航に要する時間の計算は概ね次の通である。

門	區		陸		流下距離恢復の爲
	舟	別	往	航	
橋	二	乘	往	航	分
	分	船	航	歸	分
馬車	三乃至	上	往歸共	一米を一秒	分
人	二四	陸	往航	一米を二秒	分
	分		歸航	一米を一秒	分

舟又は門橋の搭載力は次の通である。

●**舟** 徒歩兵二十八人

●**門橋** 徒歩兵四十人（山砲 一門 人十五馬四）

（騎兵 人五馬五）（野砲 一門 人六馬二）

漕渡のため河川の利用法は第二百十五圖の通である。

各渡場に對し幾何の舟を配當するかは河幅及び準備せる舟數によつて定まるものである。

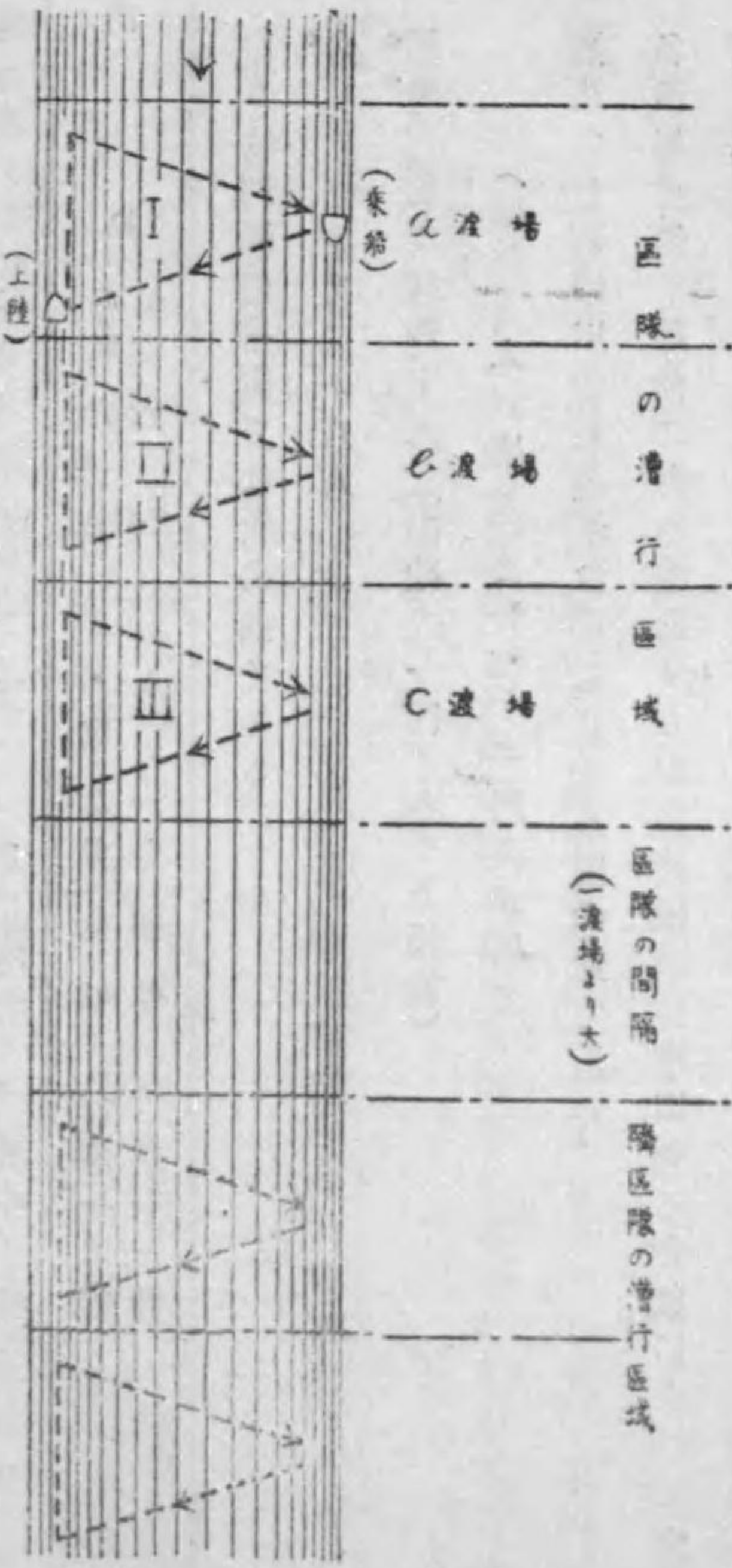


圖 五 十 百 二 第

補助渡河法

【補助渡河法】 補助渡河法には繫留滑網渡及び繰網渡の三種がある。繫留渡は強網等を上流に繋ぎ流速を利用して兩岸を往復するもの(第二百十六圖)滑網渡は流速によりて兩岸を往復するもの(第二百十七圖)繰網渡は兩岸に引渡せる張網を手繰りて舟或は門橋を導くものである。

徒渉

【徒渉】 徒渉場を偵察するには地圖により、或は住民に質し、又は河川の景況兩岸の轍痕及び人馬の足跡等によりこれを推定し、尙偵察者自ら徒渉し、或は舟筏により質

査せねばならぬ。徒渉場の偵察に際し偵知すべき事項は、
 (一) 徒渉場の數及其の幅員。
 (二) 徒渉場に於ける水深河幅・流速・河底の性質・兩岸の景況・天候並に季節の交感(三) 工事の要否及其の程度等である。

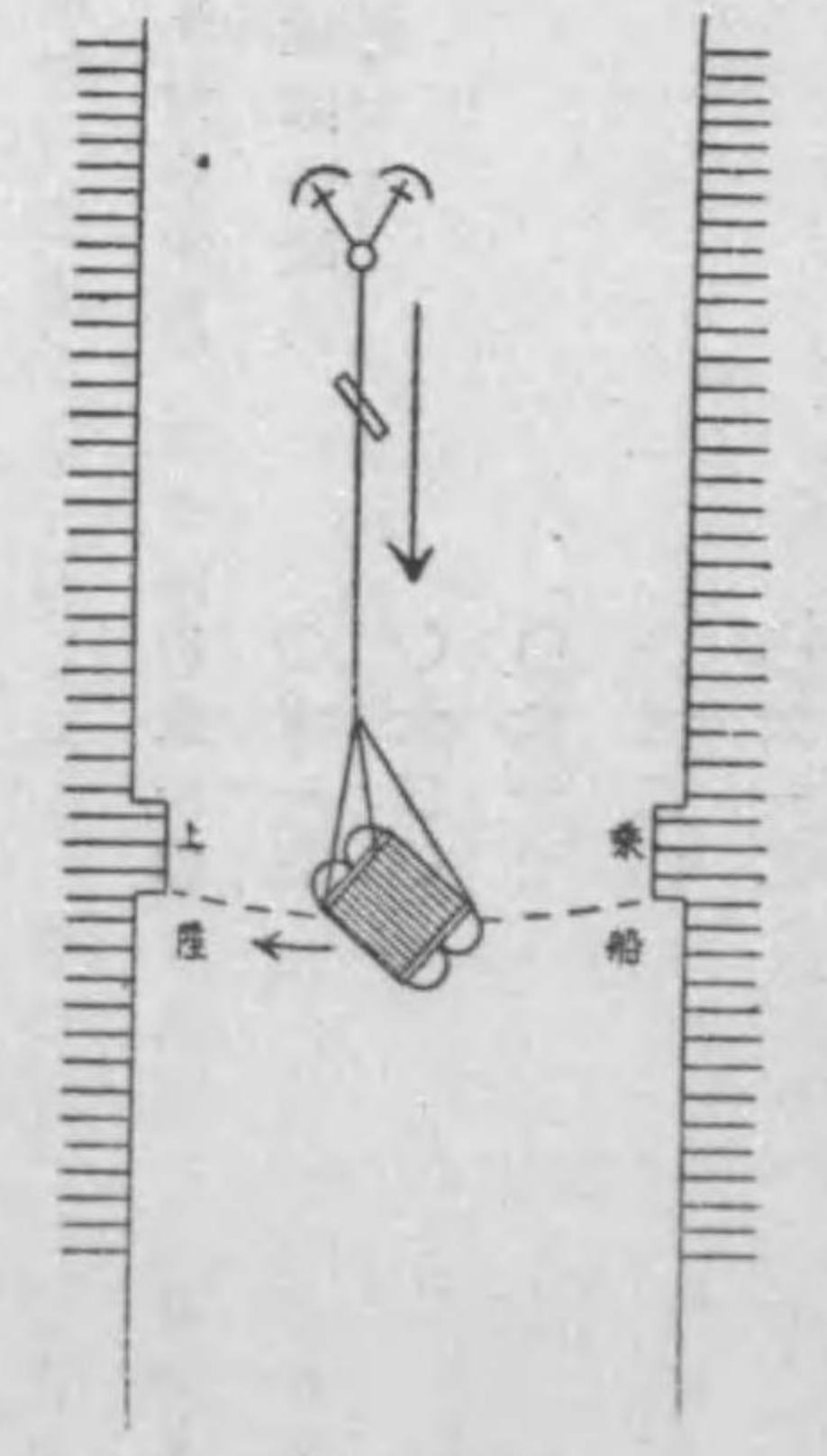
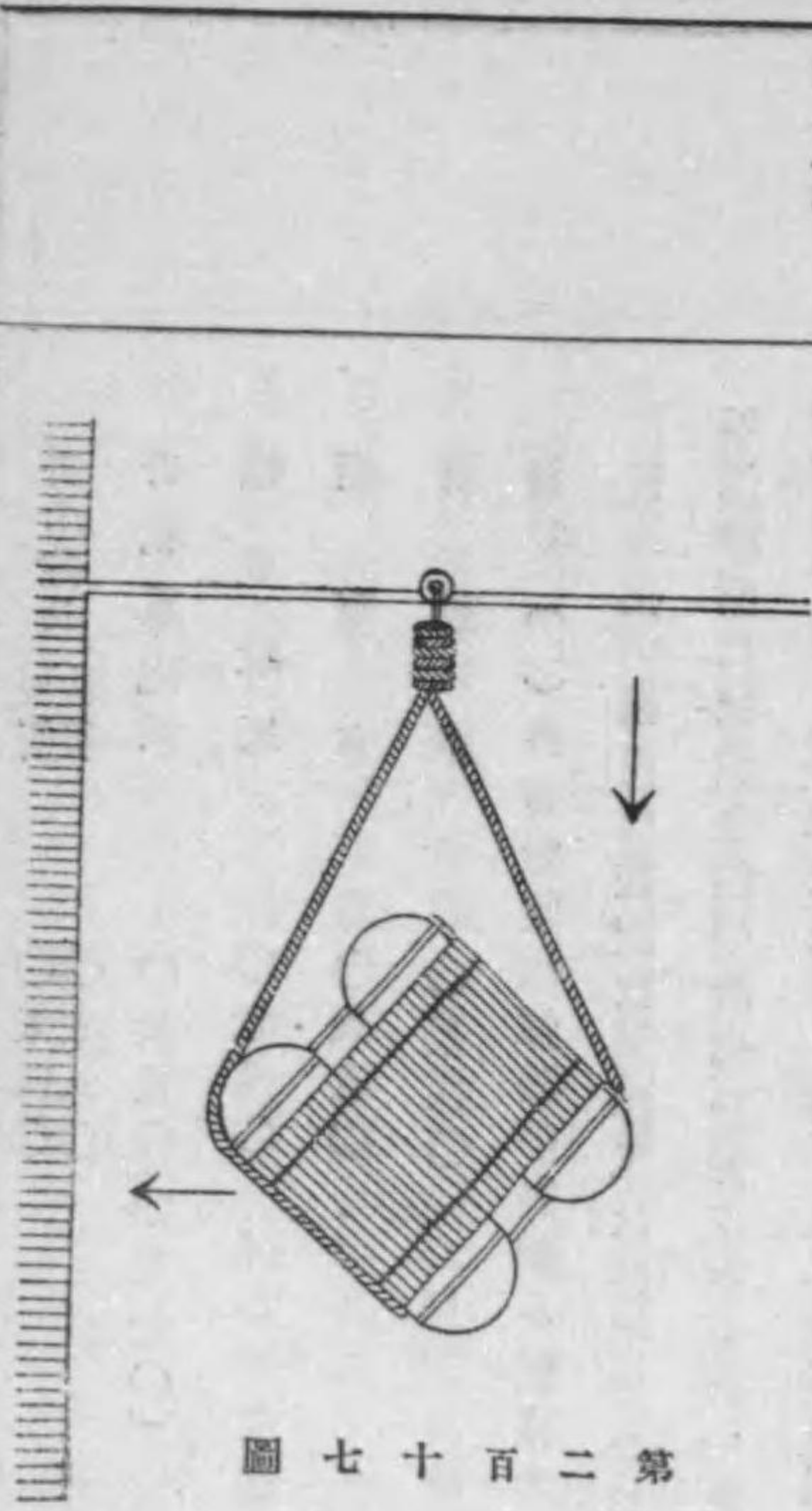


圖 六 十 百 二 第

徒渉場は流速一米以下で河底平坦堅硬なる時は、概ね左の水深に於て諸兵を通過せしむることが出来る。但し状況によりては尙大なる流速及び水深に於ても徒渉することがある。

- 徒歩兵 ○米八〇
- 騎兵 一米〇〇
- 野砲兵 ○米五〇(○米八〇)

圖 七 十 百 二 第



氷上通過

野山砲兵 <small>（繫載）</small>	〇米四〇〇
野戰重砲兵	〇米五〇〇（〇米七〇〇）
輜重駄馬	〇米八〇
輜重車	〇米五〇
自動車	〇米四〇
備考（）内の数字は彈藥の濕潤を顧慮せざる場合を示す。	
徒涉場の輜員は晝間は木桿又は浮標等を以て、夜間は燈火を以てこれを標示する	
外、徒涉場には尙各種の設備を要するものである。	
【氷上通過】 結氷は凍結十分で、且つ融解時ならざる時は、概ね左の氷厚なれば諸兵	
を通過せしむることが出来る。	
散兵その他間隔及び距離を開きたる歩兵	〇米一〇
四列側面縱隊の徒歩兵及二伍縱隊の騎兵	〇米一五
野砲兵	〇米二〇
山砲兵	〇米一七
野戰重砲兵	〇米三〇
一伍縱隊の駄馬	〇米一二

- 一伍縱隊の輜重車
- 三噸自動貨車
- 四噸自動貨車

- 〇米一六
- 〇米三〇
- 〇米四〇

（三）森林及住民地の戰闘

森林及び住民地は一般に運動及び通視が不便で指揮が困難である。然も戰場に散在する森林及び住民地は屢々戰闘の焦點となり、防者はこれを占領して堅固なる支撐點を作り、攻者はこれを利用して攻撃の據點と爲すことが出来る。

森林及び住民地は敵眼特に航空機に對し軍隊を遮蔽し得るの利があるが、敵の彈巢となり或は瓦斯及び爆彈攻撃の目標となり易きものである。

住民地が不燃燒の堅固なる物體より成るときは、敵の砲彈に對し掩護を與へその周邊は通常戰闘の焦點となり、内部に於ても頑強なる戰闘が惹起せらるゝものである。これに反し木造家屋は火災を起し易きを以て攻防共に單に後方部隊を陰蔽するため利用するに過ぎない。一般に住民地の内部に多數の軍隊を入るゝは避けねばならぬ。

森林及び住民地の戰闘に於て直接これが攻防に充つる兵力は成るべくこれを小

森林防禦の要領

にし且つこれ等局地外部の戦闘と連繋して目的の達成を圖るべきである。特に攻者は成るべく局地外に於て決戦を行ふことを勉めねばならぬ。これ森林は兵力を呑むものであつて、多兵と雖寡兵のために操縦せられ易いからである。

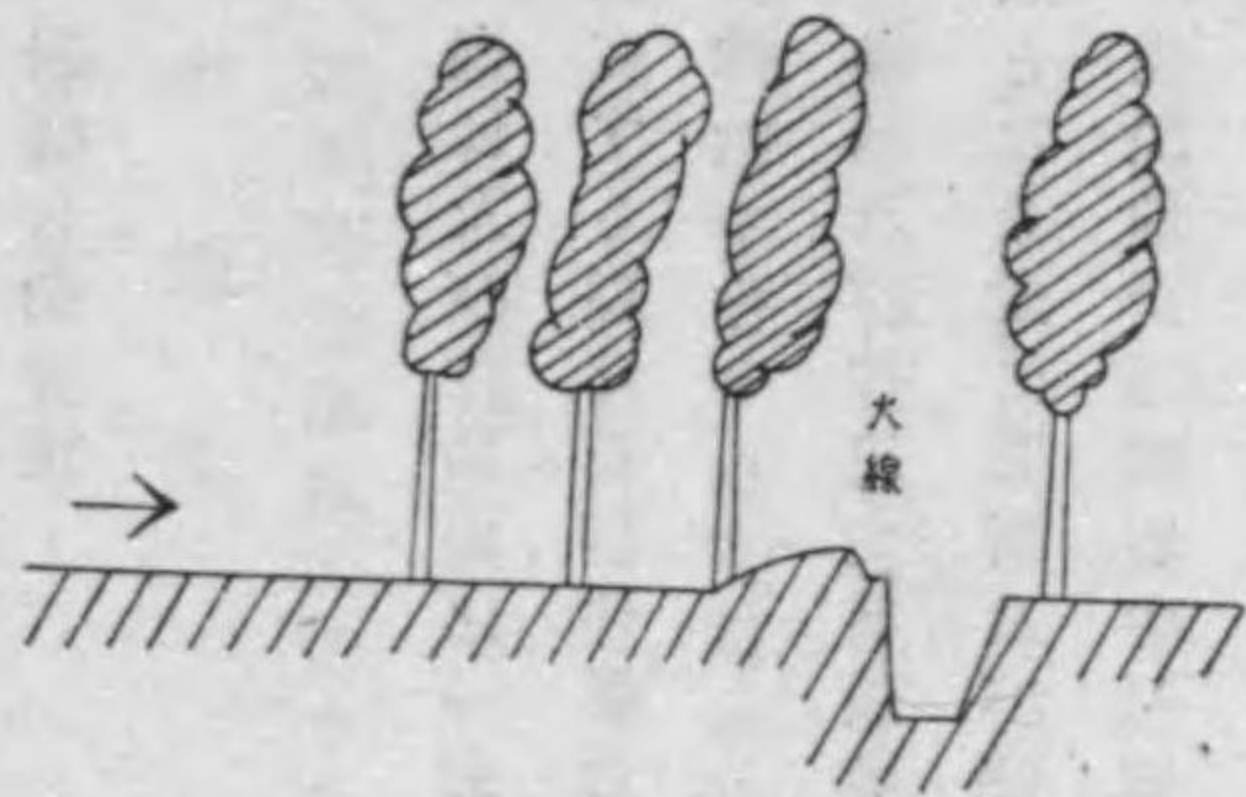


圖 八 十 百 二 第

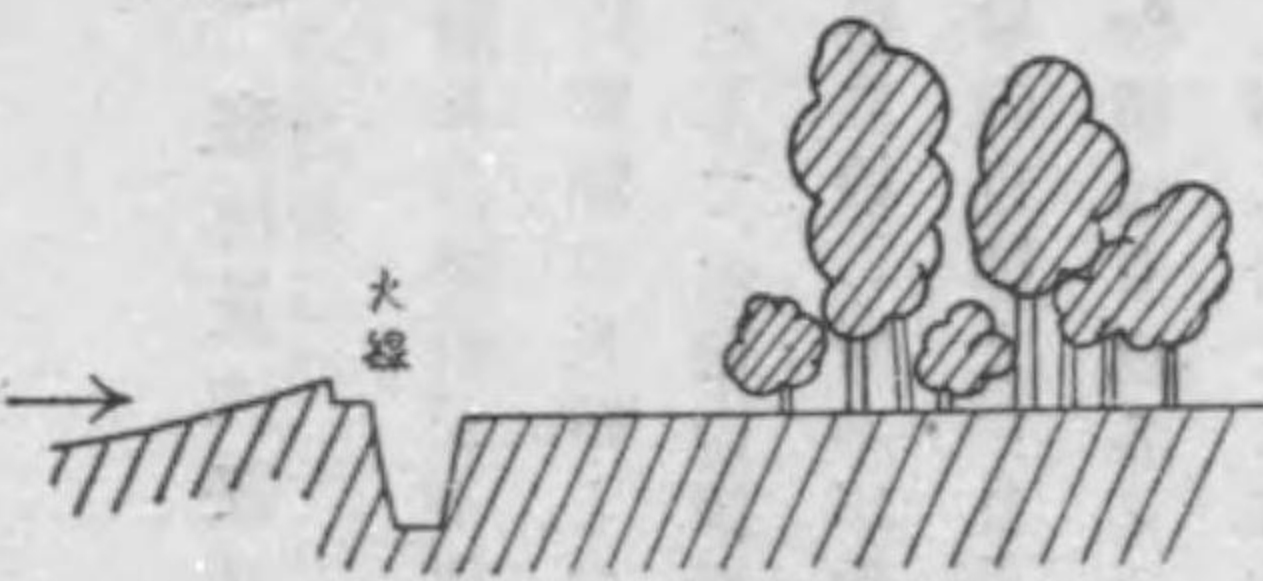


圖 九 十 百 二 第

敵の必ず通過する障碍線等を利用して各種の設備を行ふを適當とする。(第二百二十九圖参照)

【森林防禦の要領】 林縁は敵砲兵のため良好なる目標となるを以てこれを避け射撃を妨害せられざるを度として林縁の後方に火線を選定し(第二百十八圖参照)若し密林なれば火線は林縁の前方に設け、森林は後方部隊の蔭蔽に用ふるを通常とする。(第二百二十九圖参照)

森林はその縁端又は内部に防禦主線を設くる場合に於ても林空林道の交叉點若しくは

森林を占領せる敵に對する攻撃

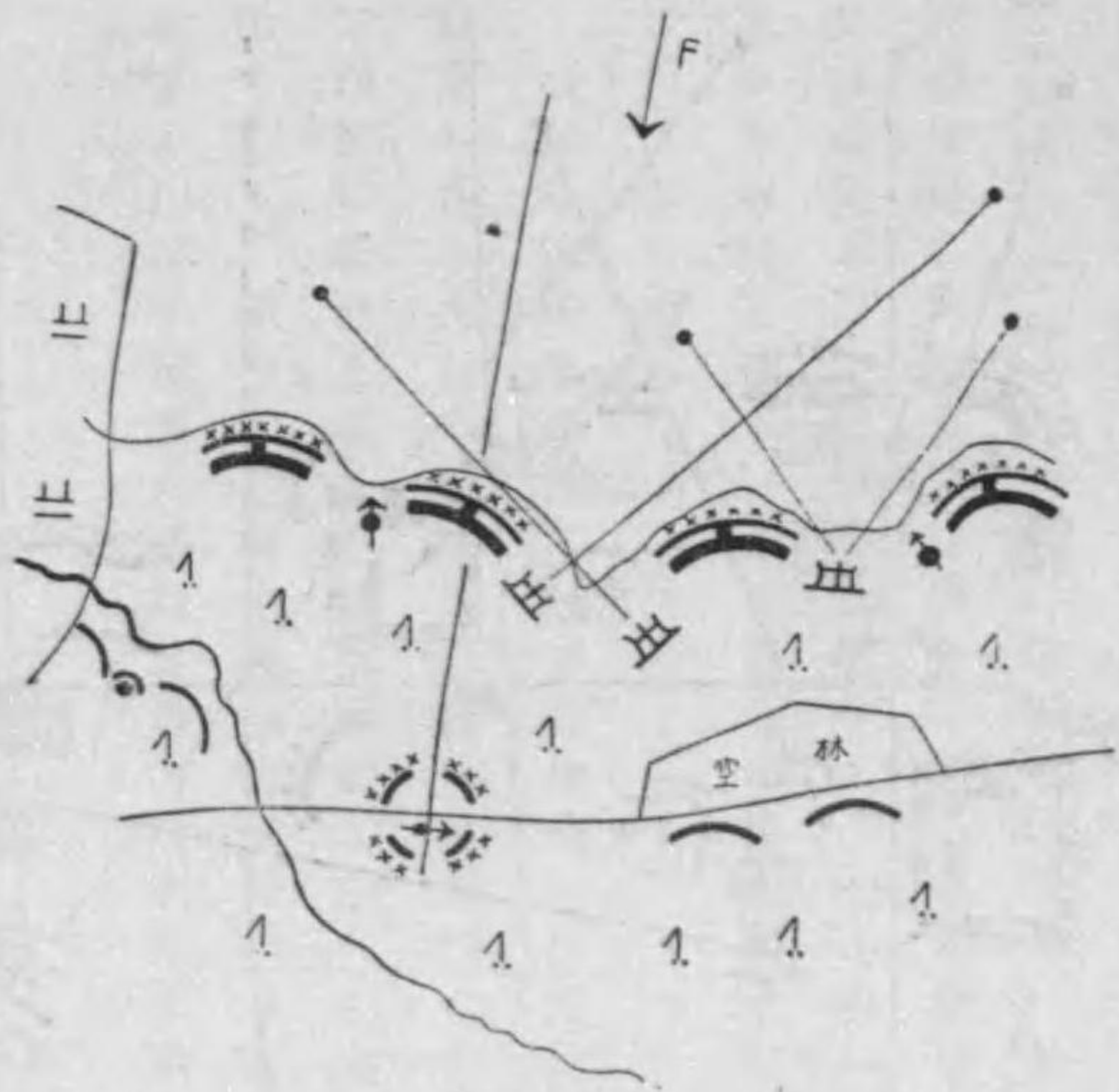


圖 十 二 百 二 第

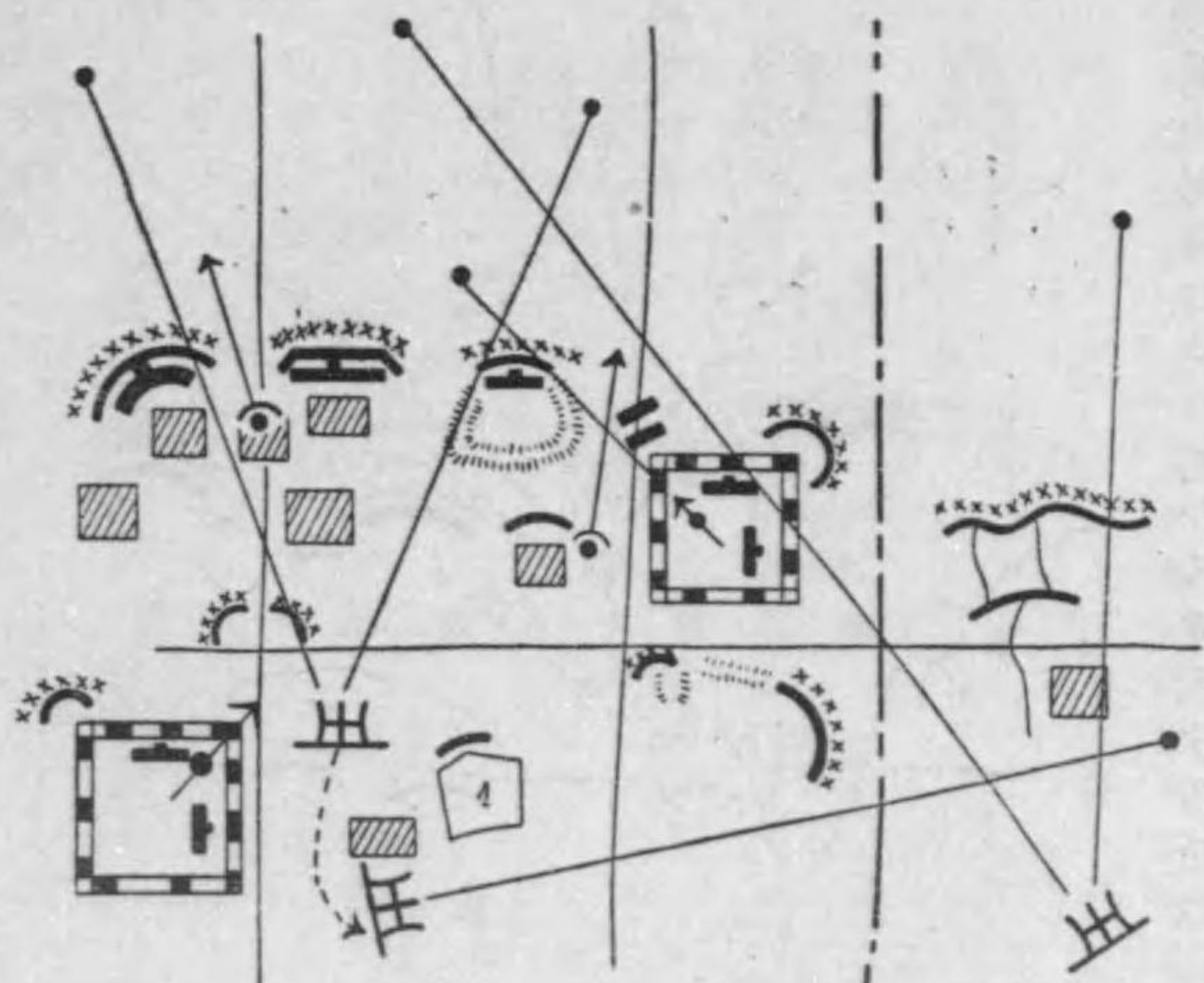
【森林を占領せる敵に對する攻撃】

- 1、小なる森林に占據せる敵の攻撃。歩兵は砲兵協同の下に主としてその外側地區からこれを包繞するを適當とする。而して森林に向ひし部隊が敵線を突破すれば一舉にその前端に突進すべきである。
- 2、大なる森林に占據せる敵の攻撃。

敵の配備なき方面から進入するを最良とするも、止むなくこれに向ふときは歩兵は砲兵と協力して森林内の敵の側防機關及び森林突角部を火制して突撃し、一度林縁に進ませば敵と觸接を失ふことなく、白兵戦に適當なる隊形を以て連繋を保ち(夜間攻撃に準ずる)森林の前端に到達することを勉むべきである。森林内に

住民地の防禦

ては方向を誤り或は敵の小部隊に誘致せられ易きを以て注意せねばならぬ。森林の前端に到達せば林縁進出に方り敵の逆襲特にその歩砲兵火の急襲を被らざるやう注意せねばならぬ。



第二百二十一圖

【住民地の防禦】 住民地に於ては圍壁及び家屋を利用して防禦編成を爲すのであつて陣地帯の前縁を住民地の縁端若しくは内部に選ぶ場合に在つても、單に該線を堅固にするのみでなく道路を阻絶し堅固なる家屋を占領して防禦設備を施す必要がある。又砲兵は比隣地區から側斜射を逞うする如く配置するを適當とする。上圖は住民地防禦編成の一例である。この際特に各部隊は消火の設備を嚴にし火災を防

住民地の攻撃

止する必要がある。

【住民地の攻撃】 一般に住民地の攻撃に於ては砲兵特に野戦重砲兵及び迫撃砲は突撃地區に向ひ火力を集中してこれを破壊し、又は火災を起さしむることを勉め、工兵は爆薬を以て圍壁を破壊する。此の際一部隊を以て住民地の外側から敵を攻撃するを有利とする。地下室を利用する敵に對しては爆破によつて掃蕩の目的を達せねばならぬ。

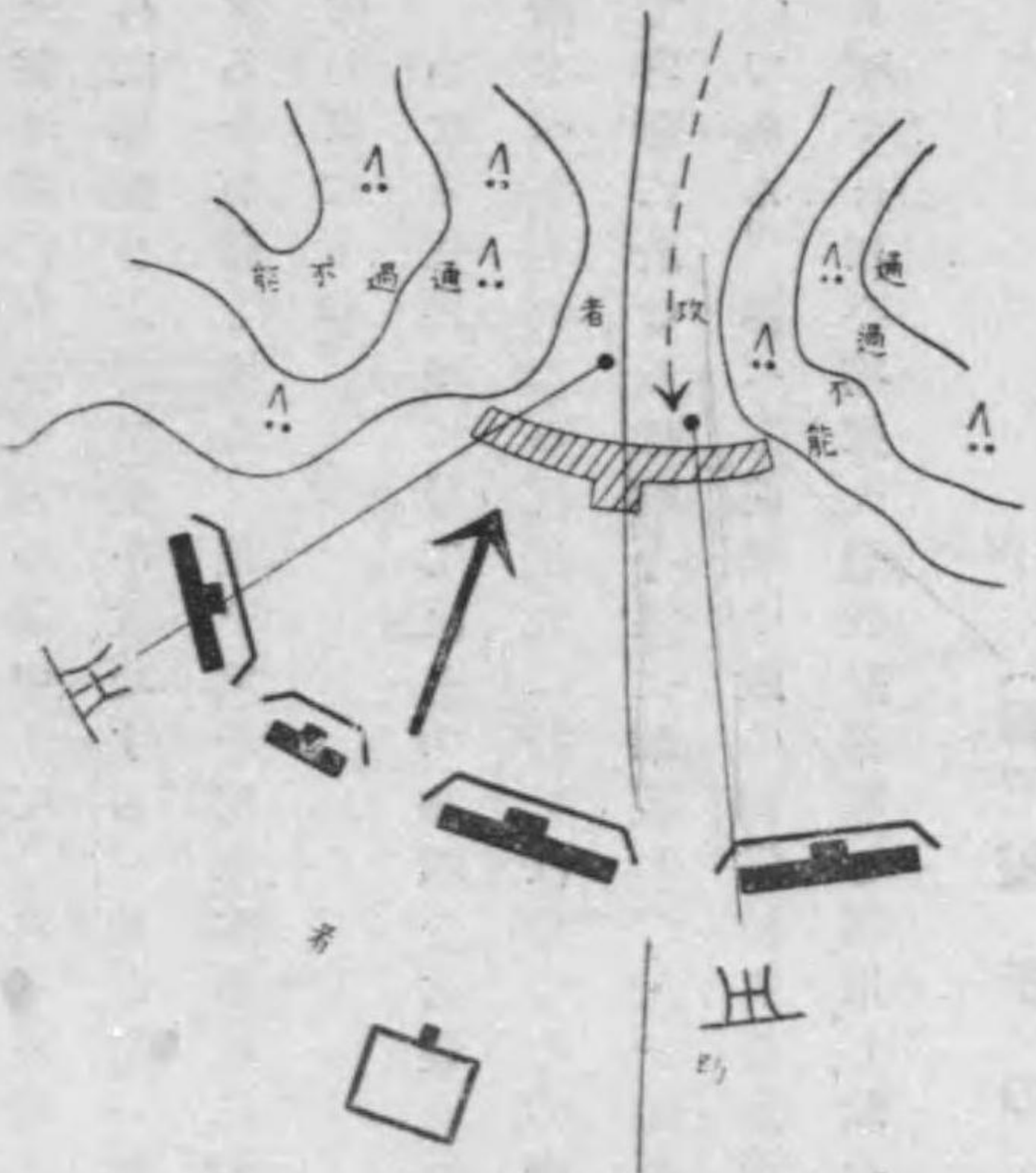
小なる住民地に於てはその縁端を占領せば敵に尾して前端に至るまで突進を繼續すべきも、大なる住民地に於ては先づその縁端を占領したる後速に隊伍を整へ、次で内部に於ける抵抗を逐次撃破しつゝ、一地區から他の地區に向ひ攻略を進めるものである。總べて前進中敵の尙保持する家屋あれば一部隊を残してこれに向はしめ、要すれば手榴弾・火焰放射器等を利用し敵を掃蕩すべきである。

(四) 隘路の戰闘

隘路とは作戰路の側方が通過困難なる地形をいふのであつて、その附近に於て起る戰闘は又特殊の性質を有するのである。隘路の特性は主としてその長短・廣狹及び兩側の地形如何によりて異なる。隘路を越えてする攻撃は一般に困難であるから

隘路を前方に防禦及びこれに對する攻撃

一部又は主力を以て他方面から迂回するを利とすることがある。
【隘路を前方にする防禦及びこれに對する攻撃】
(一) 後退配備の場合の攻防



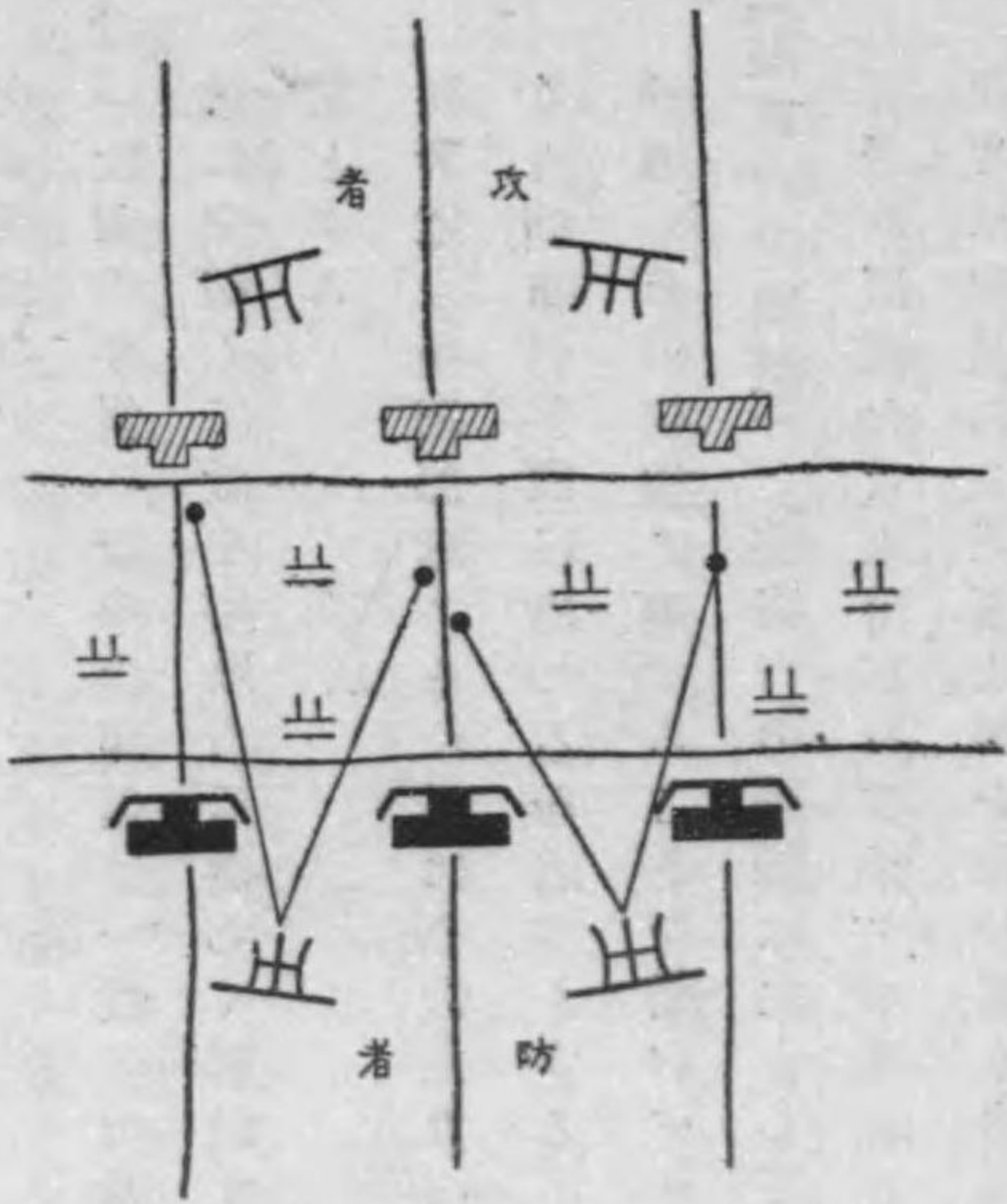
圖二百二十二第

防者軍に敵の進出を阻止する目的を存するとき隘路口に近接して配備するを通常とする。(直接配備)

防者決戦の目的を有するとき
は若干の餘地を存し隘路から
後退して配備し、敵の隘路進出
に乗じて攻勢に轉するのであ
る。(後退配備)
攻者に輕舉暴進を戒め逐次
據點を堅固に占領しつゝ、前方
に地歩を擴張し、全兵力の展開
を待ちて攻勢に出づるのであ
る。(第二百二十二圖)

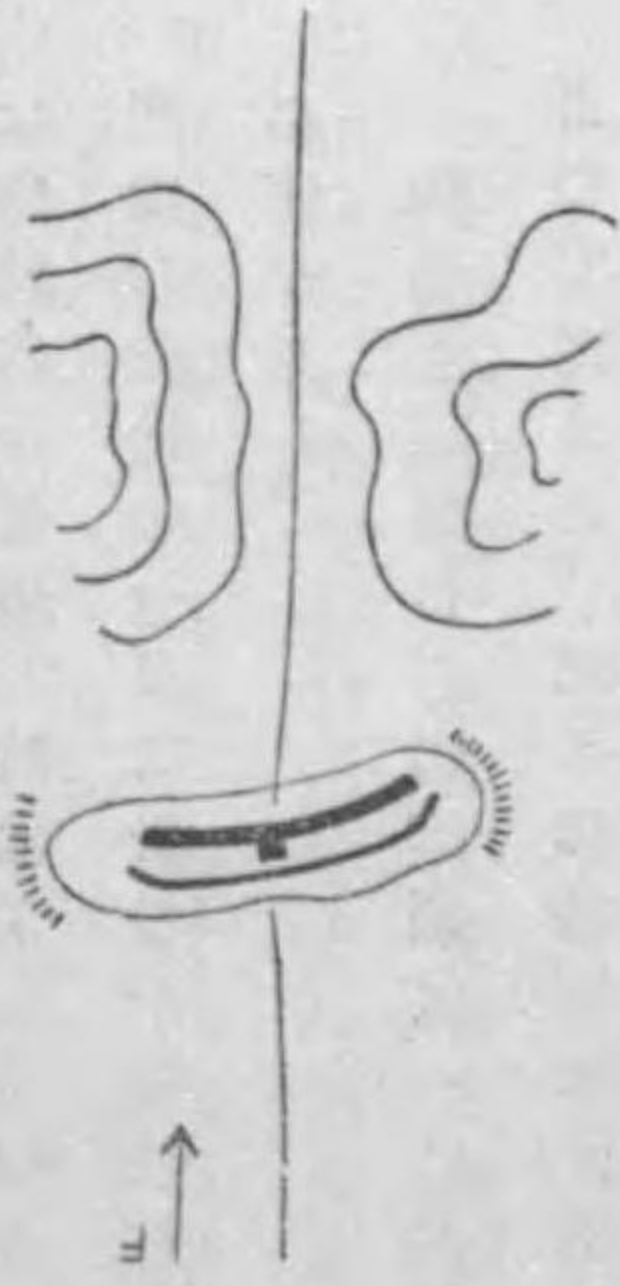
(二) 直接配備の場合の攻防

隘路を後方に對する防禦及びこれに對する攻撃



圖二百二十三第

路進出を掩護する場合又は主力の隘路を通過して行ふ退却を掩護せんとする場合に於て特に屢々起るものである。
陣地は敵の進路に正對するか(第二百二十四圖)若しくは側方に位置し(側面陣地第二百二十五圖)敵をして我が陣地の翼側から隘路口に迫り又



圖二百二十四第

攻者は所要の歩砲兵を展開し優勢なる火力を以て敵を壓倒し、その掩護下に強行通過を行ふのであつて、最初に隘路の前方に達したる部隊は適當の地點を堅固に準備して移續部隊の展開を掩護する。(第二百二十三圖)
【隘路を後方に對する防禦及びこれに對する攻撃】
(一) 防禦の要領 一部隊主力の隘



圖五十二百二第

は隘路内を射撃し能はざらしむる如く
配備し尙敵の包圍に對し十分注意する
必要がある。

陣地と隘路口との距離は一に狀況に
よつて定まる。即ち後續部隊がある場

合には陣地の後方に後續部隊進出展開の餘地を必要とするが、退却の場合にはその必要はない。

(二) 攻撃の要領 攻撃の要領は一般の攻撃要領に同じきも、敵陣地の一部を猛烈果敢に突破して敵を隘路内に劇しく壓迫するか、或はこれを隘路外に撃退するを適當とする。

防者近く後續部隊あるか又はその主力の退却中なるを知らば、攻撃は寧ろ巧遅よりも拙速の手段に出づるを適當とする。砲兵退却せばこれに尾して共に隘路を通過しその前端に達することを勉むべきである。

【隘路内の戦闘】 隘路内の戦闘は主として山間の隘路に生ずるものであるが、時として堤塘廣濶たる水田等を貫通する道路上に於て生ずることがある。

攻者は純然たる正面攻撃を避け、爲し得る限り隘路の側方を利用して迂回又は包

隘路内の戦闘

圍により攻撃を容易にすべきものである。然らざれば逐次の抵抗を受け攻撃に多くの時日を費すに至るであらう。

防者は比較的展望自在且つ射界廣濶にして、成るべく廣正面を以て敵に對し得べく其の上隘路外より攻撃せられず、然も敵の展開困難なる地點を占領するのが適當である。

第十節 要塞戰

戰爭の勝敗は主として野戰軍によりて決せらるゝものであつて、要塞戰の如何が戰爭の勝敗の決を定むるに至ることは極めて稀である。従つて要塞は野戰軍又は海軍の作戰を容易ならしむるを第一義とすべきである。されば攻防共に國軍の大部はこれを野戰軍に使用するを有利とし、要塞に用ふる兵力は最少限に節減すべきものである。

要塞の防禦は野戰に比し戦闘資材が永久的であり地形の利用が周密であるから攻防共に戦闘は概して長時日を要し、極めて悲惨なる戰況を現出するに至るを通常とする。日露戰爭に於ける旅順の攻守は正にその證左である。以下その攻防の要領を概説しよう。

要塞攻撃の方法

(一) 要塞攻撃

【要塞攻撃の方法】 要塞攻撃の方法には正攻撃と特種攻撃とがある。正攻撃は防備完全なる要塞に對する主なる攻撃法であつて、特種攻撃とは防備不完全なる要塞に對し簡略なる方法を用ひ一齊に攻略するを云ひ、特種攻撃は更に奇襲、強襲及び砲撃の三種に分ち攻撃に於てはその一法を用ひ、或はこれを併用するものである。

イ、奇襲 奇襲とは敵の不意に乘じ突然これを攻撃するをいひ、主として守兵怠慢、防備薄弱なる要塞又は堡壘等の攻撃に應用する。

ロ、強襲 強襲とは正攻撃に於ける戦闘の経過を省略短縮し優勢なる兵力を以て猛烈果敢に攻撃を強行するをいひ、主として防備薄弱なるか若しくは守兵の志氣著しく沮喪せる要塞に對して行ふものである。時として要塞の攻撃に長時日を使用するを得ず迅速に攻略するを必要とする場合に於て、往々多大の損害を顧みず強襲を敢行することがある。

ハ、砲撃 砲撃とは主として砲火の威力を以て守兵及び住民の心膽を奪ひ、これによりて開城を促すをいひ、主として要塞司令官の意志鞏固ならず、且つその性情輕薄にして動搖し易き多數の住民を有する要塞に對して行ふものである。

攻城軍の兵力及編組

攻城の準備

ニ、正攻撃 正攻撃とは十分なる準備と整然たる経過とにより要塞の防禦力を漸次減盡するものである。

以下正攻撃に就きて説明しよう。

【攻城軍の兵力及編組】 攻城軍の兵力を必要の最少限にすることは要塞戦の特色に鑑み當然のことである。通常野戦部隊に所要の攻城部隊(重砲兵、工兵等)及び特種部隊(鐵道、電信等)を附して編成する。古來攻城の實驗より得たる兵力の標準の一例は次の通である。

歩兵 本防禦線攻撃正面毎米六人 その他二人の割とす。(防者は毎米一人とす。)

攻城砲兵 守城砲兵の一倍半を必要とす。防者は毎吉米二十門を標準とするを以て攻城砲兵は三十門を必要とす。

【攻城の準備】 攻城の準備不完全にて急遽攻撃を開始するときは攻城の失敗を招く虞がある。故に勉めて周密なる準備を必要とする。

攻城の第一著手は要塞外に在る野戦軍を撃破し要塞との連絡を遮斷するか或はこれを要塞内に壓迫するに在る。敵の野戦軍を撃退すれば攻城軍は一乃至數縱隊となりて要塞に前進し、城外支隊を撃破し次で前進陣地に對する攻略を準備する。若しその前進陣地が本防禦線の支援十分ならざるときは速にこれを奪取し然らざ

本防禦線に對する攻撃

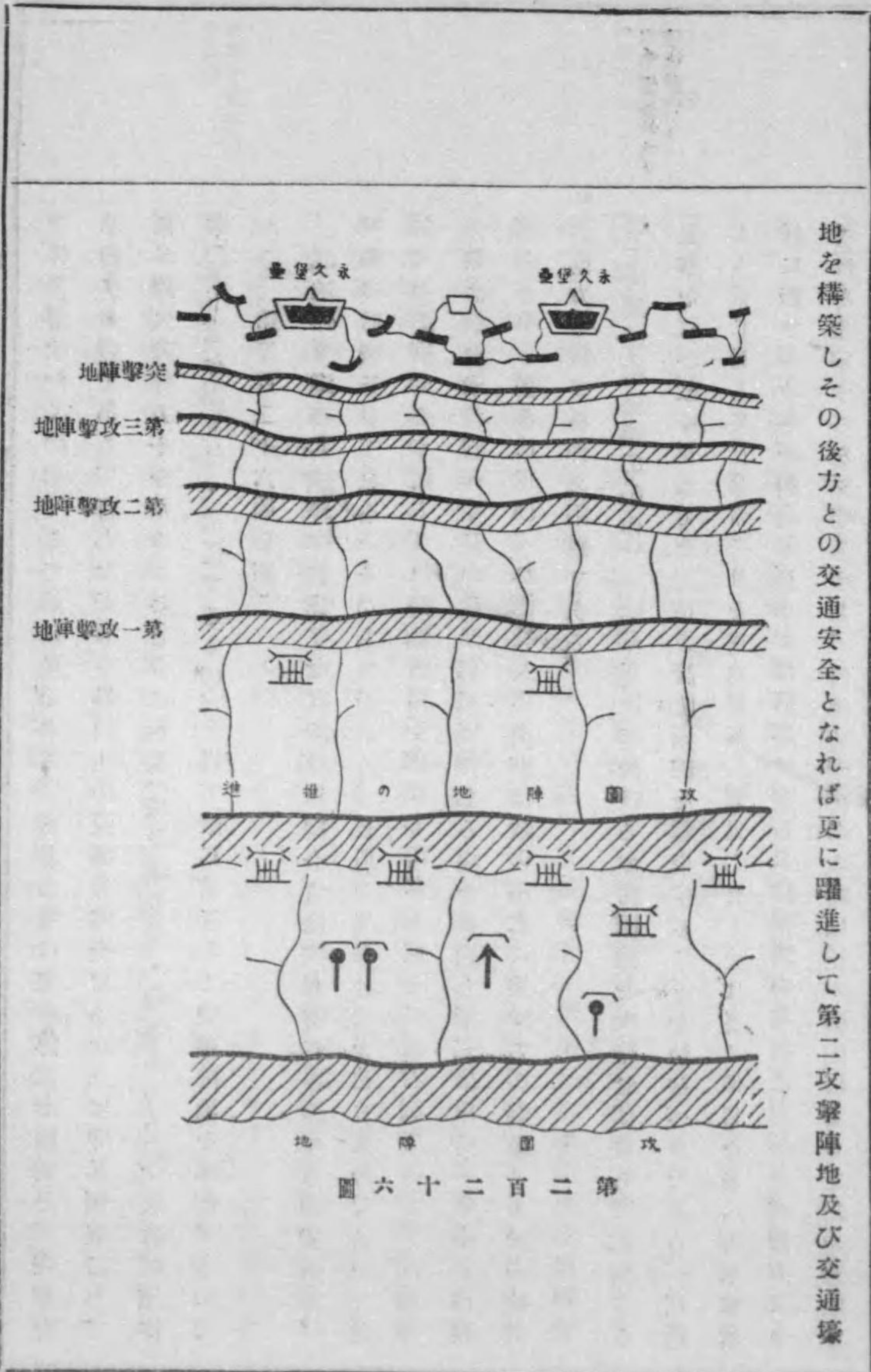
るときは後に述ぶる攻圍を行ひ攻城砲兵を招致したる後攻略するものである。攻圍とは要塞内外の交通連絡を遮斷し、我が動作を庇掩し且つ攻城の諸準備を掩護し敵の攻撃に對するをいひ、攻撃の第一歩として取るべき方法である。その陣地は敵砲火のため著しき損害を被らざる限り本防禦線に近く選定すべきである。

攻圍陣地はこれを若干の地區に分ち一地區に通常一師團を配當し師團地區は若干の小地區に分ち小地區には歩兵旅團若しくは聯隊を配屬し豫備隊を控置す。小地區は更に所要に應じ警備地區に區分し、地區の警備に任じ豫備隊を區分する。警備地區指揮官は部下軍隊を前哨と豫備隊とに區分する。

攻圍軍隊は偵察を續行し攻城軍司令官は攻城計畫を立案するのである。攻城計畫に於て最も重要なものは攻撃正面の決定である。通常要塞の一方面に選定しその正面の幅員は本防禦線に設くる少くも二乃至三個の支撐點堡壘及びその兩側地區を含有するを適當とする。計畫策定せば攻城部隊及攻城器材を招致する。

【本防禦線に對する攻撃】 攻城砲兵到達せばこれを展開せねばならぬ。これがためには通常攻圍陣地を推進しその掩護の下に砲兵を展開する。展開完了せば砲兵は一齊に射撃を開始し、敵砲兵を撲滅又は制壓し防禦設備を破壊し歩工兵の前進を援助する。歩工兵は通常薄暮を利用して前進し、成るべく敵に接近して第一攻撃陣

地を構築しその後方との交通安全となれば更に躍進して第二攻撃陣地及び交通壕



圖六十二百二第

を作り逐次かくの如くして敵に近迫する。而して遂に突撃陣地を構成して突撃を準備するのである。併しながら堡壘防止の設備の完全なるか又は守兵頑強にして我が砲火の效力十分ならざるときは對壕（壕を掘りつゝ、前進するもの）或は坑道作業（地下道を掘りつゝ、前進するもの）を以て敵に接近して突撃陣地を構築するのである。（第二百二十六圖参照）

近迫作業進捗し突撃準備完了せば攻城軍司令官は突撃實行を命ずるのである。突撃の時機に付ては各々その利害がある。晝間の突撃は我が砲火優勢であつて敵の火力萎靡せるか若しくは防禦設備を破壊し得たる場合には有利である。拂曉の突撃は敵火未だ衰へず且つ我が志氣優勢なる場合に適し薄暮は單に一堡壘を占領せんとする場合に用ひられ深夜及び濃霧は敵の不意に乗ずるの利あるも我が砲火の協力を缺き指揮又困難である。

【本防禦線攻略後の動作】 攻撃正面に於ける本防禦線を攻略せば直ちに猛烈なる追撃を行ひ敵に尾してその後方諸防禦線を奪取することを勉むべきである。精銳なる敵に對しては通常これを或地域外に撃退したる後は更に準備を整へ内部防禦線に對する攻撃を開始し、且つ未だ陥落せざる本防禦線の殘部に向ひ逐次側方よりこれを攻撃するを必要とする。内部防禦線の攻略は往々強襲によりて之を奪取す

本防禦線攻略後の動作

ることが出来る。敵は更に圍廓或は復廓に據つて抗戦するものであるが攻者は強襲によりてこれを奪取し要塞内部に突入しその死命を制すべきものである。

(二) 要塞の防禦

一般要領

【一般要領】 要塞の守兵は野戦軍の戦闘を有利ならしむることを第一義としてその行動を律せねばならぬ。従つて要塞が敵の攻撃を受けざるときは諸種の手段を盡して敵の行動及びその連絡線を脅威し、成るべく多くの兵力を抑留することを勉め敵の攻撃を受くるに至れば、一刻も長く抵抗を持続して敵に多くの損害を與へ要塞の戦闘力全減するまでこれを死守し野戦軍の作戦を容易ならしむるを要塞防禦の要訣とする。

要塞の抵抗力の如何は物質的堅否に關するよりは寧ろ守兵の志氣の如何に關するものである。

【要塞守備兵力及區分】

(イ) 要塞守備隊 要塞守備隊の兵力は爲し得る限りこれを減少すべきものであることは前に述べた通りである。

(ロ) 地區の區分 要塞の本防禦線にその内外の地域は地形に應じこれを扇形の數

要塞守備兵力及區分

地區に區分し、地區は要すれば更にこれを小地區に分つ。

(ハ) 軍隊區分 守備隊は通常地區守備隊、總豫備隊に分つ。

地區守備隊は通常歩兵、砲兵、工兵等より成り、陸正面に於ては左の如く區分す。

前哨 (陣地の直接警戒に任ず。)

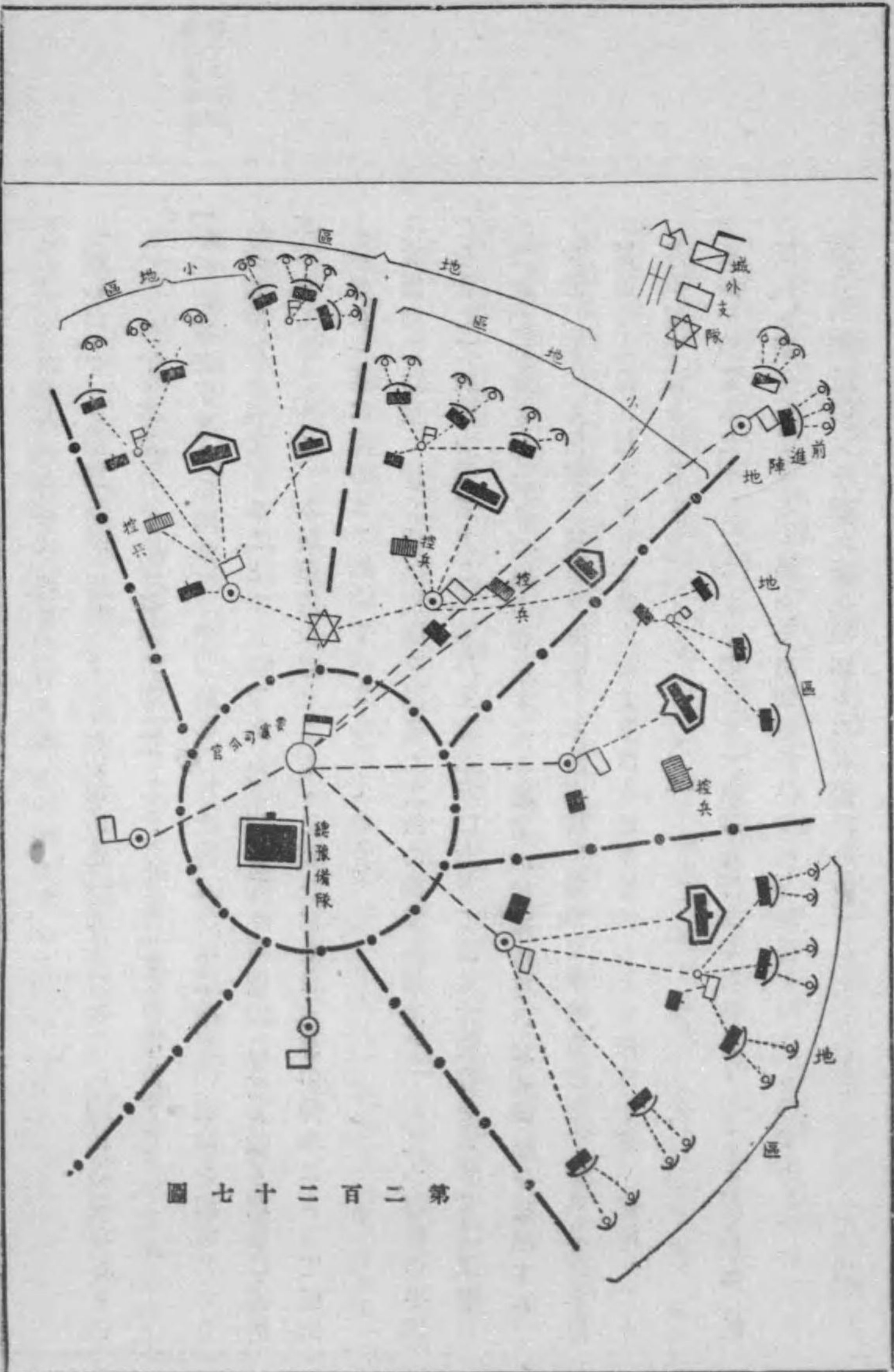
地區控兵 (本防禦線の後方に位置し、前哨と協力し第一に本防禦線の防禦に任ず。)

地區豫備隊 (地區の後方に位置し所要の時期まで休憩し逐次交代して勤務に服す。)

堡壘 (支撐點) 守備隊 (堡壘 (支撐點) の警戒防禦に任ず) 堡壘守備隊は衛兵、控兵及び豫備に分ち逐次交代して勤務に服し衛兵は堡壘の自衛警戒、控兵は敵の攻撃に方り第一に衛兵を援助す。通常歩兵、砲兵 (堡壘内に備砲あるとき) 工兵の小部隊及び照明、交通、通信機關等より成る。

中間地區 堡壘の中間地の守備に任ず。地區を小地區に分つ場合は小地區守備隊、中間地區守備隊、中間地區砲兵隊及び中間地區豫備隊に區分し、小地區守備隊は更に前哨、堡壘守備隊、控兵、衛兵に分つ。

總豫備隊 主として域外支隊 (戰鬪の初期に要塞外に於て野戰に任ずるもの)



圖七十二百二第

敵の正攻撃に
對する防禦

出撃又は地區の増援等に使用せらる。砲兵はこれを總豫備隊に編入す。その他の重砲兵も最初第一線に必要なものの外これを控置し敵の主攻撃方面決定したるときこれを配備する。

【敵の正攻撃に對する防禦】 先づ敵の近接攻圍及び攻城砲兵の展開を妨害してその攻撃開始を遅延することが大切である。而して本防禦線に於て最も頑強に抵抗すべきものである。本防禦線攻略せらるゝに至れば更に内部の陣地によりて抵抗し最後の一兵に至るまで死守すべきものである。

1、攻圍前の防禦 遠く城外支隊を派遣して敵の前進を遲滞せしめ、且つ諸種の手段を盡して敵情を搜索する。城外支隊退却に方りては地方物資を燒却又は運搬して敵の利用を妨げ且つ敵の利用すべき鐵道水路電線等の交通機關を破壊する。

2、攻圍に對する防禦 城外支隊既に本防禦線に退却せば前進陣地の守兵及び本防禦線の火砲は相協力して敵の前進及び攻圍を妨害しその陣地を遠く離隔せしめ又攻城準備を擾亂する。

攻圍の設備未だ十分ならざる際には大出撃を行ふを有利とすることがある。敵既に攻圍を完了するも屢々小出撃を行ひこれを騷擾すべきものである。尙この際敵の主攻撃正面を偵知する必要がある。

3、本防禦線の攻撃に對する防禦 防者は敵の主攻撃正面を偵知すれば、これに應ずる如くその方面の防禦を完備せねばならぬ。これがため非主戰圍方面の火砲及び守兵の大部又は一部時としては總豫備隊の一部をもこの方面に増加して兵力の優勢を圖り屢々出撃を行ひ、敵をして地中前進の餘儀なきに至らしむべきものである。

攻城重砲兵の展開準備を發見すれば本防禦線の砲兵はこれを猛射し、敵兵射撃を開始するに至れば豫定の計畫に基きてこれを制壓することを勉める。

4、歩工兵の攻撃並に近迫作業に對する防禦 敵兵暴露して前進すればこれに猛火を集中する。若し攻撃作業を開始するを見れば極力その進捗を妨害し敵をして對壕作業(壕を構築しつゝ、接近する法)により歩々接近するの己むを得ざるに至らしめる。歩兵はこの際屢々小出撃を行ひ敵の作業を妨害する。

防者若し對坑道(地中に坑道を設け攻者の前進を妨害するもの)の設備あるときは攻者は地中前進を行ふの己むなきに至り、茲に地中戦を惹起するのである。

5、突撃に對する防禦 防者は敵情を監察し障礙物の破壊を妨げ若しくはこれを新設、補修し適宜後方部隊を前線に招致して敵の突撃に備へ、若し突撃を行へばその全火力と爆薬及び白刃を以てこれを撃退し、斷乎としてその堡壘を固守するのである。

特殊攻撃に對する防禦

ある。

既にして敵兵胸牆の一部を占領せばこれを包圍する如く逆襲を行ひ極力堡壘外に驅逐すべきである。若し己むを得ざるときは堡壘の内部或は咽喉部（堡壘の後端入口附近）附近を死守して友軍の逆襲を待たねばならぬ。

6. 本防禦線の内方に於ける防禦 内部防禦線は平時より豫め構築せるものではない。敵の主攻撃正面決定後にその編成に著手するのである。

本防禦線の一部敵のため突撃せられこれが回復の望なきときには内部防禦線及び未だ陥落せざる本防禦線の堡壘砲臺等によりて頑強なる抵抗を持続するものである。内部防禦線陥落後に於ては圍郭により圍郭陥落せば更に複郭によりて極力抵抗を行ふべきものである。

【特殊攻撃に對する防禦】

奇襲に對する防禦の要訣は警戒を嚴にするに在る。警備嚴なるときは如何なる要塞と雖も奇襲を撃退し得るものである。

強襲に對する防禦の要訣は警戒を嚴にし速に敵の攻撃正面を知りてこれに對抗する防禦を完了するに在る。砲撃に對しては攻城砲兵の射撃を制壓しその被害を滅殺するに在る。これがため大出撃を行ひて敵の攻圍線並に攻城砲臺の築設

要旨

を妨害し敵に先ち優勢なる砲兵を展開し要塞砲兵の全部を擧げて敵砲兵を制壓することが第一である。

第十一節 給養

【要旨】 戦地に於ける人馬の給養並に糧秣の補充は用兵上重大なる任務であるがその實施は甚だ困難なるものである。併しながら作戰は戦闘が主であり給養はその戦闘を遺憾なく遂行せしむる一の手段であるから如何なる場合に於ても給養の不良補充の困難によつて軍の活動力を殺ぎこれがためその作戰を制肘するやうなことがあつてはならぬ。而して物資は成るべく戦地に現存するものを利用することを第一義とするのである。

給養の種類

【給養の種類】 戦地に於ける人馬の給養は左の方法によつて行ふものである。

1. 部隊の携行する糧秣（各自に携行するもの、大行李輻重に積載するもの。）による方法。
 2. 倉庫若しくは直接戦地に於て購買徴發したる糧秣による方法。
 3. 稀に舍主の供給する糧秣による方法。
- 【人馬一日分の尋常糧秣】 人馬一日の分尋常糧秣の定量は次表の通である。

人馬一日分の尋常糧秣

定携 量行	定完 量全	區分	
		人	馬
同右	六四〇瓦 (四合)	精米	乘馬 (行李輜重のものを除く)
同右	二〇〇瓦 (九合)	精麥	
同右	二〇〇瓦 (四合)	肉罐詰	行李輜重の鞍駄馬
同右	三三〇瓦 (三合)	食鹽	
同右	二〇〇瓦 (一合)	スエキ油	野菜 漬物 調味品
同右	三三〇瓦 (一合)	品	
同右	五三〇瓦 (五升)	大麥	行李輜重の鞍駄馬
同右	三三〇瓦 (一貫)	干草	
同右	三三〇瓦 (一貫)	菜	行李輜重の鞍駄馬
同右	三三〇瓦 (一貫)	大麥	
同右	三三〇瓦 (一貫)	干草	行李輜重の鞍駄馬
同右	三三〇瓦 (一貫)	菜	

本表の携行定量とは大行李に積載するものをいひ輜重のものも概ねこれに準ずる。

大行李糧秣

【大行李糧秣】 大行李に積載する糧秣は所屬部隊長自らこれを使用して部下の給養に充つるものである。

軍隊行動間には大行李糧秣を使用し、一地に駐留し倉庫から補充を受くる場合に於ては大行李糧秣を使用せざるを良しとする。これ大行李の定規糧秣は保存運搬に容易であるからである。

携帶糧秣

【携帶糧秣】 携帶糧秣は各自携帶する豫備糧秣であつて、人のものは携帶口糧と云ひ、馬のものは携帶馬糧と稱へる。

携帶糧秣は他に給養の方法なく已むを得ないとき部隊長責任を以てこれを使用するものであつて、各人が隨意にこれを使用すべきものでない。その數量は次の通りである。

携帶	區分	食	
		主	副
携帶口糧	(甲) 精米一日分 (乙) パン一日分	(六合)	罐詰肉
携帶馬糧	大麥二升五合(騎兵及び之を行動を共にするものは二升)とす	(一八〇瓦)	四〇瓦

携帶糧秣の完全定量に比し不足したる分は成るべく現地に於て調辨して支給せらるゝものである。

輜重に積載する糧秣

【輜重に積載する糧秣】 輜重に積載する糧秣は高級指揮官これを以て大行李糧秣の補充に使用するものである。

倉庫の糧秣による給養

【倉庫の糧秣による給養】 軍隊一地に駐留するときは高級指揮官は速に野戰倉庫を設け各部隊の給養を便にするものである。その糧秣は購買徴發(住民に賦課してこれを徴發するをいふ)により、若しくは後方から追送したるものである。

部隊直接に購買徴發せる糧秣に依る給養

【部隊直接に購買徴發せる糧秣による給養】 各部隊は高級指揮官の指示に基き或は自ら必要と認めたる場合直接地方糧秣を購買若しくは徴發して自らその給養を

舎主の供給する糧秣に依る給養

行ふことがある。遠く前方に派遣せられたる部隊特に騎兵等はこの給養による場合が多い。
【舎主の供給する糧秣による場合】 舎主の供給はその地方の状態及び舎主の如何によつて數量性質が異り軍隊の給養が公平を缺くの嫌がある。又地方慣用の常食が兵食に適せざることがあるから注意せねばならぬ。

第十二節 衛生

(一) 人の衛生

軍隊の衛生機關として各隊には軍醫看護長看護卒を屬し歩兵中隊には擔架術を修業したるものがある。その材料は小行李(兵種によつては大行李)段列等に携行する。その他後方機關としては衛生隊野戰病院野戰豫備病院兵站病院があり内地にある衛戍病院に連絡する。

各時期に於ける衛生機關の活動及び患者の處置は次の通である。

駐軍間の勤務

【駐軍間の勤務】 駐軍久しきに亘れば内地に於けると同様である。

行軍間の勤務

【行軍間の勤務】 輕症者は勉めて各部隊にこれを伴ひ、重症者は最近の陸軍病院若

戰闘間の勤務

しくは患者療養所に送り或は地方病院又は地方吏にその保護を委託する。

隊繙帶所

【戰闘間の勤務】

1 隊繙帶所 戰闘間多數の傷者を生ずるも衛生隊未だ到着せざるか或は遠隔しあるときは歩兵隊は隊附衛生部員及び衛生材料を以て隊繙帶所を設ける。このときその衛生部員の一部は此處に位置し、他のものは戰線に到り傷者の收容及び救護に従事する。

繙帶所

2 繙帶所 高級指揮官は衛生隊の全部又は一部を使用して繙帶所を設置する。繙帶所は隊繙帶所及び直ちに戰線より來る傷者に對し治療を完全ならしむるを目的とする。

野戰病院

3 野戰病院 高級指揮官は戰闘を開始せんとするとき所要の位置に野戰病院を開設せしめる。野戰病院は繙帶所、隊繙帶所及び直ちに戰線より來る患者を收療するものである。總べて患者は戰線に於て衛生部員の施したる初療(繙帶等)の後は速に野戰病院に送るものである。

戰闘後

【戰闘後の勤務】 軍隊追撃に移るや衛生隊は成るべく速にその患者を野戰病院に送りて出發準備を整へ速に軍隊に追及し殘置せられたる野戰病院は野戰豫備病院の前進を待つてこれと交代し軍隊に追及する。又野戰病院及び野戰豫備病院はそ

の患者を兵站病院に送り、兵站病院に於ては恢復に長時日を要するものは内地の衛戍病院に運送するのである。第二百二十八圖は衛生機關の概要を示す。



(三) 馬の衛生

馬の衛生機關としては各乘馬隊には獸醫蹄鐵工長及び同工卒並に獸醫材料を有し後方には各々所要の機關を有するも、人の衛生と最も異なる所は重症にして戦闘に堪へざるものは撲殺する點である。これ馬の負傷等にて重症のものは恢復のため多くの時日を要するばかりでなく恢復後と雖多くは軍馬として使用が困難である

からである。

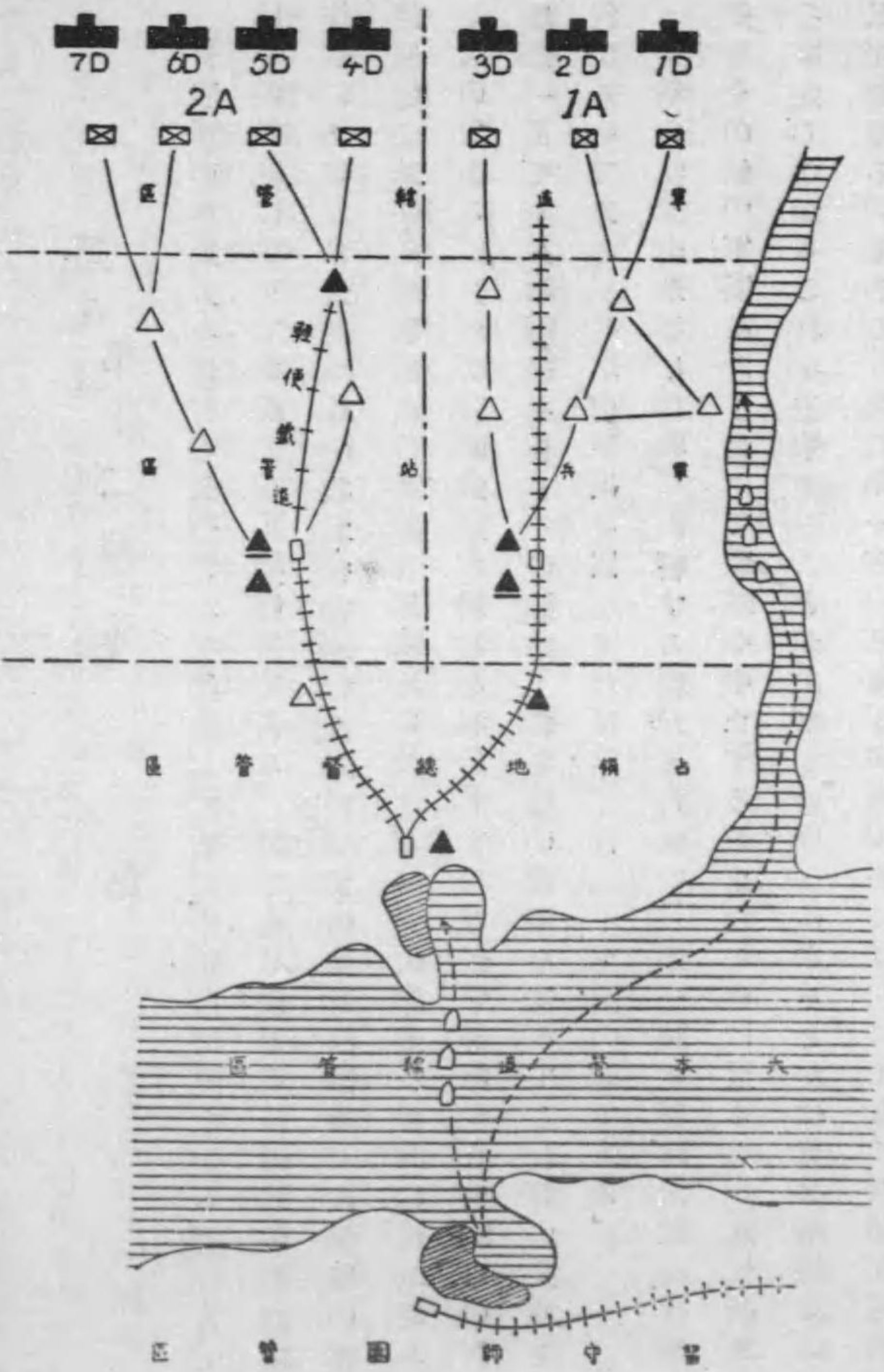
第十二節 兵站

野戰軍の活動力を保持し且つこれを推進して軍の作戰に支障なからしむるものは軍の後方に在りて活動する兵站の力である。即ち兵站は軍需品馬匹の前進補給、作戰に必要な人馬物件の收容、後送、通行人馬の宿泊、給養及び診療その他軍の後方連絡線の確保、道乘軍需品の蒐集、利用、戦地に於ける物資の調査、利用並に民政等を掌るものである。されば陸路、鐵道、水路等を利用して内地留守部隊から野戰軍の所在地に一貫せる兵站線路を作り、その線路上に各種の機關を備へてこれ等の業務を施行するのである。兵站の状況を圖示すれば第二百二十九圖の通である。

兵站の能力の良否は作戰に影響する處が甚だ多い。第一線の軍隊が敵を攻撃中、彈藥その他の軍需品が不足して戦闘を中止するの止むなきに至るとか、或は折角敵を驅逐しながらこれを追撃することが出来ないやうになるとかは皆兵站能力の不足を物語るのである。故に第一線の軍隊が優良であるばかりでなく、兵站が完備することが作戰上極めて重要なこととなるのである。斯の如く兵站は重要であり然もその線路は相當長大なものであるから、敵兵及び住民に對し兵力を以て之を掩

護する必要がある。

第二百二十九圖



第八章 應用戰術

以上數章の説述を以て戰術原則の研究は一通り終つたのである。そこでこれから各種の情況に於て指揮官並に軍隊が如何に行動するかといふことを研究しようと思ふ。扱この情況を設けて研究する場合に於ては常に自ら實戰に臨み幾多の將卒の長とし國家の興廢をその身に負ひ眞に敵と戦つてゐると云ふ心掛が必要である。而して各種の情況に遭遇したる際は、既に研究したる戰術原則を如何に實際に適用すべきかを深く考案せねばならぬ。漫然として本書を讀過するが如きは効果渺なきものと思はねばならぬ。

尙附言したきは戰場に於ける實況は元より千差萬別であり複雑多岐であつて到底一書の盡し得る所でない。されど各種の情況に際し指揮官が戰術原則を應用して決心を下すべき要領は大體これを述べ盡したと思ふ。故に本情況に於て部隊の兵力時刻等を適宜に換へて研究すれば面白い趣味ある幾多の問題を生ずるのである。研究者は本章を更に應用して千種萬様なる新戰術を創案することが出来るであらう。

〔一〕 應用戰術其の一 (附圖第一参照)

【想定】 敵を撃攘すべき任務を有する南軍一支隊 (歩兵六大隊を基幹とする) はリ町方向より北進し、四月一日午前八時その先頭を以てハ村に達したる時、支隊長は左の情報に接した。

歩兵四大隊の敵はチ町方向より南進し、午前七時四十分その先頭を以てイ村北端を通過し、續いて□村に向ひ前進した。別に歩兵四大隊の敵はト市方向より南進し、午前八時二十分にはその先頭を以てヘ村に進入する筈である。この附近の山地は密林繁茂して部隊の通過は容易でない。

【問】 支隊長は如何にして任務を達すべきか。

【説明】 敵の兵力は相合すれば八大隊となり、我より約一倍半の優勢である。故に支隊は餘程巧妙なる作戰を行はねば敵を撃破することは困難である。幸ひハ村北側には防禦に好適の高地があるから、支隊はこの高地を利用して火力を發揚し敵に損害を與へたる後攻勢に轉ずる所謂攻勢防禦を探るべきであらうか、攻勢防禦元より一方法であらう。併しながら防禦は最善の方法でない。戰術の原則は眞に止むを得ないときの外常に攻撃を決行すべしとて我々に教へてゐる。この場合攻撃に

攻撃の要

よつて任務を達成する途はないか。

敵は目下通過困難なる地形によつて兩方面に分斷せられ極めて不利なる態勢に在る。支隊が若しハ村附近に停止するときは敵は悠々として平地に進出し、分離したる兩敵は相合するであらう。そのときは我は甚だ不利なる立場となる。されば敵の分離せる現在の状態に乗じて各個に之を撃破すべく策を回らす必要がある。併しながら兩方面の敵を同時に撃破することは、我の兵力が微弱であるから恐らく不可能であらう。故に先づ一方面的敵より順次片付ける事が必要である。戰闘部署の要訣は決戦方面に優勢なる兵力を使用し他方面は一部の兵力にて満足するに在ることは既に研究した通であるから、支隊は主力を以て先づ一方面的敵を撃破すべきであらう。然らば何れの敵を先きに撃破すべきであらうか。

各個撃破

決戦方面の決定

イ村方向の敵と我との遭遇點は□村附近であり、ヘ村方向の敵とは又村附近に於て遭遇することとなる。支隊が假に又村方向に攻撃前進すれば攻撃間イ村方向の敵のため背後を衝かる、虞がある。然も□村附近の地形は平地であるから一部の兵力を以てその方面の敵を拒止することが出来ない。これに反し又村附近は隘路を成し且つ地形が錯雜してゐるから一部の兵力を以て能く優勢なる敵を拒止することが出来る。即ち一部を以て背後を安全にし、この間主力を以てイ村方向の敵を

非決戰方面の兵力節約

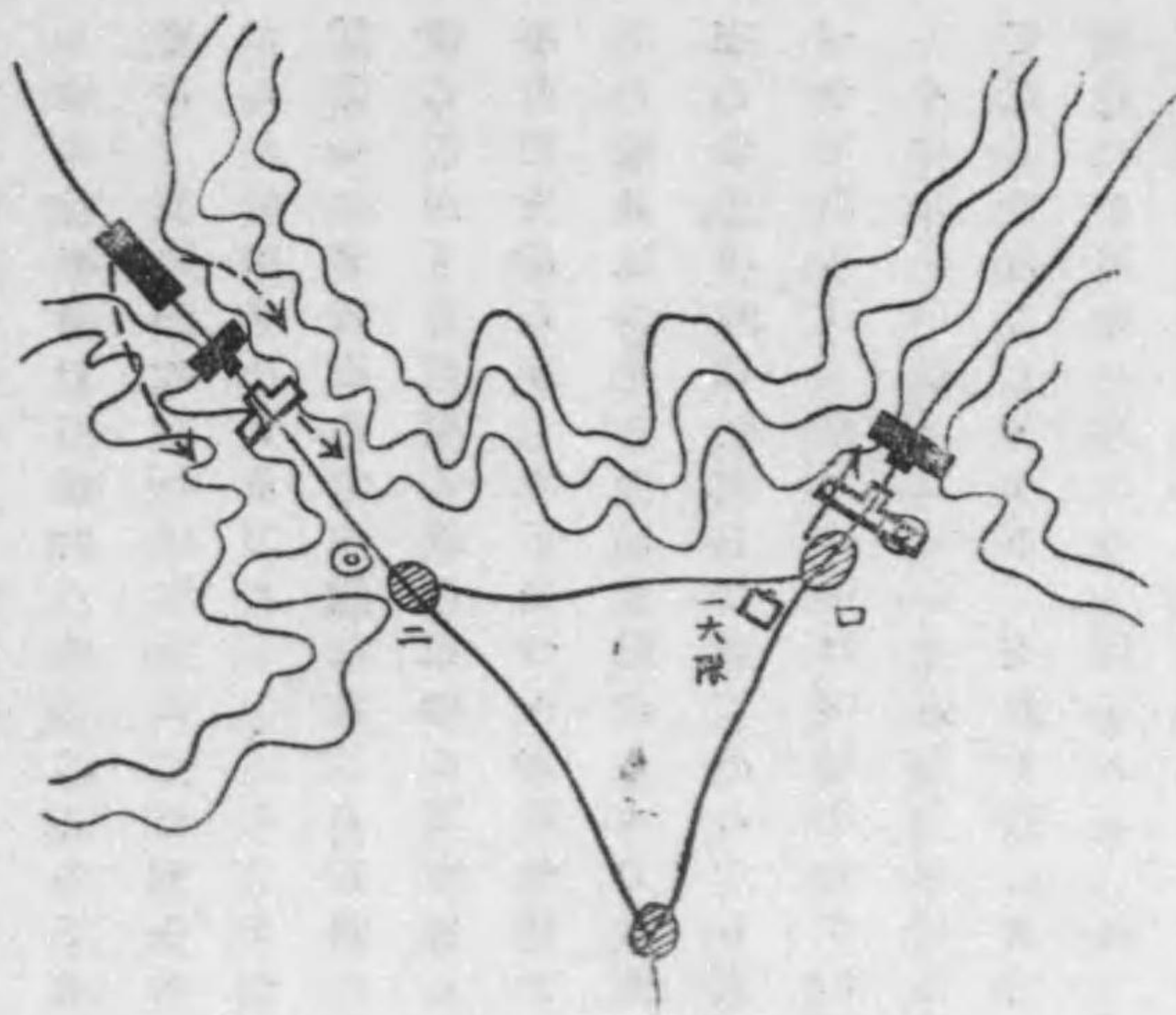
隘路進出に乗ず

攻撃するを適當とする。而して又村方向に派遣する兵力は必要の最少限(約一大隊)に止め、成るべく多くの兵力を以て口村方向に前進するを適當とする。即ちその方面に兵力を五大隊を用ひれば

同方面の敵の四大隊は優に撃退することが出来るであらう。殊にその敵は隘路の出口に於て極めて窮屈なる戦闘を爲すこと、なり我の勝算は益々大である。

【答】 支隊は歩兵一大隊を以て又村方向に前進して支隊の背後を安全ならしめ主力(五大隊)は口村方向に前進して當面の敵を攻撃するを有利とする。

【情況】 支隊は豫定の如く前進し



圖十三

午後一時には右圖の如き態勢となつた。即ち口村方向にては戰況極めて有利であり未だ豫備隊は一大隊を有してゐる。これに反し又村方向の大隊は優勢なる敵の壓迫を受け逐次退却しつゝ、あり支隊長の許には悲報相繼いで到來する。

【問】 支隊長の處置如何。

【説明】 又村方向の大隊は逐次退却中である。早晚その方面の敵は我が主力の背後に進出するに至り支隊は極めて危険に陥るであらう。支隊長は豫備隊の一大隊をその方面に派遣してその危険を豫防する必要があらうか。

否豫備隊をその方面に派遣してはこれがため折角有利に進展しつゝ、ある口村方面の戦闘も最後の勝利を占むること困難となり結局虻蜂取らずに陥り時間の経過と共に却つて敵のため包圍せられ終には殲滅に陥るであらう。此處が即ち最後の五分である。意志鞏固にして飽くまで初志の貫徹に努力すべきであらう。

【答】 支隊長は豫備隊を口村前面に増加して速に當面の敵を撃破す。又村方向の大隊に對しては極力當面の敵を拒止することを激勵する。

【情況】 支隊は支隊長の適切なる指揮と將卒の勇敢なる行動とに依つて午後二時

最後の努力

初志の貫徹

遂に口村の敵を撃破することを得た。敵は散を亂してイ村方面に退却中である。その損害は極めて大である。我が第一線は勇躍し敵に猛火を集中してゐる。

この頃又村方面の大隊は敵の猛攻に堪へず逐次退却を續行してニ村西北側高地を占領し辛じて敵の前進を拒止してゐる。

【問】 支隊長の處置如何。

【説明】 口村方向の敵は撃破することを得たるも、今や我が背後は漸次危険の度を増して來た。故に主力を以てニ村方向に轉進してその方向の敵を攻撃すべきであらうか。さりとて目下退却中の敵を追撃せざることは正に九仞の功を一簣に缺ぐものである。故に宜しくその儘追撃を續行し徹底的に當面の敵を撃破したる後反轉すべきである。

【答】 支隊は現在の態勢を以て當面の敵を追撃する。

【説明】 この應用戰術は敵の不利なる状態を利用してこれを各個に撃破すること演練したのである。かくの如く指揮官の放膽なる指揮と機敏なる動作とに依りて敵の弱點に乗ずればたとひ寡兵を以てしても能く優勢なる敵を撃退することが出来るものである。

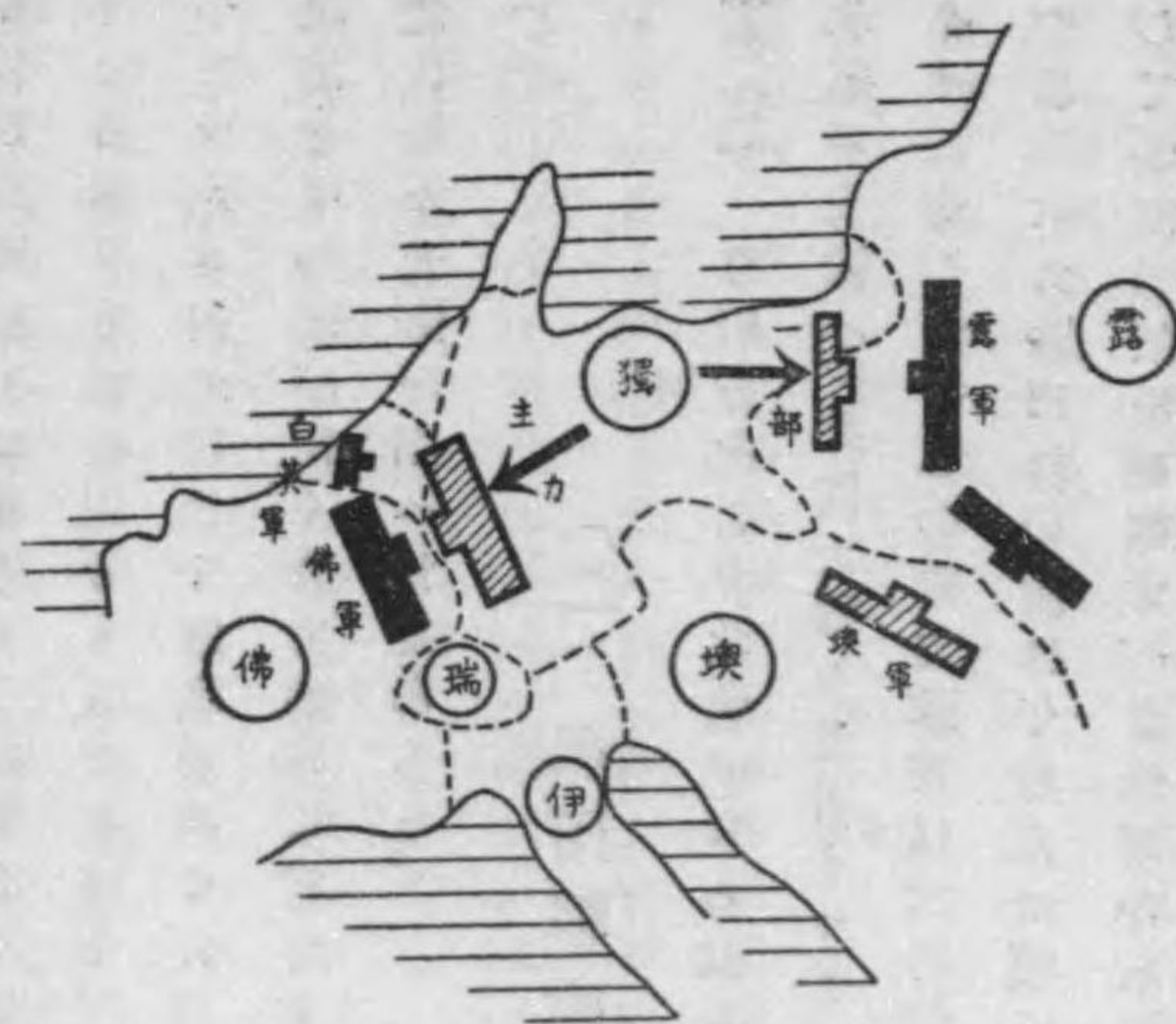
尙歐洲戰爭初期に於ける獨軍の作戰の要領を左に紹介して参考に供したいと思

意志の鞏固

寡を以て衆を破る

歐洲戰爭の各個撃破の一例

獨軍の作戰計畫及その指導



第二百三十一圖

獨軍は開戦と共に東は露國、西は佛國と作戰する必要を生じ腹背に敵を受くることとなつた。元よりその兵力は兩方面同時に攻勢を取ることを許さぬ。従つて獨軍は極めて少數の兵力を以て露軍を拒止し、その間主力三十四軍團を以て佛軍を撃破し反轉して露軍を撃破せんとする各個撃破の作戰計畫を立てたのである。

その計畫は實に戰術の大原則に副うたものであつて適當であると評することが出来る。然るに開戦と同時に獨軍主力の向つた佛國方面に於ては第一會戰に於て見事に佛軍を撃退し、今や追撃に移らんとした際露國方面に向つた一部は露軍のため逐次壓迫を受け獨帝發祥の地は敵軍のため蹂躪せられ獨軍の背後は漸く危険を感じるに至つたため、佛軍に向つた主力軍より若干の兵團を抽

ふ。

出して露軍方面に轉進せしめ危険を除かうとしたのである。その結果折角勝利を得たる佛軍方面の追撃も力足らずして佛軍に對し徹底的に打撃を與ふるを得ず却つてマルヌ河畔に於て敗戦を招くに至つたのである。若し獨軍にして露軍方面の壓迫を堪へ忍び飽くまで佛軍に痛打を與へることに努力したならば當初の作戰計畫に益々光輝を副へたであらう。

〔二〕 應用戰術其の二 (附圖第一参照)

【想定】 リ町方向より北進中なる敵を撃攘する任務を以て子町方向より南進せし北軍甲支隊(歩兵四大隊を基幹とする)は四月一日午前七時四十分その先頭を以てイ村に達した。この時支隊長は次の情報に接した。

歩兵六大隊内外の敵は午前八時頃にはハ村に達する筈である。我が支隊に協力して當面の敵を撃破すべき任務を有する北軍乙支隊(歩兵四大隊を基幹とする)はト市方向より南進し、午前八時二十分頃にはヘ村に達する豫定である。この附近の山地は密林繁茂して通過容易でない。

【問】 支隊長は如何にして任務を達成すべきか。

【説明】 我が兵力は相合すれば八大隊となり、敵に比し優勢であるが、目下は分離の

敵の各個撃破に對抗する手段

状態に在る。従つて勇敢なる敵はこの虚に乗じ各個撃破の策を取るであらう。故に支隊は乙支隊と確實に連繫するまで、無暴に平地に進出するは危険である。乙支隊と提携し同時に平地に進出するを適當とする。併しながら將來の進出を顧慮し、平地の出口を確實に保持することは極めて必要である。

【答】 支隊はル村附近を占領して乙支隊のニ村附近進出を待ち相連繫して當面の敵を殲滅せんとす。

【情況】 午前九時半甲支隊はル村に達し、防禦陣地を占領す。この頃歩兵約四大隊内外の敵は口村に達し、我に對し攻撃を準備中である。又歩兵二大隊の敵はハ村よりニ村方向に前進せしこと確實である。

【問】 支隊長の決心に變化なきや。

【説明】 支隊がル村附近を占領して乙支隊の進出を待ちたるは、優勢なる敵が我を各個に撃破するを恐れたためである。然るに目下の情況を見るに當面の兵力は我と同等に過ぎざるを以て、各個撃破を被る危険は既に除去されたるものと見てよい。何を苦しんでル村附近に於て防勢に立つ必要があるか。宜しく攻撃を行ふべきで

攻撃の必要

敵の弱點に乗

ある。支隊が猛烈な攻撃を行ふに於ては一面乙支隊の進出を容易ならしむることを得るの利益さへ加はるのである。

【答】 支隊は今より直ちに攻勢に轉じ當面の敵を撃破するを要す。

【説明】 この情況に於て敵の行動を按ずるに、ニ村方面に派遣したる兵力は過大である。これ恐らくは將來の主力方面の背後に起る危険を過度に憂慮したる結果に外ならぬ。これがため主力方面に用ふる兵力に不足を生じ各個撃破の効果を求むることが不可能に陥つてゐる。決戦を求むる方面に優勢なる兵力を用ふることが戰團部署の要訣であることは、本情況に於ける敵の過失を見ても明かに知ることが出来る。前に述べた獨軍の作戰と對照せられよ。

〔三〕 應用戰術其の三 (附圖第一參照)

【想定】 ト市方向より南進する北軍師團のヶ平地進出を容易ならしむべき任務を有する北軍甲支隊(歩兵約五大隊を基幹とする)は、チ町より南進し四月一日午前六時ル村に達す。この時までには支隊長は次の情報に接した。

約一師團の敵はリ町方向より北進中にて、午前十時頃には先頭を以てハ村に達する筈である。ト市方向の我が師團は目下急進中であるが、午後三時頃には又村に達

する豫定である。この附近の山地は密林繁茂して通過容易でない。

【問】 支隊長は如何にして任務を達成すべきか。

【説明】 敵の兵力は支隊に比し遙に優勢であるから支隊は一地を占領して我が師團の來著を待つ必要がある。而してその陣地も師團の平地進出を容易にすることを主眼として選定すべきものである。この陣地は主義として成るべく南方に選定して師團の隘路進出口を敵のため砲撃せられざる事が必要である。之がためにはハ村北側高地が適當であらうか。同高地は過度に南方であるから之を占領するも直に優勢なる敵の攻撃を受くる事となり、師團の來著まで支隊は同高地を保持するは不可能である。故に同高地を占領することは之を斷念せねばならぬ。

又支隊は□村附近を占領することは師團進出後敵を包圍すること、なり極めて適當なるが如きも、敵の兵力は極めて優勢なるを以て約四、五大隊のものを我が支隊に向け他の主力はニ村方向に前進すねば師團の進出は困難であり、我が支隊も各個に撃破せらるゝに至るであらう。□村附近を占領することは恰も二階から目薬の喩の如く進出を掩護すること、はならぬ。故に支隊はニ村附近に轉進して同地附近を占領すべきであらう。

【答】 支隊はニ村方向に轉進し同地附近を占領して我が師團の進出を掩護せんと

隘路を後方に
する防禦

持久時間

【説明】 支隊がニ村附近を占領する場合に於ても、彼我の距離の關係上支隊は約三時間に亘り約二倍半の敵の攻撃を受け極めて困難なる戦闘を行ふことを覺悟せねばならぬ。

【情況】 師團長はへ村北方地區に達したるとき、甲支隊長より當面の情況及び支隊がニ村附近を占領して師團の進出を掩護する旨の報告に接した。

【問】 師團長の處置如何。

【説明】 支隊は師團の到達まで約三時間に亘り優勢なる敵の攻撃を受けること、なる。若し師團の前進が遅るゝならば、獨り甲支隊長が敵のため撃退せらるゝのみでなく、師團は全くヶ平地に進出すること不可能に陥るのである。故に師團としてはこの際速にニ村に急行する方法を講ずる必要がある。

【答】 師團は左の方法に依り速に甲支隊長を増援し、ヶ平地進出を企圖す。

(一) 野砲兵にニ村に急行を命じ甲支隊長の戦闘に協力せしむ。

(二) カ市より自動車を徵發して歩兵を搭載しニ村に向ひ急行せしむ。

逐次戦闘加入

- (三) 爾餘の諸隊は歩度を伸ばし、急行軍を以てニ村に向ひ前進す。
- (四) 師團長は部隊に先行して甲支隊長の許に到る。

〔四〕 應用戰術其の四 (附圖第一參照)

【想定】 ト市方向より南進する師團のヶ平地進出を容易をらしむる任務を以てト市より南進したる甲支隊長(歩兵四大隊を基幹とする)は四月一日午前九時、その先頭を以てニ村に達す。この時までには支隊長は左の情報に接した。

約一師團内外の敵は子町方向より南進中であつて午後一時過にはその先頭を以てル村附近に達する筈である。

我が師團は午後四時頃にはニ村に達する豫定である。又この附近の山地は密林繁茂し通過容易でない。

【問】 支隊長は如何にして任務を達成すべきか。

【説明】 支隊長の任務は師團のヶ平地進出を掩護するに在る。従つてニ村附近に陣地を占領すれば最少限の任務の達成がある。然るに目下の敵情を観察するに敵も亦隘路を越えてヶ平地に進出する必要がある。若し支隊長が引續き前進すればル村附近の隘路口に於て敵と遭遇すること、なり、たとひ優勢なる敵の兵力も地形に制

持久の任務を
有するもの
獨力攻撃

せられて使用することが困難である。されば支隊は寡兵を以て攻撃するも勝算あるものと判断することが出来る。支隊は二附近に防禦するが如き消極策を採るの必要はあるまい。

【答】 支隊は敵の隘路進出に乗ずるためル村に向ひ前進せんとす。

【情況】 支隊は正午口村に達す。敵は逐次ル村に達し、その砲兵約二中隊はル村北側地區に展開し我に向ひ射撃を開始す。支隊は直に口村の線に展開し、ル村の線に展開中の敵を攻撃す。午後四時には彼我の距離五六百米内外に達し、敵に相當の損害を與へたるも、優勢なる敵は損害を顧みず正面に展開し、第一線の兵力は約五六大隊に達し漸次支隊を壓迫するに至つた。敵の後方部隊は密林を通過して展開せんと焦慮しつゝ、ある模様である。この時師團長より派遣せられたる參謀は支隊長の許に達し、左の師團命令を傳達す。

- 1. 貴支隊の勇敢なる行動を嘉す。
- 2. 師團は行進遲滞し午後九時にあらざれば二村に達するを得ず。
- 3. 貴支隊は………

參謀は驚れた
師團長の意圖
は知るに由な
い

この刹那敵の砲彈一發爆然として炸裂し不幸にも參謀は頭部に砲彈の破片を受けてその場に倒れ『貴支隊は……貴支隊は今より……』とかすかにこの語を連呼しつゝ絶命した。

師團の到着は豫定より遅れた。支隊前面の敵は刻一刻とその兵力を増加し支隊は危険に瀕するに至つた。參謀が絶命の際連呼したる『支隊は今より……』の語は何を意味するものであつたか。師團長の意圖は『支隊は今より攻撃せよ』といふのか、或は『支隊は今より退却せよ』と云ふのか、支隊長は師團長の意圖を知るに由ない。折しも戦線に於ける彼我の戦闘は益々熾烈となり砲煙は天に漲り銃聲は耳を聳せんばかりである。

【問】 支隊長は如何にすべきや。

【説明】 今や師團長の意圖は知るに由ない。されど適當に情況を判断して行動すれば師團長の意圖に合するに難くはあるまい。茲が即ち獨斷專行の時である。

支隊長は師團の前進が遅れたる關係上師團の來著まで現在の線に於て敵を阻止することは困難となつた。殊に晝間進出の困難なりし敵の後方部隊も夜間となれば悠々と平地に進出しその優勢なる兵力を以て我を攻撃するであらう。然らば支隊の運命は實に果卵の危きに等しい。さりとて晝退却することは益々以て危険

獨斷專行

晝間退却は危
険である

である。故に晝間は成るべく現況を保持し、夜暗を待つて安全なる地點に退却し師團の來著を待つて適當とする。

【問】 支隊は何れの點に退却するを至當とするか。

【説明】 支隊は二村附近に退却し、同地附近に陣地を占領するは先づ普通の考案である。併しながらこの考案に依れば明拂曉師團は隘路の出口に於て極めて窮屈なる戦闘を行ふの不利がある。又不幸にして支隊の退却が混亂に陥り、敵の急迫を受くること、なれば、その結果は直に師團に波及し、その先頭部隊をも混亂の渦中に誘致するの虞がある。此の場合我々は斯の如き常套平凡なる考案を採ることに同意は出来ない。

これに反し支隊がハ村北側高地の線に退却すれば敵をその方面に誘致することを得、その結果として師團の隘路進出が容易となるのみでなく、明拂曉後は兩方面より敵を包圍する如く攻撃を行ふことが出来るであらう。又不幸にして支隊の退却が混亂に陥つた場合に於ても、その結果を師團に波及する虞がない。但しこの場合に於ては一部は二村に退却せしめ直接師團の進出を掩護することが必要である。

【答】 支隊は晝間現況を維持し夜暗を待ちて一部(一大隊)を二村に退却し師團の進出を直接掩護せしめ、主力はハ村北側高地に退却せむとす。

退却目標の決定

尙師團長に對し支隊長の決心を報告し、且つ師團の一部を急行して二村附近を占領せしむることの希望を述べ。

【説明】 本情況に於ては主として支隊長の獨斷專行を演練し、且つ晝間退却の困難なること及び軍隊は常に爾後の作戰に於て有利の態勢に立つべく徒に消極的戦法を採るべきものにあらざることの研究したのである。

〔五〕 應用戰術其の五 (附圖第二參照)

【想定】 代山市方向より北進したる南軍(二師團弱)は五月一日晝來福山市より南進したる約二師團強の敵と時雨川の線に於て遭遇し、勝敗決せず夜に入る。

五月二日朝來更に戦闘を開始す。南軍の騎兵は稍劣勢なる敵騎兵を猿村北方地區に於て攻撃中である。

軍の作戰を容易ならしむる目的を以て新山市より東進したる南軍支隊(歩兵六大隊砲兵二大隊を基幹とする)は午前八時霰橋に達す。この時支隊長は東方に方り殷々たる砲聲の起るを聞く。

【問】 午前八時に於ける支隊長の決心如何。

【説明】 この際支隊の採るべき途は二つある。一は月橋より天野川を渡り軍の戦

主力の戦闘を容易ならしむる

闘に参加すること、一は黒町方向に北進して敵の背後を擾亂するにある。支隊は何れを採るを至當とするか。軍の戦闘は今や酣にして勝敗將に岐れんとしてゐる。而して敵の兵力は我に比し若干優勢であるから軍としては一兵と雖多くの新來軍が戦闘に参加することを希望するであらう。

今若し支隊が黒町方向に前進すれば敵の退路を遮断することは出来るが軍主力方向の戦闘が敗れるならば支隊が敵の背後を遮断するも何等の意味を爲さぬこととなる。この場合主なる戦闘は軍主力の戦闘である。この戦闘に勝利を占むる如く活動するのが支隊のこの際の採るべき方法に相違ない。

【答】 支隊は月橋より天野川を渡河して直接軍の戦闘に参加せんとす。

【問】 支隊長は如何にして軍の戦闘に参加するか。その方法如何。

【答】 この際は一刻も早く軍の戦闘に参加する必要がある。これがため概ね左の如き方法を取る。

1. 騎兵の主力は軍騎兵と協力して黒町方向に前進して敵の退路を遮断せしむ。

2. 砲兵の主力は騎兵の一部を掩護として月橋を渡り、先づ熊村に向ひ前進せしむ。

3. 歩兵は歩度を伸ばして熊村に向ひ急進す。

4. 支隊長は砲兵と同行して前進す。

【情況】 支隊長は砲兵と同行し午前九時半月橋に達す。この時軍司令官より左の要旨の命令を受領した。

1. 軍は目下菊山より燕村に展開しあり。敵との距離五六百米に過ぎず。敵の主力は燕村前方地區に在り。

2. 貴支隊は速に燕村附近軍の左翼に増加し敵を攻撃すべし。

【問】 支隊長の處置如何。

【説明】 歩兵は未だ後方に在り。故にこの際速に砲兵を使用する考案を立てねばならぬ。殊に敵の主力が燕村前方に在るに鑑み、砲兵は天野川西岸より敵の背後を射撃せしむることが有利である。

【答】 砲兵は猫村東側に陣地を占領して敵線を側射せしめ、歩兵は依然熊村に向ひ急進を續行せしむ。

戦闘参加の要領

【情況】 支隊の砲兵は豫定の陣地に就き敵を側射す。敵は我が不意の猛火に堪へず戦線大いに動揺す。午前十時支隊の歩兵は熊村に達す。支隊長は直に先着の一聯隊を燕村西側に展開して敵を攻撃せしめ、後續一聯隊は先づ熊村に集結す。

午前十一時より敵は我が猛攻に堪へず遂に退却を開始した。

【問】 支隊長の處置如何。

【説明】 今や敵は我が攻撃に堪へず退却を開始したるを以て直に追撃に移るべきである。追撃は勉めて敵の側面より迫るか、或はその背後を遮断するを得ばその効果の大なることは原則の部に於て述べた通りである。然るに天野川東岸に於ては地形上これ等の方法を採ることが出来ず、只正面より追撃するの外に策がない。唯幸にも熊村には集結したる歩兵一聯隊あり、猫村には砲兵二大隊がある。故にこれらの部隊を以て天野川西岸を急進して勝山市北方地區に於て敵の背後に迫る如く行動すれば敵を殲滅することが出来るであらう。追撃は常になし得る限り斯の如き策に出づるが適當である。

【答】 支隊は軍司令官の命を待つことなく、熊村に在る歩兵聯隊及び猫村に在る砲兵二大隊を追撃隊とし、天野川西岸より勝山市北方地區に進出して敵の退路を遮断せしめ、既に戦闘に参加したる歩兵聯隊は依然當面の敵を追撃せしむ。

追撃は敵の退路に迫るを適當とする

【情況】 天野川西岸を追撃すべき任務を受けたる聯隊は砲兵二大隊を續行せしめ猫村より猿村を経て午後二時豚村に達した。この時勝山市南方に方り盛んなる銃砲聲起る。同時に聯隊長は友軍飛行機より次の通報に接した。

1. 敵は目下續々勝山市を通過し既にその先頭は黒町に達し、その後衛らしきものは勝山市南端に陣地を占領しあり。

2. 軍は目下敵の後衛陣地を攻撃中なり。

3. 歩兵五大隊内外の敵は象村より西進し我が聯隊に向ひ前進中なり。

尙星橋は敵の爲破壊せられあること及び軍の騎兵は象村より西進せる敵に壓迫せられ漸次豚村に向ひ退却中なることを知つた。

【問】 聯隊長の處置如何。

【説明】 象村の敵の西進中なるは恐らくは支隊が敵の背後に迫るを阻止せんがためであらう。而してその兵力は我が聯隊に比し遙かに優勢である。聯隊は豚村附近に陣地を占領してこの敵を阻止すべきであらうか。聯隊は今や敵の背後に進出する好位置にある。若し聯隊にして豚村に停止せば聯隊の自身は安全なるも敵の

敵の牽制の爲の攻撃

退却を妨害しその退路を遮断する事が出来ない。故に聯隊は敵の兵力の如何を問はず、又我が損害の多少を顧みず猛烈なる攻撃を行ひ、敵本軍の退却を困難ならしむるを有利とする。假に敵を撃退するを得ざるも敵を聯隊正面に牽制する事となり、軍の來著と共に敵に打撃を與ふることが出来る。又成るべく北方に進出せばその砲兵を以て雲橋を射撃し敵の退却を不可能に陥らしむる利がある。

【答】 聯隊は象村より西進中の敵を攻撃し敵の退却を擾亂せんとす。

〔六〕 應用戰術其の六 (附圖第二參照)

【想定】 代山市より北進したる南軍(一師團半)は五月一日朝來、赤町より菊山を経て鷹村に亘り堅固に陣地を占領してゐる。

福山市より南進したる敵(約二師團)は勝山市を経て南進し、五月二日朝朝額山東西の線に達す。

軍の作戰を容易ならしむるため新山市より東進したる南軍(歩兵五大隊を基幹とする)は五月二日午前八時霧橋に達す。この時支隊長は友軍飛行機より次の情報に接した。

1. 軍前面の敵は目下鷺村より雁村の線に展開中である。

2. 月橋には軍方面より歩兵二中隊を出して守備しあり。

3. 軍の騎兵の一部は略ぼ同等の敵と猿村に於て相對峙しあり。

4. 勝山市北方一帶の地區は霧深くして敵情を偵察すること困難なり。

【問】 支隊長の決心如何。

【説明】 支隊長の探るべき行動は前想定に於て研究したる如く二つの方法がある。即ち一は月橋より天野川東岸に移り直接軍方面の戰團に參加すること、一は勝山市方面に前進して敵の退路を遮断することである。この場合月橋を経て直接軍の戰團に參加することも一方法であらう。併しながら敵は目下攻撃準備中であつて戰況は未だ切迫してゐない。且つ又軍の陣地は堅固であるから、戰團の勝敗は前の研究の如く迅速に片付くとも思へない。故に支隊としてはこの際直接軍の戰團に參加することなく、勝山市北方地區に前進して敵の退路を遮断する如く行動するが適當である。宜しくヘルマンスタット會戰の如く徹底的迂回によつて敵を殲滅すべきであらう。(戰團原則第二〇三頁迂回の項參照)

【答】 支隊は敵の退路を遮断する目的を以て黒町に向ひ前進せんとす。

徹底的迂回

【情況】 支隊は午前九時獅子村に達した。この時更に飛行機によつて次の情報を得た。

勝山市北方地區は霧のため十分なる偵察を許さざるも霧の時間を利用して偵察したる處によれば、敵の一縱隊は午前八時半黒町附近より西南進しつゝあり、その兵力は全く不明である。

【問】 支隊長の決心に變化なきや。

【説明】 敵の増加隊らしきものは黒町方向より我に向ひ前進中であるが、その兵力は全く不明であり、果して我を攻撃するものなりや、或は豚村附近を占領してその軍の背後を掩護するものなりや之亦不明である。併しながら支隊としてはこれがため何等決心に變化のあるべき筈はない。即ち敵情の不明によつて任務の遂行を躊躇すべき限りのものでないからである。

【答】 支隊長の決心に變化なし。

【情況】 支隊は行進を續行し正午時烏村北方地區に於て敵と遭遇し、戦闘を開始す。敵の歩兵は約七、八大隊にて支隊はために壓迫を受け、午後三時には辛うじて猿村時

決心の遂行は
情の不明に
依つて躊躇す
べきものでな
い

烏村の線を保持し極めて苦戦に陥つた。

この時軍司令官より午後二時發の次の通報に接した。

軍前面の敵は午前九時半頃より攻撃前進に移り正午には時雨川を渡り目下近きは陣地前二三百米に達した。

【問】 支隊長は何か處置ありや。

【答】 處置なし。

【情況】 支隊は辛うじてその位置を保持し日没となる。日没後敵の攻撃は全く中止の状態となり、戦場は極めて靜肅となつた。支隊長は軍方面にては午後四時頃より處々敵の突撃を受けたるも日没まで遂に陣地を保持するを得たること及び軍は明朝代山市方向より北進中の増援隊（歩兵三大隊を基幹とする。）の到達と共に攻勢に轉ぜんとする旨の通報を得た。支隊方面にては午後十時まで情況何等變化なかりしが、午後十時半に至り支隊長は第一線隊長より左の報告に接す。

當面の敵は既に退却したるもの、如く、目下第一線に在るものは極めて少數の部隊に過ぎぬ。

敵は賢明である

間諜の言によれば敵は午後七時頃より退却を開始せる模様である。
この時遙か北方に方り車輪の音聞え、犬の遠吠盛んに起る。

【問】 敵は何のため退却せしものなりや。

【説明】 晝間の戦闘有利なりし敵が夜間と共に退却したるは何故であらうか。疑問とせざるを得ない。これ恐らくは軍主力方面の戦闘豫期の如く進捗せず、加ふるに優勢なる兵力を以て我が支隊に牽制せられあるは極めて不利なるを察し、その兵力を軍主力方面に招致したものであらう。従つて明朝軍主力方面の敵は更に優勢となるに相違ない。但し豚村附近又はその北方地區に一部を殘置し、軍の退路を安全ならしむることを勉むるのは想像に難くない。

【答】 敵は其の主力を以て軍主力方面に轉ぜしものであらう。

【問】 支隊長の決心如何。

【説明】 支隊は遅滞ながら敵の退却を知つた。今より直ちに敵を追撃すべきであらうか。敵は既に三時間前に退却を開始したる模様なれば、其の主力は目下勝山市附近に達したであらう。従つて追撃を行ふも之を捕捉することは困難である。殊に豚村附近乃至は黒町附近に於て敵の防禦陣地に衝突せば、この陣地の突破に相當の時間を要するに至る。この間軍方面に於ては新に増加隊を得て一大決戦を惹起

支隊が敵の退却を知るのは遅い

一部軍隊の主力は常に戦に有利な作戦を有する必要がある

すること、なり支隊が敵の退路を遮断せんとして前進し却つて一部の敵のために牽制せらるゝことは軍の作戦のため何等貢献することがない。斯の如きは目下の支隊長として採るべき最良の方法であるまい。故に支隊もこの際一兵と雖多くの兵力を以て直接軍の戦闘に参加すべく退却を開始し、月橋を経て天野川東岸に進出することが賢明である。而して月橋に一部を殘置して軍の側面を安全ならしめ止むを得ざればこれを破壊するも差支あるまい。

【答】 支隊は今より直に退却を開始し、月橋を経て軍の戦闘に参加せんとす。

【説明】 本情況と前に研究したる情況とを對照するときには主力軍の作戦を容易ならしむべき任務を有する一部の軍隊が如何に行動すべきものなるかを知ることが出来よう。即ち一部の軍隊は決して眼前の情況に眩惑せらるゝことなく、常に大局に著眼し如何にせば主力軍の作戦を有利ならしむるかを考案して、その最良の道を選ぶべきものである。前の情況に於ては軍の戦闘切迫しあらざるを以て勉めて大規模に行動する場合を示し、本情況は軍の戦闘切迫しあるを以て直接軍の戦場に馳せ参じ軍と共に戦勝に努力するの有利なることを示したのである。

〔七〕 應用戰術其の七（附圖第二參照）

【想定】 久山市方向に前進すべき任務を有する東軍師團は金山市より前進し六月一日午後七時紫町に達し同町以東の地區に宿營し歩兵各一大隊を櫻村及び鶯村に出して警戒す。この時までには師團長は左の情報に接す。

1. 騎兵約一聯隊歩兵一大隊内外の敵は、昨夕來黒町に達し、同地附近に防禦陣地を占領中である。その斥候は我が警戒部隊の前方に出没す。

2. 五月雨川以西の敵情は全く不明である。

次で午後十時師團長は斥候の報告により更に左の情報に接した。

1. 歩兵約五、六千を基幹とする敵は久山市より東進し、午後六時その先頭を以て紫町を通過し東進した。

2. 歩兵約三、四大隊の敵は新山市より東進し午後六時三十分時鳥村に進入した。

【問】 師團長の敵情判断如何。

【説明】 黒町附近に陣地を占領せる敵は後續師團の來著を待つたためのもか、或は搜索の據點として陣地を構築したるものか全く不明である。而して新來の敵は黒町附近に防禦するや、或は我に向ひ攻撃前進するやも亦不明である。併しながらそ

敵情判断

の兵力は八乃至十大隊であり、先著のものを合すれば我と略ほ同等であるから一地に防禦するが如きことなく恐らくは我に向つて攻撃前進するものと判断するが適當である。而して攻撃前進するものとせばその主力は天野川北岸地區を選定するのであらう。これ同河南岸地區は地域狭少で、戦闘に不便であるからである。

次に敵は何時攻撃前進するか、その時機に關し考慮を廻らす必要がある。即ち昨夜は黒町附近に宿營し明朝より發進するか、或は我が師團の窮屈なる状態に乗ずるため黒町附近に長時間停止することなく引續き攻撃前進するか、何れかの方法を探るべきであらう。

【答】 敵はその主力を以て天野川北岸地區を我に向ひ攻撃前進するであらう。但しその時機は全く不明である。

【問】 右の如き敵情判断に基き師團長の探るべき處置如何。

【説明】 師團は敵を攻撃する目的を以て明朝より攻撃前進すべきである。その主力の行動地域は敵情判断に於て述べたるが如く、天野川北岸の地區であらねばならぬ。而して同河南岸は我が退路を安全ならしむるため最少限の兵力を前進せしむれば足りる。尙敵が明朝黒町附近を出發前進するに於ては白町附近に於て彼我の遭遇戦が惹起せらるべきも、敵にして我が師團の雪橋渡河を妨害するため本夜黒町

師團は敵の如何なる行動にも應ずること出来る

附近に宿營することなく續いて前進を續行するものとせば師團は明朝渡河中途にて敵の攻撃を受け極めて不利なる戦闘を爲すこと、なるであらう。故に師團は明朝までに有力なる部隊を天野川北岸に移しこれに對應する必要があらう。

【答】 師團は更に歩兵二大隊を櫻村に出して益々警戒を嚴にし且つ速に黒町方向の敵情を搜索せしめ主力は明拂曉までに雪橋を渡り櫻村附近に集結す。又一部を以て霧橋を占領せしむ。

明朝天野川南岸を前進せしむる兵力は歩兵一大隊とする。

【情況】 夜間は情況に大なる變化なく午前五時となる。この時まで師團の主力は豫定の如く櫻村附近に集結を完了し師團長は斥候その他の報告に依つて次の情報を得た。

敵は昨夜主力を以て養村・象村・黒町の諸部落に、一部を以て勝山市に宿營し、各宿營部隊は今朝午前二時までには未だ行動の模様がない。

【問】 師團長の決心如何。

【説明】 師團は豫定の如く前進するばかりである。

遭遇戦の場合の前進法

縦隊分割の必要

主力方面の決定

【答】 師團は敵を攻撃する目的を以て黒町に向ひ前進せんとす。

【問】 師團の進路如何。

【説明】 先づ師團は一縦隊を以て前進するか、數縦隊を以て前進するかを決定する必要がある。本情況に於ては敵は黒町附近に防禦することが無いではないが、我に向つて前進する公算が多いから遭遇戦が惹起するものと考へる必要がある。遭遇戦に於ては敵に先んじて展開する必要上道路の關係これを許し、且つ各縦隊の連繫を害せざる限り數縦隊を以て前進するが適當である。(過度に縦隊を分割するは却つて指揮困難に陥り適當でない。)本情況に於ては敵に通ずる道路としては櫻村—梅村—縦村—黒町道と櫻村—白町—黒町道との二道あり。且つ兩道の間隔は三千米内外であるから、この兩道路に縦隊を進むるも連繫を害する虞はあるまい。故に師團はこの兩道路を利用するが適當である。

【問】 師團は主力を以て何れの道路を前進するを適當とするか。

【説明】 この兩道路に對し兵力を平分して前進せしむることは戰闘部署の大原則たる決戦方面に優勢なる兵力を使用するの主旨に合せざるを以て、兩道の内何れか一方にその主力を進むる必要があらう。而してこれを決定するに方りては主として途中に於て起るべき遭遇戦に於て有利なる方面に主力を使用するに便なる如く

攻撃は包圍に
依るを有利と
する

すべきである。主力を以て河に近き道路を前進するときには遭遇戦を惹起するも、左翼は河のため制限を受け主力を以て敵を包圍することが出来ない。然るに北方の道路に主力を進むるときは展開に方り主力を以て敵を包圍するを得極めて有利である。故に師團は主力を以て北方の道路を前進すべきであらう。

【答】 師團は敵を攻撃する目的を以て主力を以て 櫻村——梅村——樺村——黒町道を、一部を以て櫻村——白町——黒町道を黒町に向ひ前進せんとす。

〔八〕 應用戰術其の八 (附圖第二参照)

【想定】 師團の天野川平地 (圖の平地を云ふ) 進出を掩護する目的を以て福山市より派遣せられたる北軍支隊 (歩兵四大隊を基幹とする) は七月一日夜梨村以北の地區に宿營し、七月二日午前六時梨村を出發し得る態勢にある。この時まで支隊長は左の情報に接した。

約一師團の敵は七月一日夜久山市に宿營したるもの、如く距離の関係上三日夕刻にあらざれば五月雨川の線に達することを得まい。

師團は松山市より前進中にして早くも六日夕でなければ柿村附近に進出すると困難である。

【問】 支隊長は如何にして任務を達成すべきか。

【説明】 師團の天野川平地進出までには尙時日を要するを以て支隊は相當長時間の持久戦を行はねばならぬ。支隊としては最少限柿村附近を占領して防禦すれば足るも敵が同地附近に達するは四日刻である。故に師團の進出までこの陣地に於て約二日間約三倍の敵を拒止せねばならぬ。斯の如きは恐らくは不可能のことであらう。又その附近では師團は敵火を被りつゝ、隘路を進出すること、なり極めて窮屈なる戦闘を行はねばならぬ不利がある。さりとて黒町附近を占領するに於ては師團の隘路進出は容易であるが、支隊は約三日間防禦すること、なり益々その維持が困難である。然るに五月雨川は橋梁の外通過困難であつて、支隊は敵に先んじて同河の線を占領し得る公算がある。一度同河を占領するに於ては相當長く敵を拒止することが出来る。而して敵の攻撃のため同河の保持困難となれば速に敵と離脱して黒町附近を占領して敵の前進を拒止し、茲にて更に時間の餘裕を得、更に必要なれば柿村附近に退却し、第三の陣地を占領して敵を拒止するが適當である。即ち逐次防禦に依つて時間の餘裕を得んとする考案である。始めより一陣地に依つて敵を拒止せんとするは本情況の如く敵の兵力の優勢と持久時間の長きに依り不可能である。(第二六一頁持久戦の部参照)

逐次防禦、持
久戦

【答】 支隊任務達成考案。

支隊は左の如く逐次防禦に依りて時間の餘裕を得るを要す。
第一次陣地 五月雨川の線を占領し、止むを得ざれば同河の諸橋梁を破壊す。
第二次陣地 葵山及びその南方高地の線とす。但し星橋はこれを破壊する。
第三次陣地 柿村及び同地北方高地の線とす。

〔九〕 應用戰術其の九 (附圖第二参照)

【想定】 奥山市方向より前進する師團の天野川平地進出を容易ならしむる任務を有する北軍甲支隊 (歩兵四大隊を基幹とする) は五月一日午前十時、その先頭を以て兎村に達す。この時までには支隊長は友軍飛行機により次の情報に接した。

- 1、歩兵約十大隊内外の敵は金山市より西進し、午前九時五十分その先頭を以て勝山市東端に達した。
- 2、我が師團は本日午後八時頃には兎村附近に達する豫定である。

【問】 支隊長の決心如何。

【説明】 支隊はこの際一地を占領して敵を拒止するが普通の方法である。併しながらこの場合攻撃に依つて有利に任務を達成することが出来るか否かを考案する

攻撃に依つて
任務が達成出
来るか先づ考
案する

敵情は公平に
判断すべきで
ある

必要があらう。敵の先頭は午前十一時半でなければ星橋に達し得ぬ。従つて支隊が星橋に向つて攻撃前進するときは敵の渡河中に乘じこれを攻撃することが出来極めて有利なるが如くである。されどこの際公平に敵情を判断せねばならぬ。若し敵が一縦隊を以て悠々と星橋のみより渡河するとすれば渡河中に我が攻撃を受けることとなるを以て、敵としては恐らくは斯の如き危険なる行動は探らぬであらう。少くも勝山市北方に在る二個の橋梁をも同時に利用して天野川を渡河するであらう。

然らば支隊としては敵の渡河に乘じ、これを攻撃することは不可能であるばかりでなく、優勢なる敵の攻撃を受け師團主力の來著までに却つて各個に撃破せらるゝに至るであらう。故に支隊としてはこの際止むなく攻撃を斷念し、兎村附近を占領して師團の來著を待つが至當であらう。總べて敵情は敵として戰術上當然爲すべきことを公平に判断すべきであつて徒に敵を不利に見るは危険の伴ふことを考へねばならぬ。

【答】 支隊は兎村より勝稻荷に亘る間を占領して師團の來著を待たんとす。

【情況】 支隊は豫定の如く陣地を占領す。敵は勝山市附近の諸橋梁を利用して天野川を渡河し、午後二時には紫村に達し、午後三時紫村蕪山の線に展開し、直に攻撃を開始した。彼我の騎兵（兵力略ぼ同等）は獅子村東側地區に於て相對峙してゐる。霞橋及雨橋は我が騎兵の一部これを占領す。

師團長は砲兵一大隊を先行して支隊に増援す。同砲兵は午後四時支隊の陣地に達し戦鬪に参加す。

師團長は午後六時三十分部隊に先ち豺村に達す。時に夕陽西天に没し漸く暮色迫る。南方に方りては銃砲聲熾烈を極め目下激戦中なるを思はしむ。この頃師團の歩兵は人村に達する筈である。師團長は支隊長より左の報告に接した。

1. 支隊前面の敵の兵力は約十大隊強にして、その主力は兎村前方に在り、彼我の距離は三四百米に達す。

2. 支隊は師團の來著まで陣地を保持するの確信を有す。

【問】 師團長の決心如何。

【説明】 支隊は優勢なる敵の攻撃を受け極めて苦戦に陥つてゐる。併しながら前報告に依り今直に敵のため撃退せらるゝことは先づあるまい。

師團は支隊の線に増加すれば支隊の戦鬪を支持することは出来るが、單に敵を正

作戦は常に大規模の効果を大收むるべく勉めねばならぬ

企圖の秘匿

面より攻撃すること、なり大なる成果を得ることは困難である。依つて攻撃の要訣である敵を包圍する工夫を廻らす必要がある。これがためには人村より風橋を経て五月雨川西岸に到り、更に霞橋霞橋等を利用して敵の左側背に進出するが適當である。幸にも夜暗であつて我が主力のこの種の運動を敵に秘する事が出来、且つ又獅子村及び霞橋は我が有であるから、五月雨川東岸に進出する事は容易である。併しながら師團のこの大膽なる行動も、この間敵のため我が支隊が撃退せられては意味を爲さぬこと、なるから師團の一部約三大隊を支隊に増加し、極力陣地の保持を勉むる必要がある。

【答】 師團は歩兵三大隊を直に支隊に増加して、その陣地の保持に勉め師團主力は風橋より先づ紅町に向ひ前進せんとす。

【問】 師團は紅町到着後直ちに五月雨川東岸に進出し敵の側背に進出するや。

【説明】 本問題は師團主力が五月雨川東岸に進出の時機を研究するに在る。師團が今より五月雨川を渡るも夜間であるから敵の側背に迫ることも困難である。従つて明拂曉前までに同河を渡り、拂曉と共に敵を攻撃するを有利とする。又我が行動を秘するためにも過早に五月雨川を渡河するは考へ物である。故に拂曉前まで紅町東南方地區に兵力を集結して時機を待つが適當である。併しながらこの間唯

一の渡河點である橋梁を敵に奪取せられては師團の進出不可能に陥るべきを以て歩兵の一部を以て同河橋梁を占領せしむる必要があらう。

【答】 師團は明拂曉前に於て五月雨川を渡河し拂曉と共に敵の側背に迫るを適當とする。

〔十〕 應用戰術其の十 (附圖第二参照)

【想定】 福山市方向より前進したる北軍師團は五月一日晝以來金山市方向より西進したる兵力略ほ同等の敵と杉村牡丹山松村の線に於て遭遇し勝敗決せずして夜に入る。

これより先き谷山市方向より北進したる歩兵二三大隊の敵に達し師團の右側を掩護すべき任務を受けたる騎兵一聯隊歩兵一大隊は勝山市北側天野川の線に於てこの敵を拒止しつゝ、ありしも午後八時に至り力戰奮闘效を奏せず遂に敵に突破せらるゝに至つた。

師團長はこの報に接するや、豫備隊に在る一大隊を菖蒲山に派遣し騎兵聯隊に増加す。この方面の敵は黒町に進入したる後更に前進せず。

五月一日夜情況大なる變化なく五月二日朝を迎ふ。

師團に増加すべき任務を受けたる甲支隊(歩兵四大隊山砲一大隊)は、今朝福山市を出發し午前七時その先頭を以て梨村に達す。この時支隊長は左の情報に接した。

1. 軍は今早朝來更に攻撃を開始した。

2. 黒町に達したる敵は早朝來菖蒲山を占領せる我が部隊を攻撃中である。その兵力は歩兵約三大隊を基幹とする模様である。

此の時支隊長は東方及び南方に當り共に盛んなる銃砲聲の起るを聞く。

【問】 支隊長の決心如何。

【説明】 支隊長のこの際採るべき方法は二途ある。即ち師團主力方面に前進するか、或は菖蒲山方向に前進して當面の敵を攻撃するかである。この際菖蒲山方向に前進すれば騎兵及び同地に在る歩兵二大隊と協力して優にこの敵を撃退することが出来よう。併しながらこの間師團主力の戦鬪が敗れたならば何うなるか。この平地に於ける戦鬪の重點は師團主力の勝敗である。たとひ菖蒲山方向の敵を撃破するもその結果は師團主力の戦鬪に直接效果を齎すが如きことはない。又菖蒲山方向の敵は三大隊内外であるが、その方向の我が兵力は騎兵一聯隊歩兵二大隊であるから敵のため撃退せられ師團の背後が危険に陥ることは先づ無いと見るべきで

一部の敵に牽制せらるゝは真くない

陣地攻撃の研究

ある。故に支隊はこの方面の敵に牽制せらるゝことなく、宜しく師團主力の戦闘に参加すべきものであらう。
【答】 支隊は菖蒲山方向の敵に關せず師團主力の戦闘に参加せんとす。
【説明】 この際菖蒲山方面の我が兵力が敵に比し著しく弱勢であつて敵のため撃退せらるゝ虞あるに於ては、甲支隊は止むなくこれに増援して先づその方面の危険を除去したる後、師團主力方面に前進するに至るであらう。如何なる場合にありても支隊は主力方面に馳せ参すべきものと誤解すべきものでない。

〔十一〕 應用戰術其の十一 (附圖第三参照)

(陣地攻撃の研究)

【想定】 六月一日夕來仲町附近に陣地を占領せる敵を攻撃する目的を以て熊谷市より北進したる南軍混成旅團(歩兵第一旅團(第一、第二聯隊)騎兵一中隊野砲兵一中隊工兵一中隊衛生隊三分の一)は午前八時その歩兵先頭を以て郎村に達した。
【問】 この日旅團は如何なる前進部署を以て前進せしや。
【説明】 旅團は前進に於ける最も至嚴なる警戒を採り、たとひ敵兵來進して遭遇戦を惹起する場合に於ても毫も差支なき部署を必要とする。(第七章第三節行軍の

前進部署

部参照)

【答】 旅團の前進部署次の如し。
旅團騎兵……騎兵一中隊(三分隊欠)
前衛……歩兵第一聯隊(一大隊欠)騎兵二分隊野砲兵一中隊工兵一中隊。
本隊……主力

【情況】 午前八時十分歩兵の尖兵長は前方に盛んなる銃聲を聞きつゝ、市村北端に達す。この時前方より傳騎宙を飛んで來る。そのいふ所によれば、旅團騎兵は目下鹽村を占領せる弱勢なる敵騎兵を攻撃中であると。

【問】 尖兵長は如何にするや。

【説明】 前衛は行進路上の敵の小部隊の如きは驅逐して前進すべきものである。故に尖兵は騎兵の戦闘に加入して速に敵騎兵を攻撃する必要がある。

【答】 尖兵長は尖兵中隊長に報告すると共に駆歩を以て騎兵の線に前進し敵を攻撃す。

前衛の任務の一は行進路上の障礙を除去するにある

【情況】 敵の騎兵は我が尖兵の戦闘加入に先ち北方に退却し我が騎兵はこれを追撃する。

前衛司令官は旅團長と共に市村に達す。

【問】 旅團長は何か爲すことなきや。

【説明】 敵の陣地の位置は明確ならざるも仲町附近に在ることは既に明かなる處でつて、仲町は市村より五千米内外である。故に旅團は展開準備の位置に就く必要がある。

【問】 旅團は何れの線に於て展開を準備すべきや。

【説明】 展開準備に就いては前衛の陣地と本隊の位置とを考案する必要がある。

【答】 前衛は人森より人丸神社に亘る間を占領し、本隊は大森及び二森の森林中に展開準備の位置に就く。

【問】 展開準備間如何なることを爲すべきや。

【答】 専ら敵情地形を偵察し、攻撃計畫を立てる必要がある。

【問】 敵情地形の偵察の手段如何。

展開準備の位置

攻撃計畫の立案

展開搜索の手段

【答】 1. 旅團長は自ら人丸神社に到り敵情地形を観察し又自ら斥候を派遣す。

2. 騎兵は前方に進出して敵陣地を偵察す。

3. 前衛は斥候を出して敵情地形を偵察す。

4. 砲兵は敵情並に我が砲兵陣地の偵察を行ふ。

【情況】 午前十時三十分諸隊は豫定の位置に就く。この頃敵の飛行機數機爆音高く我が上空を飛翔す。正午となる。諸隊は晝食を喫す。この頃までに旅團長は左の情報に接した。

1. 敵の本陣地は岸山より仲町を経て松村に亘り陣地を占領し、その砲兵は石村東側地區に在る。

2. 敵の警戒部隊は二子山獨立山の線に在り。その兵力は微少である。

3. 我が騎兵は目下大村に在つて敵情の偵察中である。

4. 大井川は水深深く徒渉困難である。

【問】 旅團長は何を爲すべきか。

【答】 攻撃計畫を立案するのである。

主攻撃正面の決定

【問】 この攻撃計畫を立つる上に於て先づ決定すべき主要事項がある。それは何であらうか。

【答】 それは主攻撃方面の決定である。即ち主力を以て敵陣地の何れを攻撃すべきかを決定することである。

包圍の能否

【問】 然らば敵陣地の何れに主攻撃正面を選ぶべきか。

【説明】 攻撃は包圍に依るを有利とする。故に包圍を行ひ得るか否かを先づ考察し包圍の困難なる場合に於て正面攻撃その他の方法を探るべきである。岸山方面は高地であつて敵の陣地は堅固であり加ふるにその翼は大井川に依托せられてゐるから包圍に不便であるが松村附近は全くこれに反してゐる。故に旅團は主力を以て敵を包圍する如く松村方面に主攻撃正面を選ぶべきであらう。

部署の決定

【答】 旅團の主攻撃正面は松村方面に選定するを適當とする。

【問】 次は兵力の部署を如何に決定すべきかである。

【答】 主攻撃方面に一聯隊を他の方面(助攻)に二大隊を用ひ豫備隊一大隊を左翼後に保持するを適當とし第一線部隊の戦闘地域は吉町——仲町道とする。

展開線

【問】 旅團は展開線を何れに選定するや。

【答】 小森小林の線が適當である。その砲兵は主力(二中隊)を以て代村に、一中隊

命令

を小森南方地區に豫備隊を代村に位置せしめる。

【情況】 旅團長は右に述べたるが加き攻撃計畫を立案し、人丸神社に諸隊長を集め攻撃に關する命令を下す。この頃俄然敵の砲彈代村附近に落下す。

前衛は兼りに戦闘すべきものでない

【問】 前衛の砲兵は應射するや。

【答】 應射すべきものでない。

【情況】 この頃敵方より家財道具等を背にして南方に避難する住民陸續として來る。彼等は異口同音に「敵には増援隊一旅團が到着した。南軍は遠からず撃退せらるゝであらう。」と語る。

【問】 旅團長の處置如何。又住民の言を何と信すべきか。

【説明】 敵が増援隊を得たるや否やは不明であつて住民の言元より信するに足らず。或は敵が殊更に流言を以て我が軍の志氣を鎮沈せしめんとした宣傳であらうやも知れぬ。若し我が軍隊にこの宣傳が流布せらるゝときは或はその志氣を沮喪せしめないとも限らない。依つて速にその宣傳を防止する必要がある。

【答】 旅團長は部下軍隊に對し、その流言の虚構なることを傳へ益々志氣を旺盛ならしむることを要求す。

【情況】 午後一時三十分諸隊は敵の砲火を浴びつゝ、展開を完了す。旅團長は砲兵

豫備隊の用途

【説明】 旅團長は豫備隊を右翼に増加してその前進を促すべきであらうか否々その方面は助攻方面である。虎の子である豫備隊を助攻方面に使用するは避けねばならぬ。

【答】 旅團長は豫備隊を左翼方面に増加し敵陣地を包圍せしむ。

【情況】 第一線諸隊は更に一進一止して敵陣地に肉迫し、今や突撃に移らんとする頃、遂に敵は陣地から三々五々退却するものあり、我が歩兵の突撃と共に敵は散を亂して北方に潰走するに至つた。

旅團はその成功に甘んずることなく、直に追撃に移るのである。

追撃

〔十二〕 應用戰術其の十二（附圖第三参照）

攻勢防禦及退却の研究

（攻勢防禦及退却の研究）

【情況】 橘市方向より南下する敵を撃攘すべき任務を有する南軍支隊（歩兵大隊騎兵一中隊野砲兵一大隊工兵一小隊衛生隊三分の一）は、熊谷市より北進し五月一日午前九時市村に達した。このとき支隊長は左の情報に接す。

1、歩兵約五、六大隊砲十數門の敵は目下橘市より南進中にして、本日正午頃には仲町に達する筈である。

2、我が騎兵の主力は目下三村北方約一里の地點に於て稍々優勢なる敵騎兵の攻撃を受けつゝあり。

【問】 支隊長の決心如何。

【説明】 支隊は任務上當然攻撃を實行すべきである。然るに彼我の兵力を按ずるに敵は稍々優勢である。而して今の場合は寡兵を以て攻撃を行ひ能く優勢なる敵を撃破するに適する地形もないから支隊は攻勢防禦を採るを至當とする。然らば何れの線に於て攻勢防禦を行ふを適當とするか。陣地は兵力に適合すること堅固なること、射界廣潤なること、攻勢に便なること等幾多の原則があるが、今左の諸線につきてこれを考案しよう。

1、仲町附近 正面も適當であり射界亦廣潤であるが、支隊が該地に達するは午前十時過となり直に敵の攻撃を受くること、なるを以て陣地を堅固ならしむるの餘裕がない。

2、二子山、獨立山の線及び小森、小林の線は射界廣潤なるも正面は兵力に比し過廣且つ陣地の翼に依托すべきものなく、敵に包圍せらるゝ虞があり陣地が弱い。

3、人森、人丸神社の線は射界の點に於ては前三者に劣るも、正面適當陣地の翼は堅固且つ足利山に依りて敵を瞰制するの利があり、小森、小林の森林に依り敵の砲兵の

陣地に具ふべき要件

射撃を困難ならしむるの利がある。

以上の比較研究に依れば人森人丸神社線が最も適當であらう。

【答】 支隊は攻勢の目的を以て人丸神社附近に陣地を占領せんとす。

陣地占領掩護

【情況】 支隊長は歩兵二中隊を仲町に出し騎兵と協力して支隊の陣地占領を掩護せしめ且つ一部は吉町附近を占領し主力は大森・二森に集結す。

この間支隊長は陣地の偵察を行ひ防禦配備を決定する。

【問】 支隊の第一線及び警戒部隊の線は何れを適當とするか。

陣地線の決定

【答】 支隊の本陣地の線は惠村西南方森林より人森人丸神社を経て同地西方森林に亘る線とす。この陣地は右に大井川左に足利山の通過困難なる部分を擁するを以て極めて堅固である。

警戒部隊の線は本陣地砲兵の支援容易なる線を適當とす。これがためには谷村小林森村の線を適當とする。

【問】 支隊は何れを攻勢地區となすべきや。又豫備隊の位置如何。

攻勢地區の決定

【説明】 吉町西方高地は地形上堅固である。従つてその兵力を節約するを宜しと

豫備隊の位置

す。且つその方面より攻勢に出づることは地形上不利である。故に支隊は人森以東の地區を攻勢地區となし敵を包圍する如く配備するが適當であらう。而して豫備隊は攻勢地區の後方に配置するを要す。

【答】 支隊は陣地の右翼方面より攻勢に轉ずるを適當とする。豫備隊は中森に位置せしむ。

【問】 砲兵は如何に配置すべきか。

砲兵の配置

【説明】 砲兵は我が攻勢方面を充分に火制し且つ豫想する敵の主攻撃正面に火力を集中する必要がある。而して情況の變化に應ずるため戦場の大部を射撃し得なければならぬ。主力は人丸神社附近に觀測所を置きその陣地は吉町附近に配置するを適當とする。この際特に大井川東岸中村南方森林に一中隊を割愛す。この砲兵は過早に射撃を開始することなく敵が我が陣地に肉迫せば側面よりこれを射撃する如く配置するを適當とす。これがためには豫め中橋を破壊して敵をして同河東岸に進出せしめざるやう顧慮する必要がある。

【答】 砲兵は主力を以て代村小林の線以東の地區を射撃する如く吉町附近に陣地を占領し一部を大井川東岸に秘匿し敵兵接近後これを側射する如く陣地を占領せしむ。

攻撃移轉の時

【問】 攻勢移轉の時機を何時に豫定するや。

【答】 敵が代村惠村の線に達したるとき天井川東岸の砲兵を以て側射を行ひ、その効果と共に主として吉町東方地區の部隊及び豫備隊を以て攻勢に轉ず。

【問】 地區の區分、豫備隊の兵力を如何に決定するか。

【答】 人丸神社以西を左地區としてこれに歩兵一大隊を配置し、その警戒部隊を小林に出し吉町以東の地區を右地區とし、これに歩兵一大隊半を配置しその警戒部隊を谷村の線に出す。豫備隊は一大隊半とし中森に位置せしむ。但し最初その二中队は仲町に陣地占領掩護部隊として派遣せしむ。

防禦命令

【情況】 支隊長は以上研究せし如く防禦計畫を立案し諸隊長を人丸神社に集め防禦に關する命令を下すのである。支隊の防禦配備を圖を以て示せば第二百三十三圖の通である。

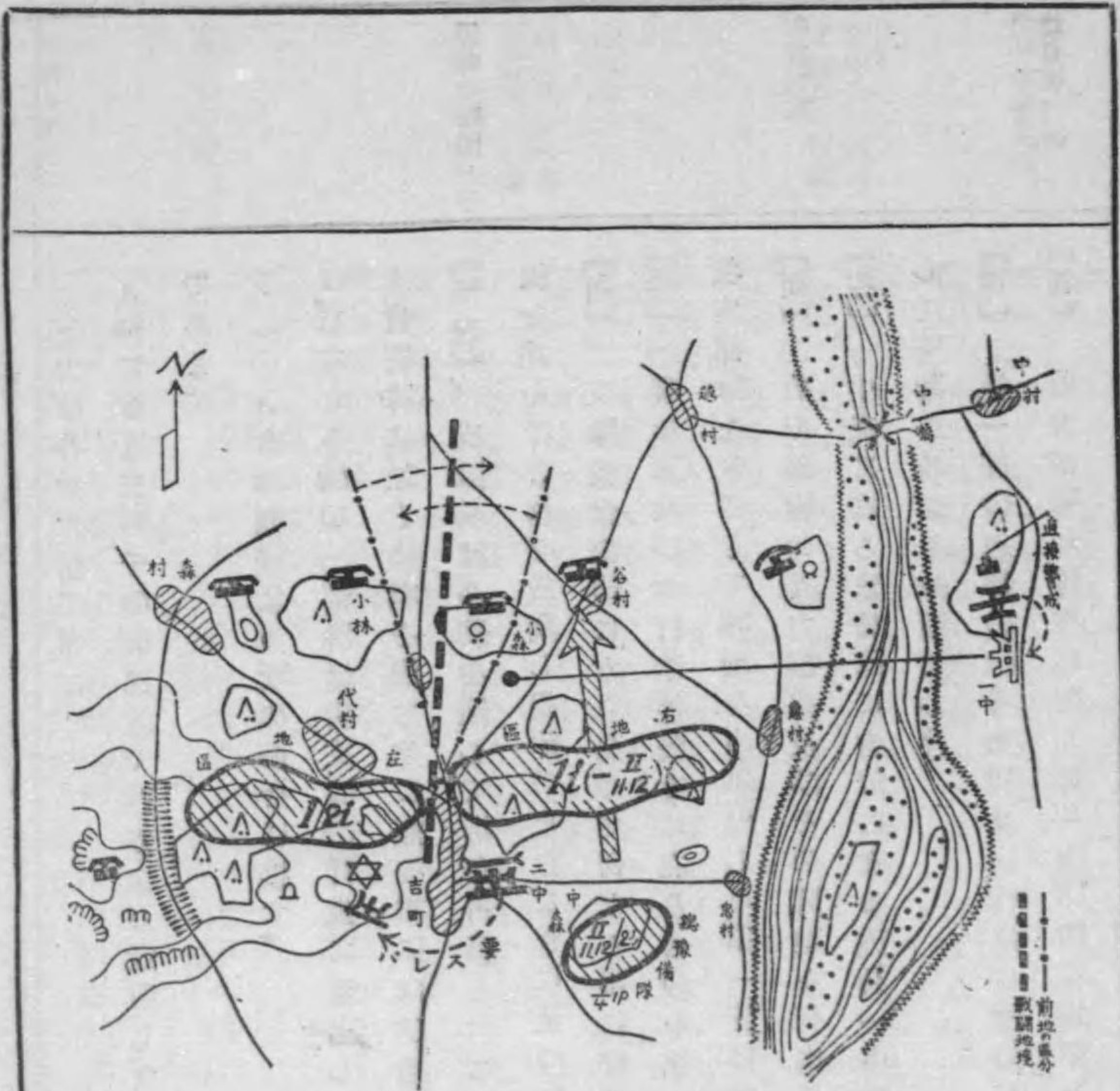
陣地占領掩護部隊の退却

【情況】 諸隊は配備に著き工事を開始す。午前十一時頃には我が騎兵は仲町に退却し正午には仲町に在りし陣地占領掩護部隊は敵の壓迫を受け退却を開始す。諸隊は工事を中止し専ら遮蔽した。

騎兵の行動

【問】 騎兵は爾後如何にすべきや。

【答】 主力は大沼南方地區に退却し支隊の側背を掩護するを適當とす。



圖三十三百二第

【情況】 正午敵は逐次仲町の線に達し盛んに偵察を試み午後一時には岸山松村の線より一齊に攻撃前進に移り、茲に彼我の戦闘は惹起せられ、午後二時には概ね千村東西の線に、午後二時には我が警戒部隊を驅逐し谷村小線林のに達し茲に小銃戦は開始せられた。

このときまでに支隊長は次の情報に接した。

1. 敵の兵力は歩兵八大隊砲二十門内外であつて、その

主力は谷村方面に在る。
2、別に歩兵三、四千の敵は遠く西方より迂回し、支隊の背後に進出すべく目下行動中である。

このとき師團長より次の命令に接す。

1、有力なる敵の一部隊は貴支隊の背後に進出しつゝあり。

2、貴支隊は敵と決戦を避け速に熊谷市に向ひ退却すべし。

【情況】 支隊長は必勝を期して折角占領したる陣地も敵情並に師團の要求に基き恨を呑んでこれを放棄し退却の止むなきに至つた。

【問】 支隊長は退却に方り先づ如何なる事に著手すべきや。

【答】 衛生隊及び大行李等後方に在るものを速に熊谷市に向ひ退却せしめ、同時に收容部隊を命名して陣地を占領せしめ、第一線の退却を收容せしむ。

【問】 收容部隊の兵力編組及びその陣地を何處に選定するや。

【答】 中森に在る豫備隊に吉町に在る砲兵一中隊を收容部隊とし伏山附近を占領して支隊の收容を掩護せしむ。

【問】 第一線の退却の時機如何及び行進目標如何。

【答】 收容部隊が陣地に著く頃全線同時に退却を開始せしめ、右地區部隊は市村に

退却の動機

收容部隊

退却時機及行進目標

支隊長の行動

地區隊長及砲兵隊長の行動

騎兵の行動

退却したる後郎村を経て熊谷市に退却せしめ、左地區部隊は先づ太村に退却し、次村流村を経て適宜本隊に合せしむ。

【問】 大井川東岸に在る砲兵は如何にするや。

【答】 退却中適宜側面より敵を射撃し支隊の退却を安全ならしむ。

【問】 支隊長の行動如何。

【答】 支隊長は以上の如き計畫を立案せば直に退却に關する命令を下し、部隊の退却實行を確めなば市村に退却し逐次到着する部隊を更に部署するのである。

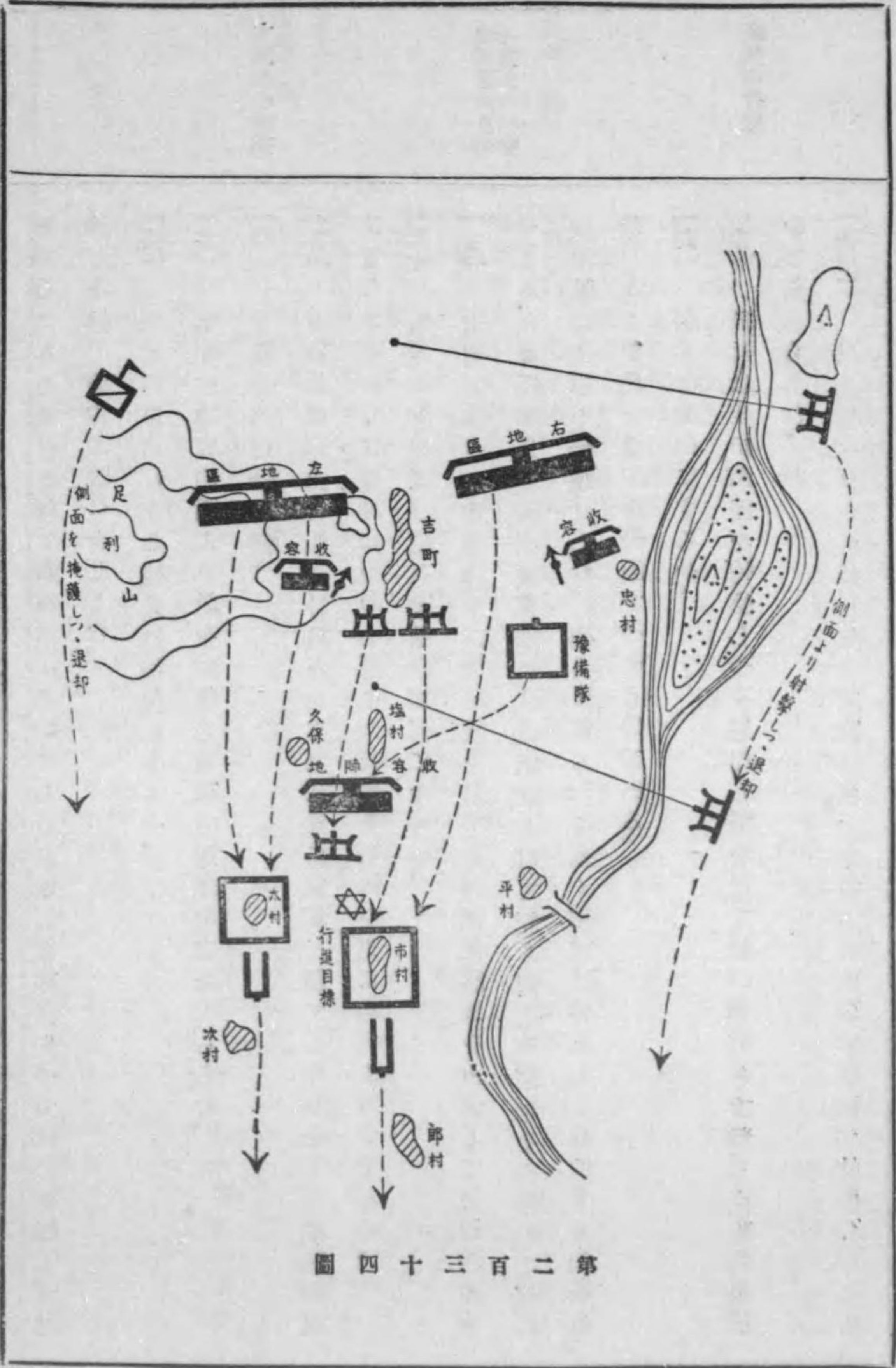
【問】 兩地區隊長及び砲兵隊長は如何にするや。

【答】 右地區隊長は豫備隊及び機關銃を以て忠村西側高地を占領して退却を收容せしめ、左地區隊長も同様豫備隊及び機關銃を以て記念碑東側高地を占領して第一線部隊の退却を掩護せしむ。砲兵は或るべく永く陣地に停止して前進する敵を射撃し我が歩兵の退却を掩護すべきものである。

【問】 騎兵は如何にするや。

【答】 騎兵は我が側面を掩護しつゝ、退却し機を見て敵の側面を攻撃し支隊の退却を容易ならしむ。

【情況】 以上述べたる要領に依り諸隊は逐次退却し伏山收容部隊の掩護の下に市



圖四十三百二第

後衛

遭遇戦及追撃の研究

指揮官の位置

村及び太村に集合し逐次縦隊となりて退却目標たる熊谷市に向ひ退却するのである。而して通常收容部隊は後衛となり本隊の退却を掩護しつゝ、退却を行ふに至るのである。

支隊の退却部署を圖を以て示せば第二百三十四圖の通である。

〔十三〕 應用戰術其の十三 (附圖第三參照)

(遭遇戦及び追撃の研究)

【想定】 熊谷市方向より北進する敵を撃破すべき任務を有する北軍混成旅團(兵力編組は其の十一の研究の場合に同じ)は橋本市より南進し六月一日午前八時その尖兵の先頭を以て三村に達す。この時までには旅團長は兵力略ぼ我と同等なる敵が午前八時には郎村に達することを知らる。この日の行軍部署は(其の十一)に於て述べたのと同様である。

【問】 旅團長は何處に在つて前進中であるか。

【答】 旅團長は砲工兵隊長を随へ前衛司令官と同行するを至當とする。これ遭遇戦に於ては速に軍隊を部署するため指揮官は成るべく前方に位置する必要があるからである。

前衛に動作の
憑據を與ふ

本隊の部署

前衛の配備

【問】 旅團長の處置如何。

【答】 旅團長は吉町北方地區に於て敵と遭遇することを豫想し前衛をして獨立山附近を占領して旅團の展開を掩護せしめ、本隊の諸隊をして展開を敏速ならしめるため、その先頭に在る歩兵大隊を三村より二子山に分進せしめ、其餘の諸隊をして縦長及び梯隊間の距離を短縮しつゝ、前衛に續行せしめ、砲兵大隊長には獨立山附近に砲兵陣地の偵察を命ず。又これより先戰鬪に直接關係なき大行李を停止せしめる。

前衛は歩度を伸ばして獨立山に急行し、旅團長は馬を驅つて仲町東側高地に登り状況を觀望する。

【問】 前衛は如何に配備すべきや。

【答】 前衛司令官は旅團長より命令を受くるや、直に命令を下して部隊を配備に就かしめる。即ち歩兵は主力を以て獨立山及びその東側森林を占領し、砲兵は金村南方地區に陣地を占領して敵兵を發見せば直に射撃を開始し敵の展開を妨害せしめる。この際特に歩兵の一部を二子山に出してこれを占領せしめる必要がある。これ二子山はこの附近の要地であつて、遭遇戦に於てはたとひ正面過廣となるも要地を占領する必要があるからである。

主攻撃正面の
決定

展開線

砲兵

【情況】 旅團長は岸山に登り状況を觀望するに前衛は逐次所命の線に達しその砲兵は射撃を開始し敵は我が砲彈の洗禮を受けつゝ、人丸神社附近の高地に急進中なるを目撃す。旅團長は茲に於て攻撃に關する決心を確定せねばならぬ。

【問】 旅團の主力は何れに指向すべきか。

【説明】 この場合主力を何れに用ふべきかは大切な問題である。遭遇戦に於ても勉めて敵を包圍することを考案せねばならぬ。主力を千村吉町道に沿ふ地區に使用するとせば我が展開は迅速であるが敵を包圍することは出来ない。主力を以て龍森方向に向ふ場合に於ては敵を包圍するに便なるが如きも、敵の前進が遅れたる場合に於ては足利山に向ふこと、なり不利である。故に主力は二子山方面より敵の右翼を包圍する如く展開すべきであらう。

【答】 旅團は主力を左翼に保持し敵の右翼を包圍するを有利とする。

【問】 旅團の展開線は何れに選定すべきか。

【答】 地形上旅團の展開線は獨立山二子山の線を適當とする。

【問】 砲兵は何れに陣地を占領せしむべきか。

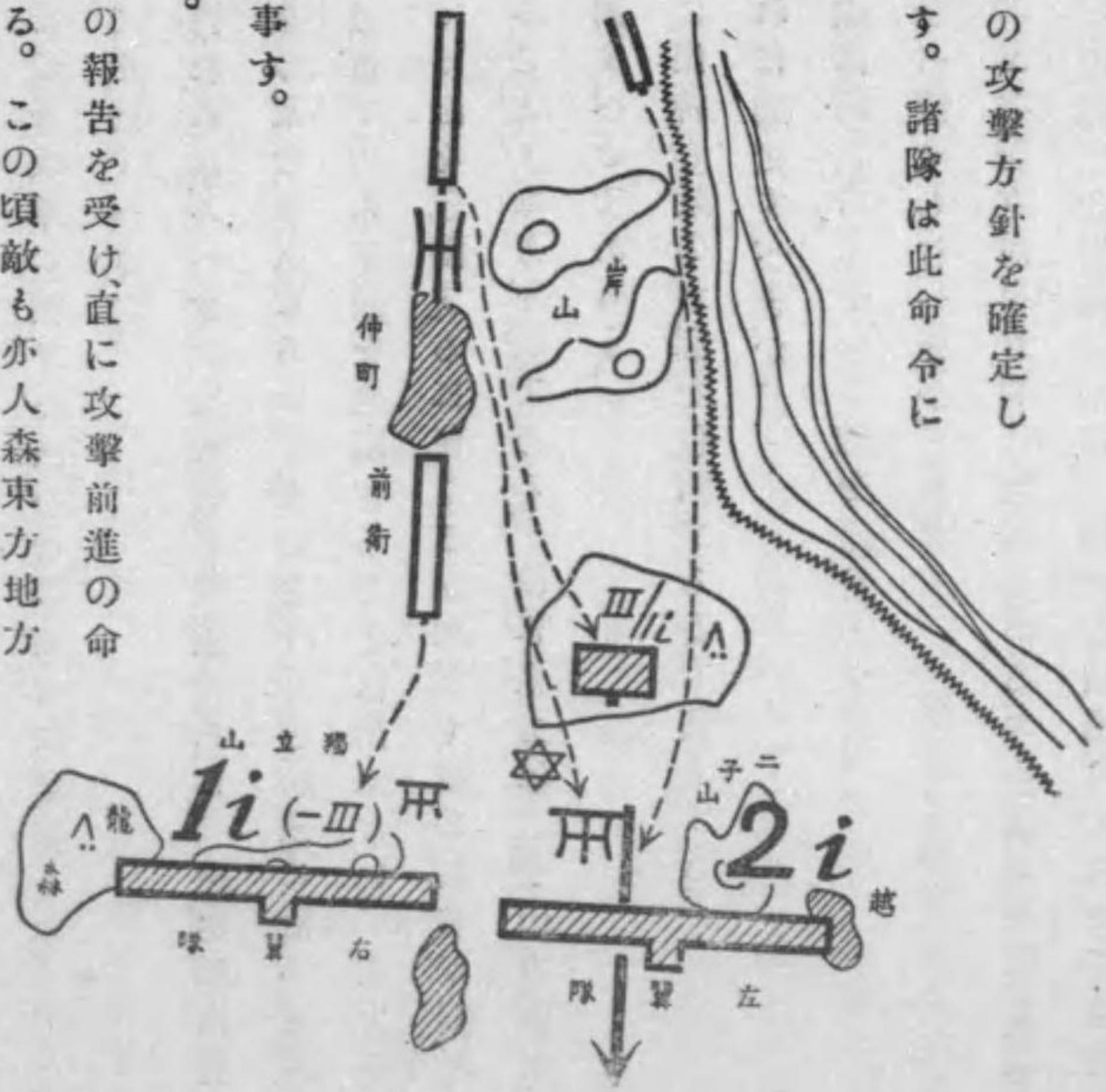
【答】 砲兵の主力は旅團の主攻撃方面を有利に射撃し得るため主力を以て二子山北方地區の一部（前衛砲兵）を以て金村南方地區に陣地を占領せしむるを適當とす。

展開命令

【情況】 旅團長は右の通の攻撃方針を確定し直に諸隊に展開命令を下す。諸隊は此命令に基き各々所命の位置に著き砲兵は直に射撃を開始して敵の展開を妨害す。午前十時展開を完了す。その態勢は左記及下圖の通である。

- 1. 騎兵は右翼方面に在つて警戒及び搜索に従事す。
- 衛生隊は金村に停止す。

旅團長は諸隊展開完了の報告を受け直に攻撃前進の命令を下し一齊に前進に移る。この頃敵も亦人森東方地方より人丸神社に亘る間に展開し前進を起した模様である。正午我が第一線は概ね小糸川の線に達す。敵は谷村小林北端に出で此處に猛烈



圖五十三百二第

攻撃前進

なる接戦は惹起せらるゝに至つた。その結果我が主力方面の戦況は極めて有利に進捗し漸次敵を壓迫す。將卒は死傷を省みず力戦奮闘し今や戦場は銃砲聲天に轟き百雷の一時に落つるが如く爆煙天にして咫尺を辨ぜず。壯烈なる光景を呈してゐる。

午後二時過に至れば敵は我が猛攻に堪へず熾なりし敵の銃砲聲も漸次衰へ、その戦線は動搖を始め處々退却を開始する模様である。翻つて我が戦線を見るにこれ亦死傷續出し士卒は疲労困憊してゐる。

【問】 旅團長の決心如何。

【説明】 今や勝敗は明かとなつた。併しながら我が軍の疲労と損害とは夥しい。然し敵は體力氣力共に一層困憊し、その疲労は殆んど極度に達するものなる事を思は、現況に眩惑して半途の成功に甘んじ九仞の功を一簣に缺ぐべきでない。奮然起つて猛烈なる追撃を行ひ、敵を捕捉全滅せねばならぬ。

【答】 旅團は今より直に追撃に移らんとす。

【情況】 第一線諸隊は敵兵退却の状を目認するや勇氣百倍し射撃に次ぐに前進を以てし、砲くまで敵に肉迫し、砲兵は危険を顧みることなく前方に進出して敗退する敵に猛火を集中する。

現況に満足する
ことなく果敢なる追撃を行ふ

追撃部署

【問】 旅團長の追撃部署如何。

【答】 旅團長は熊谷市に向ひ敵を追撃するに決し（追撃目標）取敢へず第一線諸隊をして現在の態勢を以て小金井川の線に向ひ敵を急追せしめ（戰場追撃）豫備隊に騎兵若干砲兵一中隊を屬して追撃隊とし熊谷市に向ひ敵を追撃せしめ右翼に在りし騎兵の主力を足利山西方地區より敵の背後に進出してその退路を遮断せしめるのである。

追撃の状態

【情況】 第一線諸隊は運動と射撃とを併用して小金井川の線に達す。この頃追撃隊は既に小金井川を渡り南方に向つて追撃中である。第一線諸隊は速に隊伍を整頓し追撃隊の後方を縦隊となりて追撃に移り敵を殲滅することを企圖するのである。

【説明】 本研究は遭遇戦に於ける統一戦闘加入と追撃とを演練したのであつて、遭遇戦の他の種類に就ては次に研究することとする。

〔十四〕 應用戰術其の十四（附圖第三參照）

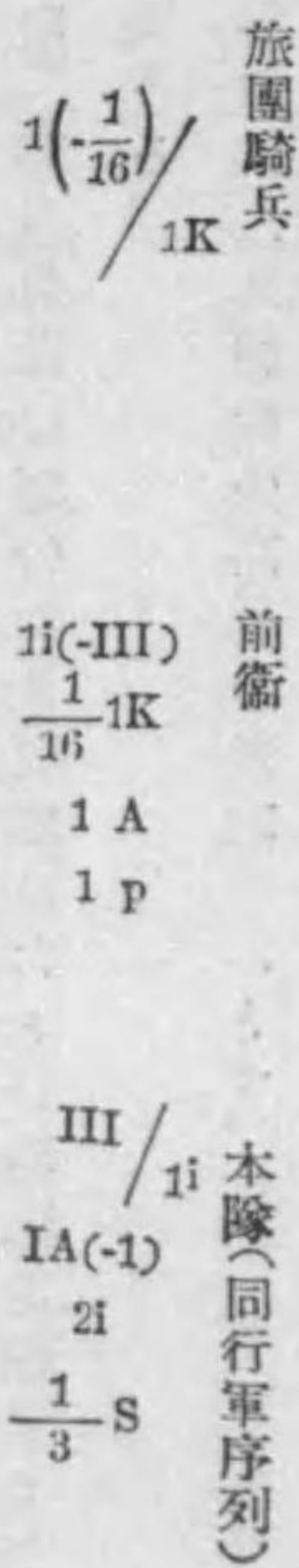
（遭遇戦の研究）

遭遇戦の研究

【想定】 橘市方向より南進中なる敵を撃攘するの任務を有する南軍混成旅團（歩

兵一旅團騎兵一中隊砲兵一大隊工兵一小隊衛生隊三分の一を基幹とする。）は熊谷市より北進し六月一日午前八時その先頭を以て郎村に達した。このとき旅團長は兵力略ぼ我と同等の敵は午前七時五十分その先頭を以て三村を通過し南進したることを知つた。

この日の旅團の前進部署は次の通である。



前衛司令官は當時前衛本隊の先頭に在つて行進中前記の敵情を知る。このとき前方に方りて突如として激しき銃聲起り、遂に人丸神社の高地上には人馬の馳驅する状を散見す。折しも前方より傳騎駆け來り報じて曰く、我が騎兵は稍優勢なる敵騎と千村に於て遭遇し戦闘利あらず、目下人丸神社の高地に退却中なりと。

【問】 前衛司令官の決心如何。

【説明】 遭遇戦に於ける前衛動作の適否は戦闘の勝敗に重大なる影響を及ぼすものである。故に前衛司令官は躁忽の間然も極めて冷靜に情況を判断し、その行動を律する必要がある。

前衛の行動

前進部署